

埼玉県加須市

騎西城武家屋敷跡

第2・3・8・9・50・51次調査

騎西城跡

第3・12・14・15次調査

多賀谷氏館跡

第1～3次調査

2014

加須市教育委員会

埼玉県加須市

き さい じょう ぶ け や しき あと
騎西城武家屋敷跡

第2・3・8・9・50・51次調査

き さい じょう あと
騎西城跡

第3・12・14・15次調査

た が や し やかた あと
多賀谷氏館跡

第1～3次調査

2014

加須市教育委員会



騎武2次 陶磁器



騎武3次 陶磁器

口絵 2



騎武8次 1号井戸 検出状況



同 6号土壌 炭化物・焼土範囲



騎武8次 陶磁器



騎武9次 1号土壙
炭化物・焼土（骨粉）範囲



同
炭化物・焼土（骨粉）範囲
同上拡大



騎武9次 完掘

口絵 4



騎武50次 10号土壙 金貨出土状況 (西から)



同 土層堆積状況



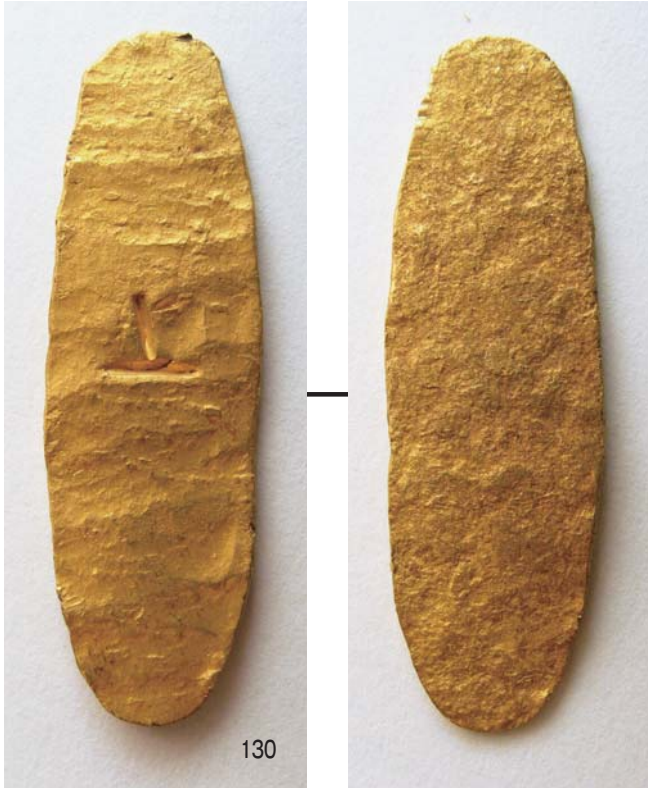
同 露金 (金-131) 出土



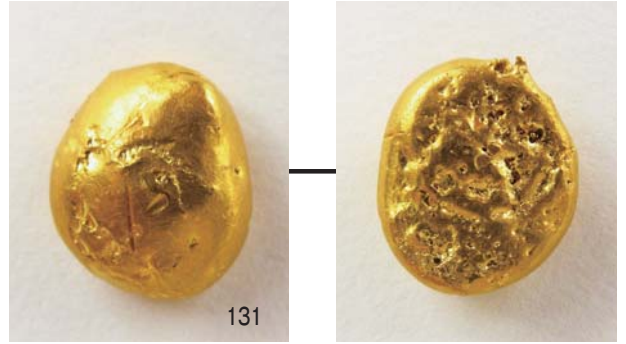
同 切金 (金-132) 出土



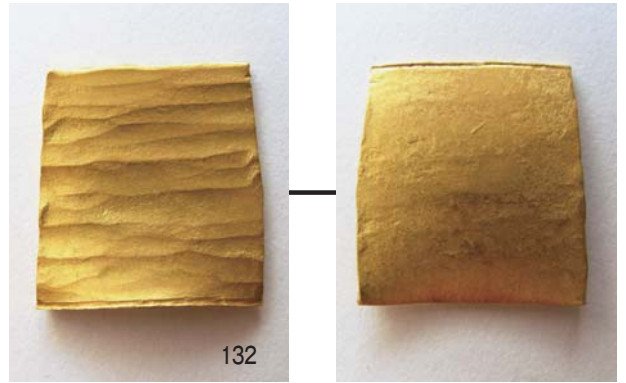
同 蛭藻金 (金-130) 出土



蛭藻金

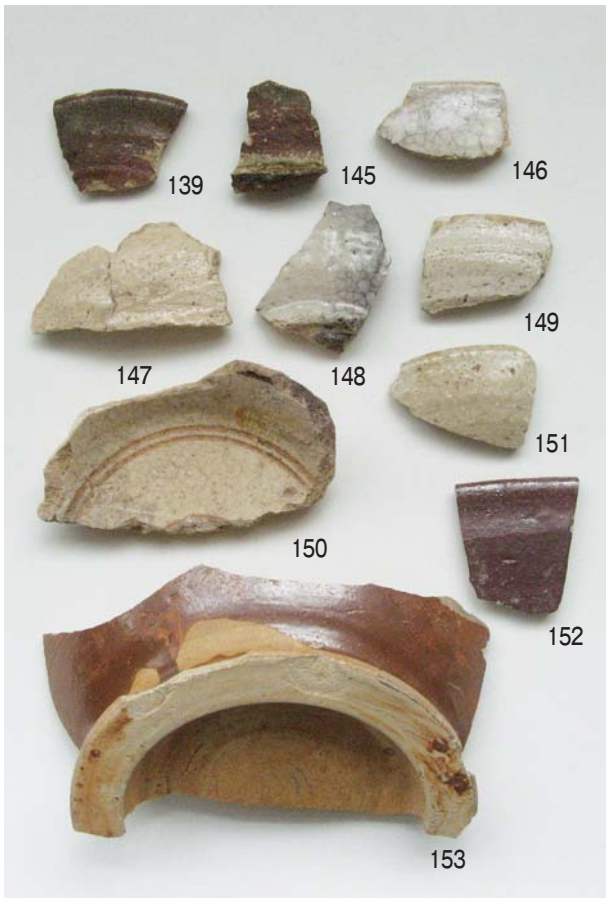


露金



切金

金貨



騎武50次 陶磁器



同 須恵器 (他-48)

口絵 6



騎武51次 陶磁器



同 1号住居跡 出土土師器



同 1号住居跡 完掘 (東から)



騎3次 調査区完掘



南側 中央上層 遺物出土



同 出土



南側 中層 遺物出土



同 銅製品 (金-37)

口絵 8



201



208



騎3次 陶磁器



騎14次 陶磁器 1



同 陶磁器 2



騎14次 完掘（西から）



騎14次 陶器



騎15次 陶磁器



多1次 陶磁器



多2次 陶磁器1



多2次 陶磁器 2



同 陶磁器 3



多3次 陶磁器1

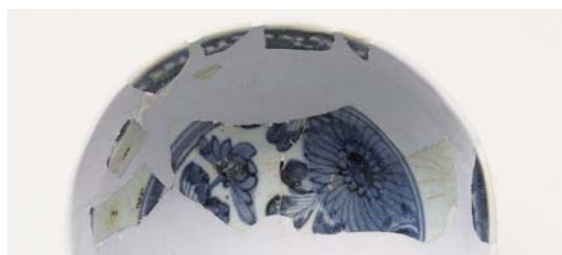
口絵 14



430



431



432



445



434



446



427



鉄製品



銅製品

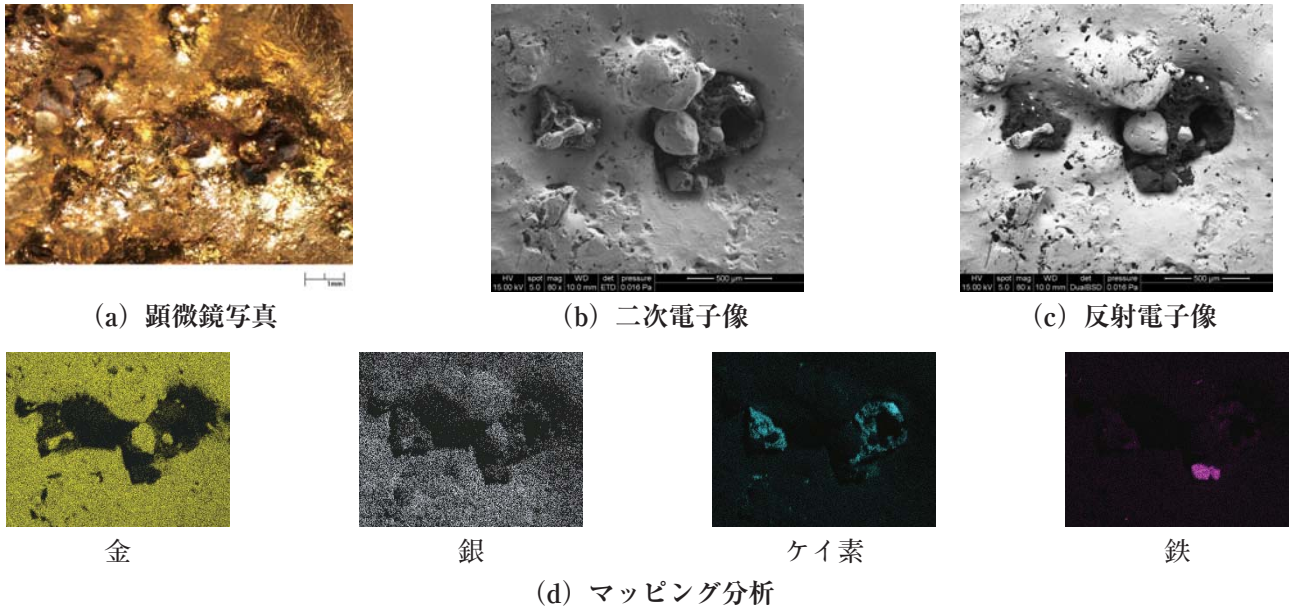


図1 露金底面の黒色不純物の分析結果

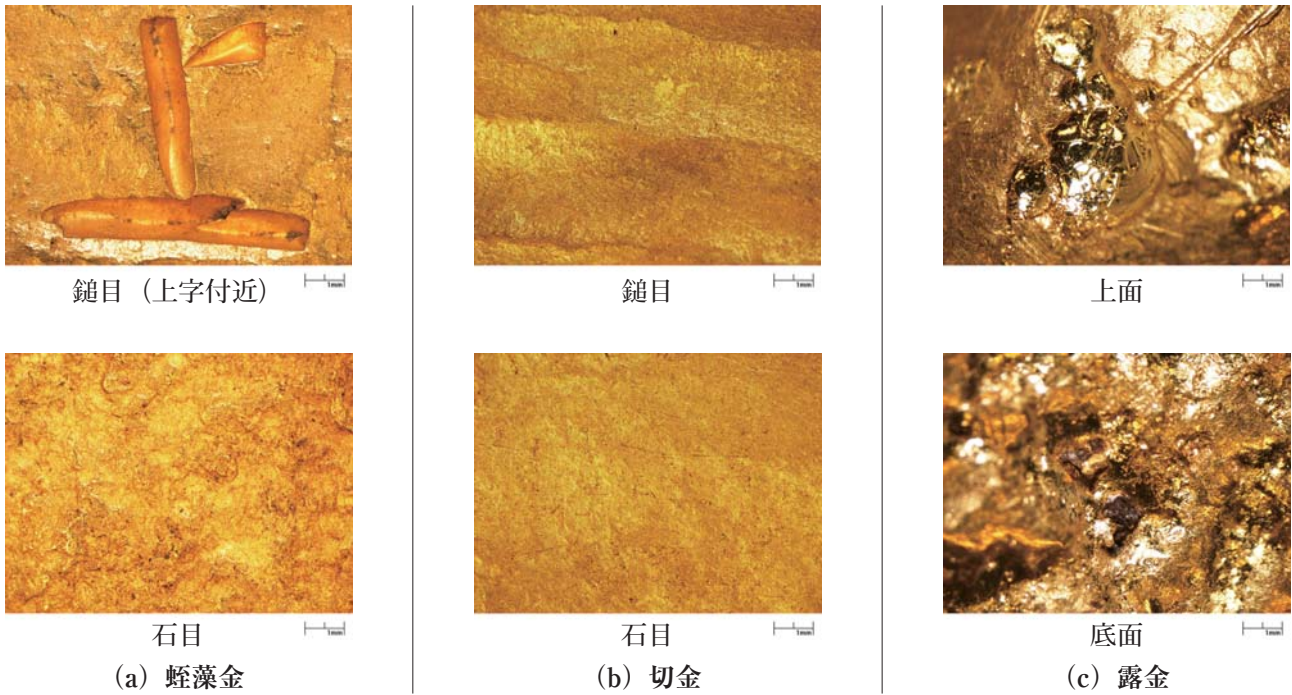


図2 各金貨の顕微鏡写真

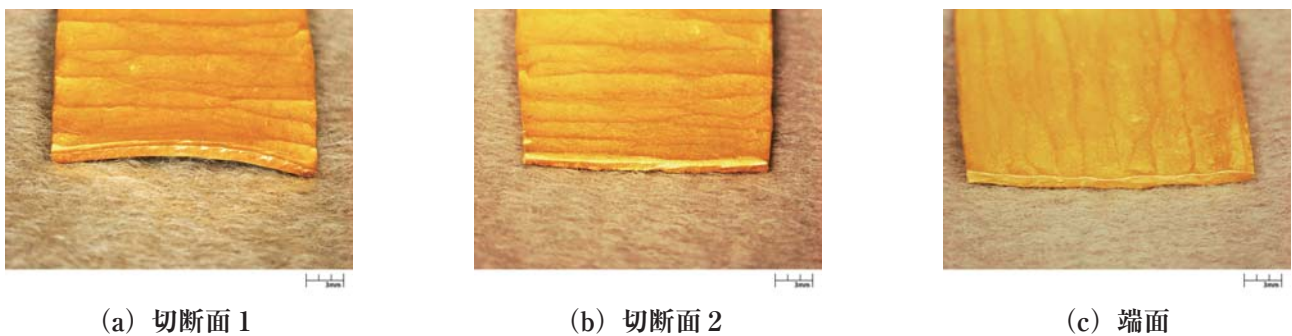


図3 切金の切断面・端面写真

序

加須市は埼玉県北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

今回報告いたします騎西城武家屋敷跡・多賀谷氏館跡が所在する騎西地域は、その中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地域であります。

地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が所在いたしますが周辺の市町村とともに都市化が進み、景観が著しく変貌しております。

今回の調査報告は、昭和57年～平成23年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡第2・3・8・9・50・51次調査、騎西城跡第3・12・14・15次調査、及び内田ヶ谷・道地地区に所在する多賀谷氏館跡第1～3次調査の記録であります。

調査の結果、堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡や集落の研究をする上で、その重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成26年3月

加須市教育委員会

教育長 渡邊 義昭

例 言

- 1 本書は埼玉県加須市内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は住宅建設に先立つもので、昭和57年～平成23年に、報告書の刊行事業は平成25年度に、いずれも国・県の補助金を受けて、実施した。一部市・町単費事業を含む。
- 3 本書の刊行に際して次のように分担して業務に当たった。

- | | | |
|--------|-------|------|
| (1) 執筆 | 木製品 | 嶋村薫 |
| | その他 | 嶋村英之 |
| 基礎データ | 陶磁器※2 | 嶋村範久 |
| | 銭貨 | 坂本征男 |

※1 第IV章第2節の金貨の科学調査については、杵名貴彦氏（山梨県立博物館）より玉稿を賜った。

※2 騎武8・9・50・51／騎3・12／多1次

- (2) 写真撮影は現場のものは調査担当者が、その他は嶋村英之の指導の下整理協力員が行った。
- (3) 出土品の整理・図版の作成は下記の指導者の下、整理協力員が行った。

指導者

陶磁器及び金属石製品の一部	嶋村範久
銭貨	坂本征男

ほか 嶋村英之

※木製品は嶋村薫氏が調査・執筆した。

※『騎西町史考古資料編1』掲載のものは本報告の図を優先する。

※板碑は『騎西町史考古資料編2』をもとに作成した。

整理協力員

秋山ノリ子 新井博子 石坂正幸 石渡とみ江
小川美津子 小野田誠 斉藤豊 酒巻勇
鈴木房子 籠宮義人 塚本和郎 遠井恭子
野口二三子 長谷川恵 方波見良子 増田勝彦
松村順子 吉沢幸夫 渡辺秋彦

- 4 本書の編集は嶋村英之が行った。
- 5 資料は加須市教育委員会が保管している。
- 6 騎西城は遺跡名・調査名は私市城であるが、ここでは武家屋敷が存在していた時期の古文書等により騎西城とする。
- 7 発掘調査・整理報告に際して下記の方からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。（敬称略）

杵名貴彦 嶋村薫 豊田勝彦 西脇康
藤沢良祐 三浦一郎 山梨県立博物館

組 織

- 1 発掘調査組織
調査主体者 騎西町教育委員会
担当者 各調査に記載
調査協力員 同上
- 2 整理組織
(平成25年度) 加須市教育委員会
教育長 渡邊義昭

生涯学習部	部 長	新井 宏
	副部長	芝崎 克行
生涯学習課	課 長	江原 千裕
文化財担当	主 幹	古屋 豊
	主 幹	嶋村 英之
	主 査	石井 昇
	主 査	坂本 征男

凡 例

- 1 本文および表について
○ () の数値は残存値である。
○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

□号堀→□堀。□号溝→□溝。井戸状遺構→井戸・井。□号土壇→□壇
○銭貨の文字は欠損等しているが確定できるもの

は明記し、不明な文字は■とした。

2 挿図について

○縮尺は原則以下の通りである。

遺構 溝等 土層堆積 1/40

溝断面・井戸状遺構・土塋 1/60

遺物出土 1/40

遺物

縄文 土器片 1/3 石器 1/1~1/3

古墳 土製品 1/2

中近世

陶磁器類・木製品 1/3 鉄・銅製品 1/2

土製品・石製品 1/2~1/4 銭貨 1/1

※必要に応じて変更している。

○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。

○土層説明は土層色調/含有物の順に記載した。

略称凡例

※テフラ=T、ローム=L、炭化物=C、焼土=S、
酸化鉄=FE、黒褐色=BB、黒色=B、褐色=Br

※粒子=R、ブロック=B

※非常に多い=☆、多量=◎、少量=△、微量=▲、
万遍なく=万

※やや明るい=やや明、やや暗い=やや暗、

※非常に軟らかい=軟度高・軟らかい=軟質・やや
軟らかい=軟度低・硬い=堅緻

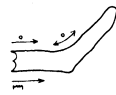
※縮まり良し=縮良・縮まり悪し=縮悪・粘性強し
=粘強・粘性有り=粘有

磁器



▲ 釉際

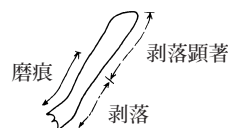
かわらけ



○ 指ナデ

□ 板ナデ

播鉢

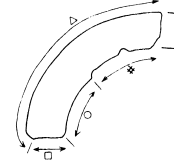


磨痕

剥落顕著

剥落

瓦



○ ナデ

△ みがき

□ ケズリ

※ 布目

目次

序/例言・組織・凡例/目次

第I章 遺跡の立地・環境

第1節 遺跡の位置……………1

第2節 遺跡の地理的環境……………1

第3節 遺跡の歴史的環境……………2

第II章 調査概要と検出された遺構

第1節 騎西城武家屋敷跡第2次調査……………10

第2節 騎西城武家屋敷跡第3次調査……………13

第3節 騎西城武家屋敷跡第8次調査……………14

第4節 騎西城武家屋敷跡第9次調査……………19

第5節 騎西城武家屋敷跡第50次調査……………25

第6節 騎西城武家屋敷跡第51次調査……………30

第7節 騎西城跡第3次調査……………38

第8節 騎西城跡第12次調査……………50

第9節 騎西城跡第14次調査……………53

第10節 騎西城跡第15次調査……………58

第11節 多賀谷氏館跡第1次調査……………60

第12節 多賀谷氏館跡第2次調査……………63

第13節 多賀谷氏館跡第3次調査……………68

第Ⅲ章 出土した遺物

第1節 土器類……………73
第2節 木製品類 ……115
第3節 金属製品 ……116
第4節 石製品類 ……125
第5節 他時期の遺物 ……138

第Ⅳ章 科学調査

第1節 騎西城武家屋敷跡第50次10号土壙
覆土土壌について ……143
第2節 騎西城武家屋敷跡第50次10号土壙
出土金貨について ……146

第Ⅴ章 まとめ ……151

参考文献／図版／報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡の位置（騎西地域）……………1
第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡…4
第3図 周辺の微地形分類と城館跡……………4
第4図 騎西城を取り巻く勢力図……………6
第5図 騎西城武家屋敷跡・騎西城跡各調査区の
位置……………9
第6図 騎武2次遺構位置図……………11
第7図 騎武2次遺構……………12
第8図 騎武3次調査区……………13
第9図 騎武8・9次周辺と遺構位置図……………16
第10図 騎武8次遺構1……………17
第11図 騎武8次遺構2……………18
第12図 騎武9次遺構位置図……………20
第13図 騎武9次遺構1……………21
第14図 騎武9次遺構2……………23
第15図 騎武50・51次周辺と遺構位置図……………26
第16図 騎武50次遺構1……………27
第17図 騎武50次遺構2……………28
第18図 騎武50次遺構3……………29
第19図 騎武51次遺構位置図……………31
第20図 騎武51次遺構1……………32
第21図 騎武51次遺構2……………33
第22図 騎武51次遺構3……………35
第23図 騎武51次遺構4……………37
第24図 騎3次調査区・トレンチ設定図……………40
第25図 騎3次遺構位置図……………41
第26図 騎3次遺構1……………43
第27図 騎3次遺構2……………45
第28図 騎3次遺構3……………47
第29図 騎3次在地土器の分布状況……………48
第30図 騎3次金属製品の分布状況……………49
第31図 騎12次周辺と遺構位置図……………51
第32図 騎12次遺構……………52
第33図 騎14次周辺の調査……………54
第34図 騎14次遺構位置図と遺構1……………55
第35図 騎14次遺構2……………56
第36図 騎14次遺構3……………57
第37図 騎15次周辺の調査……………58
第38図 騎15次遺構位置図と遺構……………59
第39図 多賀谷氏館跡各調査区の位置と多1次遺
構位置図……………61
第40図 多1次遺構……………62
第41図 多2次遺構位置図……………65
第42図 多2次遺構……………67
第43図 多3次Ⅱ層確認面……………69
第44図 多3次Ⅲ層～Ⅳ層確認面……………70
第45図 多3次遺構……………71
第46図 多3次瓦集中部出土状況……………72
第47図 土器類1（騎武2次1）……………75
第48図 土器類2（騎武2次2）……………76
第49図 土器類3（騎武3次1）……………77
第50図 土器類4（騎武3次2）……………78
第51図 土器類5（騎武8次1）……………79
第52図 土器類6（騎武8次2）……………80
第53図 土器類7（騎武9次）……………81
第54図 土器類8（騎武50次）……………82

第55図	土器類9 (騎武51次) ……………	83	第78図	金属製品3 (鉄3・銅) ……………	119
第56図	土器類10 (騎3次1) ……………	84	第79図	金属製品4 (銭貨1) ……………	120
第57図	土器類11 (騎3次2) ……………	85	第80図	金属製品5 (銭貨2) ……………	121
第58図	土器類12 (騎3次3) ……………	86	第81図	金属製品6 (銭貨3) ……………	122
第59図	土器類13 (騎3次4) ……………	87	第82図	石製品類1 (石臼1) ……………	126
第60図	土器類14 (騎3次5) ……………	88	第83図	石製品類2 (石臼2) ……………	127
第61図	土器類15 (騎12・14次) ……………	89	第84図	石製品類3 (碁石・硯・砥石1) ……	128
第62図	土器類16 (騎14・15次) ……………	90	第85図	石製品類4 (砥石2) ……………	129
第63図	土器類17 (多1次) ……………	91	第86図	石製品類5 (砥石3・磨石1) ……	130
第64図	土器類18 (多2次1) ……………	92	第87図	石製品類6 (磨石2) ……………	131
第65図	土器類19 (多2次2) ……………	93	第88図	石製品類7 (磨石3) ……………	132
第66図	土器類20 (多3次1) ……………	94	第89図	石製品類8 (磨石4・火打石) ……	133
第67図	土器類21 (多3次2) ……………	95	第90図	石製品類9 (板碑1) ……………	134
第68図	土器類22 (多3次3) ……………	96	第91図	石製品類10 (板碑2・五輪塔等) ……	135
第69図	土器類23 (多3次4) ……………	97	第92図	他時期1 ……………	139
第70図	土器類24 (多3次5) ……………	98	第93図	他時期2 ……………	140
第71図	土器類25 (多3次6) ……………	99	第94図	他時期3 ……………	141
第72図	土器類26 (多3次7) ……………	100	第95図	各金貨の走査型電子顕微鏡による表面観 察1 ……………	149
第73図	土器類27 (多3次8) ……………	101	第96図	各金貨の走査型電子顕微鏡による表面観 察2 ……………	150
第74図	土器類28 (多3次9) ……………	102	第97図	各地区の武家屋敷内の推定位置 ……	152
第75図	土器類29 (土製品) ……………	103			
第76図	金属製品1 (鉄1) ……………	117			
第77図	金属製品2 (鉄2) ……………	118			

表目次

第1表	騎武2次遺構一覧表……………	12	第15表	土器類一覧表3 ……………	106
第2表	騎武8次遺構一覧表……………	15	第16表	土器類一覧表4 ……………	107
第3表	騎武9次遺構一覧表……………	20	第17表	土器類一覧表5 ……………	108
第4表	騎武50次遺構一覧表……………	29	第18表	土器類一覧表6 ……………	109
第5表	騎武51次遺構一覧表……………	31	第19表	土器類一覧表7 ……………	110
第6表	騎3次遺構一覧表……………	39	第20表	土器類一覧表8 ……………	111
第7表	騎12次遺構一覧表……………	52	第21表	土器類一覧表9 ……………	112
第8表	騎14次遺構一覧表……………	54	第22表	土器類一覧表10 ……………	113
第9表	騎15次遺構一覧表……………	59	第23表	土器類一覧表11 ……………	114
第10表	多1次遺構一覧表……………	60	第24表	木製品一覧表 ……………	115
第11表	多2次遺構一覧表……………	65	第25表	金属製品一覧表1 ……………	123
第12表	多3次遺構一覧表……………	70	第26表	金属製品一覧表2 ……………	124
第13表	土器類一覧表1 ……………	104	第27表	石製品一覧表1 ……………	136
第14表	土器類一覧表2 ……………	105	第28表	石製品一覧表2 ……………	137

第29表	石製品一覧表 3	……………137
第30表	他時期一覧表	……………142

第31表	10墳覆土の土壌分析結果	……………144
第32表	金貨の定量分析結果	……………148

図版目次

図版 1	遺構 1	騎武 2 次 - 1	図版 25	遺構 25	騎 14 次 - 1
図版 2	遺構 2	騎武 2 次 - 2	図版 26	遺構 26	騎 14 次 - 2
図版 3	遺構 3	騎武 3 次	図版 27	遺構 27	騎 14 次 - 3
図版 4	遺構 4	騎武 8 次 - 1	図版 28	遺構 28	騎 14 次 - 4
図版 5	遺構 5	騎武 8 次 - 2	図版 29	遺構 29	騎 15 次
図版 6	遺構 6	騎武 8 次 - 3	図版 30	遺構 30	多 1 次
図版 7	遺構 7	騎武 9 次 - 1	図版 31	遺構 31	多 2 次 - 1
図版 8	遺構 8	騎武 9 次 - 2	図版 32	遺構 32	多 2 次 - 2
図版 9	遺構 9	騎武 50 次 - 1	図版 33	遺構 33	多 3 次 - 1
図版 10	遺構 10	騎武 50 次 - 2	図版 34	遺構 34	多 3 次 - 2
図版 11	遺構 11	騎武 51 次 - 1	図版 35	遺構 35	多 3 次 - 3
図版 12	遺構 12	騎武 51 次 - 2	図版 36	出土遺物 1	騎武 2・3 次 / 騎 3 次
図版 13	遺構 13	騎武 51 次 - 3	図版 37	出土遺物 2	騎武 9・50・51 次・騎 3 次 - 1
図版 14	遺構 14	騎武 51 次 - 4	図版 38	出土遺物 3	騎 3 次 - 2
図版 15	遺構 15	騎武 51 次 - 5	図版 39	出土遺物 4	騎 3 次 - 3
図版 16	遺構 16	騎 3 次 - 1	図版 40	出土遺物 5	騎 3 次 - 4
図版 17	遺構 17	騎 3 次 - 2	図版 41	出土遺物 6	騎 3 次 - 5
図版 18	遺構 18	騎 3 次 - 3	図版 42	出土遺物 7	騎 3 次 - 6
図版 19	遺構 19	騎 3 次 - 4	図版 43	出土遺物 8	騎 3 次 - 7
図版 20	遺構 20	騎 3 次 - 5	図版 44	出土遺物 9	騎 14 次・多 2 次・多 3 次 - 1
図版 21	遺構 21	騎 3 次 - 6	図版 45	出土遺物 10	多 3 次 - 2
図版 22	遺構 22	騎 3 次 - 7	図版 46	出土遺物 11	金属製品・石製品類 - 1
図版 23	遺構 23	騎 12 次 - 1	図版 47	出土遺物 12	石製品類 - 2
図版 24	遺構 24	騎 12 次 - 2	図版 48	出土遺物 13	他時期

第1章 遺跡の立地・環境

第1節 遺跡の位置 (第1図)

加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡は地域のほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治9年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

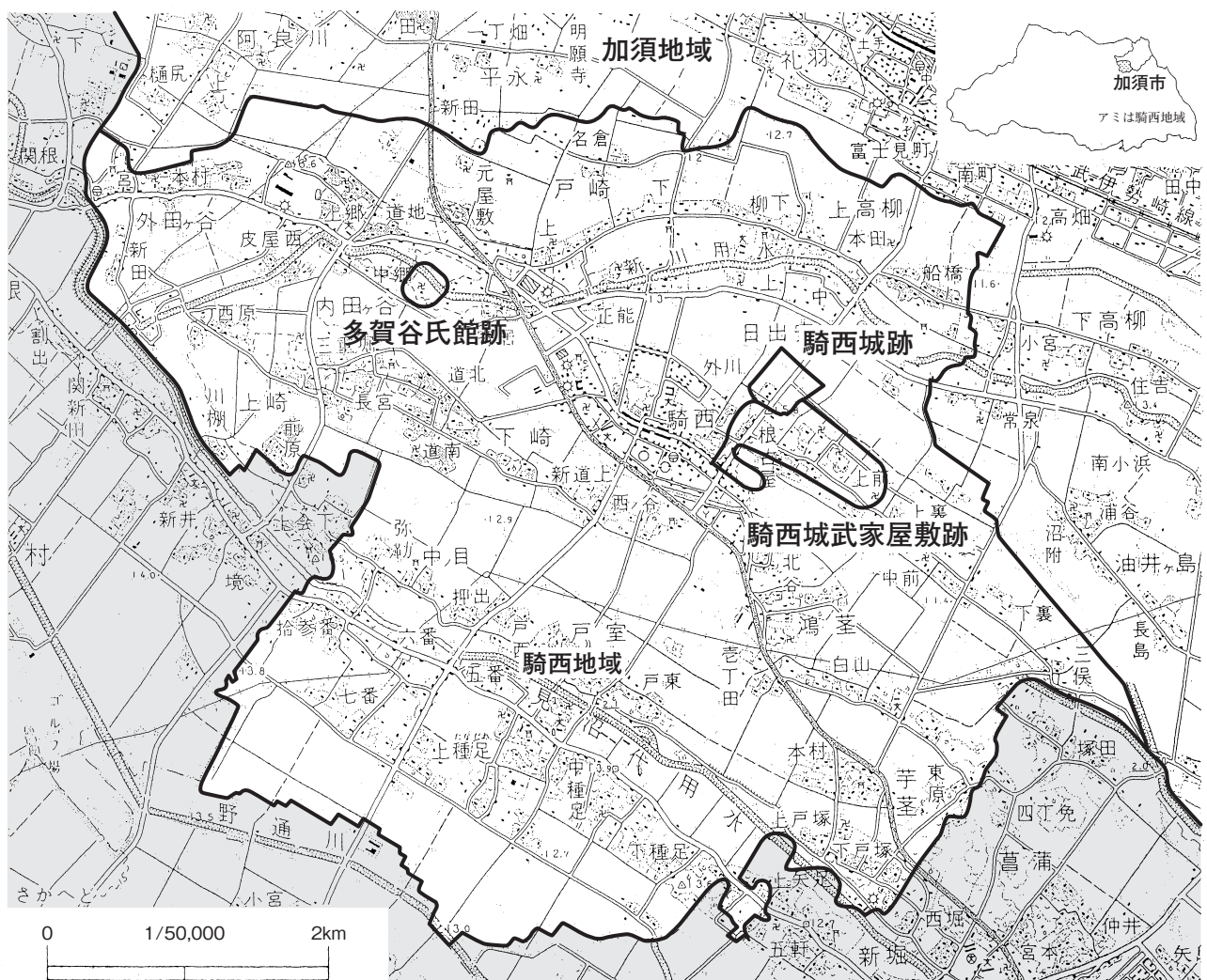
多賀谷氏館跡は騎西地域の北西寄りにあり、行政上では内田ヶ谷字中郷・寄居前・寄居、道地字天沼に所在する。新川用水を跨いでおり、乱流した旧河

川が形成した自然堤防上に営まれた。遺跡の範囲は、大福寺を中心としてほぼ方形で、東西約400m、南北約350mの規模である。

第2節 遺跡の地理的環境 (第2図)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在地区内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地している



第1図 遺跡の位置 (騎西地域)

と言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。

第3節 遺跡の歴史的環境 (第2・3図)

※(遺跡名)は『騎西町史』考古資料編1に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直した。

1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、(道上)遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

2 縄文時代

草創期は(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・(前)・(道上)遺跡で撚糸文系土器、(前)遺跡では集石遺構が、(道上)遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で土器が出土しており、特に修理山・(中宿)遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・(前)・(道上)で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に(道上)・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に(中宿)遺跡で柄鏡形住居・(道上)遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壇などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・(前)

・(中宿)・(道上)遺跡で加曾利B～後期安行式が出土している。晩期では安行3a～3d式が修理山・町並・(道上)・(前)・(中宿)遺跡で出土している。

3 弥生時代

地区内の遺跡は少なく中期では上種足三番遺跡で磨製石鎌が、(道上)遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

4 古墳時代

古墳跡は小沼耕地遺跡※で6～7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が確認されている。(内田ヶ谷中郷)遺跡で勾玉や埴輪片、(前)遺跡の埴輪片や隣接する(中宿)遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材(騎西地域内の玉敷神社所在)等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・(中宿)遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上)遺跡・(中宿)遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

※町史の上種足三番遺跡を含む

5 奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは(道上)遺跡・上種足三番遺跡で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、(中宿)遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。

6 中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館跡（年表参照）は内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429-41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端（1次調査）で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北（4次調査）で、土壇から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館跡は、道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を務め、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。『雲祥寺縁起』には騎西城主小田頭家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したとある。発掘調査では、溝・井戸・土壇・火葬跡を検出し、漆碗・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壇・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・箆状木製品が出土している。

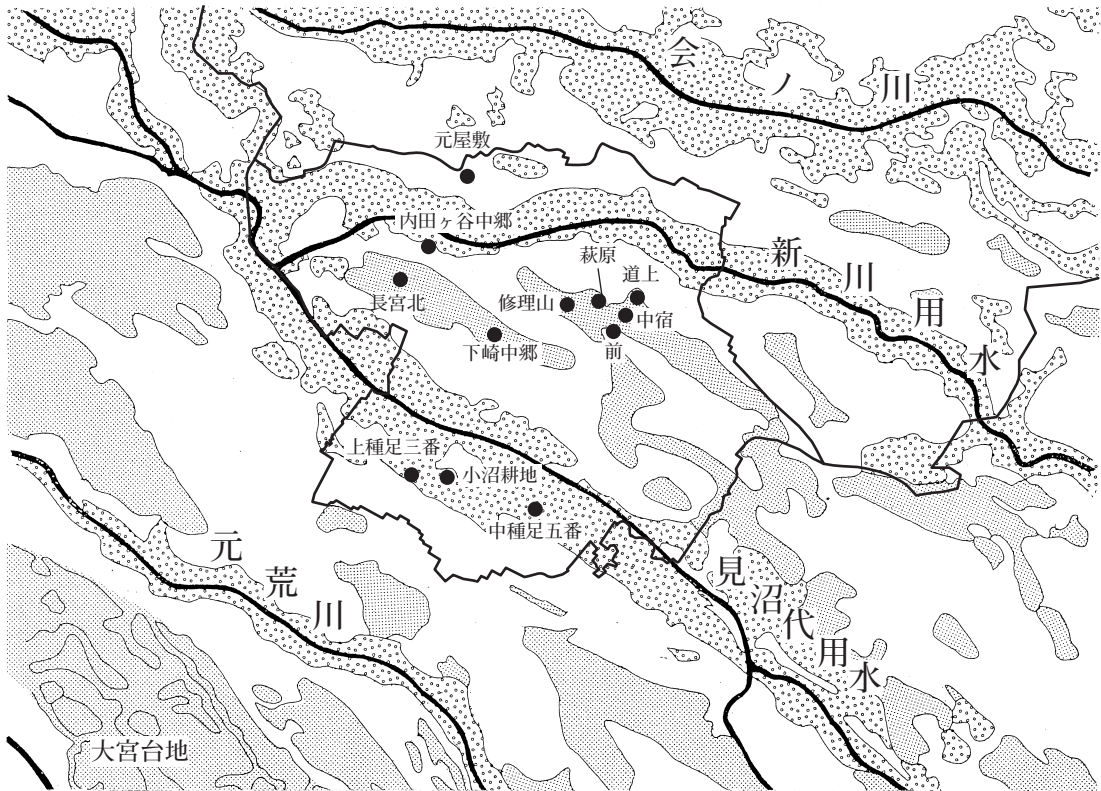
小沼耕地遺跡では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

やや南よりの**中種足五番遺跡**では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

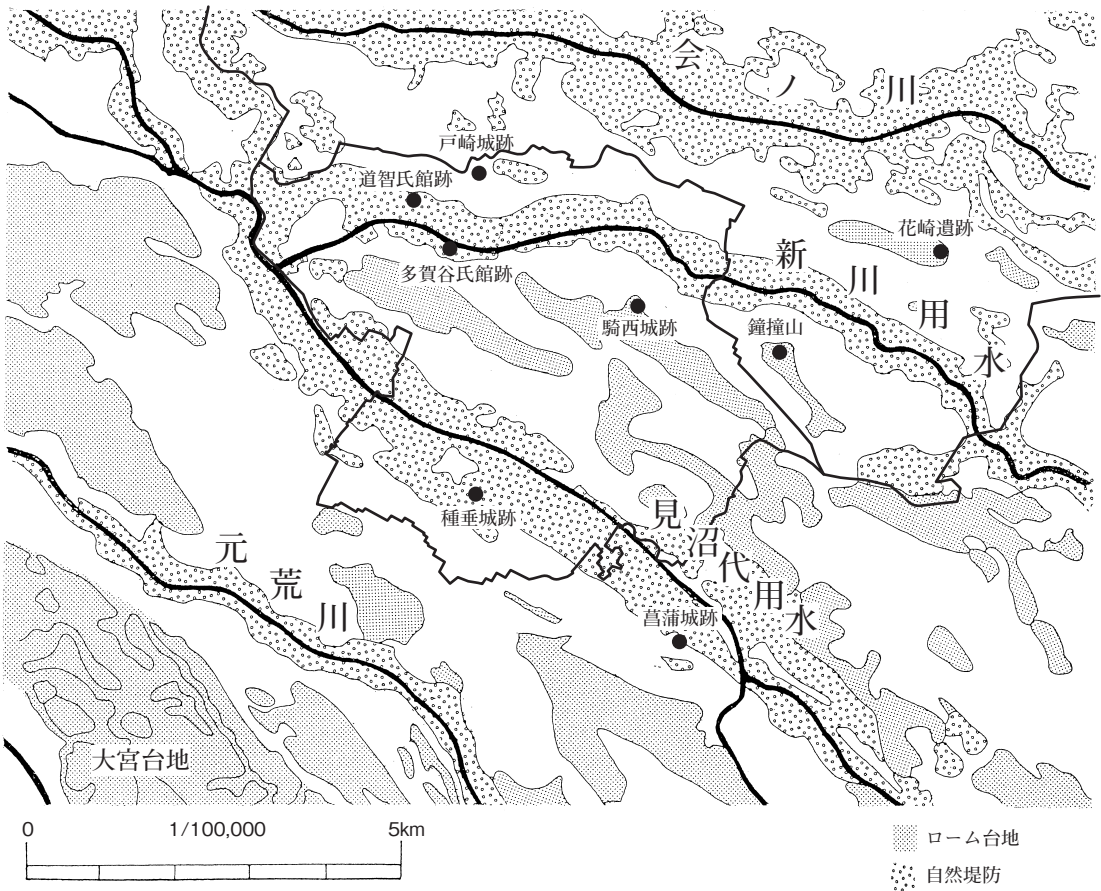
戸崎城跡は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允の居跡なりとの記載がある。また『吾妻鏡』には戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城跡（年表参照）は文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壇1600基・井戸状遺構200基・障子堀5ヶ所・橋跡4ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。**武器武具**では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野杓・腰刀・薙鎌など、**生活用品**では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆碗・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、**生業**では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・埴塙・金粒付着土器など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鏡・数珠など、**流通**では金貨・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付、唐津、志戸呂、初山、在地産のかわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。



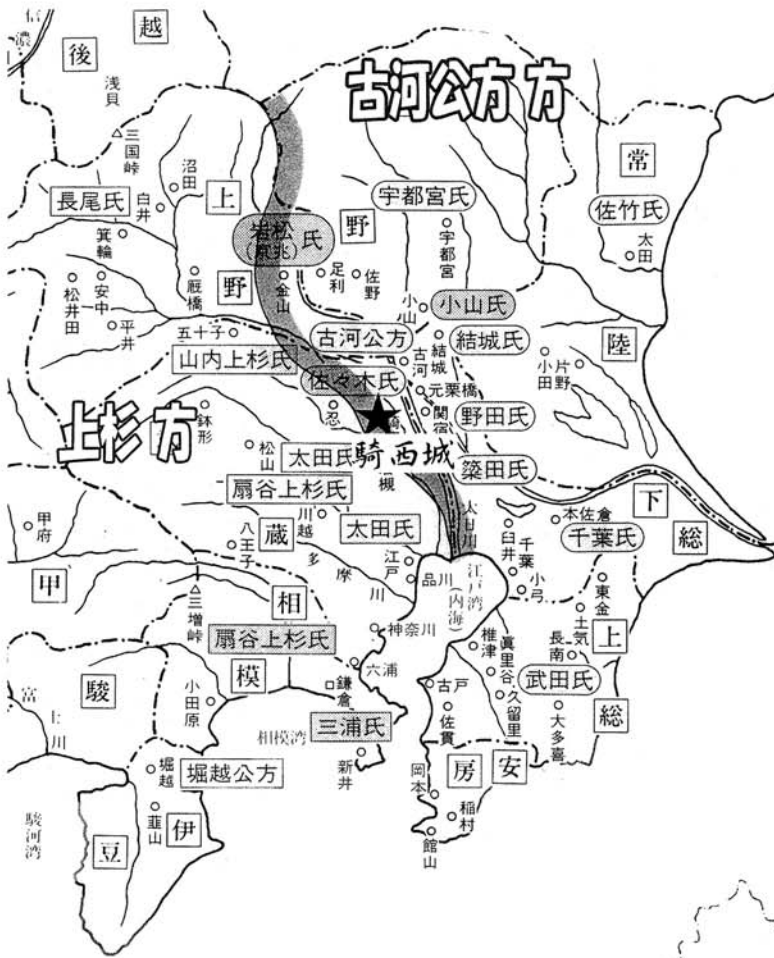
第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



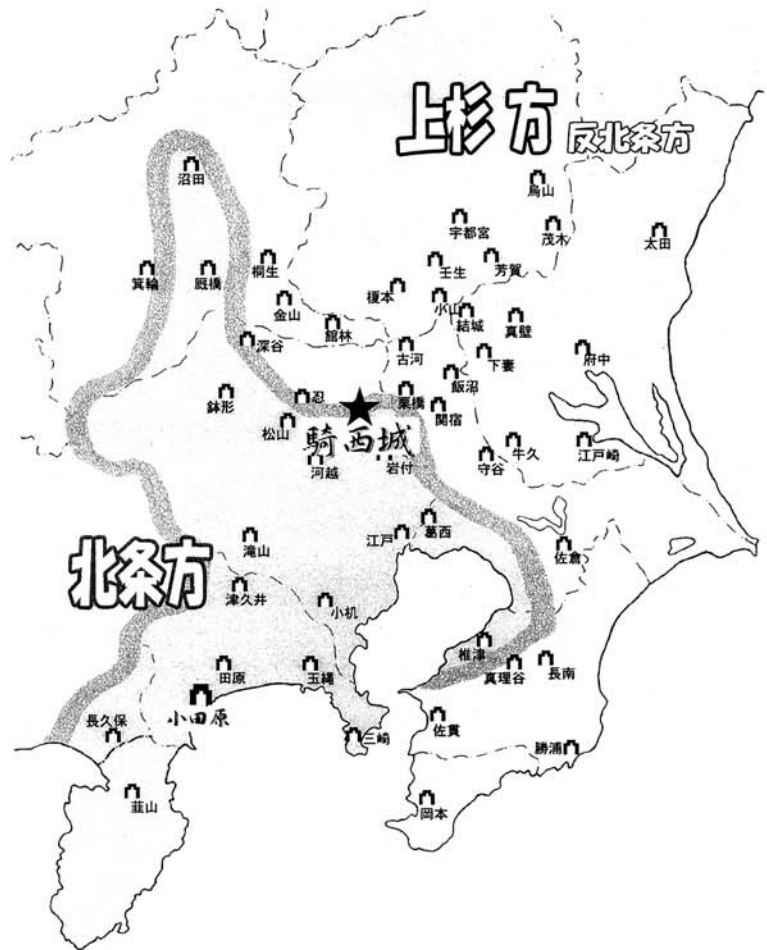
第3図 周辺の微地形分類と城館跡

騎西城周辺年表

- 康正元年（1455） 足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・疋鼻和など）を攻略する
 文正元年（1466） 足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
 応仁元年（1467） ★応仁の乱
 文明3年（1471） 上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
 文亀2年（1502） 騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）・雲祥寺を復興。忍城（行田市）主成田長泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
 天文8年（1539） 騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
 天文12年（1543） ★鉄砲伝来
 永禄3年（1560） 長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略。
 永禄4年（1561） 騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する
 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱めを受け、北条方となる。助三郎も同様
 永禄6年（1563） 北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
 永禄12年（1569） 上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
 天正2年（1574） 上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩槻城を焼き払う
 天正3年（1575） 小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
 天正4年（1576） 騎西城主成田泰喬、家臣に知行を行う
 天正6年（1578） 小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
 天正18年（1590） ★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西城2万石を与える
 天正19年（1591） 松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑1町歩を寄進する
 慶長元年（1596） 康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる。根古屋・金剛院、日出安から移転する
 慶長4年（1599） 松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
 慶長5年（1600） ★関ヶ原の戦い
 慶長7年（1602） 大久保忠常、騎西城2万石を拝領する
 慶長8年（1603） ★徳川家康、江戸に幕府を開く
 慶長11年（1606） 騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
 慶長16年（1611） 忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西城2万石を拝領する
 慶長19年（1614） 大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、騎西城主忠職は閉門に処せられる
 寛永4年（1627） 大久保忠職、久伊豆大明神に社領を寄進する
 寛永9年（1632） 騎西城廃され、代官所置かれる



享徳の乱初期の関東
(1454～)



氏康 × 謙信の頃の関東
(永禄・天正年間)

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第4図 騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺の歴史的経過 (年表・第4図)

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永9年（1632）廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に崎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、2度の戦火を被っている。

文献では、永禄6年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落したとされる。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から後北条氏との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活により再び北条・上杉の合戦が再開された。天正2年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・菖蒲・岩槻城とともに騎西城を焼き討ちしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

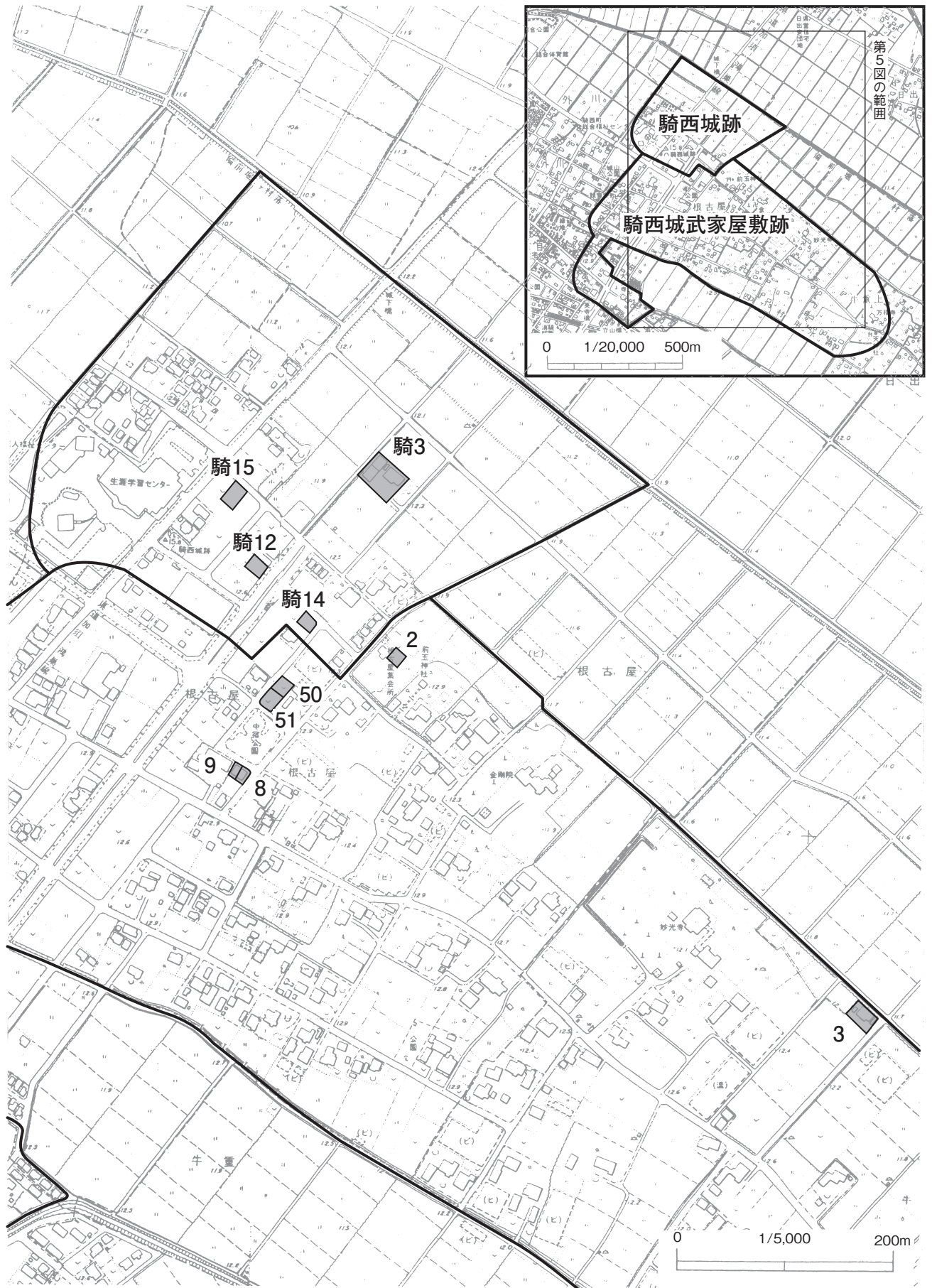
豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行なったものと思われる。特に城郭部を巡る障子堀を二重にしたり、堀幅を広くしたのはこの時期の可能性がある。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行なったものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。

多賀谷氏関係年表

- 建久元年 (1190) 多加 (賀) 谷小三郎、頼朝上洛にあたり先陣の随兵第九番を務める
- 建久3年 (1192) ★源頼朝、征夷大將軍となる
- 建保元年 (1213) 「たかへの左近」「たか井の兵衛」、和田義盛の乱で幕府方51名戦死者名にあり
—「野与党系図」にはこの2名は見えない—
- 嘉禎4年 (1238) 2月 將軍藤原頼経上洛にあたり、多賀谷太郎兵衛尉が二一番、同右衛門尉が二六番として供奉した
6月 たかへの二郎入道、御家人として京都箒屋の松用途銭を課される。
—教の辻々に箒屋を置いて洛中護衛を行った在京御家人であった—
- 仁治元年 (1241) 多賀谷兵衛尉は栢間左衛門尉らとともに武蔵野の水田開墾奉行となり現地に下向した
- 建長3年 (1251) 多賀谷重茂、由比浜の弓始めに選出され射手を務めた—弓の名手であった—
- 4年 (1252) 多賀谷景茂 弓始めの射手に選ばれるが、執権北条時頼に射手からはずされる。
- 5年 (1253) 多賀谷重茂 弓場的始めの射手を務める
- 6年 (1254) 多賀谷重茂、弓場的始めの射手を務める
- 8年 (1256) 多賀谷重茂、弓場的始めの射手を務める
- 正嘉2年 (1258) 多賀谷重茂、弓場的始めの射手を務める
- 建治元年 (1275) 多賀谷六平次跡に、京都八幡宮造営注文に際し8貫文が課される
- 嘉暦3年 (1328) 多賀谷弥平次光忠、將軍守邦親王の御前の的始めに三番の射手を務める。10回の内9回の的に当てる
- 延元元年 (1336) ★足利尊氏 幕府を開く
- 康永元年 (1342) 多賀谷弥平次光忠、足利尊氏の天竜寺参詣に供奉し、二階堂隱岐守の進めた馬を曳く役を務めた

※『騎西町史 通史編』第二編第一章第二節により作成



第5図 騎西城武家屋敷跡・騎西城跡各調査区の位置

第Ⅱ章 調査概要と検出された遺構

第1節 騎西城武家屋敷跡第2次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者土屋猛氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字道下356における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事島村範久が担当した。

(調査協力員)

相関広治 五十嵐喜一郎 五十嵐まさ子
五十嵐米太郎 斉藤節子 斉藤年治 斉藤はる子
酒巻勇 篠塚よね 関田桑造 関田文子 土屋猛
土屋トヨ 吉沢幸夫

(文化庁通知) 57委保記第2-1567号

昭和57年7月30日

(調査期間) 昭和57年7月5日～7月16日

(調査面積) 130m²

(調査の経過)

先に北側に5.5×2.5mの調査区を設定しA区とし、検出した溝を調査した。その後南側に10.5m×9mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。ローム面を確認面として堀・ピットなどの調査を行った。湧水のため調査が困難となり、水中ポンプにより排水し調査を行った。遺構の図化は平板により実測した。

(周辺の調査)

調査区西方50mに騎4・7次、KB18区が調査されている。遺構としてはいずれも障子堀が確認され、絵図を参照にすると、城郭部を画する堀と思われる。

(2) 遺構と遺物

【堀】B区のほぼ全域を占める。

1号堀 南北方向と東西方向のL字形である。規模は880cm(残存)×730cm(残存)。種子出土。

【溝】A区で検出された。

1号溝 南北方向に走行し、幅140cm深さ60cmである。覆土は写真から暗灰褐色で下層に炭化物層が確認できる。出土遺物は写真によるとかわらけ(土-22・27・29)があり、22・29は略完形である。

【遺構外出土遺物】

遺物は1号堀・1号溝から出土したものが含まれると思われるが、遺構名の注記が無いので遺構外出土遺物として扱う。

陶磁器では、中国染付皿(土-1・2)・常滑甕(土-3)・瀬戸美濃天目茶碗(土-4・5)・同稜皿(土-6)・同菊皿(土-7)・同志野丸皿(土-8・9)・同皿(土-10・11)・同播鉢(土-12)・同鉢(土-13)・同徳利(土-14)・同香炉(土-15)、肥前鉢(土-16)・同小坏(土-21)、志戸呂系灯明皿?(土-17)、備前・信楽系壺(土-18)、信楽播鉢(土-19・20)が出土した。

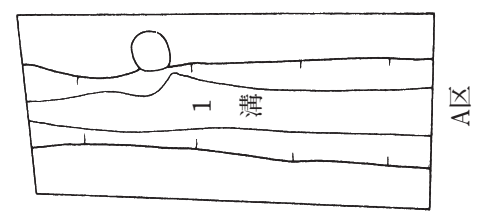
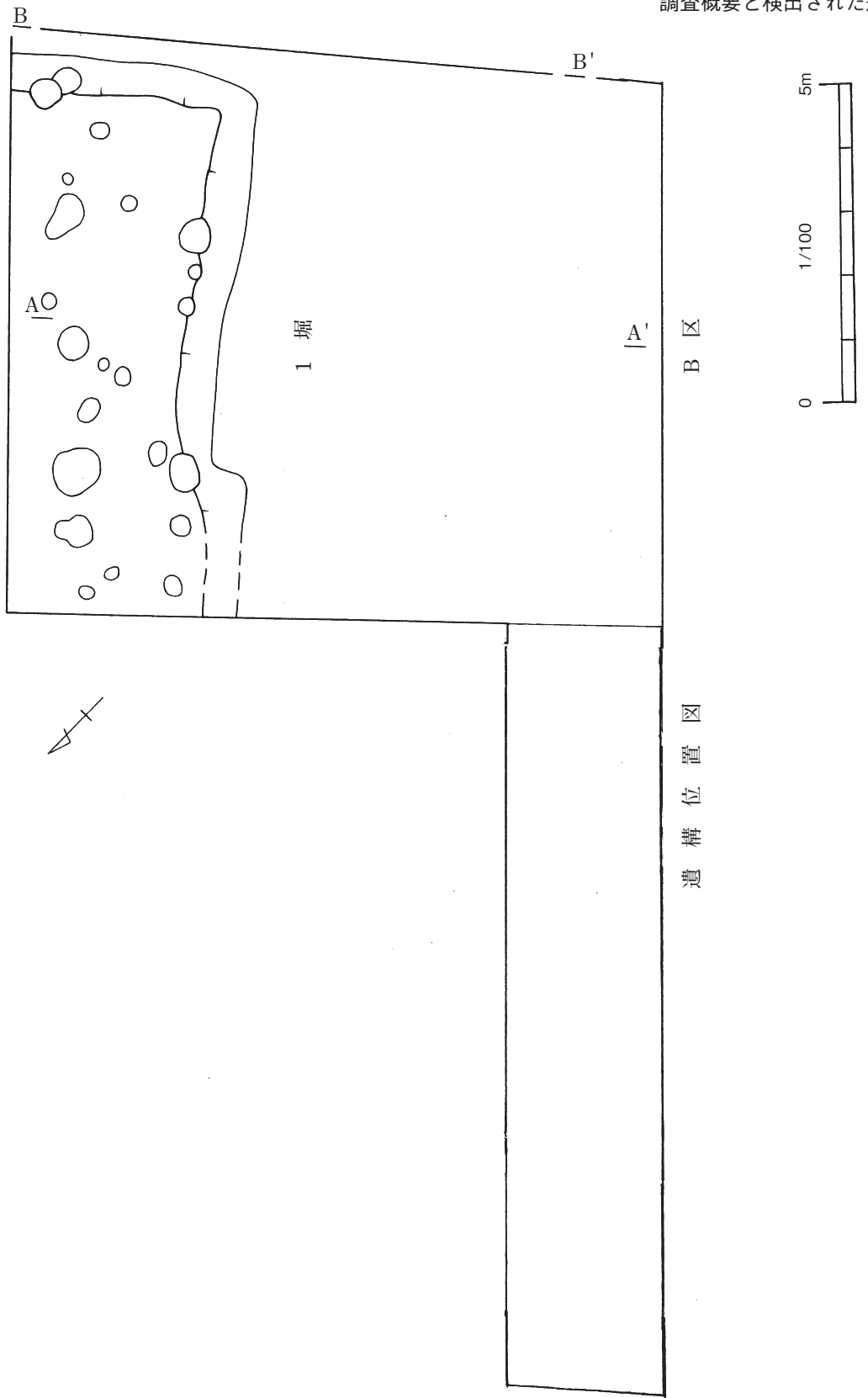
在地土器では、かわらけ(土-23~26・28・30~32)・焙烙(土-33~36)・播鉢(土-37)が出土している。

有機物では炭化米が出土している。

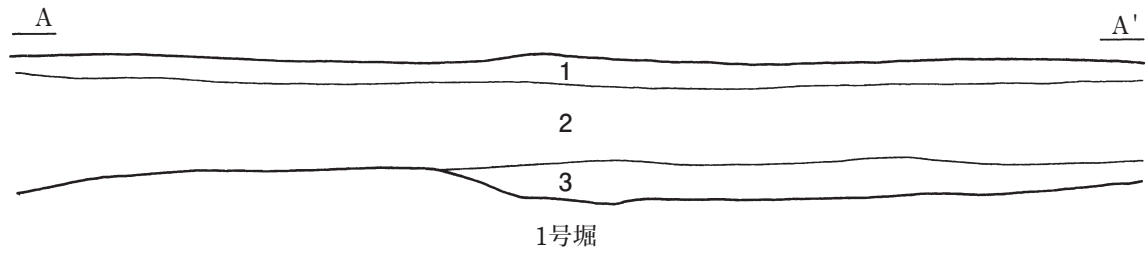
金属製品では、留金具(金-39)・環付金具(金-40)が出土した。

石製品では石臼片(石-1・2)、硯(石-23)、砥石(石-25・26)、板碑片が出土した。

縄文時代前期の土器(他-1~3)、使用痕のある剥片(他-37)が出土した。

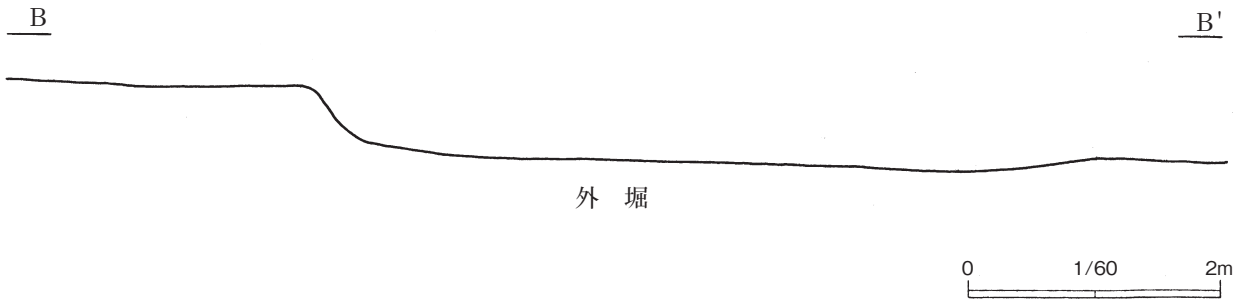


第6図 騎武2次遺構位置図



- 1 堀セクション
 1 耕作土
 2 暗灰褐色
 3 暗灰紫色

L=不明



第7図 騎武2次遺構

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号堀	なし	不明	ほぼ直上	(880)×(730)	50	暗灰褐色/他 暗灰紫色土層			
1号溝	なし	直線	不明	幅140	60	不明	かわらけ	15c 中～16c	

第1表 騎武2次遺構一覧表



遺物出土



調査風景

第2節 騎西城武家屋敷跡第3次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者木村恵二氏から騎西町教育委員会に宛て、牛重1151-1における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事島村範久が担当した。

(調査協力員)

関根広治 五十嵐喜一郎 五十嵐まさ子
五十嵐米太郎 籠宮義人 斉藤年治 斉藤はる子
酒巻勇 篠塚よね 渡辺秋彦

(文化庁通知) 57委保記第2-2807号

平成57年11月18日

(調査期間) 昭和57年11月4日～

昭和57年11月12日

(調査面積) 120m²

(調査の経過)

建設予定地に17m×7.5mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。湧水が顕著で水中ポンプにより排水し調査を行った。包含層を掘り下げハ

ードルーム層(ブラックバンド)を検出し、調査区全域を同層まで掘り下げ調査を完了した。

(周辺の調査)

当調査区は区画整理内になく隣接地の調査は行われていない。西方200mの妙光寺第1・2次調査では江戸時代後期の遺構・遺物が大量に出土している。

(2) 遺構と遺物

遺構は確認できなかった。

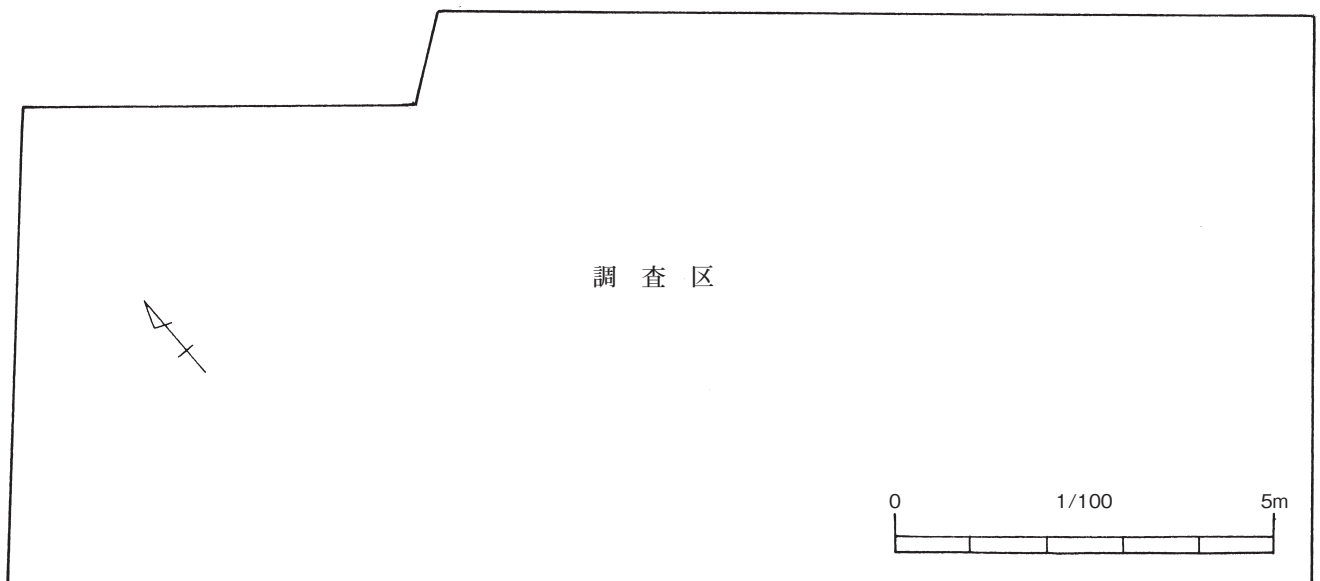
【遺構外出土遺物】

陶磁器では、中国青磁碗(土-38)・瀬戸美濃平碗(土-39・40)・同碗(土-41)・同志野丸皿(土-43)・同大皿?大鉢(土-44・45)・同鉢(土-48・49)・同蓋(土-50)・同香炉(土-51)・同系碗(土-60)・肥前京焼風陶器碗(土-52)・同系皿(土-53)・同鉢(土-54・55)・同碗(土-61~64)・志戸呂系皿(土-56)・信楽系播鉢(土-57・58)・堺系播鉢(土-59)・産地不明鉢・皿(土-46・47・65)が出土した。

在地土器では、かわらけ(土-66~68)・焙烙(土-69)・播鉢(土-71・72)・火鉢?(土-73)が出土した。

石製品では火打石(石-94・95)が出土した。

縄文時代の所産と思われる磨石(他-42)、奈良平安時代の須恵器(土-74)が出土した。



第8図 騎武3次調査区

第3節 騎西城武家屋敷跡第8次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者山中一男氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字中宿316-1における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

(調査協力員)

江原英 大塚史子 須田晃弘 原口展昭
星野正幸 町田直美 宮武康弘 山田真紀

(市町村報告) 63騎教指発第817号

昭和63年5月17日

(調査期間) 昭和63年8月19日～9月19日

(調査面積) 78m²

(調査の経過)

隣接する9次調査と並行して行った。建設予定地に12m×6mのやや変形な調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。ローム層を遺構確認面として、溝・土壌などの調査を行った。湧水のため北側に側溝を設け、水中ポンプにより排水した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水系を基準としてメジャーにより実測した。

(周辺の調査)

南側に騎武17次、西に9次調査区が隣接し、北側にKB16区がある。KB16区では御蔵屋舗の外側の障子堀が確認された。17次では9次につながる溝がある。

(2) 遺構と遺物

【溝】 調査区中央及び南端に小規模な2条の溝が確認された。

1号溝 西側調査区外に延びるが隣接する9次調査区では検出されない短い溝である。幅72cm 深さ32

cm。焙烙(土-75・76)が出土した。

2号溝 1号溝と直行する方向で、1号溝同様短く長さ6mである。幅30cm 深さ10cm。

【井戸状遺構】 1基ある。

1号井戸 直径130cm×110cm 深さ172cm。覆土上層は黄褐色と暗褐色のローム層・暗灰褐色が水成堆積している。平面楕円形で、北側壁面中位に足掛けが2か所設けられている。焙烙(土-76)・かわらけ(土-77)・素焼播鉢(土-78)・桃の種子3点が出土した。

【土壌】 8基確認された。調査区周縁に多い。平面形は長方形・円形・不整形と多様である。

1号土壌 平面隅丸長方形で316cm×56cm 深さ10cm。かわらけ(土-79・80)・焙烙の体部(土-75・81)が底面よりやや上位で出土した。

2号土壌 平面隅丸長方形で308cm(残存)×150cm 深さ24cm。墳底面にピットや落込がある。1号井戸より古い。瀬戸美濃志野小碗(土-82)・砥石(石-27)が出土した。

3号土壌 平面長方形で140cm×84cm 深さ5cm。中央に楕円形の落込が重複する。新旧関係は落込→3墳

5号土壌 平面円形で幅86cm 深さ40cm。断面はほぼ直上する。

6号土壌 平面不整形で110cm(残存)×80cm(残存) 深さ18cmを計る。複数の落込の重複と思われるが6墳として扱う。南端に灰・炭化物・焼土ブロックがまとまって確認された。白色物質(骨粉?)を含む。

7号土壌 平面円形で直径66cm 深さ70cm。焙烙(土-83)が出土した。

8号土壌 平面不整形で120cm×100cm。深さ70cm。掘り込みがしっかりしている。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗(土-84・85)・中国白磁皿(土-86)・常滑片口鉢(土-87)・瀬戸美濃小碗(土-88)・同卸皿(土-89)・同縁釉小皿(土-90・91)・同灯明皿(土-92~94)・同鉄絵皿(土-95)・同志野向付(土-96)・同土製円盤(土-496)・肥前丸碗(土-97)・同染付碗(土-100)・同筒

形碗（土-101）・唐津皿（土-98）・同小坏（土-99）が出土した。

在地土器では、かわらけ（土-102～112）・焙烙（土-113）・播鉢（土-114・115）・泥面子（土-497・498）が出土した。

錢貨では文久永宝（金-45）が出土した。

石製品では砥石（石-28）が出土した。

縄文時代前・中期の土器（他-6～10）と石鏃の未製品（他-40）、古墳時代小針形坏小破片が出土（未図化）。

（ ）は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土（T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	1 壙	直線	箱葉研	幅☆72	☆32	暗灰褐色/含LR・CR・SR△	焙烙		
2号溝	なし	直線	箱葉研	幅30	☆10	不明			
1号井戸	2 壙→○	楕円形	ロート形	130×110	172	暗褐色/含LR☆・LB 他黄褐色土層	在地播鉢/焙烙/かわらけ桃の種子	15c 中～	足掛2ヶ所
1号土壙	1 溝	隅丸長方形	ゆるやか	316×56	10	暗灰色/含LB◎・壁面Fe附着 他茶褐色土層	焙烙/かわらけ	16c～	
2号土壙	○→1 井	隅丸長方形	ゆるやか	(308)×150	☆24	灰色/含灰白色粘土B・黒灰色粘土B 他	瀬美(志野小碗)/砥石	17c～	
3号土壙	なし	長方形	ゆるやか	140×84	☆5	暗灰褐色/含LR・CR▲			
4号土壙	なし	長方形	直上	182×(90)	☆36	暗灰褐色/含LB・LR・CR・SR			
5号土壙	なし	円形	ほぼ直上	86	☆40	暗灰褐色, 他			
6号土壙	なし	不整形	ほぼ直上	(110)×(80)	☆18	暗灰褐色/含LR△・LB▲・CR▲・SR▲ 他黒灰色土層 赤褐色土層 骨粉			
7号土壙	なし	円形	ほぼ直上	66	☆70	暗灰褐色/含LB・LR・CR▲ 他暗灰色土層	焙烙	16c～	
8号土壙	なし	不整形円形	直上	120×100	70	不明			

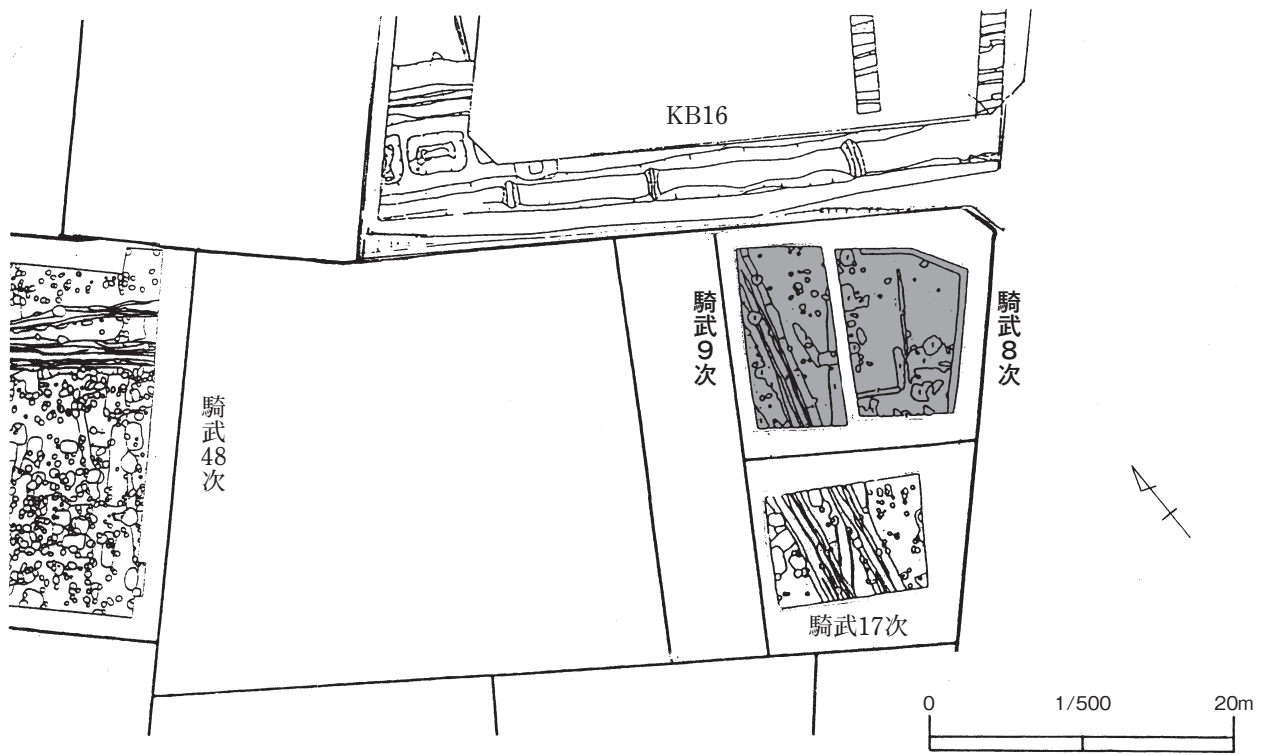
第2表 騎武8次遺構一覧表



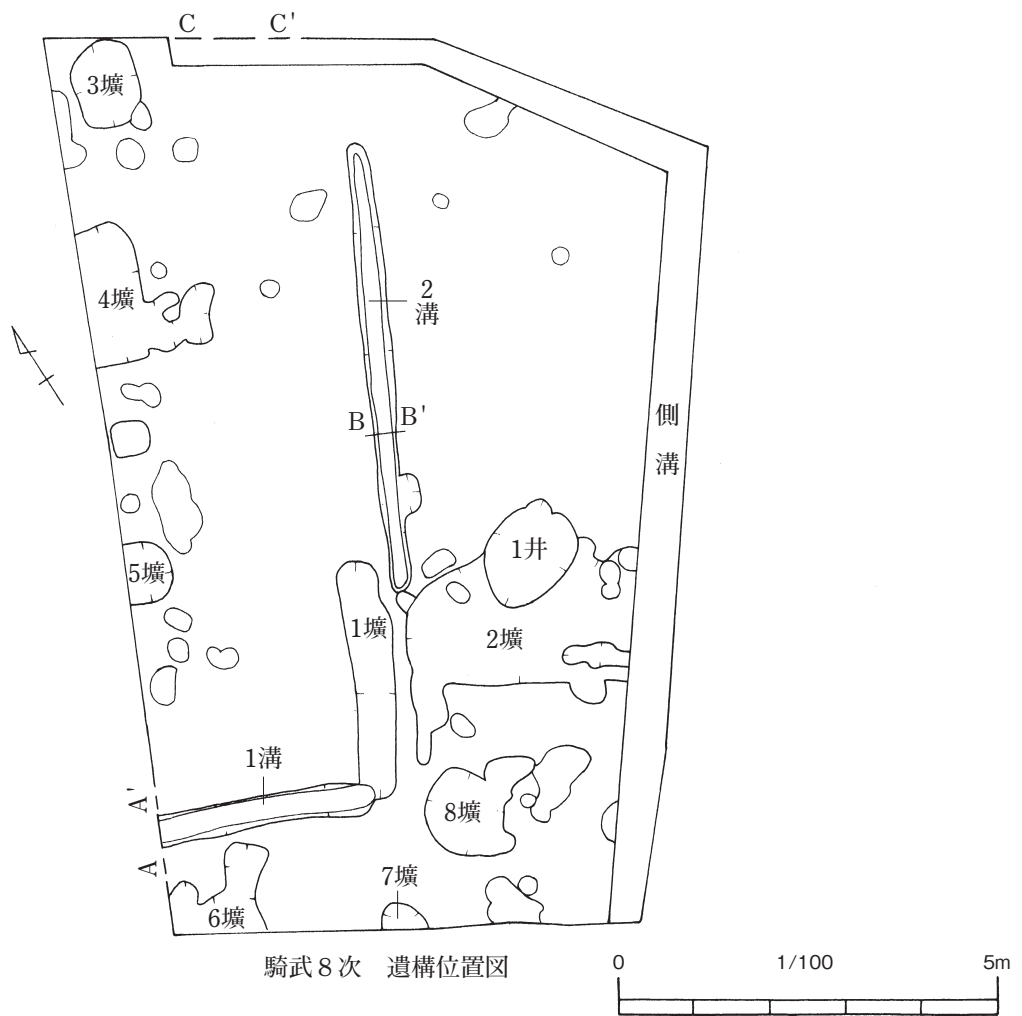
調査前風景



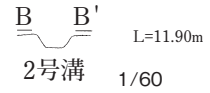
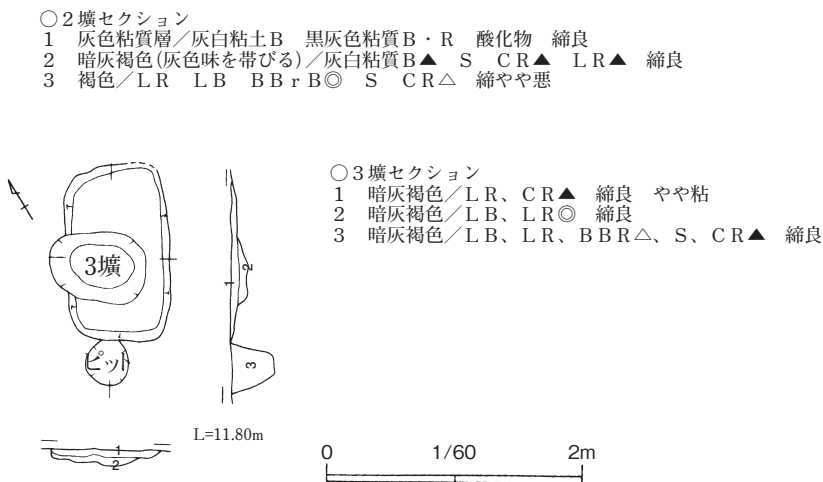
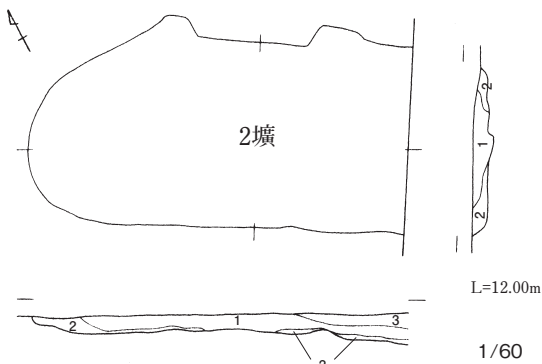
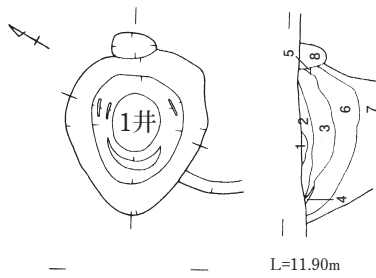
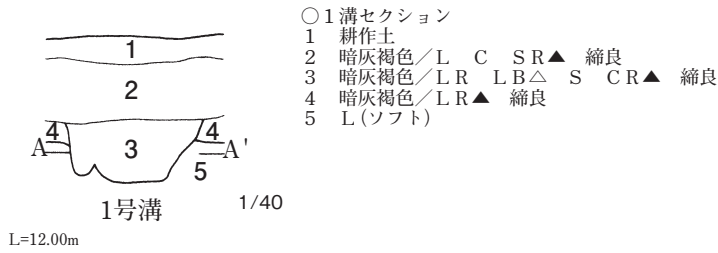
調査風景



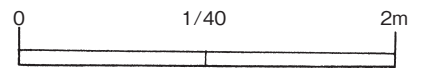
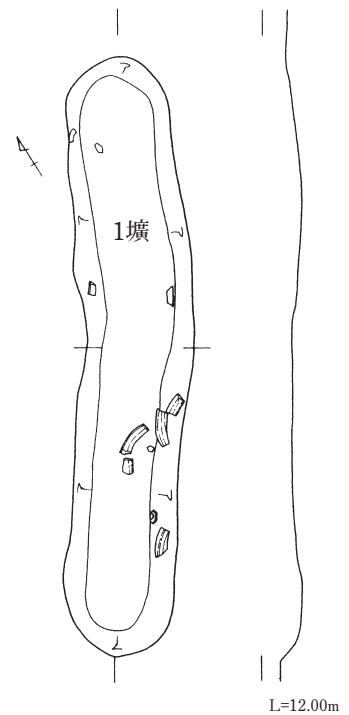
周辺の調査



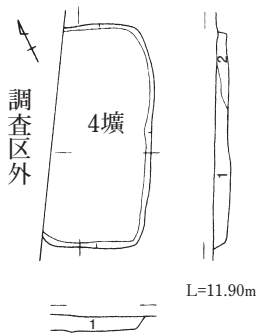
第9図 騎武8・9次周辺と遺構位置図



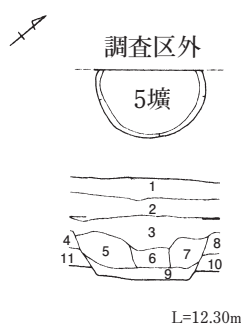
土層説明凡例
 色調/含有物
 テフラ=T 非常に多い=☆
 ローム=L 多量=◎
 炭化物=C 少量=△
 焼土=S 微量=▲
 酸化鉄=FE 万遍なく=万
 黒色=B やや暗い=やや暗
 褐色=Br 非常にやわらかい=軟度高
 やわらかい=軟質
 やややわらかい=軟度低
 粒子=R かたい=堅緻
 ブロック=B 締まり良し=締良
 締まり悪し=締悪
 粘性強し=粘強
 粘性有り=粘有



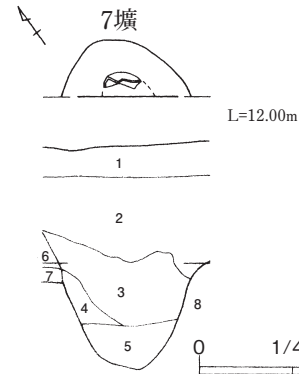
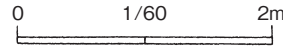
第10図 騎武8次遺構1



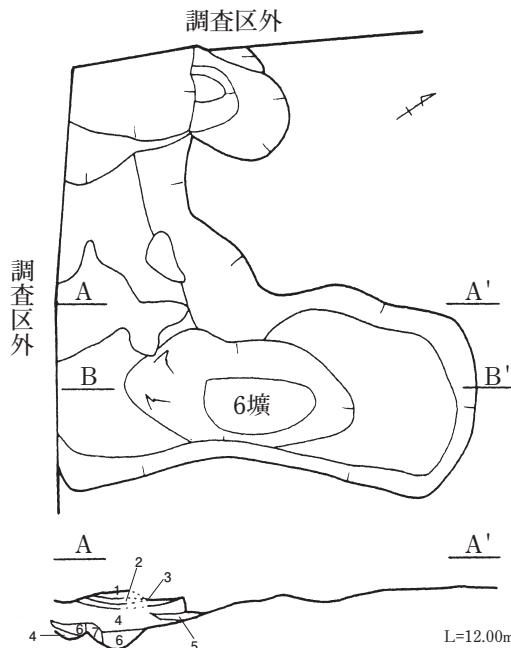
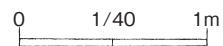
- 4 壙セクション
 1 暗灰褐色/LB、LR、S、CR 締良
 2 暗灰褐色/LB☆、LR☆ 締良



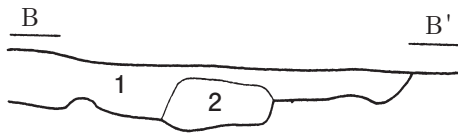
- 5 壙セクション
 1 耕作土
 2 暗灰褐色/T◎ C、S、LR 締良
 3 暗灰褐色(やや暗)/T△、C、SR△、LR、LB▲ 締良
 4 暗灰褐色/LB、LR、CR、SR▲ 締良
 5 茶褐色(黄色味強)/LB☆、LR◎、CR△、SR▲ 締良
 6 暗灰褐色(やや暗)/LB、LR◎、CR▲ 締やや悪
 7 茶褐色/LB☆ LR◎、CR、SR▲ 締良
 8 暗灰褐色/CR、SR▲、LB、LR▲ 締良
 9 暗灰褐色(灰色味強)/LB、LR◎、CR、SR▲ 締良
 10 茶褐色/LR◎、CR、SR△ 締良
 11 茶褐色/LB、LR◎、CR、SR△ 締良



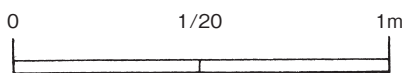
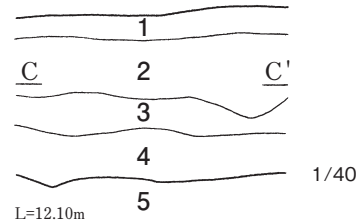
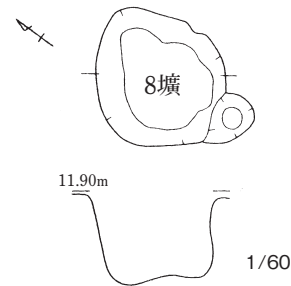
- 7 壙セクション
 1 耕作土
 2 暗灰褐色/LR、BBR 締良
 3 暗灰褐色/LB(ハード・ソフト) LR、CR▲
 4 暗灰褐色/LB(ハード・ソフト▲) LR、CR▲ 締良
 5 暗灰色/FER◎ C SR▲ 締良 粘有
 6 暗灰褐色/LR、BBR 締良
 7 暗灰褐色(やや暗)/LR△ FER、CSR▲ 締良
 8 L(ソフト)



- 6 壙焼土セクション
 1 赤褐色(所々薄灰色)/CとSの混合層 骨粉?◎ SR
 2 C層
 3 黒灰褐色/灰層 骨粉?(1層より多) SR
 4 暗灰褐色
 5 赤褐色/灰とSの混合層 骨粉? SR◎
 6 黒灰色(灰色味強)/灰とCの層 骨粉 SR
 7 黒灰色(黒色味強)/6層と同じ



- 6 壙セクション
 1 暗灰褐色(灰色味強)/LB△、LR▲、SR▲、CR▲、FE、FER 締良 やや粘
 2 暗灰褐色・黄褐色/LB堆積、CR▲、FE△、FER 締良 やや粘



- 北側土層セクション
 1 耕作土
 2 暗灰褐色/CR、SR、LR▲ 締良
 3 茶褐色
 4 L(ソフト)
 5 L漸移

第11図 騎武8次遺構2

第4節 騎西城武家屋敷跡第9次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者小倉秀雄氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字中宿316-1における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

昭和63年8月19日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

(調査協力員)

五十嵐喜一郎 伊藤ツネ 小森谷アサ 田口島蔵
田口ふみ 田島汀七 吉野武一

(市町村報告) 63騎教指発第817号

昭和63年8月17日

(調査期間) 昭和63年8月19日～9月20日

(調査面積) 60m²

(調査の経過)

隣接する8次調査と並行して行った。建築予定地に12m×5.5mの調査区を設定し人力により表土を掘り下げた。湧水のため1号井戸に水中ポンプを設置し排水した。ローム層を確認面として、溝・土壌を慎重に調査を行った。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高はKB10区に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

南側に騎武17次、東に8次調査区が隣接し、北側にKB16区がある。KB16区では御蔵屋舗の外側の障子堀が確認された。17次では9次につながる溝がある。

(2) 遺構と遺物

【溝】 南北方向に2条走行する。

1号溝 南端確認面上層で焼土ブロックが検出され

た。幅150cm(残存) 深さ88cmで、断面形は上部緩やかに立ち上がり、下部は箱薬研である。素焼播鉢(土-116)が出土した。

2号溝 幅90cm(残存)、深さ5cmと浅い。

【井戸状遺構】 1基ある。

1号井戸 直径80cm 深さ128cm。かわらけ(土-117)・焙烙(土-118・119)が出土した。

【土壌】 調査区に散漫に分布する。総数6基検出した。1・4号は上位面で調査した。

1号土壌 覆土上部及び中位では桃白色土が堆積し、白色粒子(骨?)及び焼土粒子を多量に含んでいる。周縁に炭化物が確認され、桃白色土を掘り下げると壁面・下層に炭化物(炭化米等)が全面に堆積していた。平面楕円形で82cm×74cm 深さ15cm。かわらけ(土-120)・炭化米が出土した。

3号土壌 平面円形で直径68cm 深さ83cm。土壌として調査したが形態・湧水状況から井戸の可能性がある。完掘図作成せず。かわらけ(土-121)・素焼播鉢(土-122)が出土した。

4号土壌 平面隅丸長方形で224cm(残存)×70cm 深さ16cm。1号溝と重複、新しい。炭化物出土。

5号土壌 平面長方形で128cm(残存)×84cm 深さ12cm。

覆土中位に炭化物層が堆積する。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、瀬戸美濃丸皿(土-123)が、在地土器では、かわらけ(土-124~129)が出土した。



調査風景

周辺の調査は第9図参照

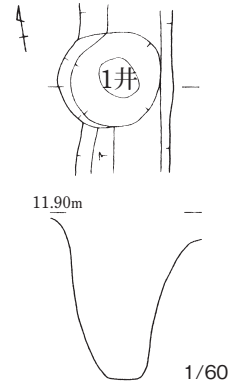
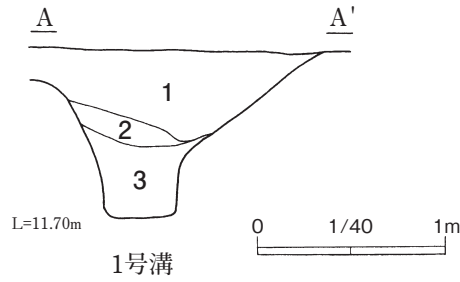


第12図 騎武9次遺構位置図

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	1井、1・3・4坑	直線	箱葉研	幅☆(150)	☆88	暗灰褐色/含FeR◎・LR・SR・CR 他	播鉢		南端に焼土あり
2号溝	5坑	直線	不明	幅(90)	5	不明			
1号井戸	1溝	円形	ほぼ直上	80	128	不明	かわらけ/焙烙	16c~	
1号土坑	1溝、4坑	楕円形	ほぼ直上	82×74	15	炭化物層/含炭化米 他灰色土層 SB	かわらけ	15c中~	含白色土層
2号土坑	5坑	隅丸長方形	ゆるやか	330×56	6	暗灰褐色/含LR・CR			
3号土坑	○→1溝	円形	不明	68	83	暗灰褐色/含LB◎・LR◎・CR▲	在地播鉢/かわらけ	15c中~	井戸?
4号土坑	1溝、1坑	隅丸長方形	ほぼ直上	(224)×70	16	暗褐色/含LR・CR◎・SR・灰色R			
5号土坑	2溝、2坑→○	長方形	直上	(128)×84	12	暗灰褐色/LB◎・他炭化物層			
6号土坑	なし	長方形?	直上	(180)×(50)	32	不明			

第3表 騎武9次遺構一覧表



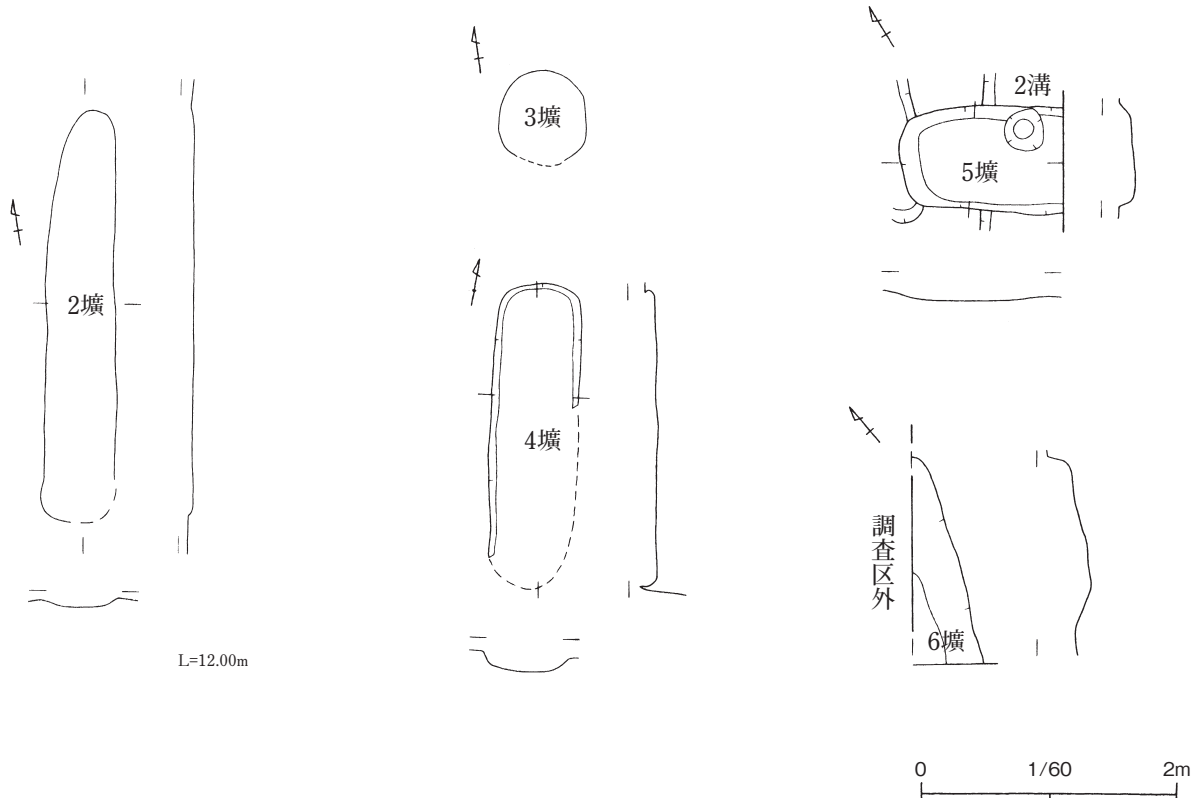
- 1 溝南セクション
 1 暗灰褐色/FER☆ LR▲ SR、CR▲ 締良 粘有
 2 暗灰褐色(やや灰色味強)/白色粘土B・R◎、LR、FER 締良 粘有
 3 暗灰褐色/LR LB FER SR▲ 締強良 粘有

土層説明凡例

- | | |
|--------|--------------|
| 色調/含有物 | |
| テフラ=T | 非常に多い=☆ |
| ローム=L | 多量=◎ |
| 炭化物=C | 少量=△ |
| 焼土=S | 微量=▲ |
| 酸化鉄=FE | 万遍なく=万 |
| 黒色=B | やや暗い=やや暗 |
| 褐色=Br | 非常にやわらかい=軟度高 |
| | やわらかい=軟質 |
| | やややわらかい=軟度低 |
| 粒子=R | かたい=堅緻 |
| ブロック=B | 締まり良し=締良 |
| | 締まり悪し=締悪 |
| | 粘性強し=粘強 |
| | 粘性有り=粘有 |

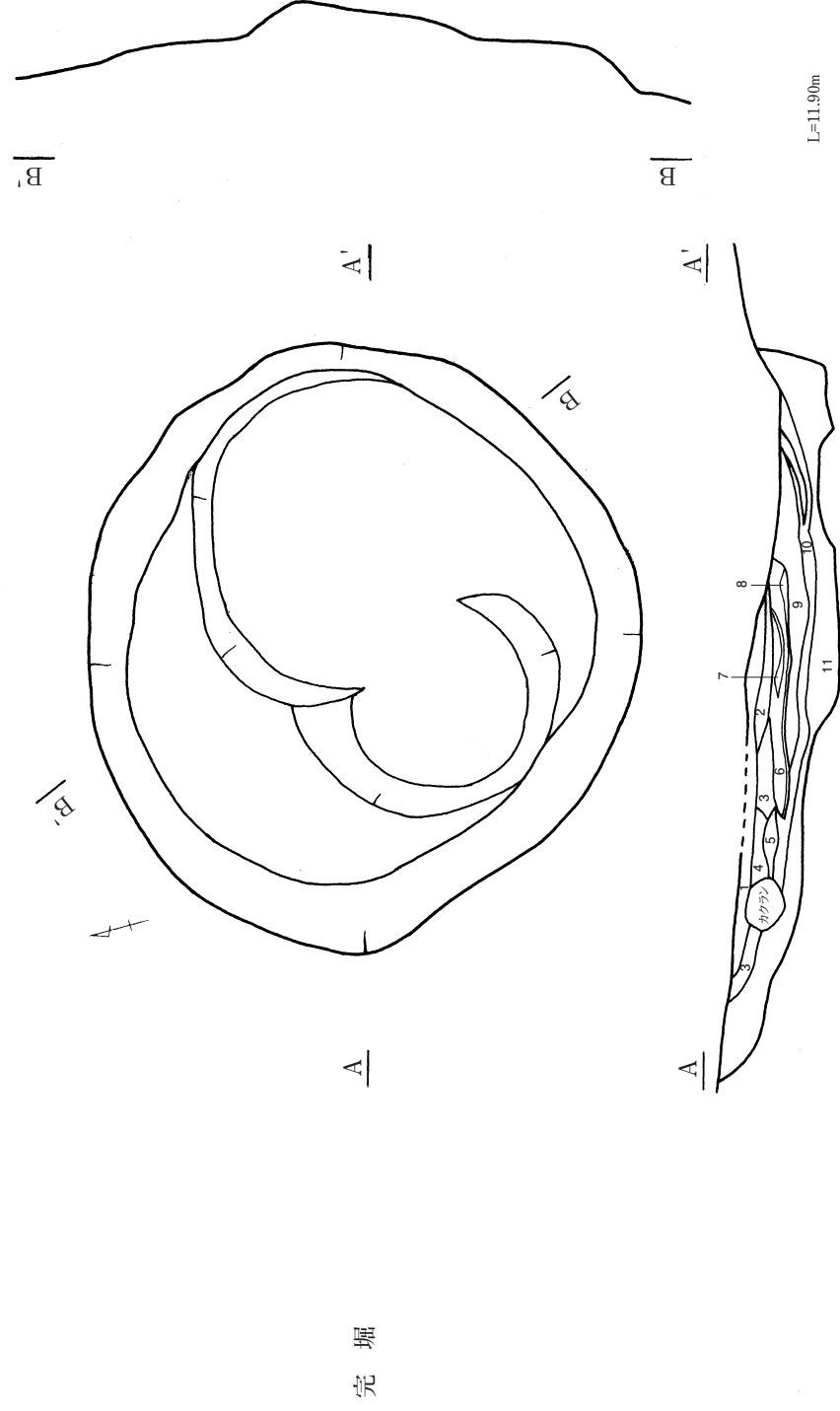
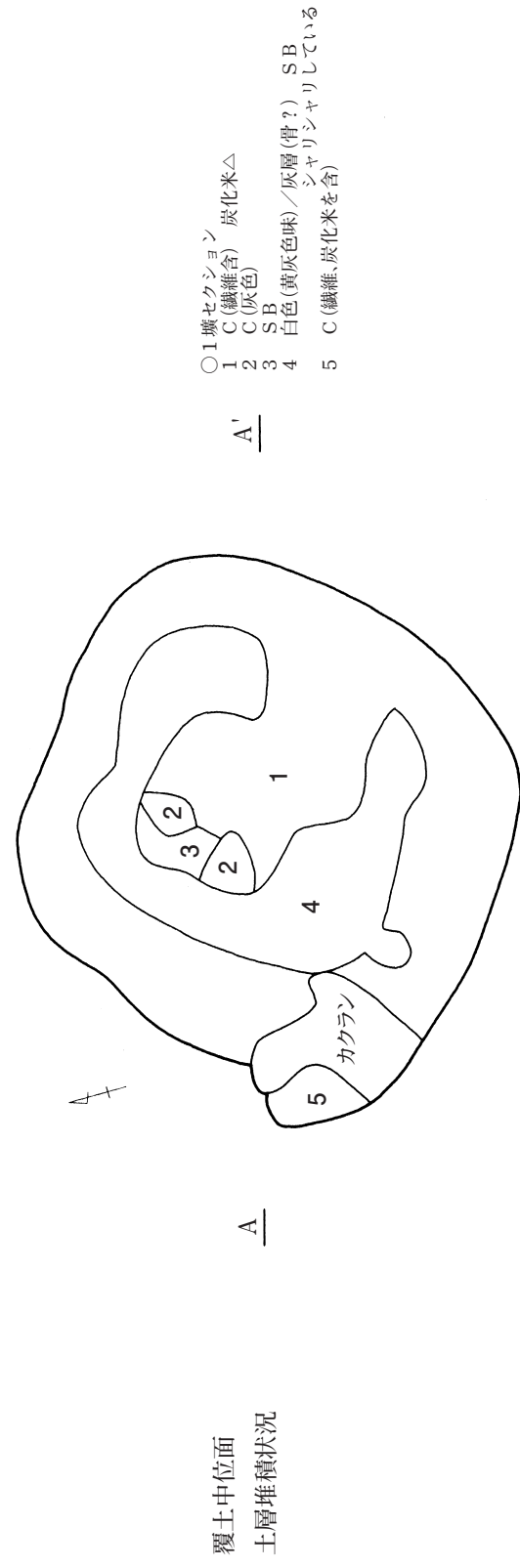
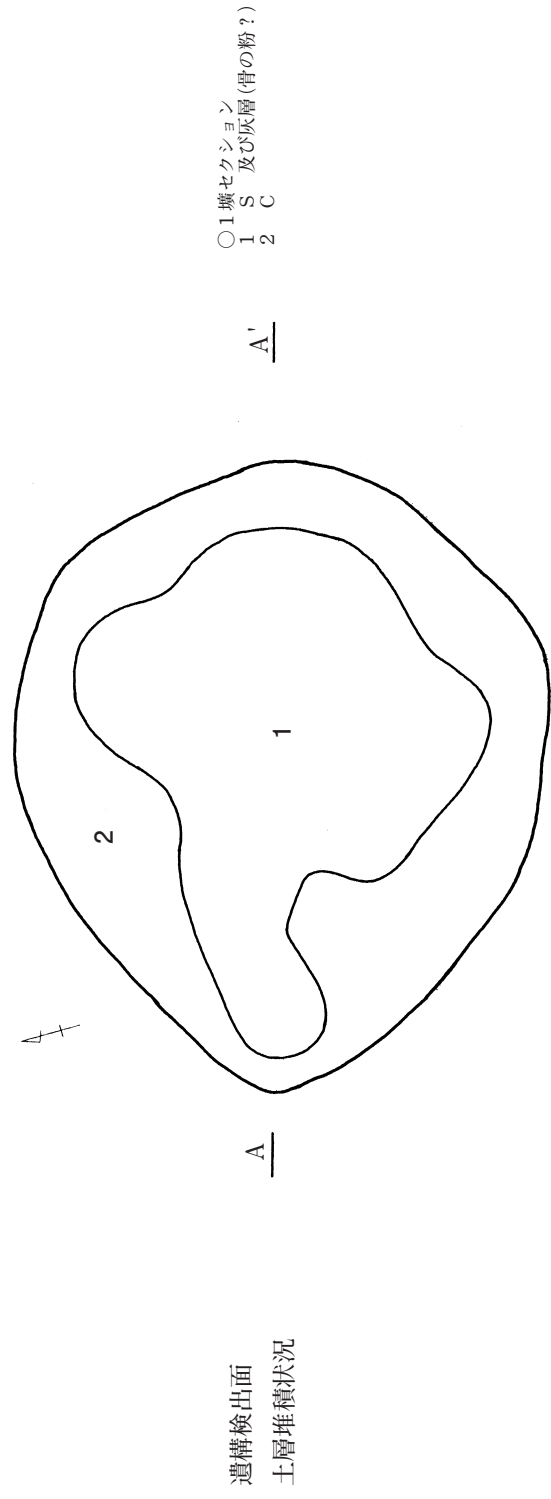


調査風景



第13図 騎武9次遺構1

1号土塚



- 1 壙セクション
1 桃白色/骨? (針状)◎ SR▲ 締悪 粘無
2 赤褐色/S層 締悪 粘弱
3 黒色/C層/S層 締悪 粘無
4 暗赤褐色/S層 締悪 CR◎ SR 締やや良
5 黒色/C層/炭化米、炭化糞物種子 締悪 粘無
6 桃白色(灰色味)/骨(針状)?◎ SR CR▲ 締悪 粘無
7 黒色/C層 締悪 粘無
8 黒色/C層 灰 締悪 粘無
9 桃白色/骨(針状)? SR△、SB△ CR△ 締悪 粘無
10 黒色/C層 炭化米△ 締悪 粘無
11 暗灰褐色/LR、LB 締やや良 粘弱

第14図 騎武9次遺構2

第5節 騎西城武家屋敷跡第50次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者鈴木良氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋656-10における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成8年2月8日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

(調査協力員)

五十嵐喜一郎 石井寿美子 江口由利子 栗原まさ子
西田豊子 福嶋清作 福島辰雄 吉田美津

(文化庁通知) 8委保記第5-2594号

平成9年2月6日

(調査期間) 平成8年5月9日～7月19日

(調査面積) 132.2m²

(調査の経過)

建設予定地に10.5m×9.5mの調査区を設定し掘り下げた。湧水はなく排水の為の側溝は必要なかった。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壌の調査を実施した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。10号土壌より金貨が出土したため、覆土を洗浄調査した。また、その性格推定の資料としてサンプリングを行い、自然科学分析を行った。基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

西にKB17区、北に騎武49次、南に51次が所在する。49次では東端に1溝があり50次1溝とつながる。他には井戸が4基、金粒付着土器片が3点、磨面・敲打痕がある礫等が出土している。50次の3溝はKB17区・30次・KB10区に延び、51次の1溝と並行する。KB17区ではピットが多い。

(2) 遺構と遺物

【溝】 4号溝まで振ったが2溝がab分割するため総数5条を数える。調査区周縁で検出された。

1号溝 東端に南北方向に走行する。幅130cm 深さ78cm で、断面箱葉研である。

2a号溝 幅62cm 深さ42cm。かわらけ(土-130)・焙烙(土-131~133)が出土した。

2b号溝 幅82cm 深さ55cm で、断面箱葉研である。かわらけ(土-130)・焙烙(土-131~133)が出土した。

4号溝 幅46cm 深さ25cm で、断面箱葉研である。焙烙(土-134)が出土した。北端覆土中より菌(馬?)が出土。

【井戸状遺構】 東端で2基並んで検出された。

1号井戸 直径100cm×82cm で深さ126cm。かわらけ(土-135・136)・焙烙(土-137)が出土した。

2号井戸 直径96cm 深さ134cm。かわらけ(土-138)出土。

【土壌】 総数10基で、周縁に分布する。不整形で浅いものが多く、主に掘り込みの深いものを述べる。

1号土壌 平面長方形で130cm(残存)×126cm 深さ20cm。瀬戸美濃皿(土-139)・焙烙(土-140)が出土した。

10号土壌 覆土に上層にロームブロックを大量に含む。平面不整形で256cm×184cm 深さ60cm。平面・断面形態より3基の土壌が重複したと思われる。かわらけ(土-142)・焙烙(土-143)・素焼片口鉢(土-144)が出土した。銭貨(金-50・51・130~132)、特に覆土中位(第2層)で蛭藻金・露金・切金が壙内南寄り・南西端・北端の各所で出土した。蛭藻金・切金は上字及び叩目を上面に、露金のみ底面を上面にして出土した。

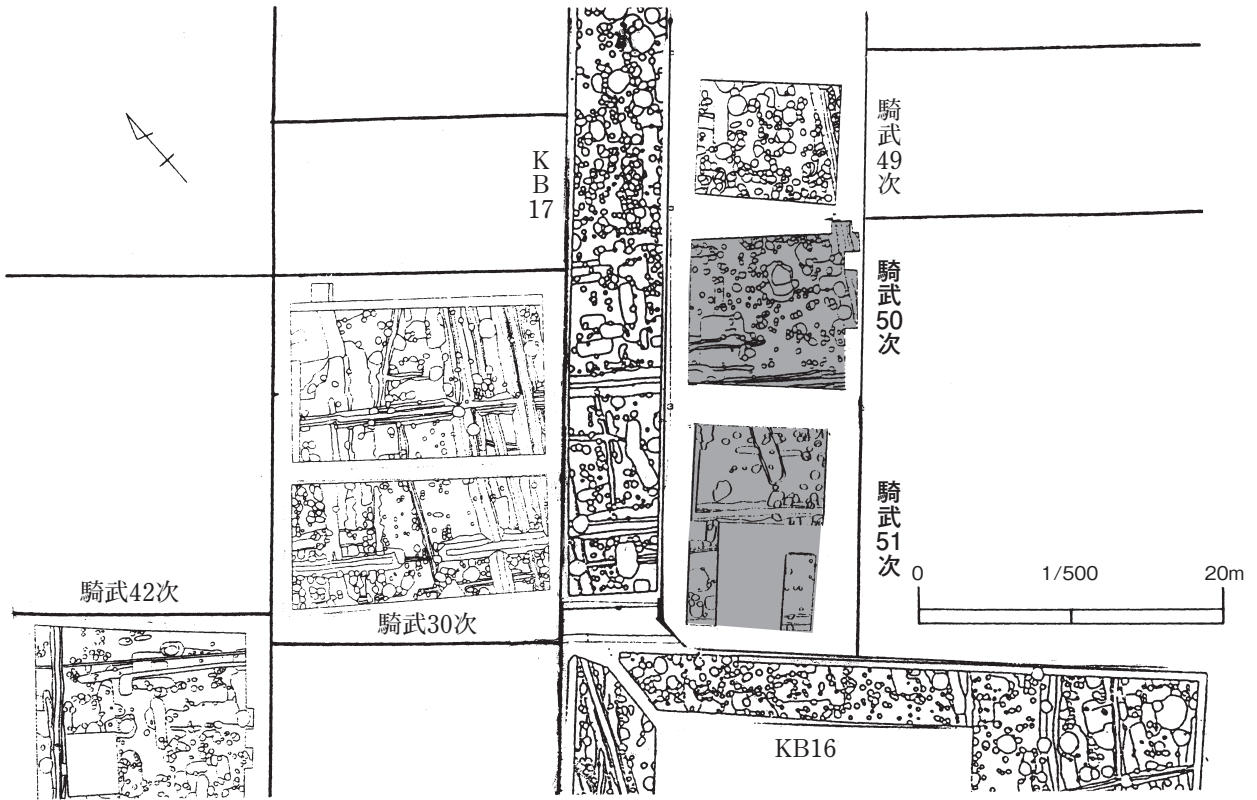
【遺構外出土遺物】

陶磁器では、常滑鶯口壺(土-145)・瀬戸美濃志野筒形碗(土-146)・同志野皿(土-147~150)・同丸皿(土-151)・同鉢(土-152)・同甕?(土-153)が出土した。

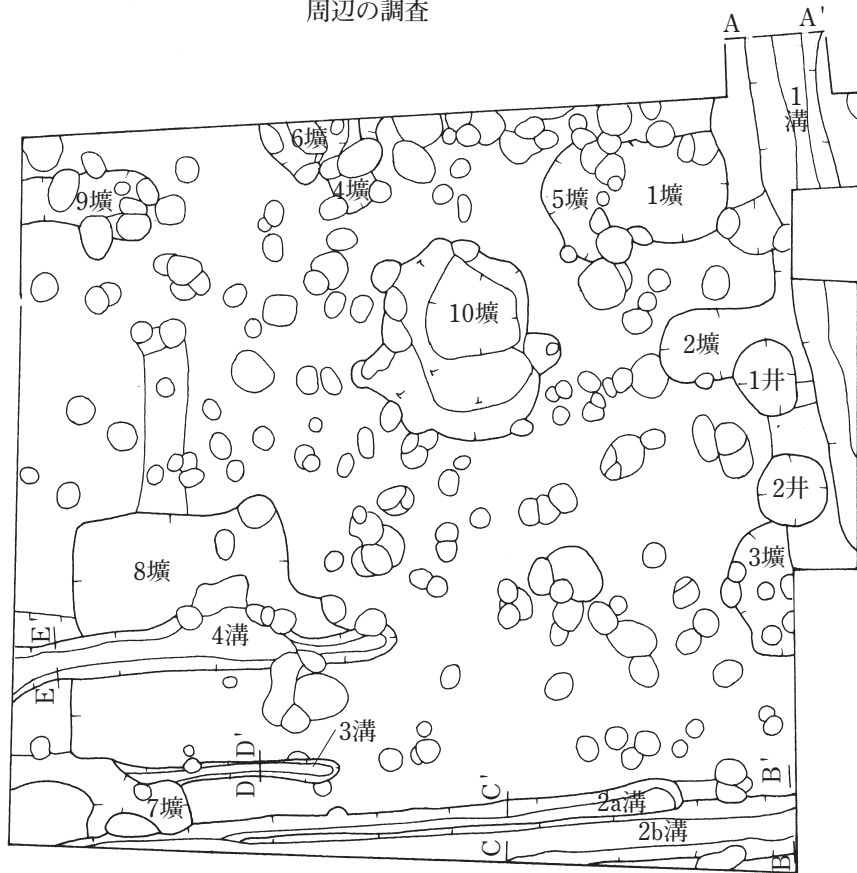
在地土器では、かわらけ(土-154~158)・鉢(土-159・160)がある。産地不明の片口鉢(土-161)も出土した。

金属製品では、毛抜き(金-1)・火打金(金-3)・刀子状製品(金-15)・環状製品(金-29)・鏡(金-33)・筭状製品(金-41)が出土した。スラグが19.9g 出土した。石製品では磨石(石-47~51)が出土した。

縄文時代中・後期の土器(他-11・12)、須恵器の壺又は甕の破片(他-48)が出土した。

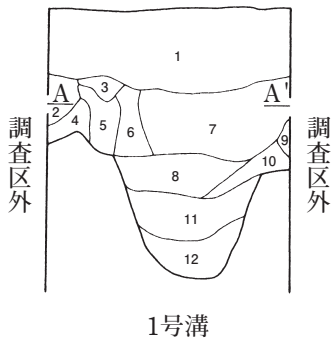


周辺の調査

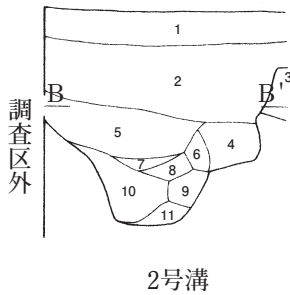


騎武50次 遺構位置図

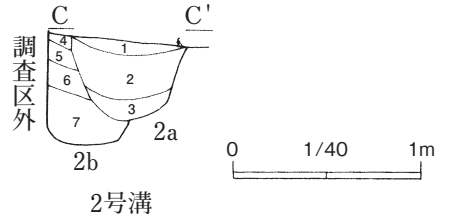
第15図 騎武50・51次周辺と遺構位置図



- 1 溝セクション
 1 暗灰褐色(表土)/T◎ LR、LB、C▲ 縮良
 2 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮良
 3 暗灰褐色/LR、LB◎ 縮良
 4 暗灰褐色/LR◎、LB▲ 縮良
 5 暗灰褐色/LR、LB、C▲ 縮良
 6 暗灰褐色/LR△、LB▲ 縮良
 7 暗灰褐色/LR、LB、C▲ 縮良
 8 暗灰褐色/LR、LB、C▲(上層より微量) 縮良
 9 暗灰褐色/LR、LB、C▲(8層より少) 縮良
 10 暗灰褐色/LB◎、LR▲ 縮良
 11 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮やや悪
 12 暗褐色/LR、LB、FE▲ 縮やや悪
- 〕ピット
 →溝
 →ピット
 }溝

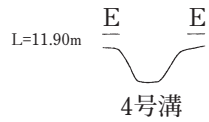
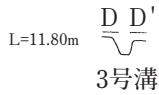


L=11.90m

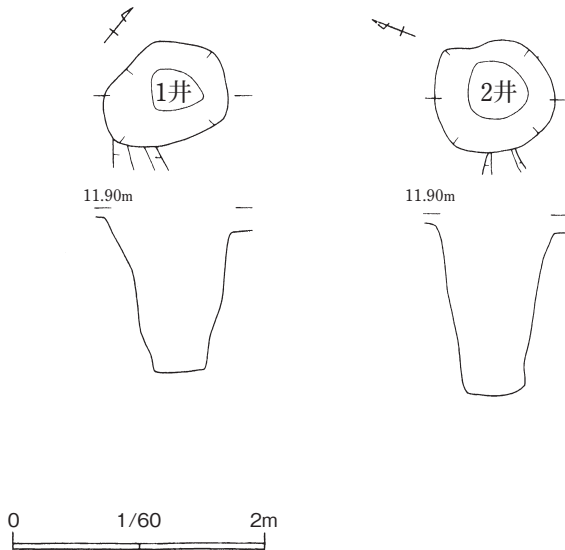


- 2 溝セクション
 1 表土/T◎ 縮良
 2 暗灰褐色/T◎、LR、LB、C、黄色R▲ 縮良
 3 暗灰褐色/LR、LB◎、T△、C▲ 縮良
 4 暗灰褐色/LB◎、LR▲ 縮良
 5 暗灰褐色(やや灰色味)/LR△、LB、C▲、FE▲、T▲ 縮良
 6 暗灰褐色/LR◎、LB、FE▲ 縮良
 7 暗灰褐色/LR◎、LB△ 縮良
 8 暗灰褐色(やや灰色味)/LR、LB▲、FE▲ 縮良
 9 灰褐色/LR、LB、FE▲ 縮良 粘弱
 10 灰褐色/上層砂質、下層粘性土 FE△、LR、LB▲ 縮良
 11 灰褐色/LR◎、LB、FE▲ 縮良

- 2 溝セクション
 1 暗灰褐色/LR◎、LB△、FE▲ 縮良
 2 灰褐色/FE◎、LR、LB、T、C▲ 縮良
 3 灰褐色/LR、LB、C▲ 縮良 粘強
 4 灰褐色/LR、LB、C、T▲ 縮良
 5 灰褐色/FE△、LR、LB、C▲ 縮良
 6 灰褐色/FE◎、LR△、LB、C▲ 縮良
 7 灰褐色/FE◎(やや砂質) LR、LB、C▲ 縮良

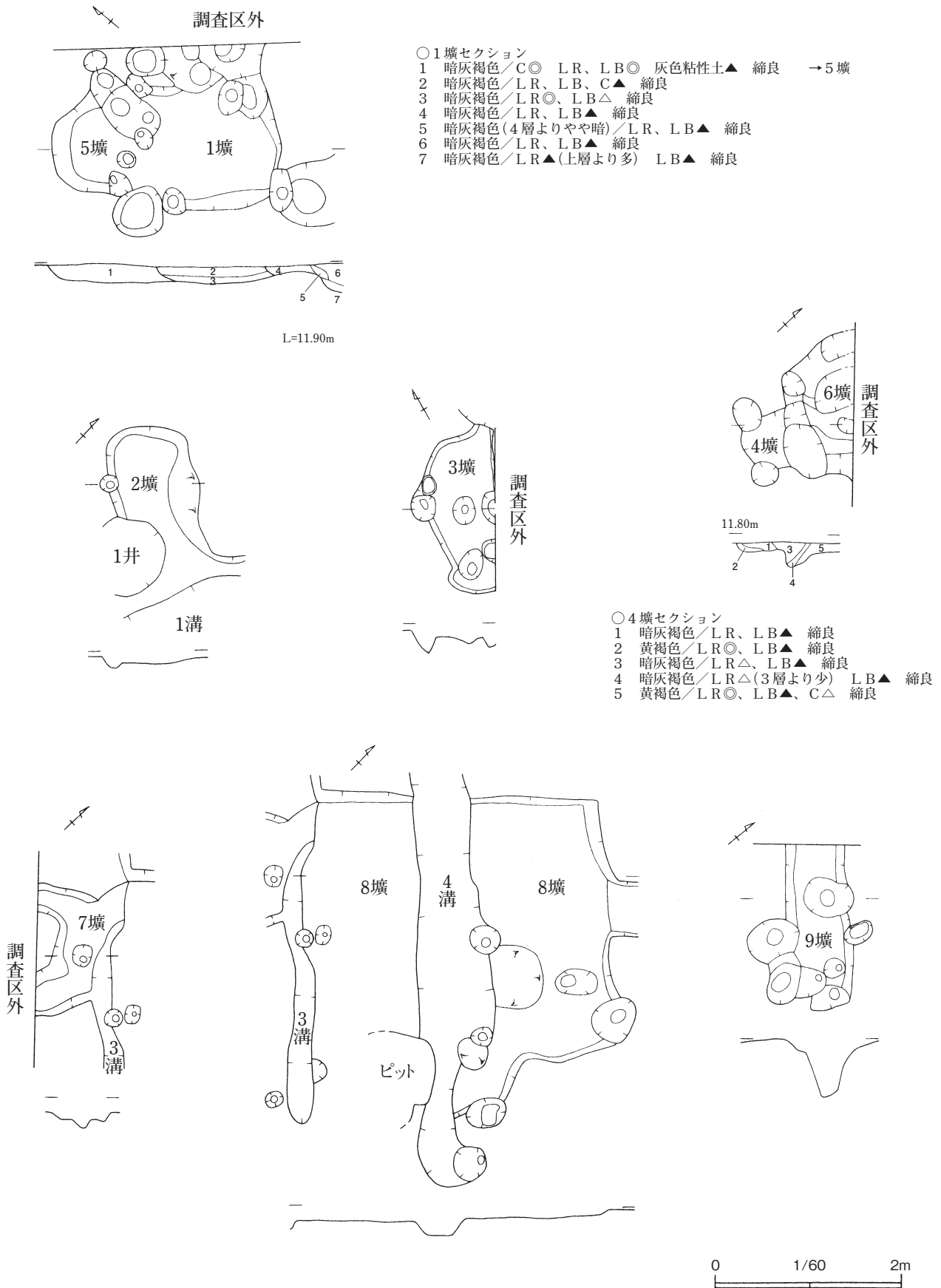


- 土層説明凡例
 色調/含有物
 テフラ=T 非常に多い=☆
 ローム=L 多量=◎
 炭化物=C 少量=△
 焼土=S 微量=▲
 酸化鉄=FE 万遍なく=万
 黒色=B やや暗い=やや暗
 褐色=B r 非常にやわらかい=軟度高
 やわらかい=軟質
 やややわらかい=軟度低
 かたい=堅緻
 粒子=R 縮まり良し=縮良
 ブロック=B 縮まり悪し=縮悪
 粘性強し=粘強
 粘性有り=粘有

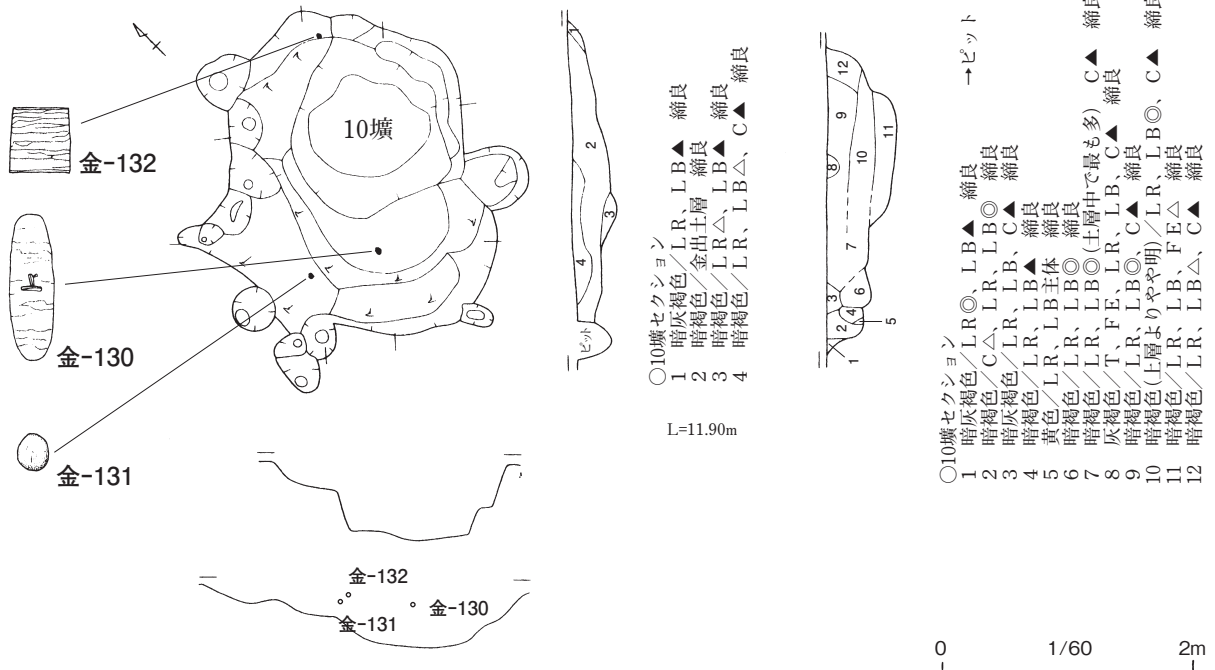


10 壙覆土 洗浄調査

第16図 騎武50次遺構 1



第17図 騎武50次遺構2



第18図 騎武50次遺構3

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	なし	直線	箱葉研	幅130	78	暗灰褐色/含LR・LB・C▲ 他	火打石/板碑		49次1溝とつながる
2号溝							かわらけ/焙烙/板碑		
2a号溝	2b溝→ ○、7号墳	直線	ほぼ直上	幅☆62	☆42	暗灰褐色/含LR◎・LB△・ Fe▲ 他			
2b号溝	○→2a 溝、7号墳	直線	箱葉研	幅82	55	暗褐色/含LR・LB・C 他			
3号溝	7号墳	直線	ほぼ直上	幅17	13	暗灰褐色/含LR△・LB△・ C▲			
4号溝	8号墳	直線	箱葉研	幅46	25	不明	焙烙/粉挽臼(下臼)/齒	16c~	
1号井戸	1溝、2 号墳	楕円形	ロート形	100×82	126	暗灰褐色/含LR△・LB・Fe ▲ 他	かわらけ/焙烙/銭貨	16c~	
2号井戸	1溝、3 号墳	円形	ほぼ直上	96	134	暗灰褐色/含LB◎・Fe◎・ LR▲ 他	かわらけ/銭貨		
1号土壇	5号墳→○	長方形	ほぼ直上	(130)×126	☆20	暗灰褐色/含LR・LB・C▲ 他	瀬美(稜皿又は反皿)/焙烙	16c~	
2号土壇	1井	不整長方形	ゆるやか	(100)×90	6	不明	焙烙		
3号土壇	2井	不整形	ほぼ直上	178×(72)	8	暗灰褐色/含T・LR・LB▲ 他			
4号土壇	6号墳	不整形	ほぼ直上	(240)×(132)	☆10	暗灰褐色	焙烙/板碑		
5号土壇	○→1号墳	隅丸長方形	ゆるやか	108×(140)	☆20	暗灰褐色/含C◎・LR・LB ◎・灰色粘土▲			
6号土壇	4号墳	楕円形?	不明	80×50	4	不明	焙烙		
7号土壇	3号溝	環状	ほぼ直上	幅50	4	不明			溝か
8号土壇	4号溝	長方形	ゆるやか	(300)×286	6	不明			
9号土壇	なし	長方形	直上	150×68	14	不明			
10号土壇	なし	不整形	ほぼ直上	256×184	☆60	暗灰褐色/含LR△・LB◎・ C▲	在地片口鉢/かわらけ/焙烙/ 銭貨/蛭藻金/露金/切金/板 碑	16c~ 17c初	3基が重複 したもの

第4表 騎武50次遺構一覧表

第6節 騎西城武家屋敷跡第51次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

平成8年2月15日、開発者牛久保道夫氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋656-9における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

(調査協力員)

梓沢ユキ子 五十嵐米太郎 岡田金之助 佐藤ヨシ
関口のぶ 土屋トヨ 福島利男 若林美知子

(文化庁通知) 8委保記第5-4747号

平成9年2月6日

(調査期間) 平成8年8月1日～10月25日

(調査面積) 214.5m²

(調査の経過)

建設予定地に8.5m×6.5mの調査区を設定し掘り下げた。その際また南側に2カ所トレンチ設定し調査し、湧水のため西側に側溝を掘り下げ水中ポンプにより排水した。ローム面を遺構確認面とし溝・土壌の調査を実施した。中近世調査の後、黒色土を覆土とする竪穴住居跡を調査した。その際、住居跡が西側に広がるが調査期間の都合で、竈周辺のみ拡張した。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は近隣の大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

西にKB17区、北に騎武49・50次、南にKB16区が所在する。1号溝は50次の2溝と並行し30次・KB10区へ延びる。50次では金貨が出土している。KB16・17区では共にピットが多数検出されている。また、16区では縄文時代早期のファイヤーピットが2基検出された。

(2) 遺構と遺物

【溝】 5号まで振ったが欠番により総数4条である。全て東西方向に走行する。調査区の南端・トレンチの南北端にある。

1号溝 覆土上層にロームの2次堆積がある。幅124cm 深さ82cm。かわらけ(土-162・163)・焙烙(土-164)・素焼播鉢(土-165)・粉挽臼・茶臼(石-4・5)・板碑片(石-105~107)が出土した。

3号溝 幅48cm(残存) 深さ42cmで、5溝とつながるか。

4号溝 幅28cm 深さ46cm。中国染付皿(土-166)・素焼播鉢(土-167)・火鉢(土-168)が出土した。

5号溝 幅88cm 深さ50cm。かわらけ(土-169)が出土した。

【土壌】 総数10基で調査区及び1トレンチに分布する。

3号土壌 平面長方形か。148cm×130cm(残存) 深さ42cm。かわらけ(土-170~172)・焙烙(土-173・174)が出土。

8号土壌 平面隅丸長方形で160cm(残存)×54cm 深さ16cm。

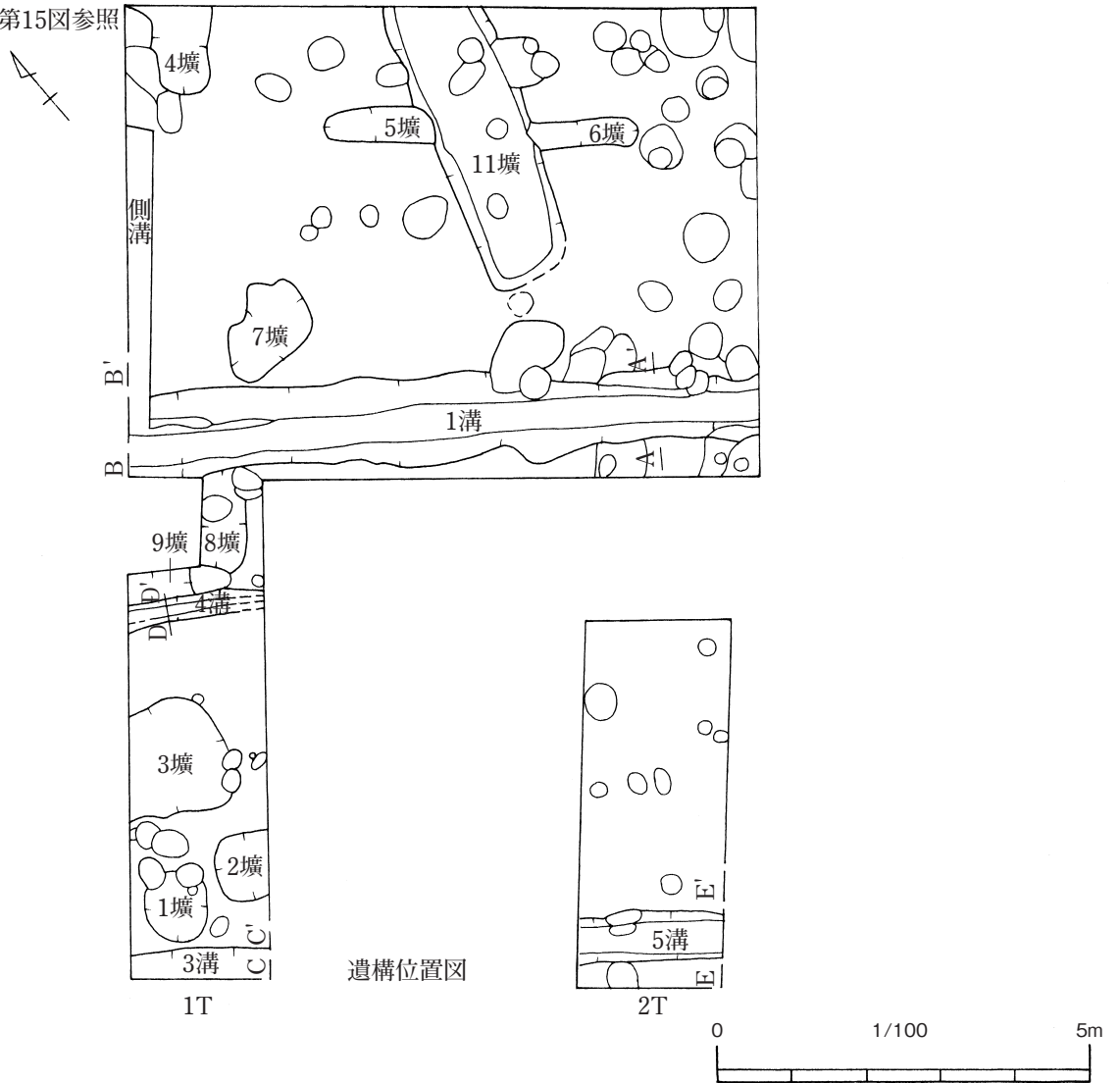
11号土壌 平面長方形で420cm(残存)×134cm 深さ18cm。
素焼片口鉢(土-175)・砥石(石-30)が出土した。

【住居跡】 調査区から1トレンチにわたり1軒検出された。調査区及び排土置場の関係で主に住居跡北半分の調査であった。

1号住居跡 平面方形で覆土は主に黒色土及び茶褐色・暗褐色土である。規模は738cm×740cmで、深さ45cmである。柱穴は北側に2基のみ検出した。竈は西端に、貯蔵穴は竈の北側に1基設けられている。貯蔵穴は側溝に掘削され全形は不明である。壁際に周溝が巡るが竈付近は確認できなかった。柱穴間等に深さ5cm程度の溝が掘られ、いわゆる仕切溝といわれるものである。

竈は後世に攪乱されており、左袖は不明瞭、右袖は削平され補強材の甕は欠損していた。しかし竈内部の支脚は遺存しており、甕の底部(他-52)を使用していた。竈周辺から土師器鉢(他-49)、土師

周辺の調査は第15図参照

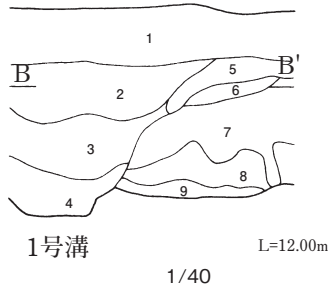
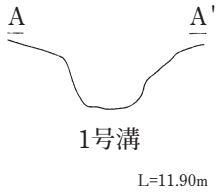


第19図 騎武51次遺構位置図

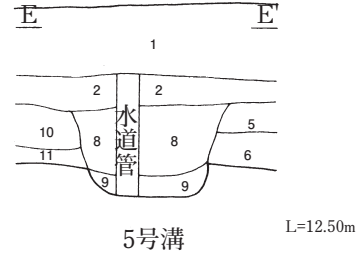
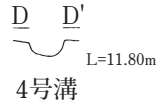
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	1住→○	直線	ほぼ直上	幅124	☆82	暗灰褐色/含LR・LB・C▲ 他 最上層にロームの2次堆積	在地掃鉢/かわらけ/焙烙/粉挽白(上白)/茶白(下白)/磨石	16c 中～	
2号溝	—	—	—	—	—	—			11壙へ振替
3号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅(48)	☆42	灰褐色/含Fe△・LR・LB▲			5溝とつながる
4号溝	8壙	直線	ほぼ直上	幅28	☆46	暗灰褐色/含LR・LB・C▲	中国(染付皿)/在地(掃鉢・火鉢)	16c 後～	
5号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅☆88	☆50	灰褐色/含LR・LB・C▲ 他	かわらけ	15c 中? ～	3溝とつながる
1号土壙	なし	楕円形	直上	96×80	15	灰褐色/含LR・LB・Fe◎			
2号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	86×(70)	☆25	暗灰褐色/含LB△・LR▲			
3号土壙	1壙	長方形?	ゆるやか	148×(130)	☆42	灰褐色/含LR・LB・C▲	かわらけ/焙烙	15c 中～	
4号土壙	なし	方形?	ゆるやか	(110)×(108)	☆30	暗灰褐色/含LR・LB◎			
5号土壙	○→11壙	隅丸長方形	ゆるやか	(150)×47	12	暗灰褐色/含LR・LB▲			
6号土壙	○→11壙	隅丸長方形	ゆるやか	(147)×34	6	暗灰褐色/含LR・LB▲			
7号土壙	なし	長方形	ゆるやか	130×108	☆22	黒色土	銭貨		
8号土壙	1・4溝	隅丸長方形	ほぼ直上	(160)×54	16	不明			
9号土壙	4溝	長方形?	ほぼ直上	(77)×(43)	9	不明			
10号土壙	欠番								
11号土壙	5・6壙	長方形	ほぼ直上	(420)×134	18	暗灰褐色/含LR△・LB▲	在地片口鉢/砥石		旧2号溝
1号住居跡	○→1溝	方形	ほぼ直上	738×740	☆45	黒色/含LR・LB▲ 他	磨石/土師器(大型鉢・甕)		

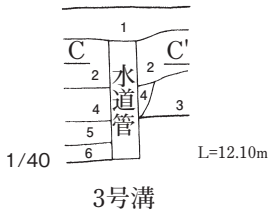
第5表 騎武51次遺構一覧表



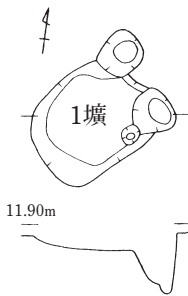
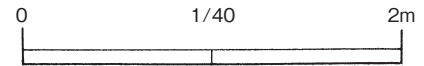
- 1 溝セクション
 1 表土
 2 黄褐色/LR、LB◎、C▲ 締良
 3 灰褐色/FE◎、LR、LB、C、黒色土▲ 締良 やや粘有
 4 灰色/FE、黒色土◎、LR、LB△、締良 やや粘有
 5 暗灰褐色/LR、LB、T、C▲ 締良
 6 暗灰褐色/黒色土◎、LR、LB、赤色R、C▲ 締良
 7 黒色/FE▲ 締良
 8 暗褐色/灰色粘性土△ LR LB▲ 締良
 9 灰色粘性土層 上層粘性土 下層FE◎ 締良



- 5 溝セクション
 1 表土 T◎ 締良
 2 暗灰褐色/T◎、LRLB▲ 締良
 5 暗灰褐色/T△、LRLB、C、灰色粘土▲ 締良
 6 暗灰褐色/LR△、LB、C▲
 8 灰褐色/LR、LB、C▲ 締良
 9 灰色/FE△、LR、LB、C▲ 締良 粘強
 10 暗灰褐色/T◎、LR、LB、C▲ 締良
 11 暗灰褐色/LR△、LB▲ 締良

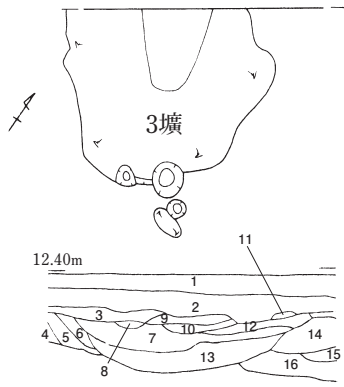


- 3 溝セクション
 1 表土 (耕作土)
 2 暗灰褐色/T▲、LR、LB▲ 締良
 3 暗灰褐色/LR、LB▲ 締良
 4 暗灰褐色 (3層よりやや暗) /LR、LB▲ 締良
 5 暗灰褐色/LR、LB△ 締良
 6 灰褐色/FE△、LR、LB▲ 締良 やや粘有

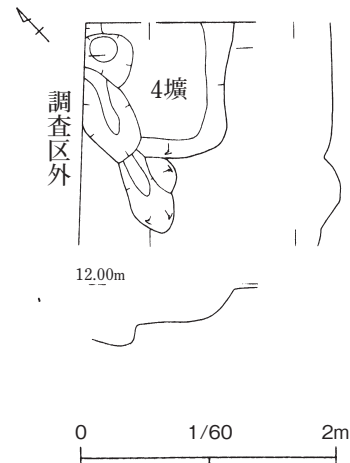


- 土層説明凡例
 色調/含有物
 テフラ=T 非常に多い=☆
 ローム=L 多量=◎
 炭化物=C 少量=△
 焼土=S 微量=▲
 酸化鉄=FE 万遍なく=万
 黒色=B やや暗い=やや暗
 褐色=Br 非常にやわらかい=軟度高
 やわらかい=軟質
 やややわらかい=軟度低
 粒子=R かたい=堅緻
 ブロック=B 締まり良し=締良
 締まり悪し=締悪
 粘性強し=粘強
 粘性有り=粘有

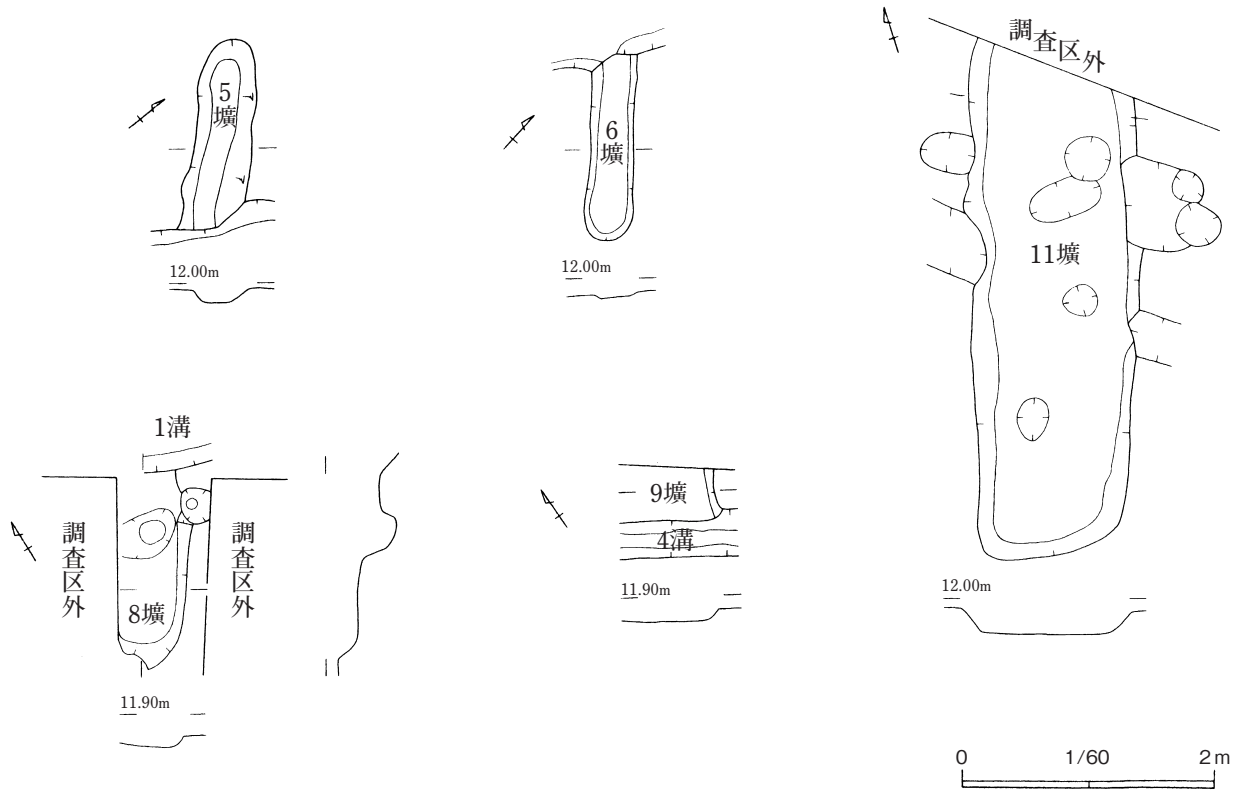
調査区外



- 3 墳セクション
 1 表土 締良
 2 暗灰褐色/T◎、LR、LB◎、赤色R▲ 締良
 3 暗灰褐色/T、C、赤色R、LR、LB、灰土▲ 締良
 4 暗灰褐色(やや暗)/C△、赤色R▲ 締良
 5 暗灰褐色(やや暗)/LR、LB、C▲ 締良
 6 暗灰褐色/C△、LR、LB、赤色R▲ 締良
 7 灰褐色/LR、LB、C▲ 締良
 8 灰褐色/灰土◎、C△ 締良
 9 黄褐色/LR、LB△、C、灰土▲ 締良
 10 灰褐色/灰土◎、C△ 締良
 11 灰褐色/灰土◎、C△ 締良
 12 暗灰褐色/LRLB、C▲ 締良
 13 灰褐色/C◎(上層より暗) LR△、LB▲ 締良
 14 暗灰褐色/LR◎、LB、C、灰土▲ 締良
 15 暗灰褐色/LR、LB▲ 締良
 16 灰色/LR、LB▲ 締良



第20図 騎武51次遺構1



第21図 騎武51次遺構2



実測風景



調査風景

器甕（他-50~52）が出土した。

【遺構外出土遺物】

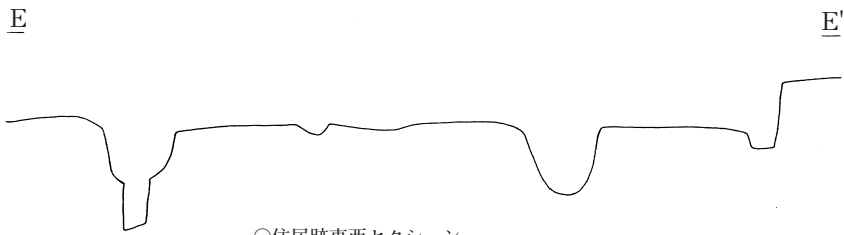
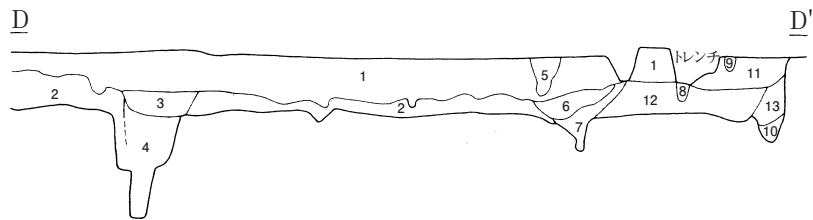
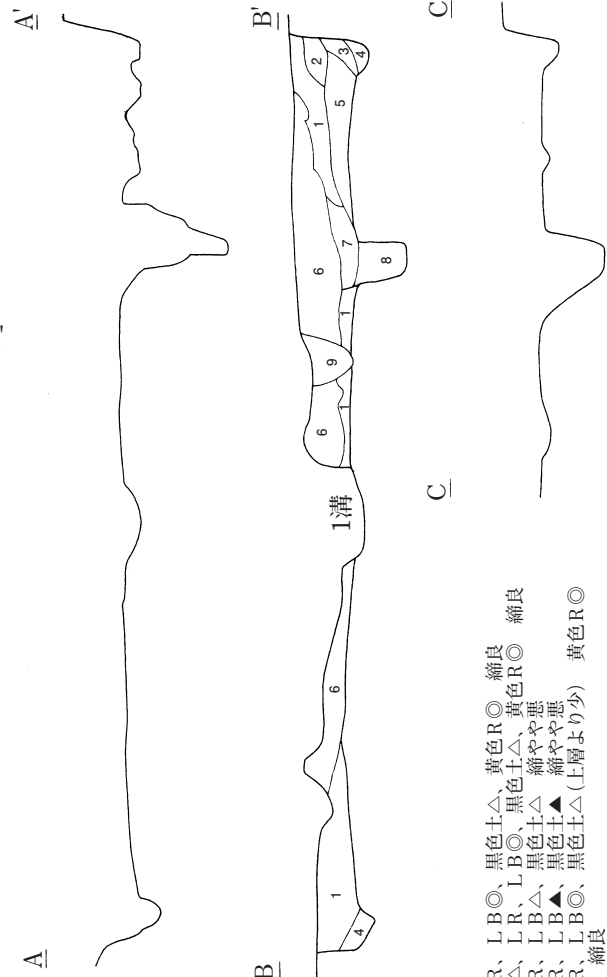
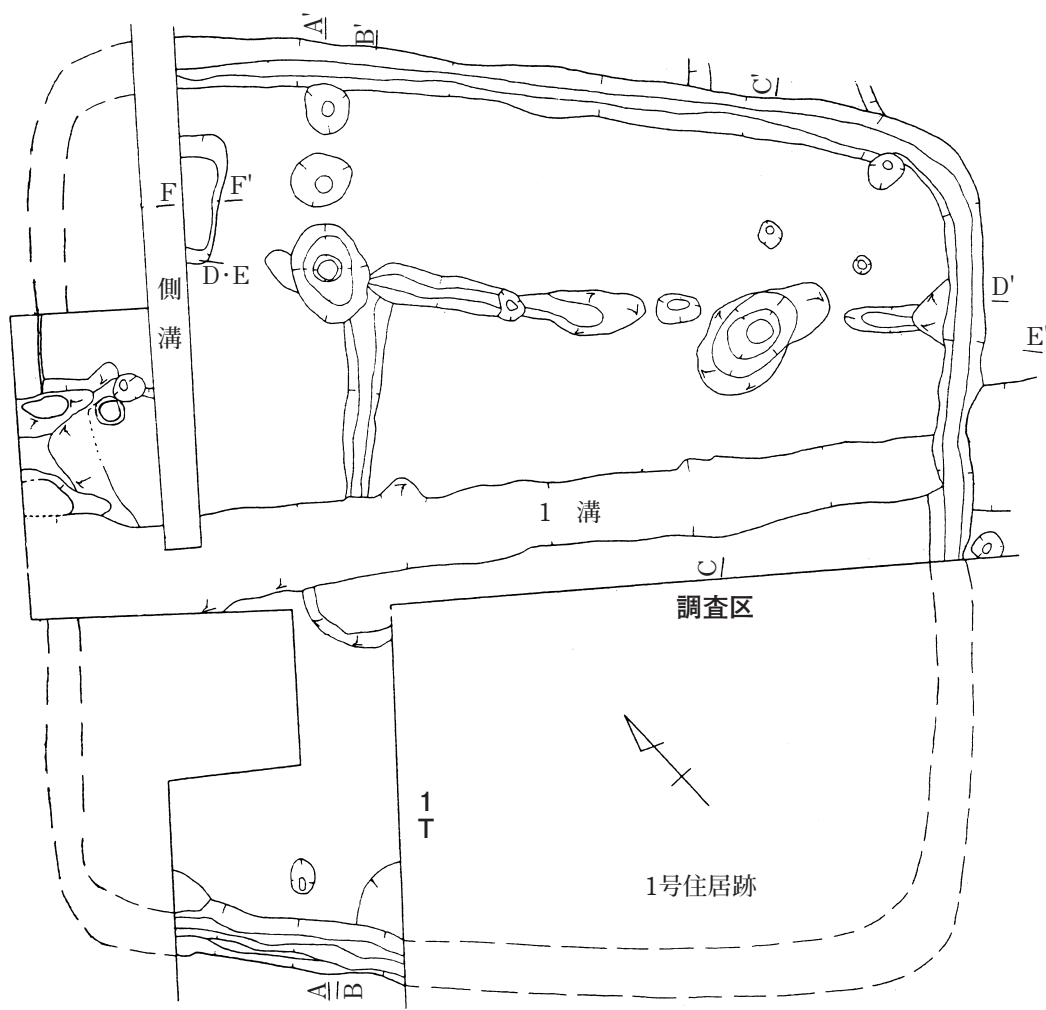
陶磁器では、瀬戸美濃天目茶碗（土-176）・同縁釉小皿（土-177・178）・同端反皿（土-179・180）・同丸皿（土-181・182）・同志野丸皿（土-183）・備前徳利（土-184）が出土した。在地土器では、かわらけ（土-185~187）・焙烙（土-188~191）・

片口鉢（土-192）が出土した。

金属製品では、小柄の刀身（金-21）・ピン（金-34）・笄金物？（金-38）が出土した。

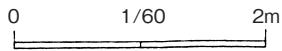
石製品では、粉挽臼（石-6）、砥石（石-31）・板碑（石-108）・五輪塔（石-118）が、1Tでは骨が出土した。

縄文時代中・後期の土器（他-13~18）、礫斧（他-41）・敲石（他-43）が出土した。



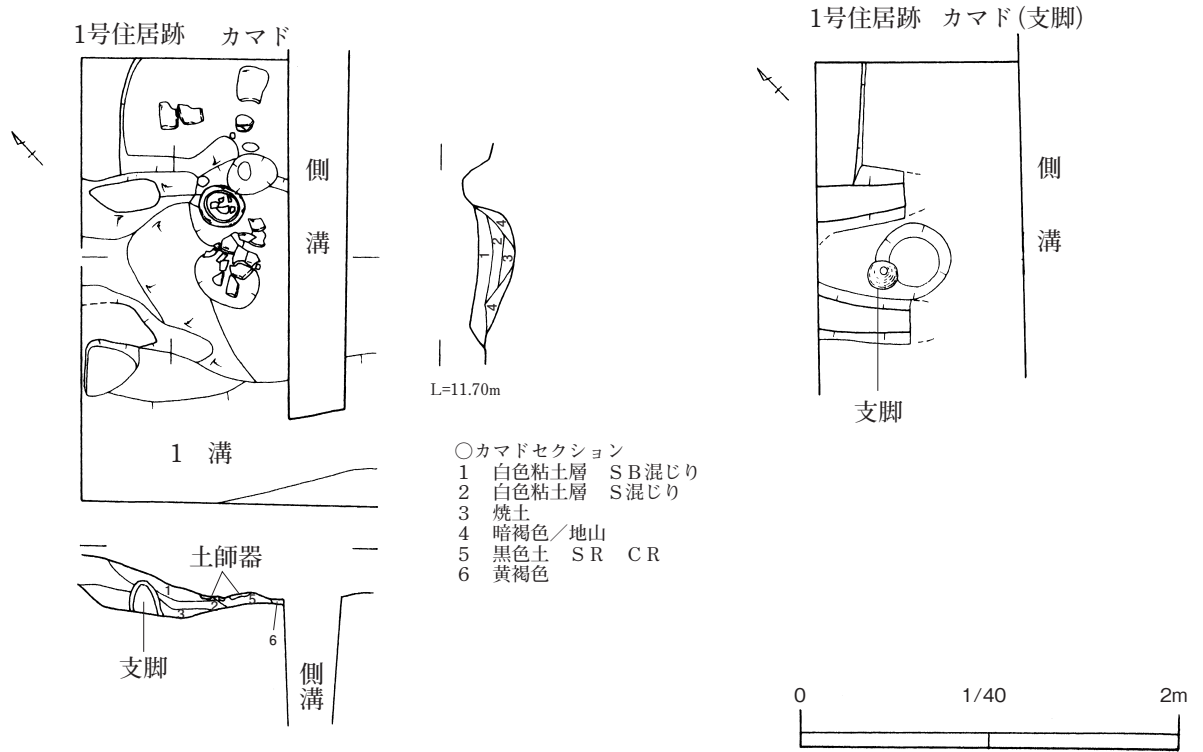
- 住居跡東西セクション
- 1 黒色/LR、LB▲、黄色R▲ 縮良
 - 2 茶褐色/LR、LB○、黒色土△、黄色R○ 縮良
 - 3 黒色/LR、LB▲(上層より多) 黄色R▲ 縮良
 - 4 濃暗褐色/LR、LB▲(やや砂質) 縮やや悪
 - 5 灰黒褐色/黒色土、C、T、LR、LB、赤色R▲ 縮良
 - 6 黒褐色/LR○、黄色R○ 縮良
 - 7 黄褐色/LR○、FE、LB▲ 縮良
 - 8 茶褐色/黒色土、T、LR、LB▲ 縮良
 - 9 暗灰褐色/LR△、LB▲、黒色土▲ 縮良
 - 10 黄褐色/LR、LB▲ 縮良
 - 11 黄褐色/LR○ 縮良
 - 12 黄褐色/LR○ 縮良
 - 13 黄褐色/LR△、LB▲ 縮良
- ※11層と12層の境に焼土層あり

- 住居跡南北セクション
- 1 暗褐色(茶褐色)/LR、LB▲、黄色R▲ 縮良
 - 2 暗褐色(茶褐色)/LR、LB○、黒色土△、黄色R○ 縮良
 - 3 暗褐色(茶褐色)/LR、LB▲、黒色土▲ 縮やや悪
 - 4 暗褐色(茶褐色)/LR、LB○、黒色土▲(上層より少) 黄色R○
 - 5 暗褐色(茶褐色)/LR、LB○、黒色土▲(上層より多) 黄色R▲ 縮良
 - 6 濃暗褐色/LR、LB▲(やや砂質) 縮良
 - 7 濃暗褐色/LR、LB▲(やや砂質) 縮良
 - 8 濃暗褐色/LR、LB▲(やや砂質) 縮良
 - 9 灰黒褐色/黒色土○、LR、LB△ 縮良



調査風景

第22図 騎武51次遺構3



第23図 騎武51次遺構 4



調査風景



1住覆土堆積状況 D-D' 南



同上 北

第7節 騎西城跡第3次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

昭和62年1月29日、開発者坂庭悦太郎氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字道上332における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

(調査協力員)

梓沢ユキ子 五十嵐米太郎 小川征子 荻野知子
小久保衛 斉藤年治 坂庭三郎 坂巻茂
須永春雄 染谷喜美江 方波見良子 松村一枝
山口保雄 吉野武一 若林美知子

(文化庁通知) 62委保記第2-1382号

昭和62年6月2日

(調査期間) 昭和62年2月9日～3月24日

(調査面積) 210m²

(調査の経過)

東側の建設予定地に15×10mの調査区を設定し、また開発地が1,250m²と広いとため西側の南端と北端に東西方向にトレンチ(第1・2トレンチ)を設定し、並行して調査を行った。表土から人力により掘り下げた。

表土下40～50cm程で落込が確認できたので検出状況を平面図化した。その後両トレンチ中間にもトレンチを設け(第3トレンチ)、遺構を確認した。第1・2トレンチの西端で外堀と思われる落込を確認した。下層では泥炭層が堆積していた。

調査区では確認面がわかりにくいためトレンチを設定し探りながら掘り下げた。また調査区全体に広がる落込(1号堀)の立ち上がりを確認するため東端を拡張した。陶磁器・かわらけ・武器武具類などが多量に出土するが包含層および落込(1号堀)からの出土である。落込(1号堀)の土層堆積状況を

確認するため十字にベルトを設定し調査した。

全体は平板測量により、遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

(周辺の調査)

南西にKB15・19区、騎5・6・8・9次が所在する。KB15・19区では曲輪を囲む障子堀が検出された。騎5・6次は仮称六の丸で3次と同じ曲輪内と思われる。

(2) 遺構と遺物

【溝】 1・2号トレンチ東端で検出した。

1号溝 調査時落込が確認されたため命名したが、両者の断面形態が異なるため違う遺構とするのが適当で、1号トレンチのものを1号溝とする。平面図6～14層、断面図17～32・34層が相当するものか。かわらけ(土-193・194)が出土した。

【土壇】 1基1堀覆土を確認面として南端で検出した。

1号土壇 平面柄鏡形で、214cm×158cm 深さ30cm。炭化物出土。

【堀】 調査区ほぼ全面に広がる。落込と命名し調査したが規模や大量の遺物が出土したことから堀とする。

1号堀 西側が開口し、拡張部で東端となる。立ち上がりは緩やかで深さ30cm前後。東西10.70m・南北14.20mでいずれも調査区外に広がる。覆土は、青灰褐色・灰色土で、底面の地山は黒褐色土である。

遺物は上位面では周縁に多く下層に至ると堀中央(調査区西端)にまとまる傾向がある。層位的に遺物を取り上げたが明確に傾向を確認することができなかった。在地土器の平面分布をみると、かわらけについて中央北西寄りにやや浅い底径が大きいものが集中する。金属製品については武器武具・生活用具・生業に関するものが全面に出土しているが、平面分布的には混在している。

【1号堀周辺出土遺物】

分布状況を見るとほぼ堀の範囲に収まるのでほとんどが堀内の出土と思われる。だが層位的に確認で

きていないので堀周辺出土の遺物として扱うこととする。

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗（土-195）・同安窯系青磁碗（土-196）・同青磁皿（土-197）・中国白磁皿（土-198・199）・同染付碗（土-200）・同染付端反皿（土-201）・同染付皿（土-203・204）・同染付小坏（土-206）・瀬戸美濃緑釉小皿（土-208）略完形・同端反皿（土-209）・同丸皿（土-210～213）・同播鉢（土-214・215）が出土した。

在地土器では、残存3/4以上の小碗（土-216）・かわらけ（土-220～222・224～239・241～253・255～268・270～285・287～292）・焙烙（土-293～300）・播鉢（土-301～306）が出土した。かわらけは、220・224・266・283が完形、225・229・235・241・259・274・280が略完形、230・232・233・253・261・264・268が3/4以上の残存である。焙烙は70・293が略完形である。

金属製品では、毛抜き（金-2）・火打金（金-4～7）・釘（金-9）・鋸状製品（金-11）・把手状製品（金-12）・紡錘車（金-14）・小刀（金-16）・刀子（金-17）・刀子状製品（金-18）・鋏（金-19）・小札（金-20）・小柄の刀身（金-22）・槍（金

-23）・鉄鎌（金-24～27）・鉄鎌状製品（金-28）・環状製品（金-30・31）・柄状製品（金-32）・縁（金-36）・笄金物（金-37）・小柄の柄（金-42）がある。多数の銭貨も出土した。

石製品では粉挽臼・茶臼（石-7～12）・碁石（石-19～22）、硯（石-24）・大量の砥石（32～43）・磨石（石-54～61）・火打石（石-98）、板碑片（石-111～114）が出土した。

【トレンチ出土遺物】

○1T

中国染付皿（土-202・205）、瀬戸美濃緑釉小皿（土-207）、かわらけ（土-218・219・240・254）、火打金（金-8）、鎌？（金-13）が出土した。

○2T

かわらけ（土-217）が出土した。

○3T

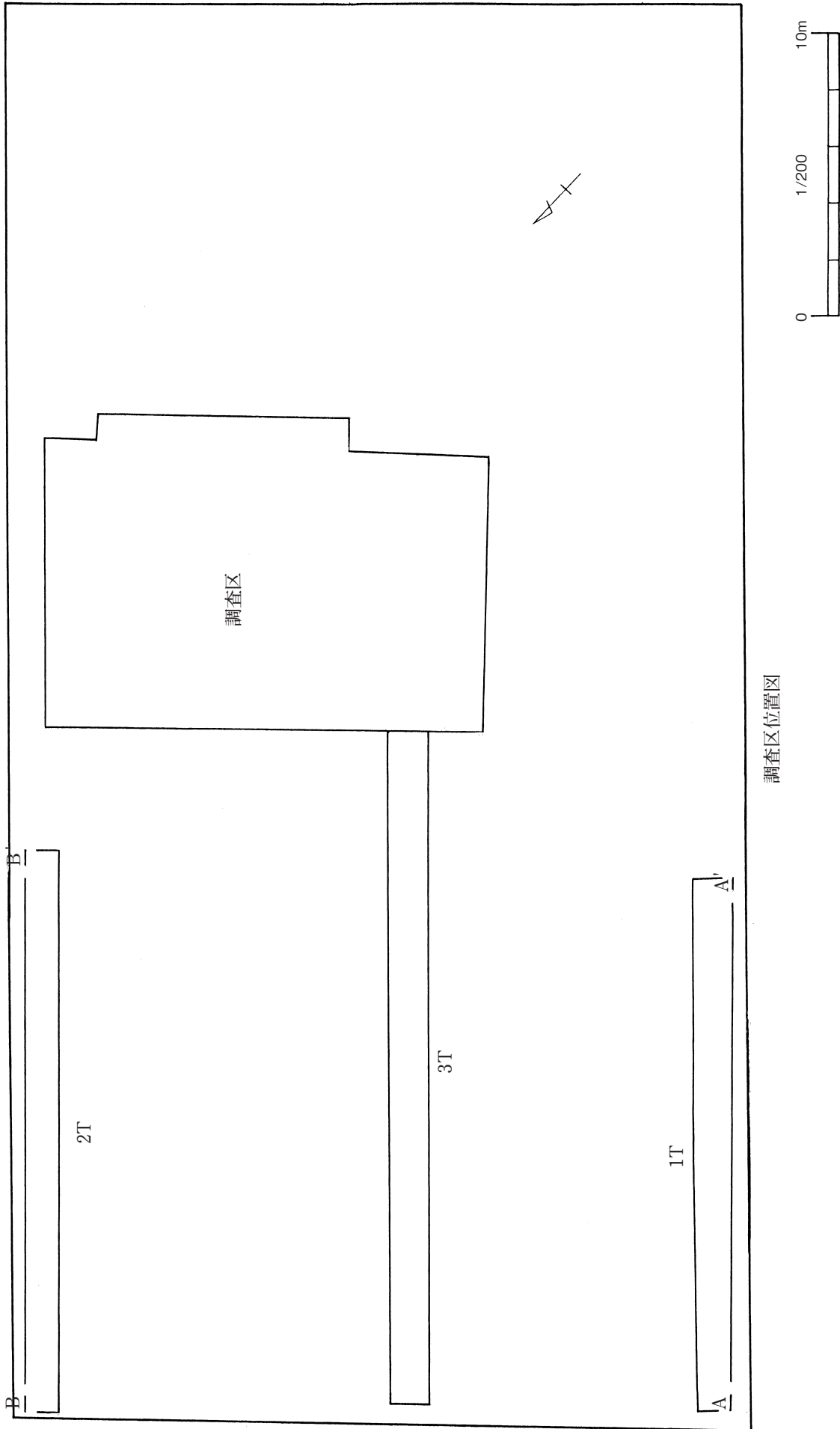
かわらけ（土-193・194・223・269・286）、把手（金-35）が出土した。269は3/4以上の残存である。北側及び東側の焼土範囲から焼けた骨が出土した。

一括遺物としてはスラグが90.7g、縄文時代の石鎌（他-38・39）、磨石（他-44・45）が出土した。

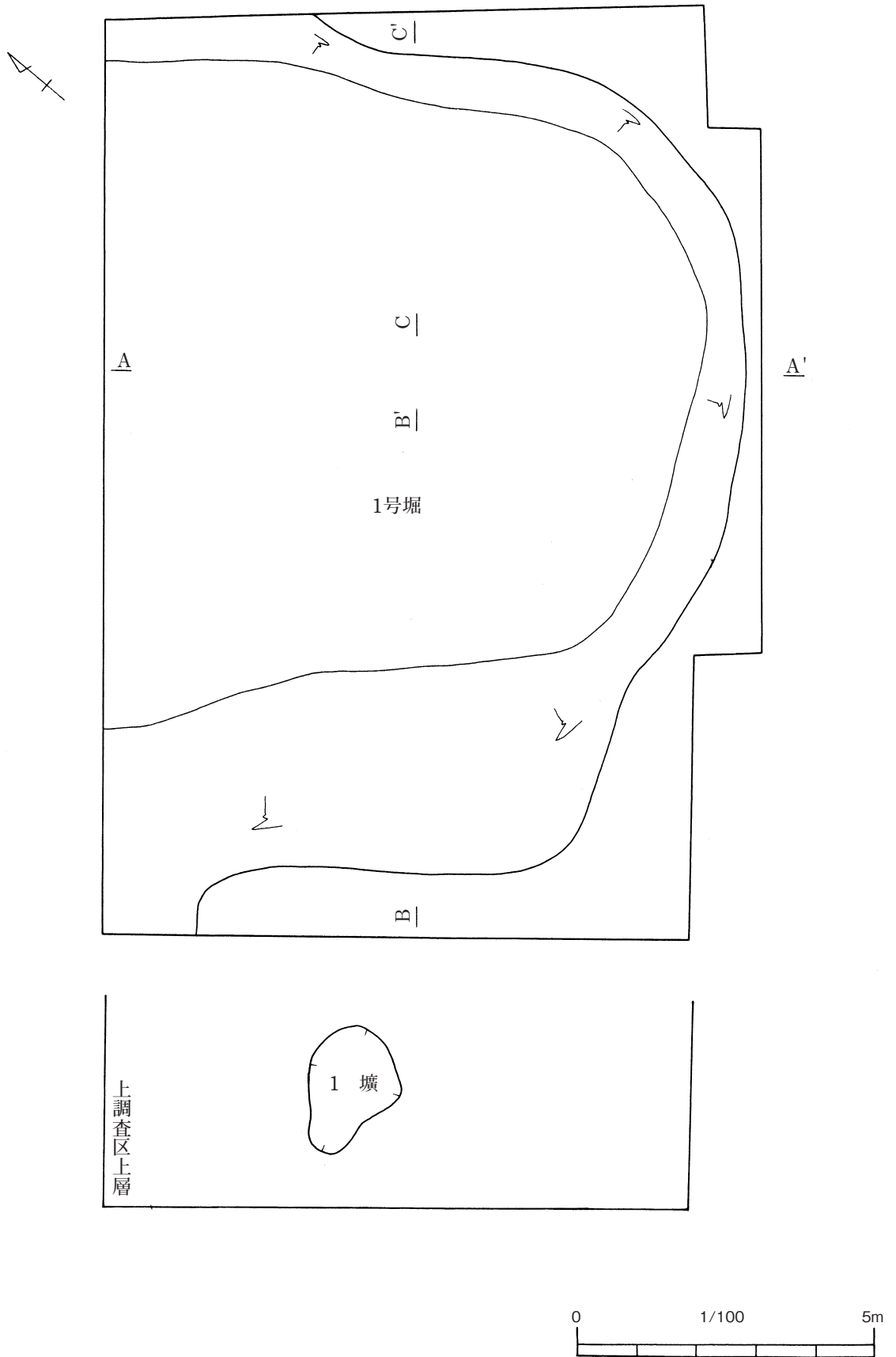
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	不明	不明	不明	不明	不明	不明	かわらけ/板碑	16c 中～	
1号土壇	落込→○	柄鏡形	ほぼ直上	214×158	☆30	暗灰褐色/含T◎・SR△・CR△			
1号掘	○→1 壇	不整形	不明	1420×1070	34	灰色		16c	

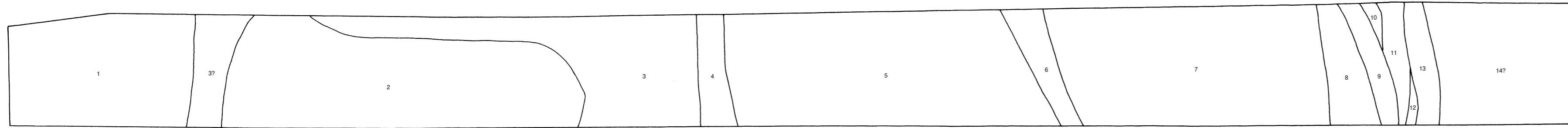
第6表 騎3次遺構一覧表



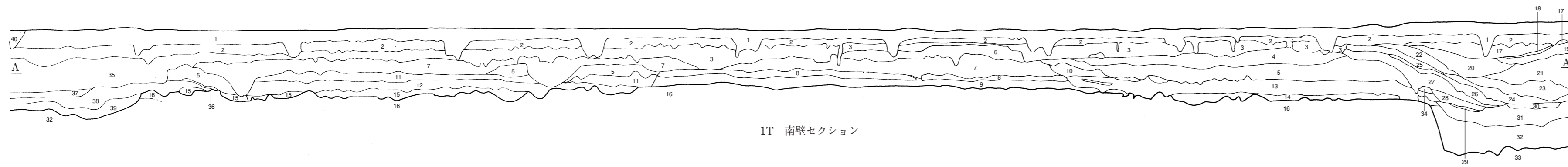
第24図 騎3次調査区・トレンチ設定図



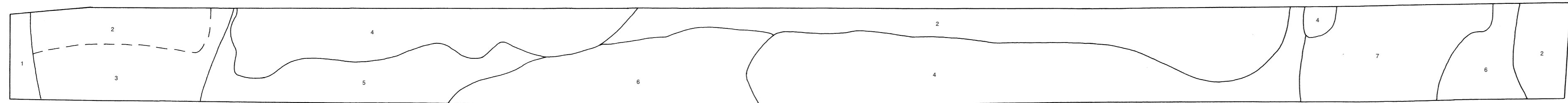
第25図 騎3次遺構位置図



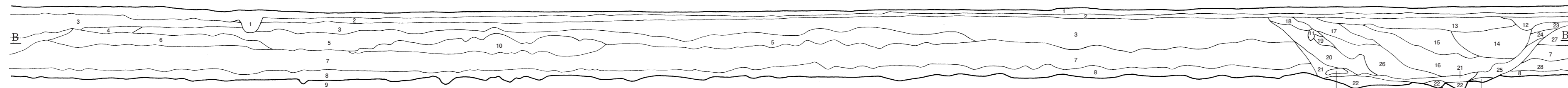
1T 確認面平面図



1T 南壁セクション



2T 確認面平面図



2T 北壁セクション

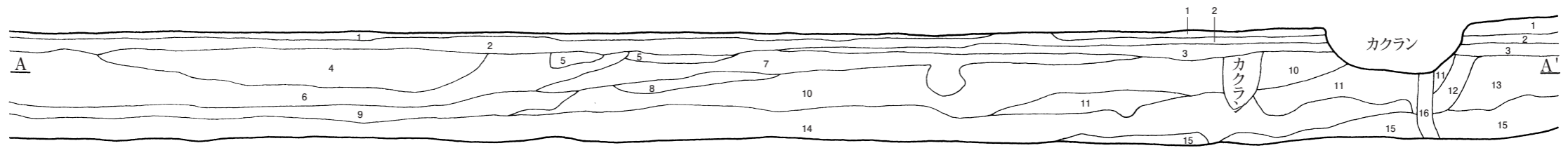
第26図 騎3次遺構1

- 1T 確認面遺構覆土
- 1 暗灰褐色/C・LR・BrR・FER 締悪 やや粘有 →外堀?
 - 2 灰褐色/ FER・酸化物 締良 粘強 地山?
 - 3 灰褐色/BBB・灰粘土B○、酸化物・酸化物R 締やや悪
 - 4 暗灰褐色/T・CR・FER 締良
 - 5 灰褐色/酸化物・FER○ 地山 締良
 - 6 灰色/S・C・酸化物・FER 締良
 - 7 灰褐色/黒色土B・BrB・酸化物・灰粘土B・S・C▲ 締良 やや粘有
 - 8 灰色/白色粘土B・酸化物 締良 粘強
 - 9 暗灰色/酸化物・C(○えか製) 締良 粘有
 - 10 黄褐色/LB二次堆積 灰粘土 締良
 - 11 灰色/酸化物R・BR 締良 粘有
 - 12 暗灰色/S・CR・LB・酸化物R 締良
 - 13 暗灰色/酸化物・C・LB 締良
 - 14 暗灰褐色/LB・BBR・酸化物・LR 締良

- 1T 土層セクション
- 1 耕作土 FE
 - 2 灰色/T、FER、黄褐色R
 - 3 灰色/C△、黄褐色R、FE○、T△ 締良
 - 4 暗灰褐色/BBB、黄褐色R、C、FER○、T 締良
 - 5 暗灰褐色/BBB、FE○、灰粘土B 締やや良 粘弱
 - 6 暗灰褐色/BBR△、C、T、黄褐色R、FE 締良
 - 7 暗灰褐色/C▲、BBR、T、灰粘土△、酸化物 締良 やや粘
 - 8 灰白色(灰白土と灰茶土が交互)/C△ 締やや良 粘強
 - 9 暗灰褐色/酸化物・C、BBR 締悪 粘有
 - 10 暗灰褐色/BBR△、T、酸化物 締良
 - 11 暗灰褐色/C▲、T、BBR、酸化物 締良
 - 12 暗灰褐色/BBR・B○ 酸化物○ 締やや良 やや粘有(上部灰白色土 粘強 堅緻)
 - 13 暗灰(褐色)色/BBR、C▲ 締やや悪 粘強
 - 14 暗灰色/BBR、C▲、酸化物△ 締悪 粘強
 - 15 暗灰色/BR・B○、酸化物△ 締悪 粘強
 - 16 黒色/酸化物△ 堅緻 粘弱
 - 17 LB○、BR、LR、黒色B、茶褐色B△ 締良
 - 18 暗灰褐色/BR、LR、黒色B△ 締良
 - 19 暗灰褐色/BR、黒色B、黄褐色R▲、FE、白色R 締良
 - 20 暗灰褐色/BR、LR、白色R、灰茶BrB、FE 締やや良
 - 21 暗灰褐色/BR、LR、黒色B、灰茶BrB、FE 締やや良
 - 22 暗灰褐色/Lに類似、BBR、T、灰粘土△、白色R、橙褐色R 締良
 - 23 暗灰褐色/BR、黒色B、L 締やや悪
 - 24 暗灰褐色/BR、C△、FE 締良
 - 25 暗灰褐色/C、灰白色B、BBB▲、FE 締良
 - 26 暗灰褐色/灰BrB○、LR・B、BR△・B、C▲、酸化物○ 締やや良
 - 27 暗灰褐色(黒色味強)/C○、LR、FE 締良
 - 28 暗灰褐色(黒色味強)/C○、酸化物 上部 締やや悪 下部 粘有 堅緻
 - 29 黒灰色/砂質 C 締やや悪
 - 30 暗灰色/C▲、FE、中心に灰茶褐色粘質層 締やや悪 粘有
 - 31 暗灰色/C、BR、黒色B、酸化物 締悪 粘有
 - 32 L層(ソフト) 砂質 締良
 - 33 L層(ハード) 堅緻 締良
 - 34 暗灰褐色(黒色味強)/BR、酸化物 締良
 - 35 灰色/C、BR、黄褐色R、茶褐色R△ 締良
 - 36 暗灰褐色/BR、黄褐色R、酸化物 締やや良 粘やや弱
 - 37 暗灰色/C▲、酸化物 締やや悪
 - 38 暗灰褐色/BR、黒色B▲、酸化物○ 締悪 粘強
 - 39 暗灰色/黒色B、BR○、酸化物○ 締悪
 - 40 灰色/C▲、黄褐色R、酸化物 締やや良

- 2T 確認面遺構覆土
- 1 暗灰褐色/LR・BBR・C・SR・灰粘土B△ 締悪 →外堀
 - 2 灰色(やや暗)/BBR・酸化物○ 締良 粘有 } 地山か
 - 3 灰色/酸化物・酸化物R○、BBR 締良 粘強
 - 4 BrB(BR・酸化物R・灰粘土)・灰BrB(LR・BR・灰粘土) 灰粘土 締良
 - 5 灰褐色(灰粘土味強)/酸化物○・粘土B・BBB・黒色土B 締良
 - 6 灰褐色/黒色土B○・灰粘土B・BrB 締良
 - 7 灰褐色/黒色土B(灰)・灰粘土B・黄褐色B(L)・SR・CR 締良

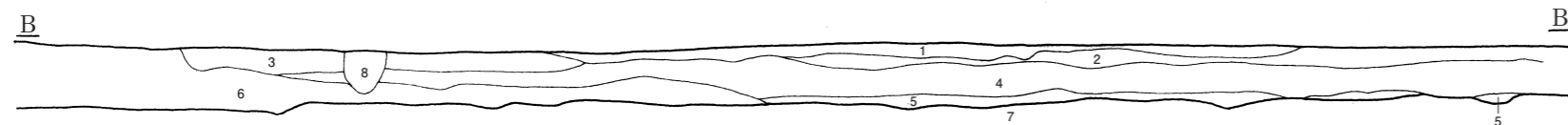
- 2T 土層セクション
- 1 表土 耕作土
 - 2 暗灰褐色/T、FE、L、CR、CB 締良
 - 3 暗灰褐色/T○、FE、LR、CR▲、C B▲、S▲ 締良
 - 4 暗灰褐色(褐色味帯びる)/T、LR▲、S、FE、CR 締良
 - 5 暗褐色/FE・LR、CBR・CR・T・S、BBR○ 締良
 - 6 灰褐色/T▲(砂粒)・CR、FE・L・BBR 締良
 - 7 青灰色(褐色味帯びる)/酸化物○、FER、LR▲・CB・T(砂粒)
 - 8 灰色/酸化物○、FER、CR▲ 粘有
 - 9 黒色/酸化物
 - 10 BBR☆、S、T、C・L・FER 締良
 - 11 杭(木製)
 - 12 暗灰褐色(褐色味強)/Br・灰白色B、BB・C、灰白色R 締良
 - 13 暗灰褐色/灰白色・Br・BBB○、C・FE・S・LR 締やや悪
 - 14 暗灰褐色/B・灰褐色・暗灰褐色○ 締悪
 - 15 暗灰褐色/灰白色・灰Br・灰白色 B・Br・FER○、S・CR△ 締良
 - 16 暗灰褐色/L(ソフト)、灰BrB○、L・C・B・灰白色R・酸化物(灰) 締良
 - 17 暗灰褐色/L、B、灰白色R・C・SR▲ 締良
 - 18 暗灰褐色(褐色味強)/LB・LBr○、C・SR▲ 締良
 - 19 暗灰褐色/L、BB、BrR、CR△、FER 締良
 - 20 L(ソフト)の二次堆積
 - 21 灰色(やや暗)/酸化物・FER○、C▲ 粘強
 - 22 灰色(やや暗)/酸化物・BR・黒色B・FER○ 粘強
 - 23 暗灰褐色/C○、SR・BrR・FER、骨・灰白色R 締良
 - 24 暗灰褐色(灰粘土味強)/FER・L・CR▲ 締良
 - 25 青灰色/酸化物・FER○、B・灰色R 締良
 - 26 灰褐色/灰白色・BB・LB・L・FER、C・SR○、酸化物 締良
 - 27 暗灰褐色(灰粘土味強)/FE・白色R○ 締良
 - 28 青灰色(やや暗)/酸化物・FER○



東西セクション

L=11.60m

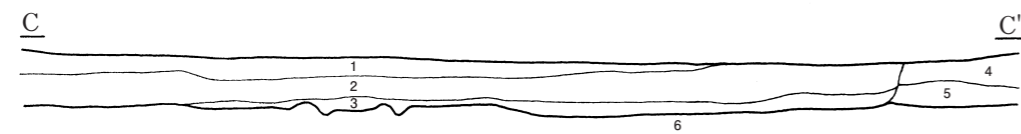
- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色(表土)/T◎、FER、BBR 堅緻
- 3 暗褐色(灰色味帯びる)/T◎・FER、CR、BBR、CR△ 堅緻
- 4 暗灰褐色/灰褐色B◎、LR、T、BBR、SR、CR、FER、灰白色R、酸化物 縮良
- 5 L層/ブラックバンドの2次堆積 S・C・FER、T 縮良
- 6 暗灰褐色/灰白色B、白色粘土・BB・L・FER、CR▲ 縮良
- 7 褐色/L◎・S・CR、LB、FER、T◎ 縮良
- 8 褐色/T▲、L・S・CR、LB、FER 縮良
- 9 暗灰褐色/C◎、FE・L・SR やや粘有
- 10 暗灰褐色/酸化物、T、S・CR、C 縮良
- 11 褐色/T・FE・黒色土・CR、骨、C、S 縮良
- 12 青灰褐色/酸化物、FER 縮良
- 13 青灰褐色/FER◎、BBR▲
- 14 青灰褐色/酸化物◎、C、SR△ 粘有
- 15 黒褐色/酸化物 縮良
- 16 青灰褐色/酸化物・FER◎、白色粘土B、白色と灰色互層の粘質土 粘有



南北セクション (南)

L=11.50m

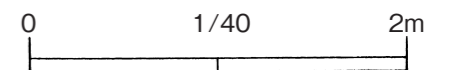
- 1 暗灰褐色/C◎、FE・L・SR やや粘有
- 2 暗灰褐色/酸化物、T、S、CR、C 縮良
- 3 暗灰褐色/酸化物、FER△、BBR 縮良
- 4 青灰褐色/酸化物◎、C、SR△ 粘有
- 5 灰色/酸化物、白色粘土B、FER
- 6 青灰褐色/酸化物・FER◎、白色粘土B、白色と灰色互層の粘質土 粘有
- 7 黒褐色/酸化物 縮良
- 8 暗灰褐色/灰褐色B◎、LR、T、BBR、SR、CR、FER、灰白色R、酸化物 縮良

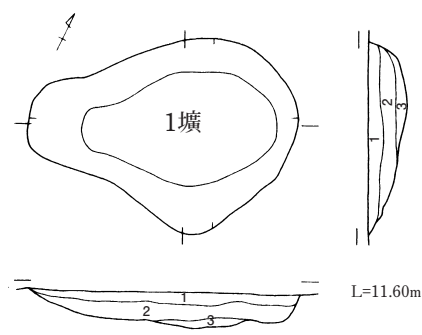


南北セクション (北)

L=11.50m

- 1 暗灰褐色/C◎、FE・L・SR やや粘有
- 2 青灰褐色/酸化物◎、C、SR△ 粘有
- 3 灰色/酸化物、白色粘土B、FER 縮良
- 4 暗灰褐色(1層より灰色味強)/酸化物、T、BBR 縮良
- 5 青灰褐色/酸化物・FER◎、白色粘土B、白色と灰色互層の粘質土 粘有
- 6 黒褐色/酸化物 縮良

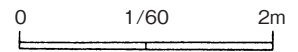




- 1 壙セクション
 1 暗灰褐色 / T◎、SR、CR△ ポロポロ
 2 暗灰褐色 / T、SR、CR▲ 縮良
 3 灰褐色 / FER

土層説明凡例

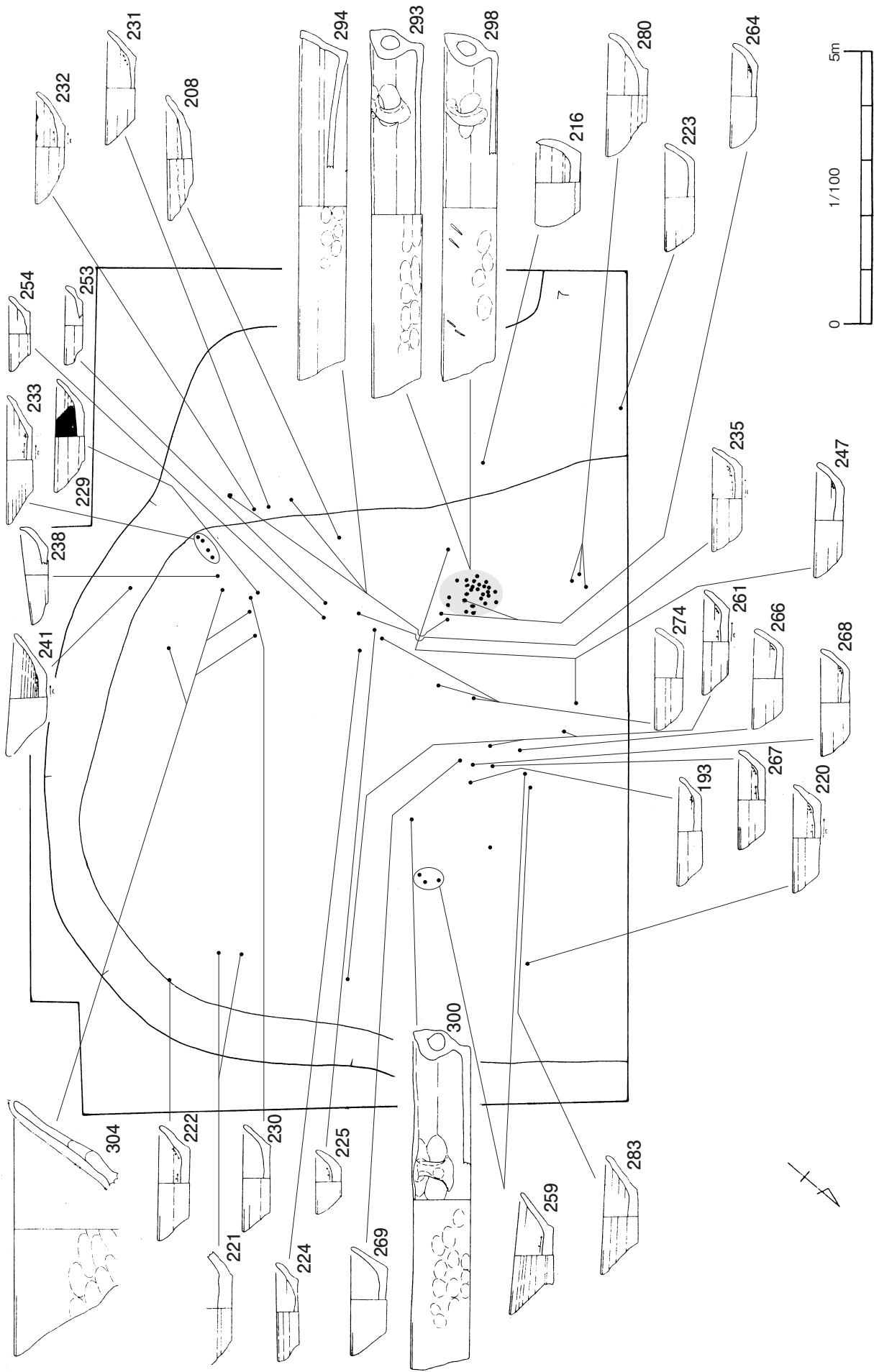
色調 / 含有物		
テフラ = T	非常に多い = ☆	
ローム = L	多量 = ◎	
炭化物 = C	少量 = △	
焼土 = S	微量 = ▲	
酸化鉄 = F E	万遍なく = 万	
黒色 = B	やや暗い = やや暗	
褐色 = B r	非常にやわらかい = 軟度高	
	やわらかい = 軟質	
	やややわらかい = 軟度低	
粒子 = R	かたい = 堅緻	
ブロック = B	縮まり良し = 縮良	
	縮まり悪し = 縮悪	
	粘性強し = 粘強	
	粘性有り = 粘有	



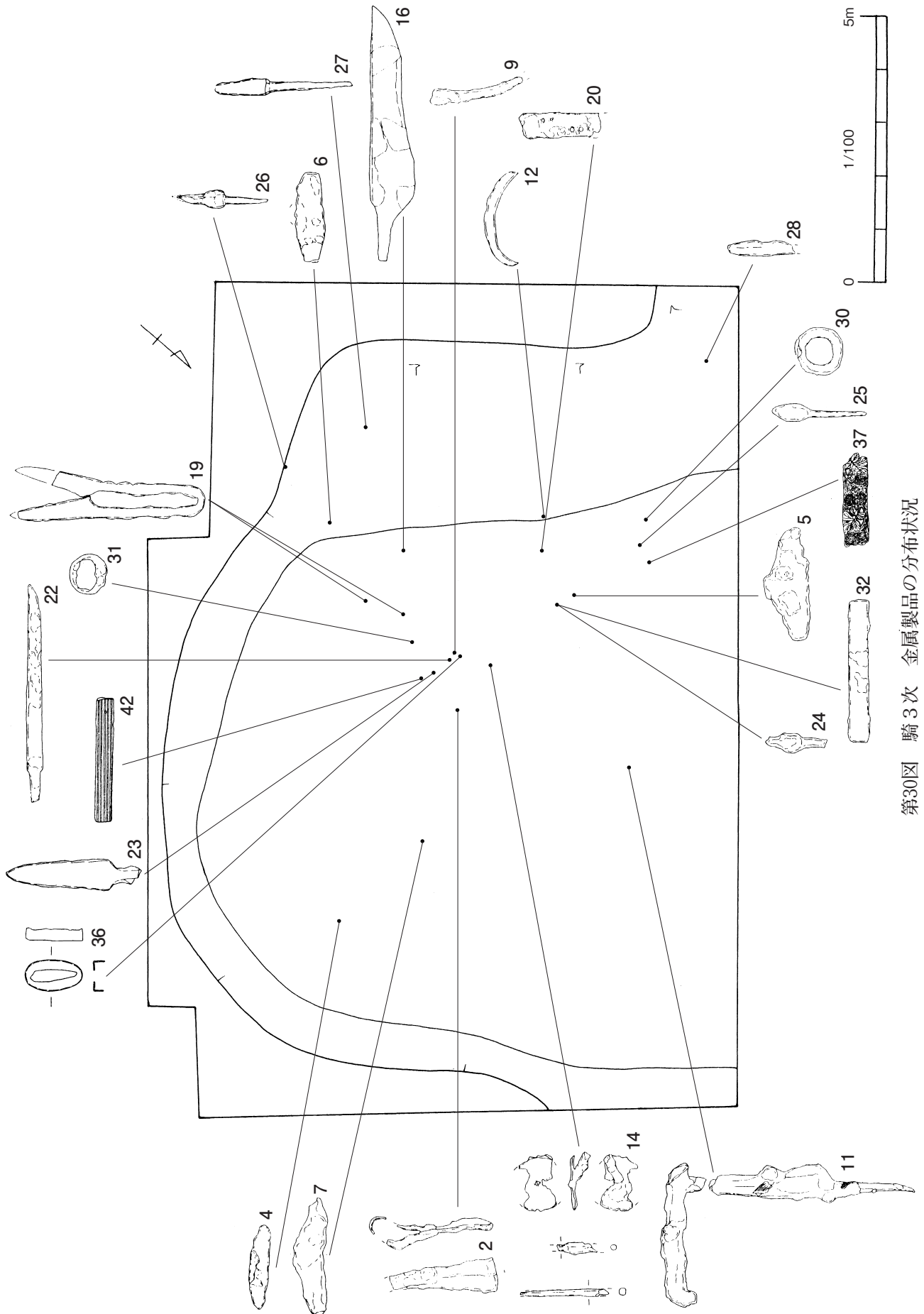
第28図 騎3次遺構3



1号土壙 完掘



第29図 騎3次 在土器の分布状況



第30図 騎3次 金属製品の分布状況

第8節 騎西城跡第12次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

平成10年9月24日、開発者川崎年男氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋635-15における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成11年2月24日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

(調査協力員)

新井富子 五十嵐米太郎 栗原まさ子

佐藤ヨシ 関口のぶ 土屋トヨ

(市町村報告) 11騎教社発第326号

平成11年4月6日

(調査期間) 平成11年3月8日～26日

(調査面積) 36m²

(調査の経過)

建設予定地に9m×4mの調査区を設定し重機により掘り下げた。ローム面を確認面として溝・井戸・土壇の調査を行った。遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

(周辺の調査)

東にKB15区、西にKB19区・騎10次、北に騎9次、が所在する。15・19区では本調査区を含む仮称5の丸を囲む障子堀が確認されている。特に15区では炭化米が層状に出土し以下で兜・薙鎌・袋入り銭貨・鉄鍋などいくさ及び戦後処理に伴う遺物が多数出土している。

また、騎9次では旧石器時代の荒屋型彫刻器が出土している。

(2) 遺構と遺物

【溝】 調査区東寄りに1条、北西隅に1条確認された。

1号溝 幅50cm 深さ5cmを計る。東西に走行する。

2号溝 幅62cm(残存) 深さ24cmを計る。

【井戸状遺構】 3基が中央から東側で確認された。

1号井戸 直径100cm×62cm(残存) 深さ95cmを計る。

犬釘様製品(金-10)が出土した。

2号井戸 直径90cm×106cm 深さ106cmを計る。

かわらけ(土-307)・土鍋(土-308)が出土した。

3号井戸 直径50cm(残存)×80cm(残存) 深さ52cmを計る。

【土壇】 2基検出された。

1号土壇 平面長方形か。118cm(残存)×60cm(残存)を計る。深さは83cm(残存)と深く湧水する。溝の可能性はある。

2号土壇 調査時は14Pとしたが土壇である。平面楕円形。102×70cm 深さ12cmである。南東隅で銭貨6枚、東端で骨が出土した。墓壇。

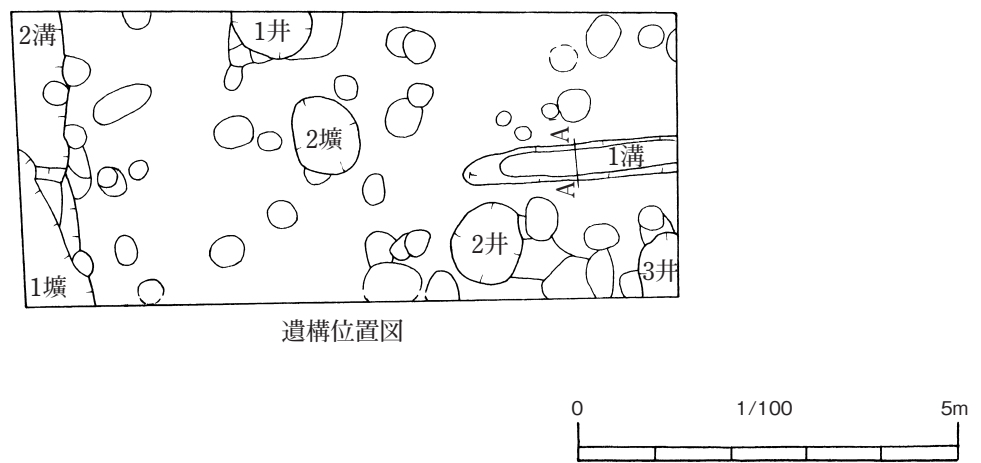
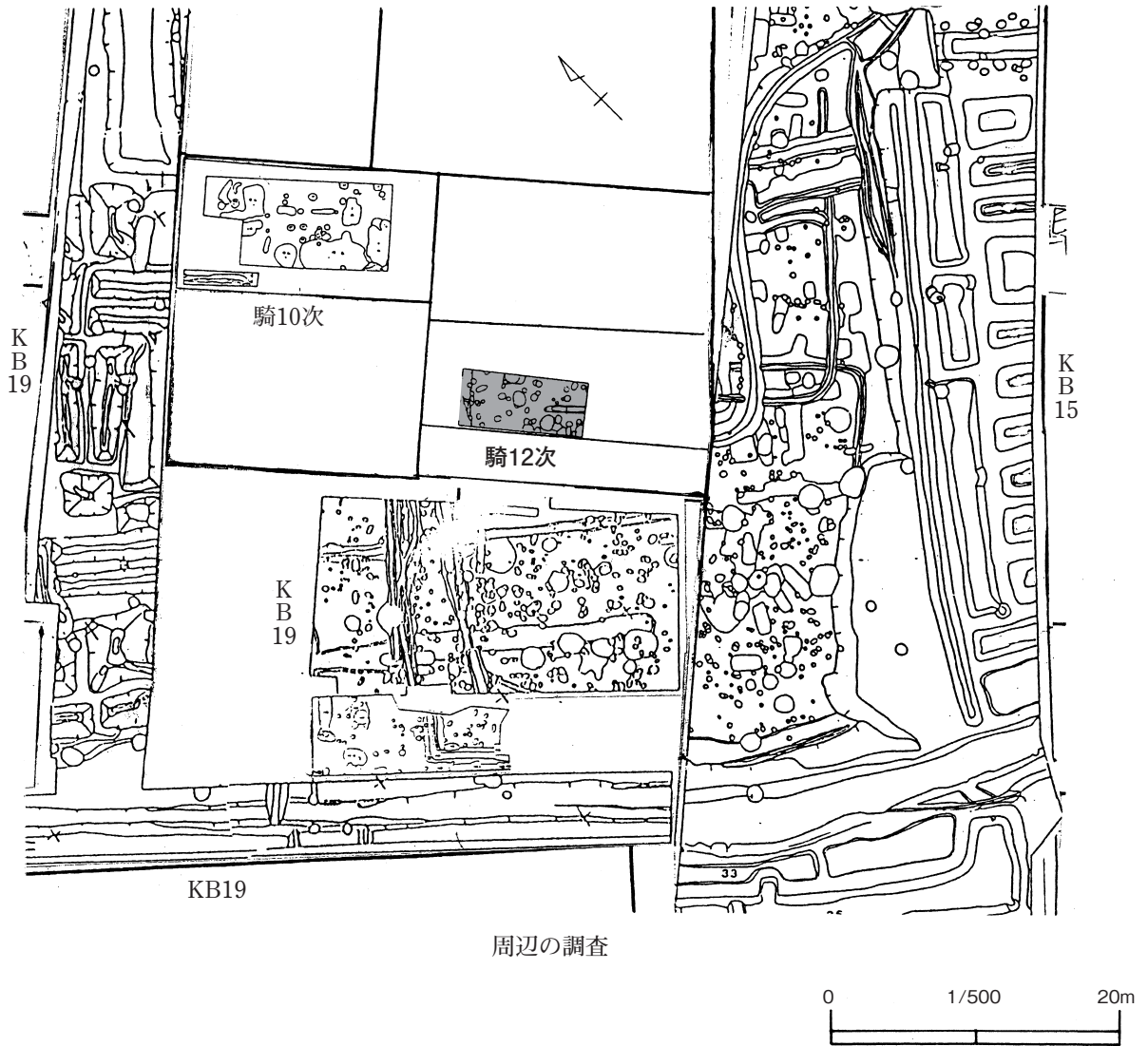
【遺構外出土遺物】

在地土器では、かわらけ(土-309)・土鍋(土-310)・播鉢(土-311～313)が出土した。

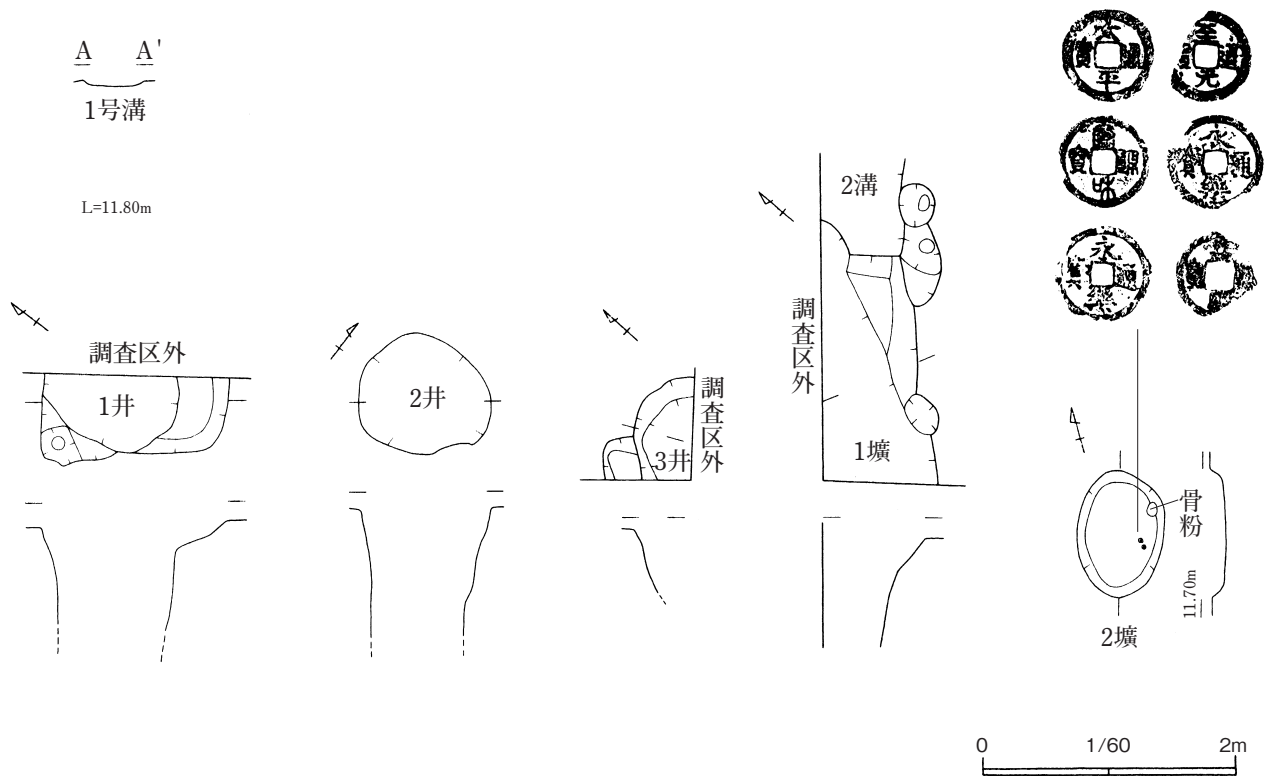
縄文時代早・中期の土器(他-19～35)が出土した。



調査風景



第31図 騎12次周辺と遺構位置図



第32図 騎12次遺構

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	なし	直線	ゆるやか	幅50	5	黄色/含LR			2溝を振替
2号溝	1墳	直線	ほぼ直上	幅(62)	☆24	黄褐色/含LR・LB◎			
1号井戸	なし	楕円形	直上	100×(62)	95	暗灰褐色/含T・LR・LB・C ▲ 他	犬釘様製品		
2号井戸	なし	楕円形	直上	90×106	106	暗灰褐色/含LR・LB△ 他	土鍋/かわらけ	15c 中～	
3号井戸	なし	楕円形	ロート形?	(50)×(80)	52	不明			
1号土壇	2溝	長方形?	ほぼ直上	(118)×(60)	(83)	暗灰褐色/含LR・LB△ 他			溝か
2号土壇	なし	楕円形	ほぼ直上	102×70	12	不明	銭貨/骨		墓壇 14Pの振替

第7表 騎12次遺構一覧表

第9節 騎西城跡第14次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

平成14年1月17日、開発者寺嶋秀幸氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋654-2における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成14年2月1日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

(調査協力員)

新井富子 五十嵐喜一郎 五十嵐米太郎
栗原まさ子 佐藤ヨシ 関口のぶ 福島利男

(市町村報告) 14騎教社発第213号

平成14年2月13日

(調査期間) 平成14年2月18日～3月25日

(調査面積) 92m²

(調査の経過)

建設予定地に11m×7mの調査区を設定し表土を重機により掘り下げた。その後人力により掘り下げローム面を遺構確認面とし堀・溝・井戸の調査を実施した。湧水のため水中ポンプにより排水した。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は騎武55次に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

東にKB18区・騎11次、西にKB15区、北にKB18区、南に騎武25次がある。本調査区はほぼ障子堀が広がり北に一部立ち上がりがある。東の18区では障子堀(平面長方形)が東西方向に走行している。北の18区は高く溝・土壇が分布する。騎11次にも障子堀が延長し舟形木製品が出土している。25次では

多数の溝の他にかわらけ6枚を副葬する墓壇が確認された。

(2) 遺構と遺物

【堀】堀は全体を1つと考え、四角錐の枡は枝番等で扱うべきだが、注記等の混乱を避けるためまた調査時の命名を尊重し個別の番号で報告することとする。

6基確認され、調査区ほぼ全面に整然と配置されている。平面長方形で、東西方向に長辺が揃う。中央の3・4堀は幅狭の溝で連結される。

1号堀 266cm(残存)×174cm(残存)深さ128cmで断面形箱葉研である。丸木・木片・竹が出土した。

2号堀 200cm×132cm(残存)深さ118cm。東隅が溝状にえぐられる。焙烙(土-314)・粉挽白片(石-13)が出土した。

3号堀 464cm×228cm深さ154cmで断面形箱葉研で、上部の傾斜が緩やかで下部は垂直である。4堀と連結する溝は中程に位置する。土層堆積を観察すると連結溝の埋没後に3堀が掘られていることが確認できる。瀬戸美濃丸皿(土-315)・焙烙(土-316)・素焼播鉢(土-317)・搗白片(石-14)が出土した。

4号堀 450cm×200cm(残存)深さ142cmで断面形箱葉研で、3堀と溝で連結している。

5号堀 360cm(残存)×130cm深さ66cmで断面形箱葉研で、3堀同様だがやや緩やか。瀬戸美濃播鉢(土-318)・かわらけ(土-319・320 ※319は略完形)・粉挽白片(石-15)が出土した。

6号堀 346cm(残存)×160cm深さ114cmで断面形箱葉研で、3堀同様だがやや緩やか。素焼播鉢(土-321)・粉挽白片(石-16)が出土した。

【溝】調査区北寄りに1条、東西に走行する。

1号溝 幅145cm深さ43cm。障子堀・1壇より新しく、西端で北へ屈曲する。セクション図はわかりにくく、5～9層が1溝で、4層は別の溝。瀬戸美濃天目茶碗(土-322)・同皿(土-323)・肥前鉢(土-324)・同染付碗(土-325)・素焼播鉢(土-326)が出土した。

【井戸状遺構】調査区東寄りでも1基検出された。

1号井戸 直径62cm×58cm深さ130cmを計る。

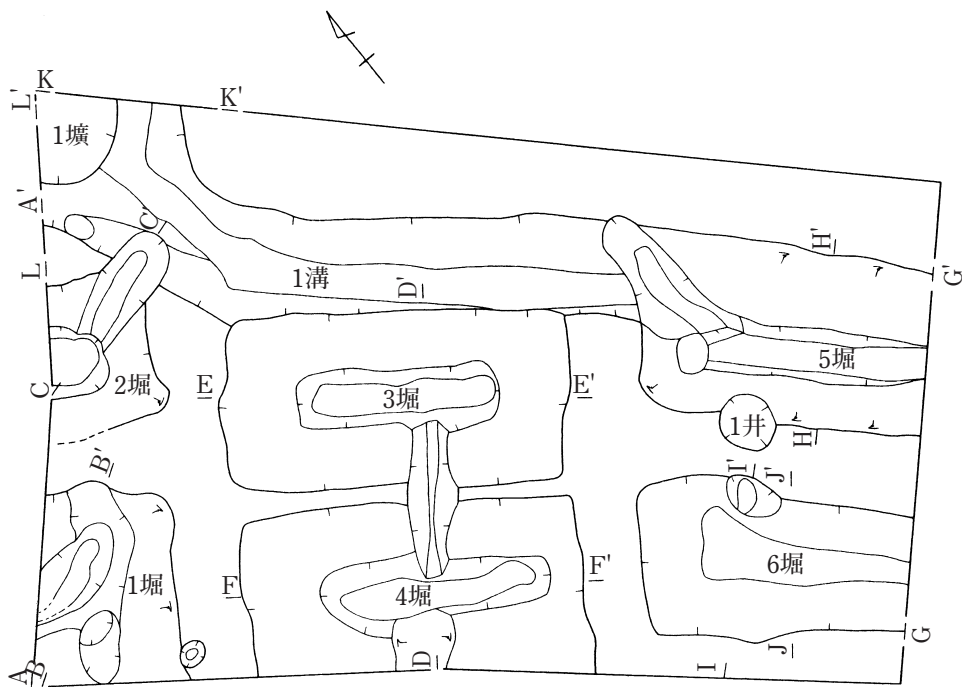


第33図 騎14次周辺の調査

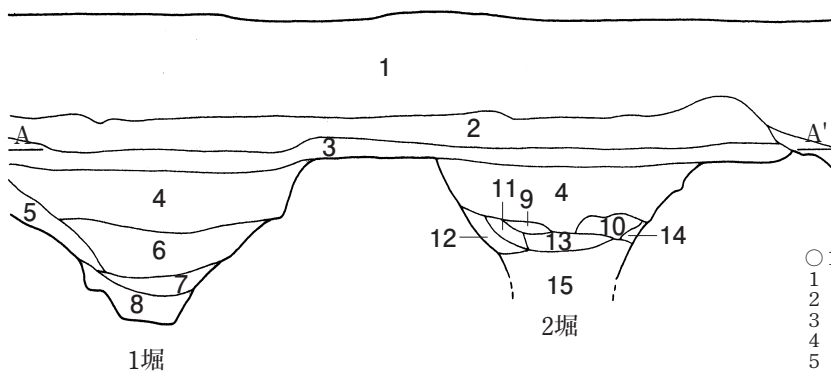
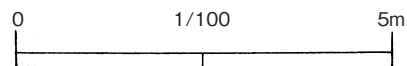
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号堀	なし	長方形	箱葉研	(266)×(174)	128	灰褐色/含 Fe△・LR・LB▲ 他	木片/丸木/竹		
2号堀	1溝	長方形	ほぼ直上	200×(132)	118	灰褐色/含 Fe△・LR・LB▲ 他	焙烙/木片/粉挽白(上白)	16c~	
3号堀	4堀→○ (掘り返し)	長方形	箱葉研	464×228	154	暗色/ 他	瀬美丸皿/在地搗鉢/焙烙/ 搗臼/磨石/板碑	16c~	
4号堀	○→3堀	長方形	箱葉研	450×(200)	142	灰褐色			
5号堀	1溝、1井	長方形	箱葉研	(360)×130	☆66	灰褐色/含 LR・LB・C・Fe▲	瀬美搗鉢/かわらけ/粉挽白 (下白)	15c前~	
6号堀	なし	長方形	箱葉研	(346)×160	114	灰褐色/含 Fe△・LR・LB▲	在地搗鉢/粉挽白(下白)		
1号溝	2・5堀、 1堀→○	屈曲する	不明	幅145	43	灰色/含 T▲・Fe△ 他	瀬美(天目・丸皿か端反皿)/ 肥前(鉢・染付碗)/在地搗鉢	17c~	
1号井戸	5堀	楕円形	直上	62×58	130	不明	竹		
1号土壇	○→1溝	円形?	ほぼ直上	☆(70)×☆(90)	☆(20)	灰褐色/含 LR・LB▲			堀か?

第8表 騎14次遺構一覧表

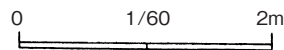
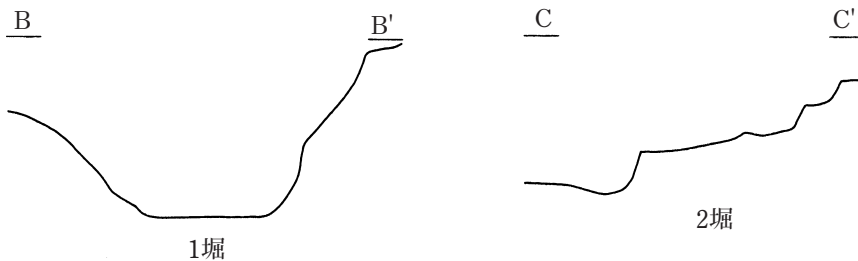


遺構位置図

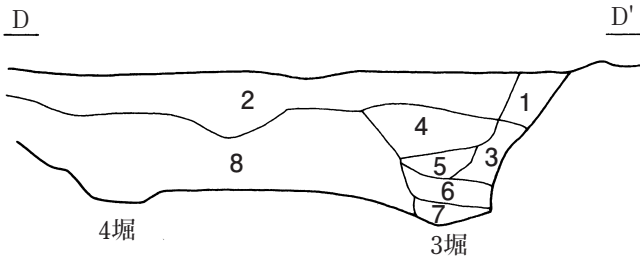


L=11.10m

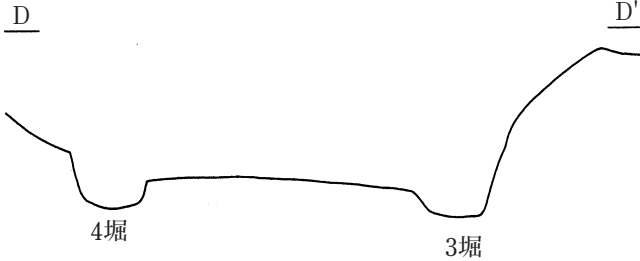
- 1 掘・2掘セクション
- 1 盛土
 - 2 灰色/T◎、FE△ 締良
 - 3 暗灰褐色/FE△ T 締良
 - 4 灰褐色/FE△、LR、LB▲ 締良 粘強
 - 5 灰褐色/FE△、LR LB▲ 締良 粘有
 - 6 暗色/LR LB▲ 締やや悪
 - 7 暗色/締悪 粘強
 - 8 黄色/LR主体 締悪
 - 9 暗灰褐色/LR△、FE▲ 締やや悪 粘有
 - 10 暗灰褐色/LB◎、LR▲ 締良
 - 11 暗灰褐色/LR、LB、FE△ 締やや悪
 - 12 暗灰褐色/ハードB◎、LB△ 締やや悪
 - 13 暗色/LR、LB、FE▲ 締悪 粘有
 - 14 暗灰褐色/LR、LB◎ 締やや悪
 - 15 暗色/締悪 粘有



第34図 騎14次遺構位置図と遺構 1



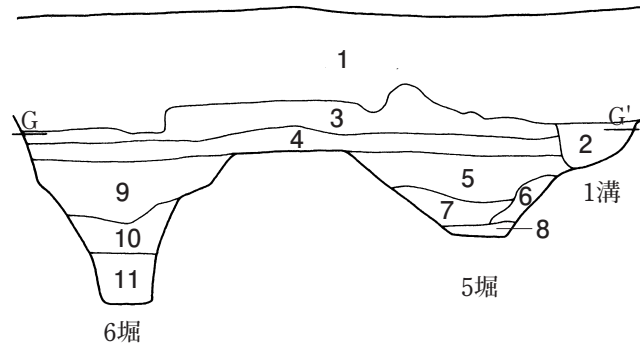
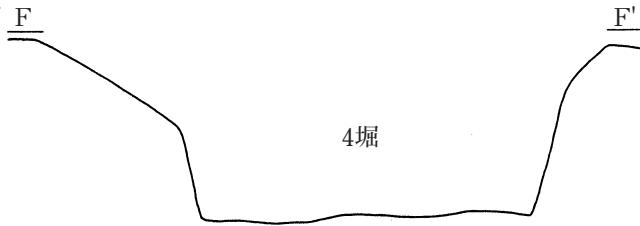
- 3堀・4堀セクション
- 1 暗灰褐色/LR、LB、FE△ 締やや悪 やや粘有
 - 2 灰褐色/LR LB▲、FE△ 締やや悪 粘有
 - 3 暗色/LR LB▲ (暗色土砂)◎ 締やや悪
 - 4 暗色/締悪 粘強
 - 5 暗色(上層より暗)/締悪 粘強
 - 6 暗色(上層より暗)/締悪 粘有
 - 7 黄色/LR主体 締悪
 - 8 灰褐色/締やや悪 粘有



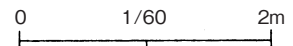
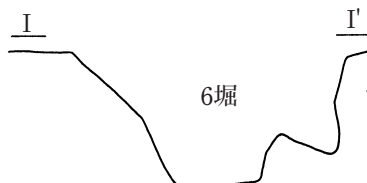
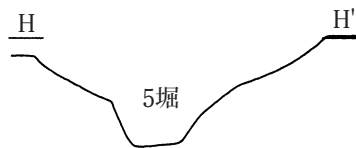
L=11.10m



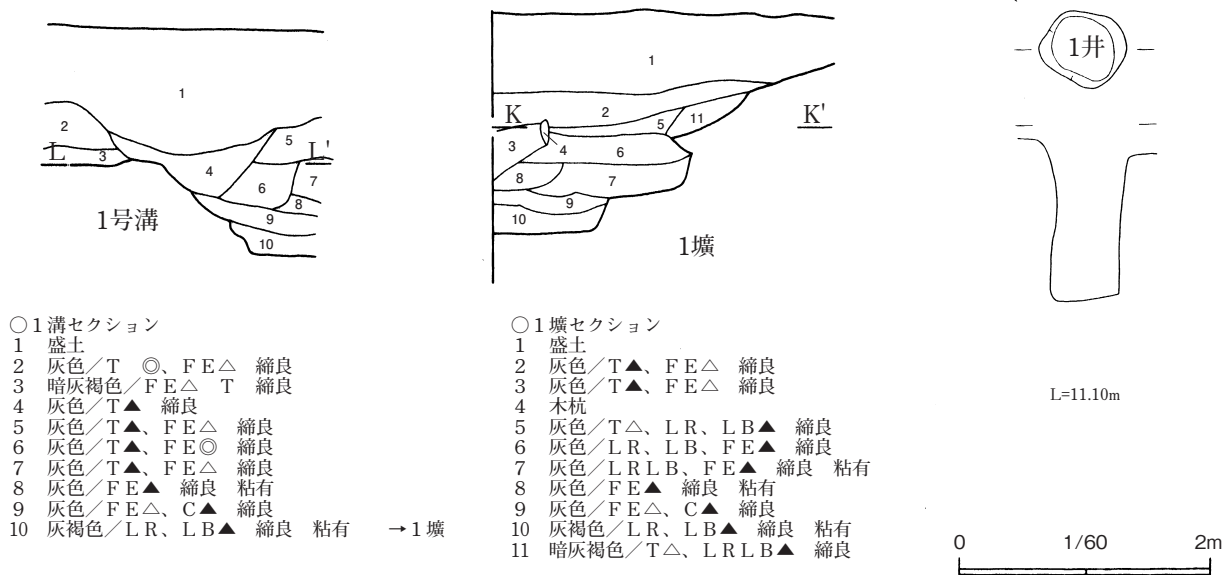
- 土層説明凡例
- | | |
|--------|--------------|
| 色調/含有物 | |
| テフラ=T | 非常に多い=☆ |
| ローム=L | 多量=◎ |
| 炭化物=C | 少量=△ |
| 焼土=S | 微量=▲ |
| 酸化鉄=FE | 万遍なく=万 |
| 黒色=B | やや暗い=やや暗 |
| 褐色=Br | 非常にやわらかい=軟度高 |
| | やわらかい=軟質 |
| | やややわらかい=軟度低 |
| 粒子=R | かたい=堅緻 |
| ブロック=B | 締まり良し=締良 |
| | 締まり悪し=締悪 |
| | 粘性強し=粘強 |
| | 粘性有り=粘有 |



- 1溝・5堀・6堀セクション
- 1 盛土
 - 2 暗灰褐色/LR LB▲ 締良 粘有
 - 3 暗灰褐色/T◎、FE△、LR LB▲ 締良
 - 4 灰褐色/T▲、LR LB C▲ 締良
 - 5 灰褐色/LR LB C FE△ 締やや悪 粘有
 - 6 暗色/LR△、LB FE▲ 締良
 - 7 暗色/LR LB▲ 締やや悪 粘強
 - 8 黄色/LR主体 締やや悪
 - 9 灰褐色/FE△、LR LB▲ 締やや悪 粘有
 - 10 暗色/LR LB▲ 締やや悪
 - 11 暗色(最下層黄色土有)/LR LB、FE 黒色砂▲ 締やや悪



第35図 騎14次遺構2



第36図 騎14次遺構 3



表土掘り下げ



3・4堀調査

【土壙】 調査区北西隅で1基確認された。

1号土壙 平面円形か。70cm(残存)×90cm(残存) 深さ20cm(残存)を計る。堀の可能性あり。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、中国白磁皿(土-327)・渥美甕(土-328・329)・瀬戸美濃御室茶碗(土-330)・同碗(土-331~334)・同端反皿(土-335)・略完形の同灯明皿(土-336)・同播鉢(土-337)・同徳利(土-338・339)・唐津皿(土-340)・志戸呂播鉢(土-

-341)・丹波播鉢(土-342)・肥前染付碗(土-343~345)・同染付端反碗(土-346)・同染付皿(土-347)が出土した。

在地土器では、焙烙(土-348~350)が出土した。スラグが28.3g出土した。

石製品では砥石(石-45)・磨石(石-63・64)が出土した。

縄文時代後期の土器(他-36)、磨石(他-46)が出土した。

第10節 騎西城跡第15次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

平成23年6月20日、開発者加藤勉氏から加須市教育委員会に宛て、大字根古屋634-14における住宅の建設にあたり埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて照会があった。市教育委員会は建設予定地が騎西城跡の範囲内に該当し試掘調査を実施した結果により埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、加須市教育委員会が実施することとし、騎西教育事務所主査坂本征男が担当した。

(調査協力員)

井置靖子 川島愛子 斉藤敬子 坂本みせ子
難波朋子 平瀬得代 御子芝幸雄

(調査期間) 平成23年8月8日～8月31日

(調査面積) 41m²

(調査の経過)

建設予定地に7.5m×5.5mの調査区を設定し表土

を重機で掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし堀の調査を実施した。東半分は削平されていた。

遺構の図化は、全体は平板測量により実測した。標高は大英寺に所在する基準点から計測使用した。

(周辺の調査)

南にKB19区・北に騎2次・西に騎13次がある。19区では障子堀が全面に検出され、特に本調査区に近いD区では17世紀の陶磁器類・木製品(位牌の台・将棋の駒・呪符)が出土している。騎2次ではピット群や馬面?、13次では障子堀(溝状で仕切が低い)・橋脚2か所・墨書かわらけなどが出土している。

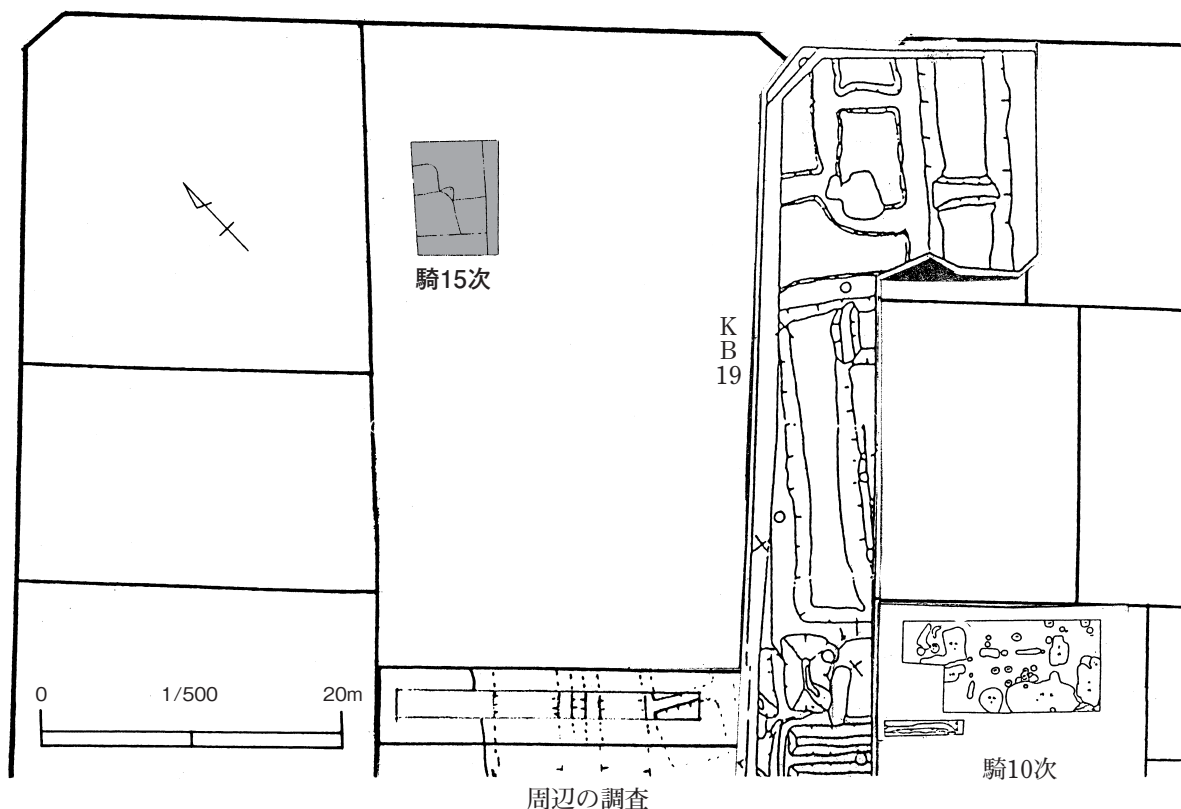
(2) 遺構と遺物

【堀】西半分に堀底が確認された。

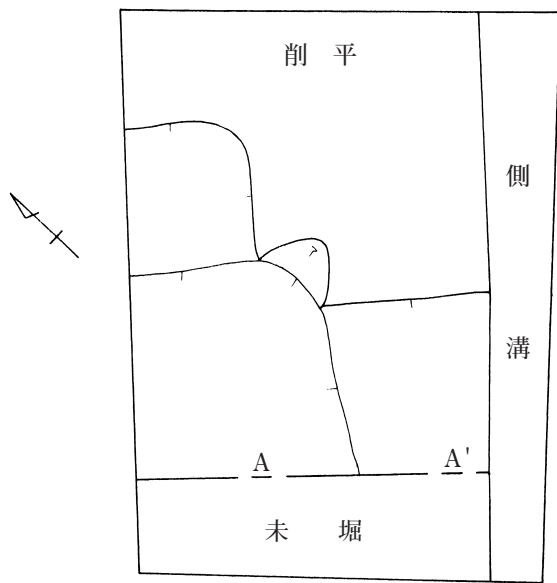
1号堀 削平により確認されたのはL字形の堀底で、規模は470cm(残存)×470cm(残存)である。

【遺構外出土遺物】

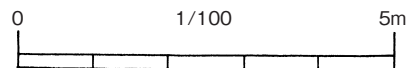
陶磁器では、産地不明の皿(土-351)・丹波系播鉢(土-352)・肥前碗(土-353~356)が出土した。



第37図 騎15次周辺の調査



遺構位置図

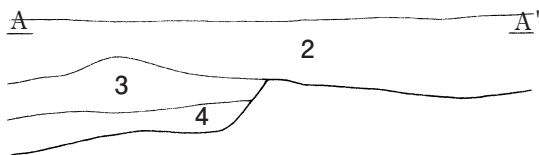


土層説明凡例

- 色調/含有物
- テフラ=T
 - ローム=L
 - 炭化物=C
 - 焼土=S
 - 酸化鉄=FE
 - 黒色=B
 - 褐色=Br
 - 非常に多い=☆
 - 多量=◎
 - 少量=△
 - 微量=▲
 - 万遍なく=万
 - やや暗い=やや暗
 - 非常にやわらかい=軟度高
 - やわらかい=軟質
 - やややわらかい=軟度低
 - かたい=堅緻
 - 縮まり良し=縮良
 - 縮まり悪し=縮悪
 - 粘性強し=粘強
 - 粘性有り=粘有
- 粒子=R
ブロック=B



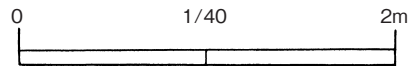
1



L=11.00m

障子堀セクション

- 1 客土
- 2 暗灰褐色/LB、LR▲ 縮良
- 3 暗灰褐色/LB、LR▲ 縮やや悪 粘有
- 4 暗灰褐色/LB、LR▲、FE◎ 縮悪 粘有



第38図 騎15次遺構位置図と遺構

()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
障子堀	なし	長方形?	ほぼ直上	(470)×(470)	☆38	暗灰褐色/含LB・LR▲			

第9表 騎15次遺構一覧表

第11節 多賀谷氏館跡第1次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者大島隆氏から騎西町教育委員会に宛て、大字内田ケ谷字寄居1120-3における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が多賀谷氏館跡の範囲に隣接することから埋蔵文化財の調査が必要であると回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事島村範久が担当した。

(調査協力員)

塚本和郎 田口太一郎 関口敏子 中里たね子
中里充子 中里芳男 松村みさを 森野義雄
吉沢幸夫 渡辺秋彦

(文化庁通知) 57委保記第2-2662号

昭和57年10月28日

(調査期間) 昭和57年12月2日~12月13日

(調査面積) 90m²

(調査の経過)

建設予定地に10m×8.5mの調査区を設定し人力

により50cm程掘り下げた。精査により溝を検出し調査を実施した。

遺構の図化は、全体は平板測量により、セクション図は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

(周辺の調査)

西に200m多3次、北に100m多2次がある。本報告参照。

(2) 遺構と遺物

【溝】調査区西側で条の溝が南北方向に並行して走行する。

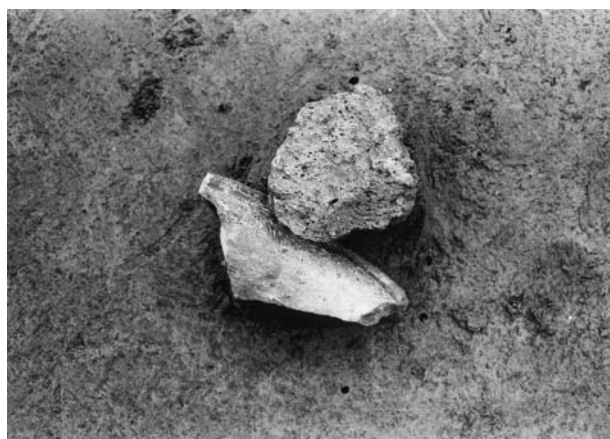
1号溝 幅154cm(残存) 深さ72cmを計る。常滑広口壺(土-357)・同甕(土-358・359)・中国白磁碗(土-360)が出土した。

2号溝 幅45cm 深さ38cmを計る。同安窯系青磁碗(土-361)が出土した。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、同安窯系青磁碗(土-362)・龍泉窯系青磁碗(土-363・364)・常滑甕(土-365~369)が出土した。

在地土器では、捏鉢(土-370)が出土した。石製品では磨石(石-65~69)が出土した。

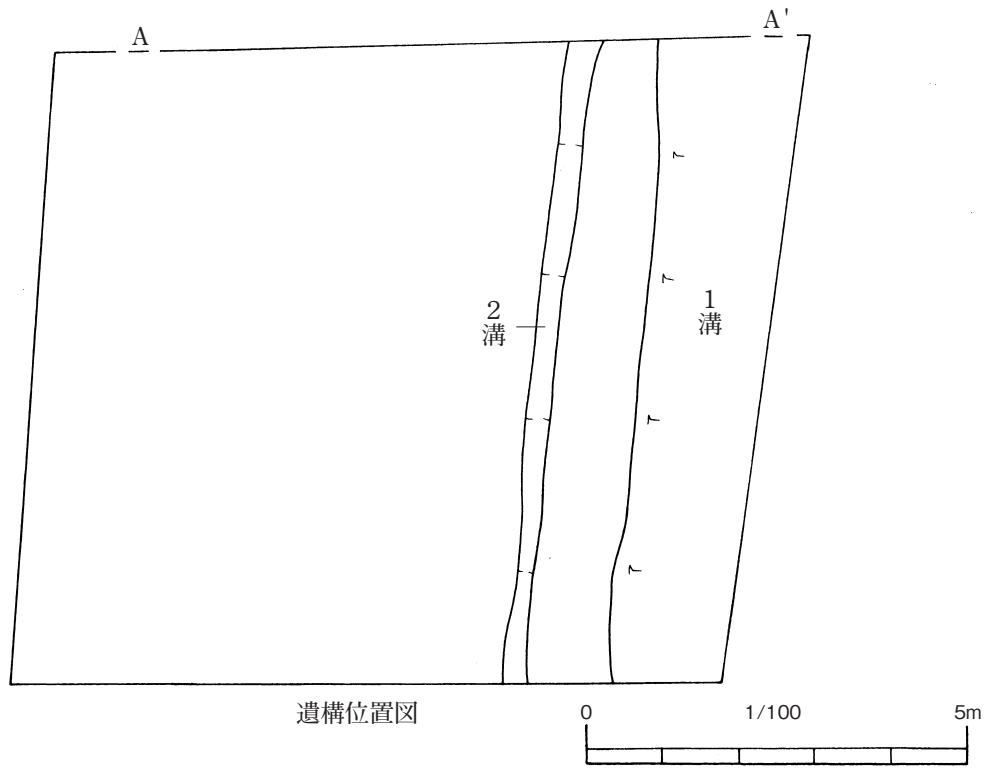
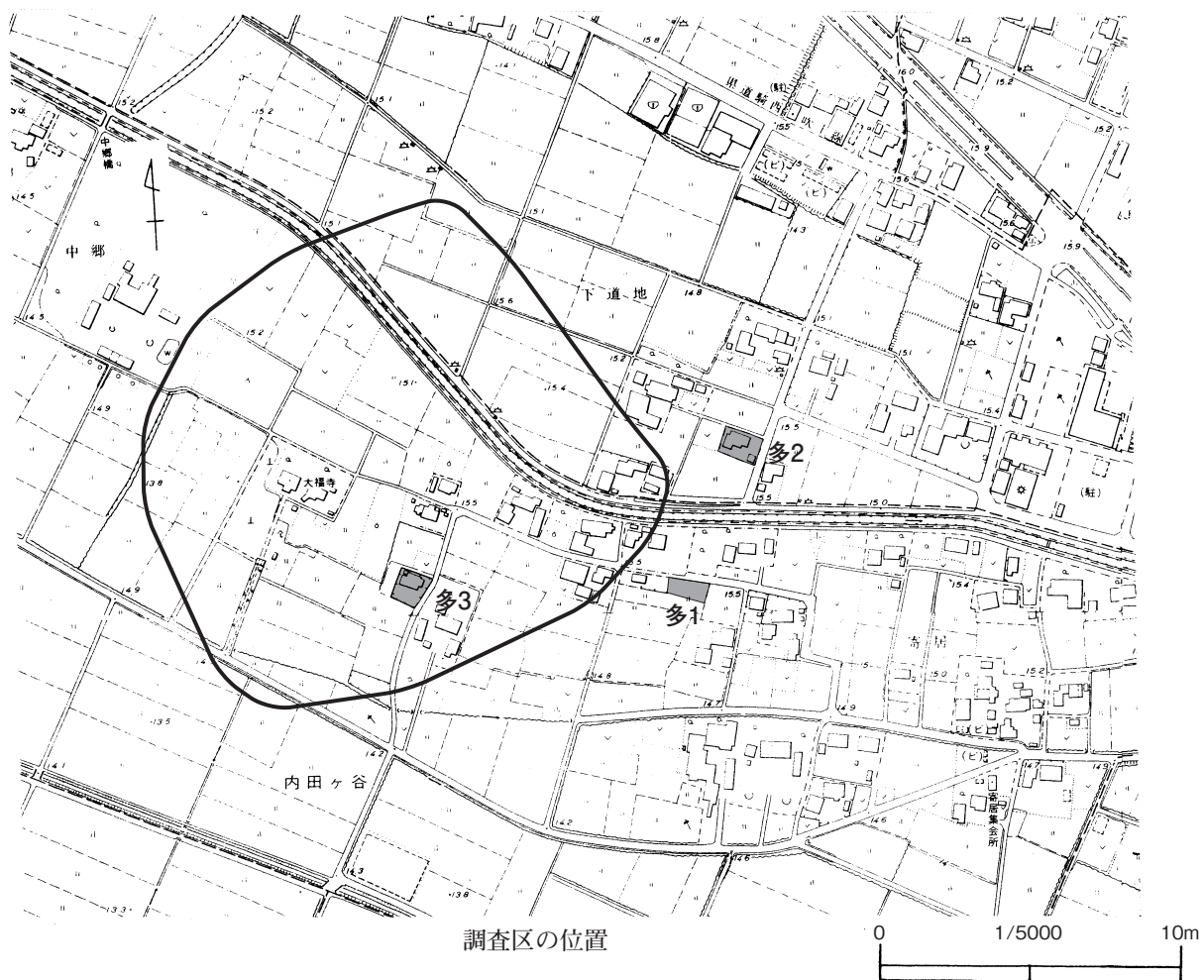


廣口壺(土-357)出土

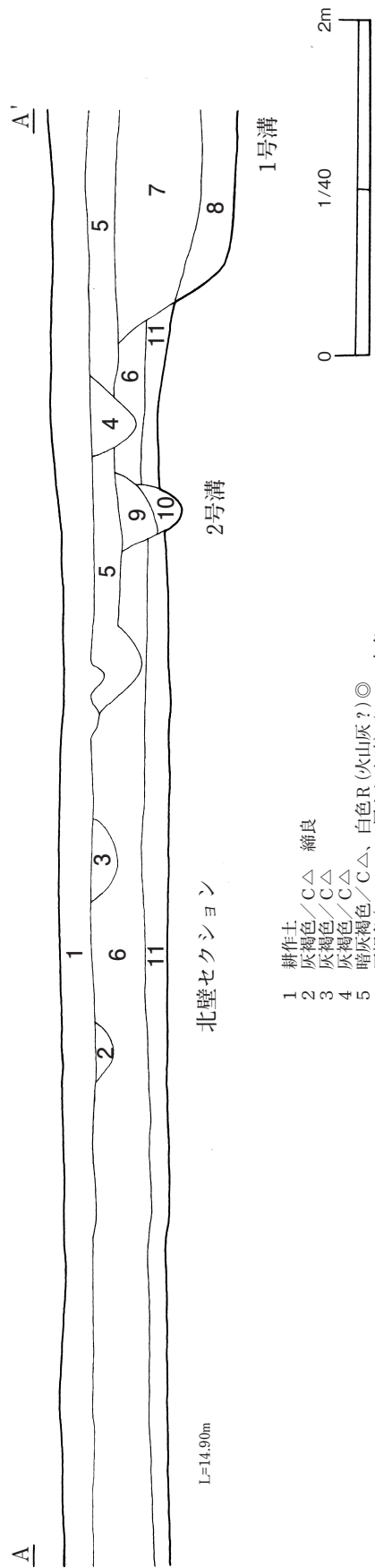
()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	なし	直線	ほぼ直上	幅(154)	☆72	灰褐色	常滑(広口壺・甕)/中国白磁碗	14c~	
2号溝	なし	直線	葉研	幅45	☆38	灰褐色	同安青磁碗		

第10表 多1次遺構一覧表



第39図 多賀谷氏館跡各調査区の位置と多1次遺構位置図



- 1 耕作土
- 2 灰褐色/C△ 締良
- 3 灰褐色/C△
- 4 灰褐色/C△
- 5 暗灰褐色(2・3・4層よりも暗)/C△、白色R▲
- 6 灰褐色(6層よりも暗)/白色R△
- 7 暗灰褐色/C△ 締良
- 8 暗灰褐色/C△ 締良
- 9 暗灰褐色/C△ 締良
- 10 灰褐色(上層の暗灰褐色含)/砂質 締良
- 11 6層に似る(白色R、Cなどは含まない)

土層説明凡例

色調/含有物	テフラム=T	非常に多い=☆
炭化物=C	ローム=L	多量=◎
礫土=S	酸化鉄=FE	微量=△
黒色=B	黒色=B r	万遍なく=万
褐色=B r	粒子=R	やや暗い=やや暗
ブロック=B	ブロック=B	非常にやわらかい=軟度高
		やややわらかい=軟質
		かたい=堅緻
		締まり良し=締良
		締まり悪し=締悪
		粘性強し=粘強
		粘性有り=粘有



調査風景

第40図 多1次遺構

第12節 多賀谷氏館跡第2次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者石原肇氏から騎西町教育委員会に宛て、大字道地字天沼1355-3における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が多賀谷氏館跡の範囲に隣接することから埋蔵文化財の調査が必要であると回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

(調査協力員)

網野のぶ 五十嵐喜一郎 石原知子
江原福太郎 小川栄子 金久保政子 坂本一政
内藤ふく 野本洋子 古澤繁子 松村一枝
増田留次郎 若林美知子

(文化庁通知) 60委保記第2-1912号

昭和60年8月14日

(調査期間) 昭和60年5月27日～6月28日

(調査面積) 160m²

(調査の経過)

建設予定地に27m×6mの調査区を設定し表土を人力により掘り下げた。Ⅱ層(暗灰褐色～暗黄褐色)を遺構確認面とし溝・土壌の調査を実施した。3・14壇と間をつなぐ溝を同一のものとして認定し1号溝とした。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水系を基準としてメジャーにより実測した。

最後に南北方向にトレンチを5本設定し深堀をしたが磁器等が少量出土したのみで遺構は確認できなかった。基本土層はⅠ層耕作土、Ⅱ層暗灰褐色土。

(周辺の調査)

西に250mで多3次、南に100mで多1次調査地点がある。本報告参照。

(2) 遺構と遺物

遺構は調査区の西半分で検出された。

【溝】1条の溝が東西方向に走行する。

1号溝 幅55cm 深さ94cmを計る。東端が不明で西端は16壇周辺で不明瞭となる。やや蛇行し東端南壁では段を有する。

瀬戸美濃碗(土-371・372)・同腰鏝碗(土-373・374)・同丸碗(土-375)は3/4以上残存・同播鉢(土-376)・同小坏(土-377)・同花生(土-378)・肥前京焼風陶器皿(土-379)・丹波播鉢(土-380)・堺系播鉢(土-381・382)・肥前染付碗(土-383)・同染付皿(土-384～386)・かわらけ(土-387)・焜炉の目皿(土-388)・瓦器(土-389)が出土した。染付碗・皿は溝底面よりやや浮いてまどまって出土した。

【土壇】19まで番号を振ったが欠番により総数13基を数える。9～12壇は比較的深い。

4号土壇 平面楕円形で146cm×100cm 深さ20cmを計る。肥前染付碗(土-390)・同合子蓋(土-391)・同小坏?(土-392)・かわらけ(土-393)・瓦(土-394)が出土した。

9号土壇 平面円形で直径114cm 深さ30cmを計る。壁は直上する。

10号土壇 平面円形で直径134cm 深さ40cmを計る。壁は直上する。

11号土壇 平面円形で直径116cm 深さ62cmを計る。壁は直上する。瀬戸美濃徳利(土-395)が出土した。

12号土壇 平面楕円形で142cm×125cm 深さ64cmを計る。壁は直上する。産地不明の香炉(土-396)・肥前青磁碗(土-397)・焙烙(土-398)が底面より浮いて出土した。

16号土壇 平面長方形で224cm×110cm 深さ56cmを計る。中央が窪み重複の可能性がある。

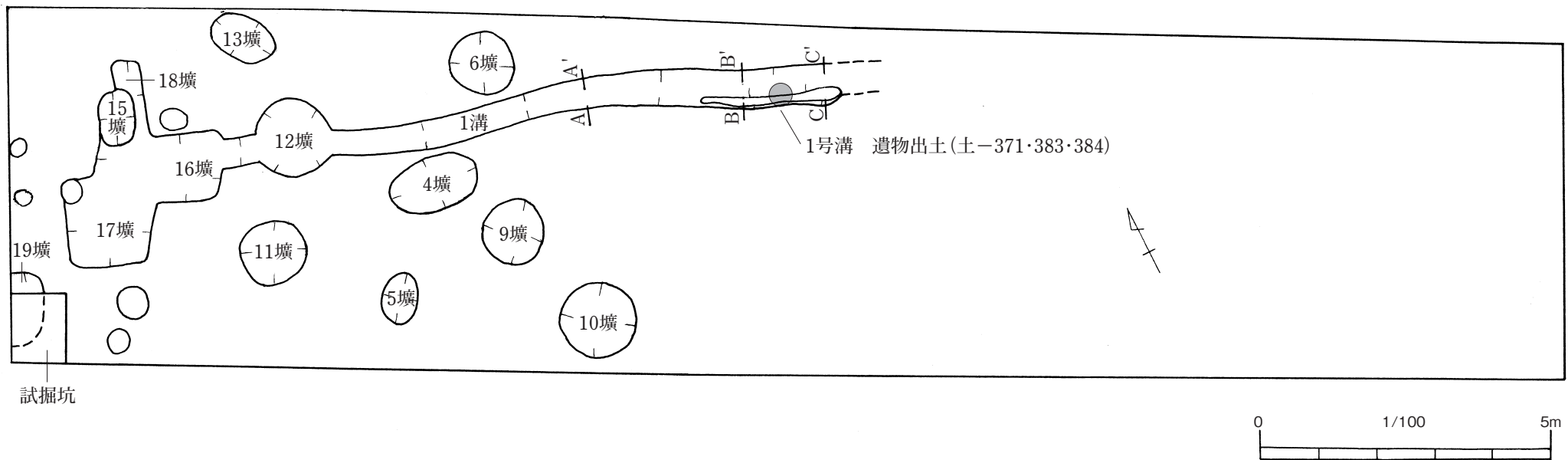
17号土壇 平面方形で158cm×146cm 深さ24cmを計る。

19号土壇 平面楕円形か。48cm(残存)×124cm(残存) 深さ74cmを計る。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、瀬戸美濃煙硝播（土-399）・同播鉢（土-400）・同香炉（土-401・402）・肥前系徳利（土-403）・京都・信楽系の京焼風陶器碗（土-404）・肥前染付碗（土-405～407）・同皿か鉢（土-408）・同染付皿（土-409）・同染付小坏（土-410）が出土した。在地土器では、かわらけ（土-411）・焙烙（土-412～415）・火鉢？（土-416）が出土した。

スラグが92.8g 出土した。



第41図 多2次遺構位置図

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	12・16・18壙	やや曲がる	毛拔堀	幅55	94	灰色/含 Fe	瀬美(碗・腰錆碗・丸碗・播鉢・小杯・花生)/肥前(京焼風陶器皿)/丹波系播鉢/堺(陶器播鉢)/肥前磁器(染付碗・染付皿)/在地(焜炉の目皿・瓦器)/かわらけ/磨石	18~19c	旧3・14壙
1号土壙	欠番								
2号土壙	欠番								1 溝へ振替
3号土壙	欠番								1 溝へ振替
4号土壙	なし	楕円形	ゆるやか	146×100	20	暗灰褐色/含白色 R・Fe 粘土 B 他	肥前磁器(染付碗・合子蓋・小杯)/瓦/かわらけ	17c~	
5号土壙	なし	楕円形	ほぼ直上	74	16	不明	加工石		
6号土壙	なし	円形	ゆるやか	112	14	C・S			
7号土壙	欠番								
8号土壙	欠番								
9号土壙	なし	円形	直上	114	30	灰褐色			
10号土壙	なし	円形	直上	134	40	灰褐色(やや暗)			
11号土壙	なし	円形	直上	116	☆62	灰褐色/含 C	瀬美德利	18~19c	
12号土壙	1 溝	楕円形	直上	142×125	64	灰褐色/含 T・SR・C	陶器香炉/肥前磁器(青磁碗)/焙烙	18c~	
13号土壙	なし	楕円形	直上	120×86	12	不明			
14号土壙	欠番								1 溝へ振替
15号土壙	16・18壙→○	長方形	ほぼ直上	92×54	10	不明			
16号土壙	○・18壙→15壙 / 1 溝, 17壙	長方形	ほぼ直上	224×110	56	灰白色			中央底面がくぼむ
17号土壙	16壙	方形	ほぼ直上	158×146	24	不明			
18号土壙	○→15壙 / 1 溝	長方形	ほぼ直上	(134)×62	16	不明			
19号土壙	なし	楕円形?	直上	(48)×(124)	74	灰褐色/含 Fe◎			

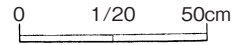
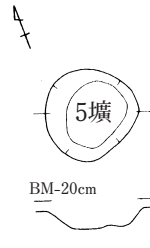
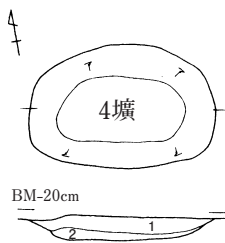
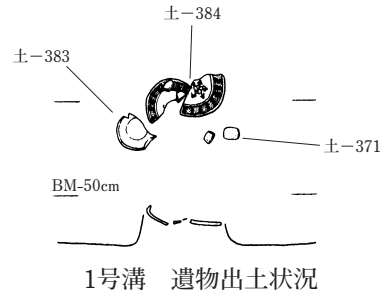
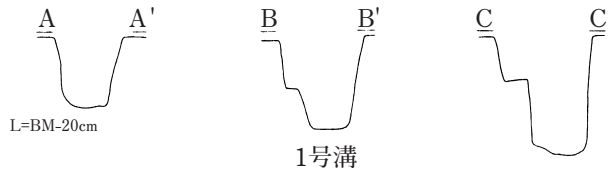
第11表 多2次遺構一覧表



調査風景



完掘西側(北より)



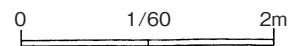
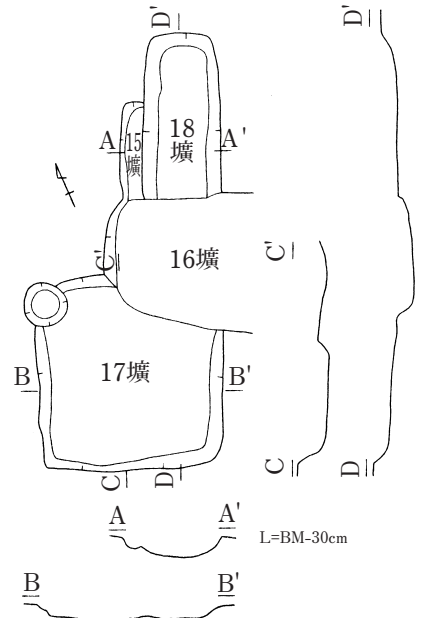
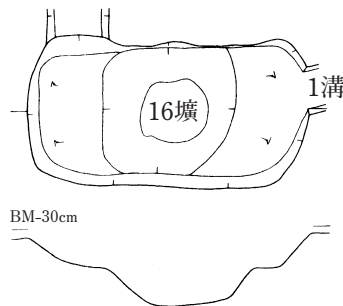
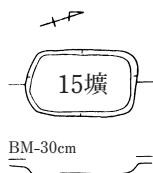
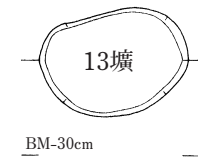
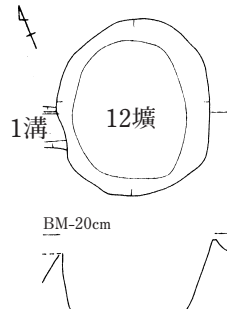
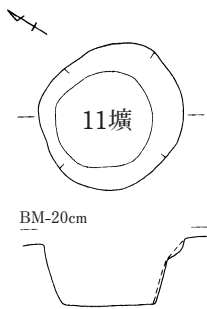
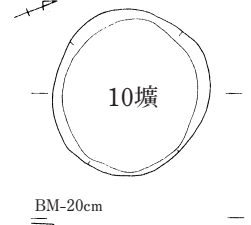
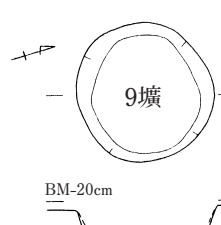
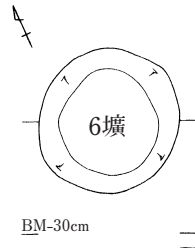
1/60

- 4号坑セクション
 1 暗灰褐色/白色R(Tか砂粒) 酸化物、粘土B 堅緻
 2 灰色/白色R(Tか砂粒) 酸化物 遺物を含 堅緻

土層説明凡例

色調/含有物

- | | |
|--------|--------------|
| テフラ=T | 非常に多い=☆ |
| ローム=L | 多量=◎ |
| 炭化物=C | 少量=△ |
| 焼土=S | 微量=▲ |
| 酸化鉄=FE | 万遍なく=万 |
| 黒色=B | やや暗い=やや暗 |
| 褐色=Br | 非常にやわらかい=軟度高 |
| | やわらかい=軟質 |
| | やややわらかい=軟度低 |
| 粒子=R | かたい=堅緻 |
| ブロック=B | 縮まり良し=縮良 |
| | 縮まり悪し=縮悪 |
| | 粘性強し=粘強 |
| | 粘性有り=粘有 |



第42図 多2次遺構

第13節 多賀谷氏館跡第3次調査

(1) 調査の概要

(調査に至る経過)

開発者田湯喜代子氏から騎西町教育委員会に宛て、大字内田ケ谷字中郷746-1における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が多賀谷氏館跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、指導課主事嶋村英之が担当した。

(調査協力員)

秋池角蔵 網野のぶ 猪股榮子 江原福太郎
岡田金之助 金久保政子 坂本フサ 坂本好子
佐藤ヨシ 田口ふみ 若林クニ子

(文化庁通知) 61委保記第2-155号

昭和61年1月22日

(調査期間) 昭和60年11月5日～11月28日

(調査面積) 190m²

(調査の経過)

建設予定地に15m×12mの調査区を設定し人力により掘り下げた。Ⅱ層(灰色土)を遺構確認面とし溝・土壌の調査を実施した。進行管理のため北・南に2分し調査を掘り下げ・遺物調査など別工程で行った。また、遺構確認のため南と西にトレンチを設定し掘り下げたが検出できなかった。Ⅲ層(褐色土)を掘り下げても不明瞭であるためⅢからⅣ層(褐色土～青灰色)を等間隔にトレンチ調査を行ないその結果東側で砂質層覆土の溝を検出した。4溝として調査。念のため西側でもトレンチ調査を行ったが遺構は確認されなかった。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

(周辺の調査)

東に200mで多1次、250mで多2次調査地点がある。本報告参照。

(2) 遺構と遺物

【溝】 6まで振ったが欠番のため総数5条である。複数の確認面で検出された。1・2溝はⅡ層、3・4・6溝はⅢ～Ⅳ層をそれぞれ検出面とする。

1号溝 幅220cm(残存) 深さ10cmと幅広で浅い。東側で遺物の集中があり瓦が多数出土した。瀬戸美濃丸碗(土-417)・かわらけ(土-418)・火鉢(土-419)・瓦(土-420・421)・寛永通宝(金-108・109)・泥面子が出土した。

2号溝 幅32cm 深さ6cmと小規模である。1号溝内東寄りに位置する。

3号溝 東端に南北に走行する。幅30cm 深さ8cm。焙烙(土-422)が出土した。

4号溝 幅140cm 深さ50cm。断面箱葉研で掘り込みはしっかりしている。覆土は砂層である。

【土壌】 4基検出された。複数の確認面で検出された。1～3壙はⅡ層、4壙はⅢ～Ⅳ層である。

1号土壙 平面隅丸長方形で420cm×234cm 深さ18cm。瀬戸美濃丸碗(土-423)・かわらけ(土-424・425)・焙烙(土-426)が出土した。

2号土壙 平面不整楕円形で310cm×114cm 深さ17cm。覆土に炭化物を多量に含む。

3号土壙 平面楕円形で116cm×90cm 深さ8cm。覆土に炭化物を多量に含む。

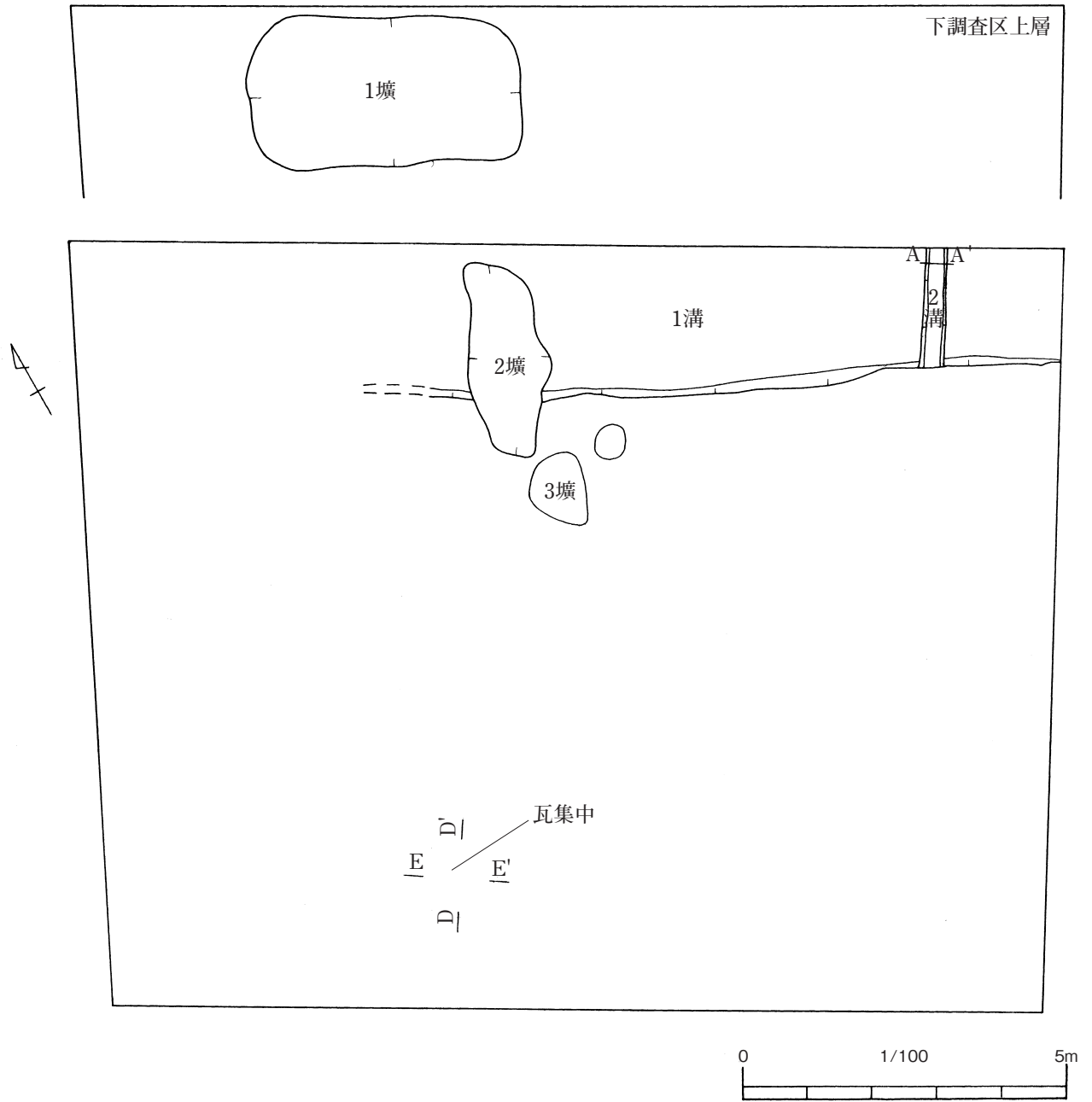
4号土壙 平面楕円形で136cm×102cm 深さ14cm 覆土に炭化物を多量に含む。

【その他】 調査区南で瓦の集中出土が見られた。掘り込みは確認できなかった。

瓦集中 平面方形で、120×110cmの範囲に大量の瓦・瓦質の手焙り・磁器等が、全面平坦に敷かれたように出土した。遺物の接合状況を見ると、略完形のもものが集中範囲内各所広がるため、廃棄後に破片化したのではなく、破壊されたものが全体に投棄されたことと思われる。

出土遺物は、陶磁器では肥前青磁染付碗(土-428)・同染付皿(土-429)・同染付鉢(土-430)・略完形と同染付10角鉢(土-431)・同小坏(土-433・434)・産地不明の小坏(土-446)が出土した。

在地土器では焙烙(土-451・452)・火鉢(土-457)・手焙り? (土-462)・多量の瓦(土-464・



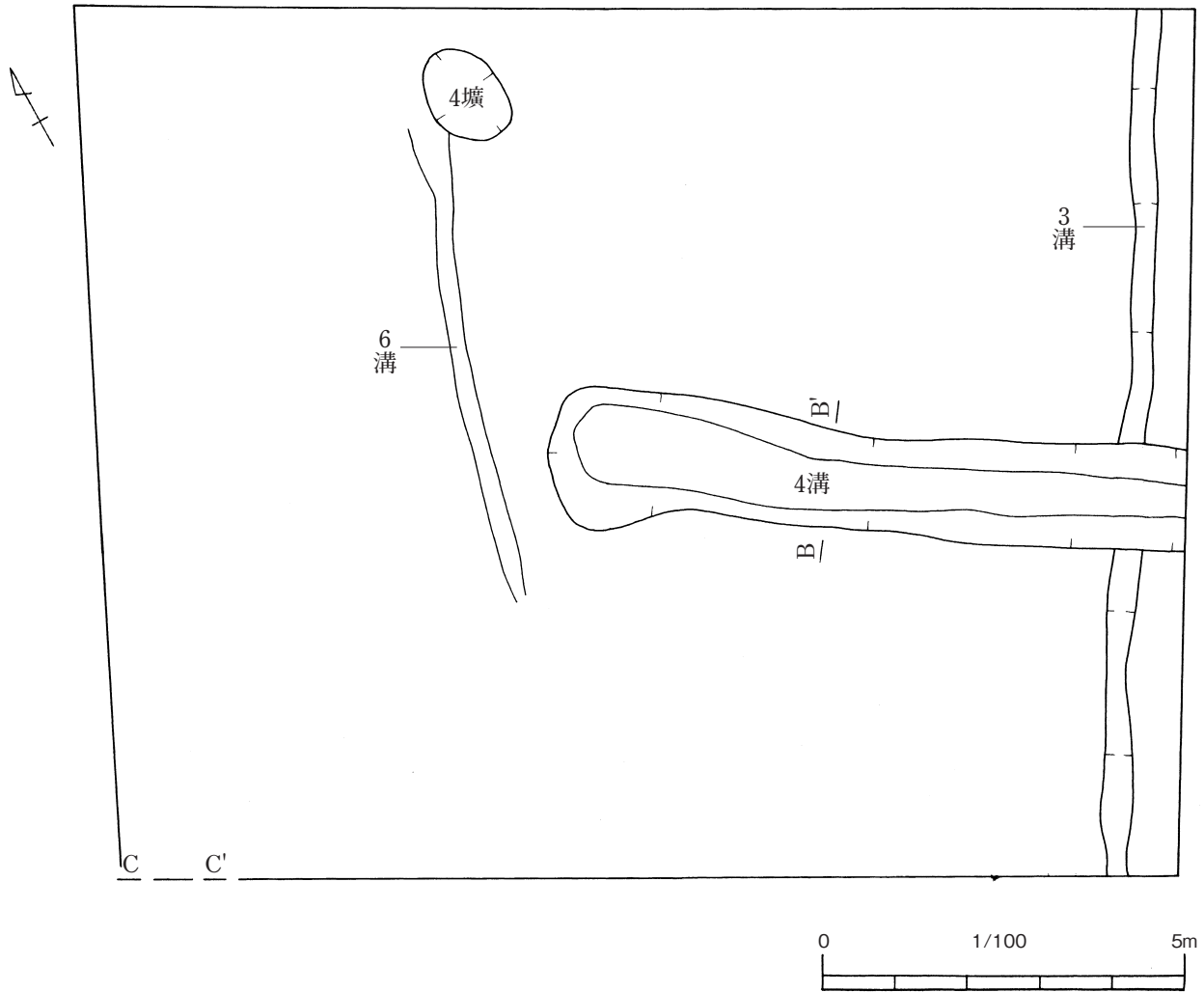
第43図 多3次Ⅱ層確認面



調査風景



整理風景

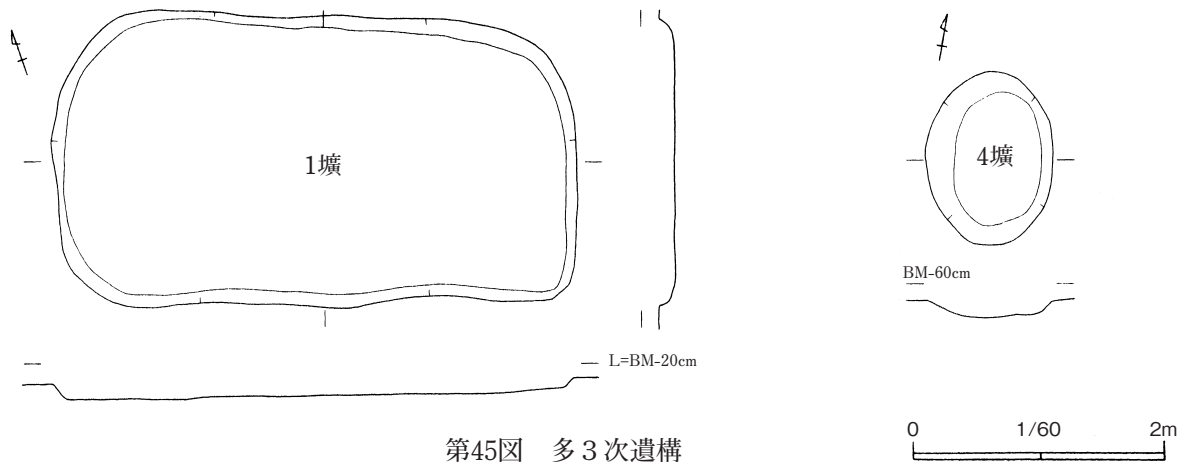
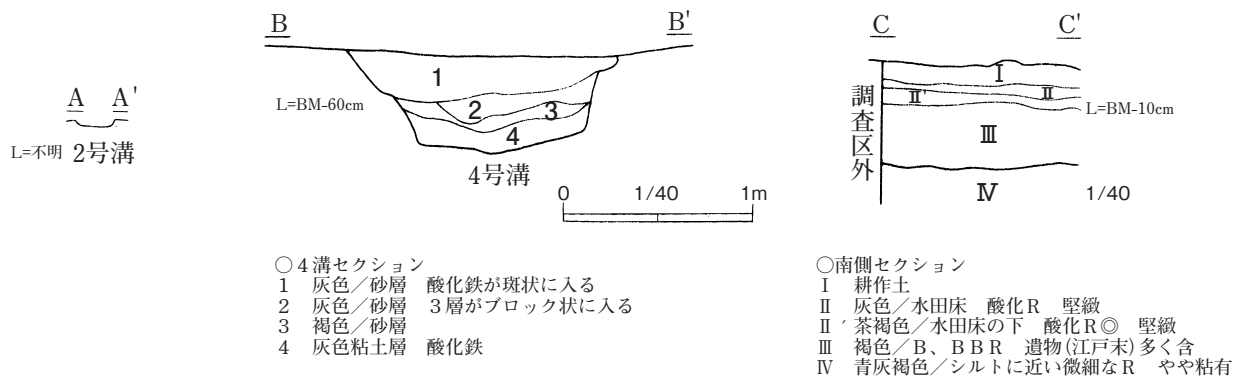


第44図 多3次Ⅲ層～Ⅳ層確認面

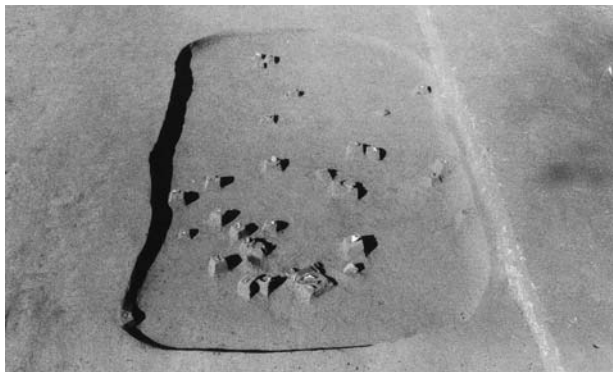
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	3溝→○→2溝 / 1・3壇	直線	不明	幅(220)	10	暗褐色	瀬美丸碗/在地(火鉢・軒瓦・丸瓦)/かわらけ/泥面子/銭貨	19c~	
2号溝	1溝→○	直線	ほぼ直上	幅32	6	暗黄褐色			
3号溝	4溝→○→1溝	直線	不明	幅30	8	暗灰褐色	焙烙		
4号溝	○→3溝	直線	箱葉研	幅140	☆50	灰色/含C (砂層)	板碑片		
5号溝	欠番								
6号溝	2壇	直線	不明	不明	不明	不明			
1号土壇	1・6溝、2・4壇	隅丸長方形	ほぼ直上	420×234	18	不明	瀬美丸碗/かわらけ/焙烙	19c~	
2号土壇	1溝、1壇	不整楕円形	不明	310×114	17	C○			
3号土壇	なし	楕円形	不明	116×90	8	C○			
4号土壇	1・6溝、1壇	楕円形	ほぼ直上	136×102	14	C○			
瓦集中		方形		120×110			肥前磁器(碗・皿・鉢・小杯)/焙烙/在地火鉢	19c~	

第12表 多3次遺構一覧表



第45図 多3次遺構



1号墳 遺物出土

土層説明凡例

色調/含有物	
テフラ=T	非常に多い=☆
ローム=L	多量=◎
炭化物=C	少量=△
焼土=S	微量=▲
酸化鉄=F E	万遍なく=万
黒色=B	やや暗い=やや暗
褐色=B r	非常にやわらかい=軟度高
	やわらかい=軟質
	やややわらかい=軟度低
粒子=R	かたい=堅緻
ブロック=B	縮まり良し=縮良
	縮まり悪し=縮悪
	粘性強し=粘強
	粘性有り=粘有

465・467・468・473・476～479・482・493・494) が出土した。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、瀬戸美濃徳利(土-427)・同染付端反碗(土-435～441)・同丸碗(土-442・443)・同染付皿(土-444)・同鉢(土-445)・肥前青磁染付鉢(土-432)が出土した。

在地土器では、かわらけ(土-447～450)・焙烙(土-453・454)・片口鉢(土-455・456)・火鉢(土-458～461)《458は3/4以上残存》・手焙り?(土

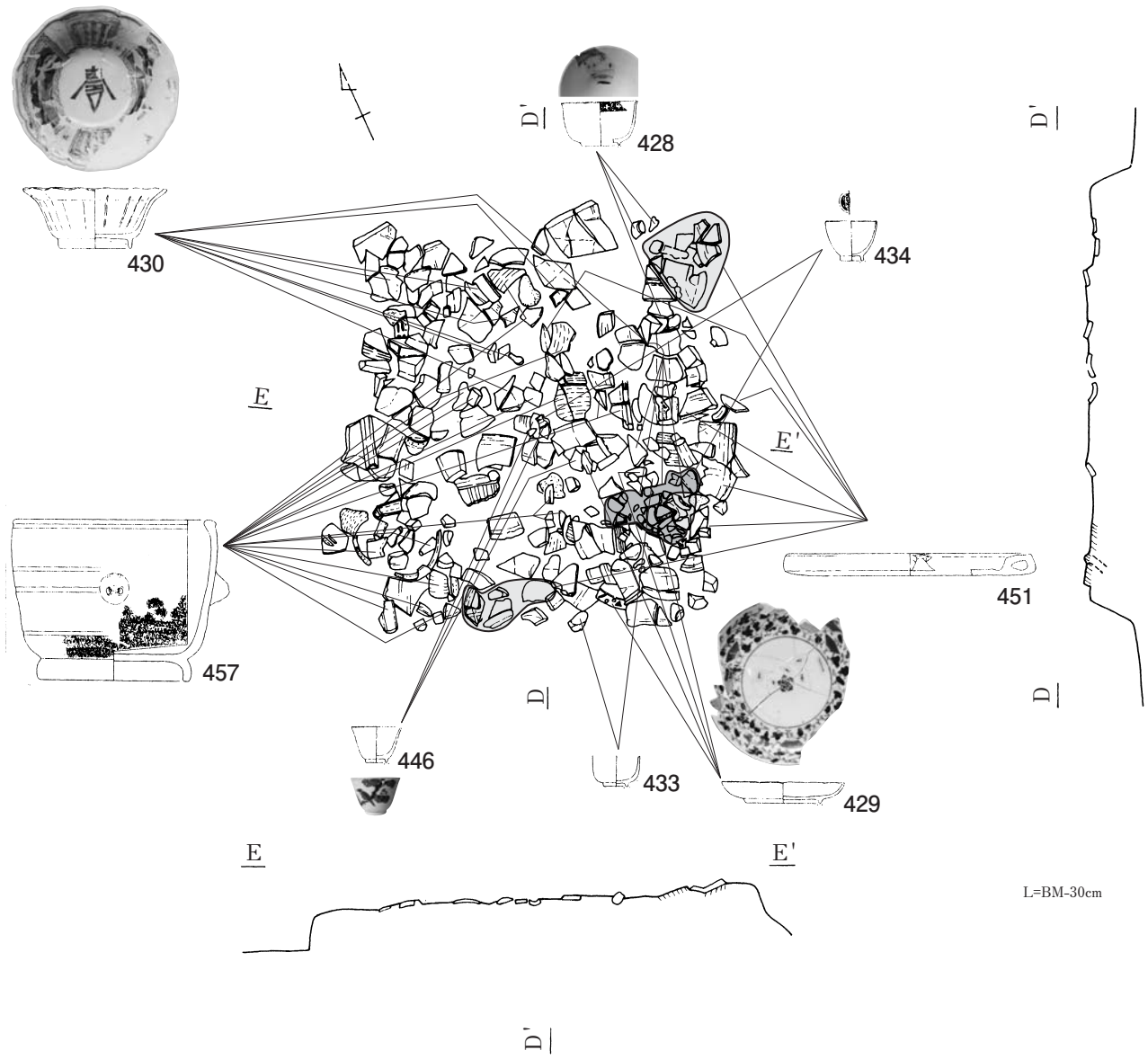
-463)・多量の瓦(土-466・469～472・474・475・480・481・483～492)・不明土器(土-495)・泥面子(土-499)が出土した。

銭貨が多数出土し、寛永通宝が9枚・文久通宝が1枚・他不明の鉄銭が10枚ある。スラグが143.2g出土した。

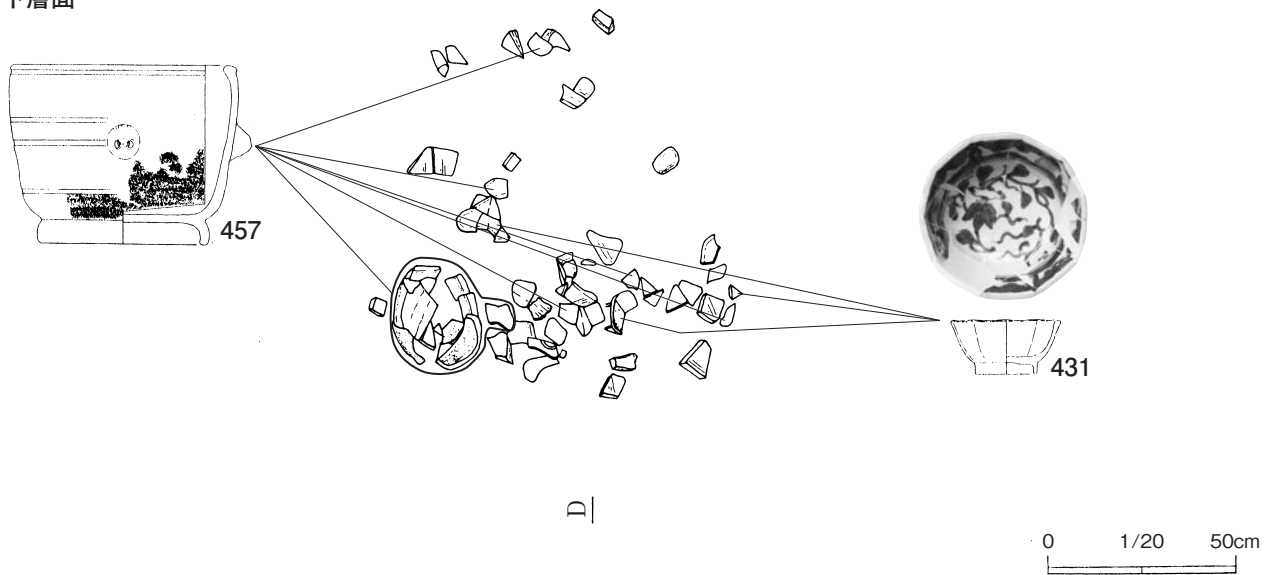
石製品では磨石(石-72～93)・板碑片(石-116・117)が大量に出土した。

縄文時代の磨石(他-47)が出土した。

上層面



下層面



第46図 多3次瓦集中部出土状況

第三章 出土した遺物

第1節 土器類

騎西城跡で出土している土器類は大略以下の通りに分類できる。

胎質では磁器・陶器・土器、生産地では国外産である輸入品、国内産に大別できる。また、器種は多様である。

これらの要素により時代等を加味し、掲載順は、輸入品では青磁・白磁・陶器・染付・朝鮮陶磁・その他、国産品では渥美・常滑・瀬戸美濃・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・京都信楽・ほか・産地不明・肥前系磁器・瀬戸美濃系磁器・在地産土器とする。その他で土製品を扱う。

以上、分類・年代等はいずれも暫定的なものでいずれ整理をしたい。さて、今回の調査で報告する土器類は主に以下の通りで細片は省略している。

【輸入陶磁】

〈青磁〉碗が騎武3次(38)で出土した。

○同安窯系 碗が騎3次(196)・多1次2溝(361)・遺構外(362)で、皿が騎3次(197)で出土した。

○龍泉窯系 碗が騎武8次(84・85)・騎3次(195)・多1次(363・364)で出土した。

〈白磁〉碗が多1次1溝(360)で、皿が騎武8次(86)・騎3次(198・199)・騎14次(327)で出土した。

〈染付〉碗が騎3次(200)で、皿が騎武2次(1・2)・騎武51次4溝(166)・騎3次(201~205)で、小坏が騎3次(206)で出土した。

【国産】

〈渥美〉甕が騎14次(328・329)で出土した。

〈常滑〉片口鉢が騎武8次(87)で、甕が騎武2次(3)・多1次1溝(358・359)・遺構外(365~369)で、鳶口壺が騎武50次(145)で、広口壺が多1次1溝(357)で出土した。

〈瀬戸美濃〉

○古瀬戸 平碗?が騎武3次(40)で出土した。

○古瀬戸後期 平碗が騎武3次(39)で、卸皿が騎

武8次(89)で、縁釉小皿が騎武51次(177)で、播鉢が騎3次(214・215)で出土した。

○大窯前半 天目茶碗が騎武2次(4)で、縁釉小皿が騎武8次(90・91)・騎武51次(178)・騎3次(207・208)で、丸皿が騎武9次(123)・騎3次(213)で、端反皿が騎武51次(179)・騎3次(209)で、端反皿か丸皿が騎武51次(180)・騎14次1溝(323)で出土した。

○大窯後半 天目茶碗が騎武51次(176)で、志野筒形碗が騎武50次(146)で、皿が騎武2次(11)で、志野丸皿が騎武3次(43)で、稜皿か反皿が騎武50次1壙(139)で、丸皿が騎武51次(181)・騎3次(210~212)で、志野向付が騎武8次(96)で、播鉢が騎14次(337)で出土した。

●登窯期 碗が騎14次(331)で、志野小碗が騎武8次2壙(82)で、鉄絵皿が騎武8次(95)で、志野菊皿が騎武50次(148)で、志野丸皿が騎武2次(8)・騎武50次(149・150)・騎武51次(183)で、皿が騎武50次(151)・騎武51次(182)で、鉢が騎武2次(13)で、香炉が騎武2次(15)で、煙硝播が多2次(399)で出土した。

大窯から登窯後半の志野丸皿か鉢が騎武50次(147)で出土した。

〈肥前系陶器〉京焼風陶器碗が騎武3次(52)で、丸碗が騎武8次(97)で、鉢が騎武2次(16)・騎武3次(55)・騎14次1溝(324)で、京焼風陶器皿が多2次1溝(379)で出土した。肥前と思われる皿・鉢?・徳利が騎武3次(53・54)・多2次(403)で出土した。

○唐津 皿が騎武8次(98)・騎14次(340)で、小坏が騎武8次(99)で出土した。

〈志戸呂〉播鉢が騎14次(341)で出土した。

志戸呂系皿が騎武2次(17)・騎武3次(56)で出土した。

〈備前〉徳利が騎武51次(184)で出土した。備前・信楽系の壺が騎武2次(18)で出土した。

〈丹波・信楽〉丹波の播鉢が騎14次(342)・多2次1溝(380)で出土した。丹波系の播鉢が騎15次(352)で出土した。信楽の播鉢が騎武2次(19・20)で出土した。

信楽系の播鉢が騎武3次(57・58)で出土した。

〈塚〉塚系の播鉢が騎武3次(59)・多2次1溝(381・382)で出土した。

〈肥前系磁器〉碗が騎武3次(61・62・64)・騎15次(353~356)で、染付碗が騎武8次(100)・騎14次1溝(325)・遺構外(343~346)・多2次1溝(383)・4壙(390)・遺構外(405~407)で、筒形碗が騎武3次(63)・騎武8次(101)で、青磁染付碗が多3次(428)で、青磁碗が多2次12壙(397)で、染付皿が騎14次(347)・多2次1溝(384~386)・遺構外(409)・多3次(429)で、皿か鉢が多2次(408)で、鉢が多3次(430~432)で、小坏が騎武2次(21)・多2次4壙(392)・遺構外(410)・多3次(433・434)で、合子蓋が多2次4壙(391)で出土した。

〈瀬戸美濃系磁器〉丸碗が多3次1溝(417)・1壙(423)・遺構外(442・443)で、染付端反碗が多3次(435~441)で、染付皿が多3次(444)で、鉢が多3次(445)で出土した。瀬戸美濃系の碗が騎武3次(60)で出土した。

〈在地産土器〉

○かわらけ ほぼ全ての調査区から出土したが特に騎3次で多い。

油煙が付着したものは騎武8次(80)・騎武9次(125)・騎3次(217・235)で、ススが付着したものは騎武3次(67・68)・騎3次(219・232)・多2次(387)で、**黒色物質が付着したものは騎武50次(130・154・155・158)・騎武51次(187)で、墨が付着したものは騎3次(229)で出土した。**

騎武8次(109)・騎3次(255)は胎土に金雲母が見られる。

○小埴 騎3次(216)で出土した。

○ほうろく 騎12次・騎15次・多1次以外で出土している。

○土鍋 騎12次(308・310)で出土した。

○播鉢 騎武2次(37)・騎武3次(71・72)・騎武8次(78・114・115)・騎武9次(116・122)・騎武51次(165・167)・騎3次(301~306)・騎12次(311~313)・騎14次(317・321・326)が出土している。

○片口鉢 騎武50次(144)・騎武51次(175・192)・多3次(455・456)で出土した。

○捏鉢 多1次(370)で出土した。

○火鉢 騎武51次(168)・多3次(419・457~461)で出土した。火鉢思われるものが騎武3次(73)・多2次(416)で出土した。

○手焙りと思われるものが多3次(462・463)で出土した。

○瓦 多2次(394)と、多3次では多数出土した。

【その他】

焜炉の目皿・瓦器が多2次(388・389)で、泥面子が騎武8次(497・498)・多3次(499)で出土した。

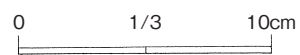
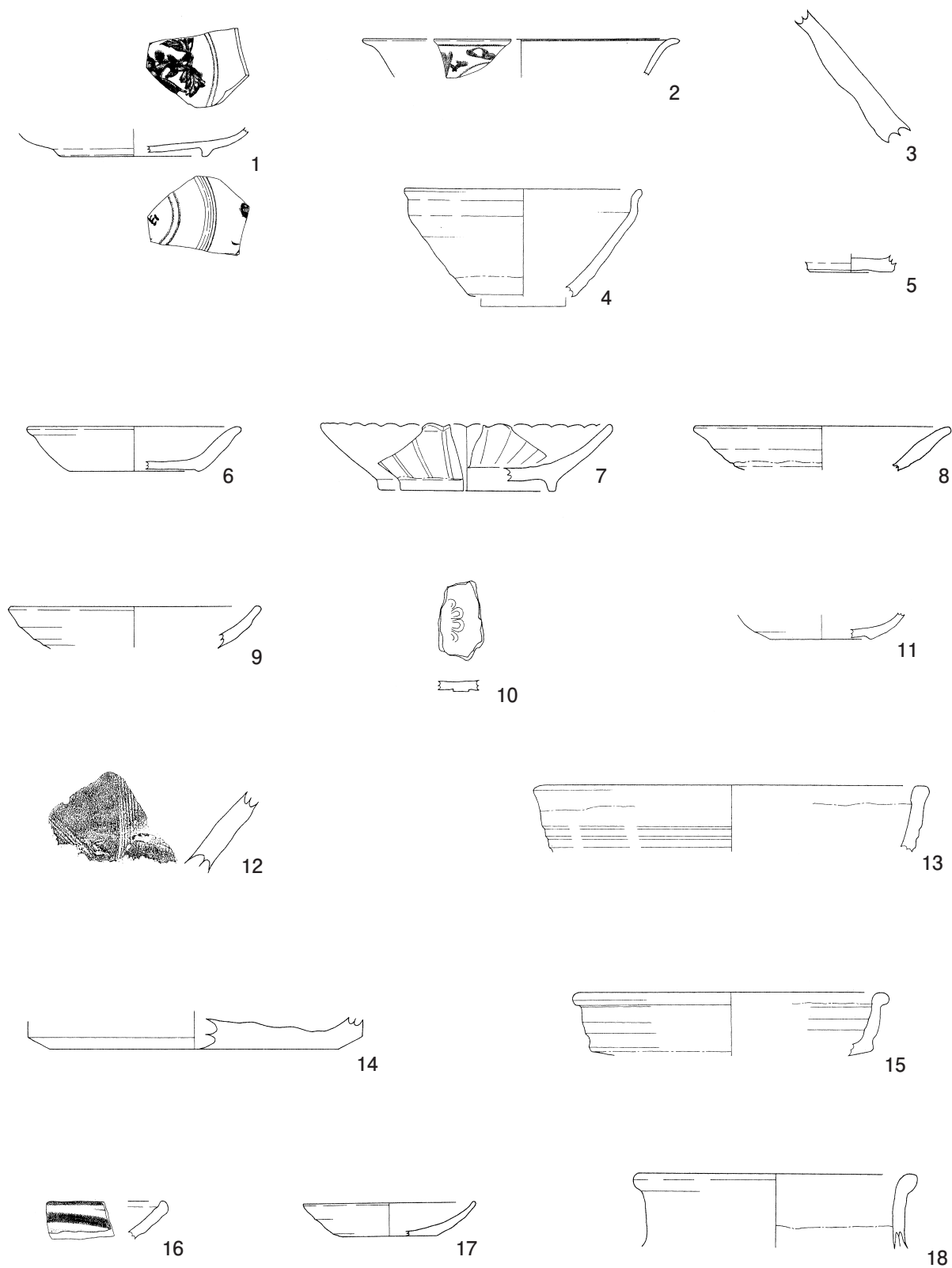
《遺物一覧表中 かわらけの分類について》

※現在までの調査で騎西城跡で最も古い遺構は騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝である。この溝からは瀬戸美濃大窯1の播鉢が1個体確認されているが、大窯1の特徴的な皿である端反皿は1点も確認されていない。こうした問題点もあるが、この遺構から出土したかわらけ(『騎西町史』考古資料編1p430の騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝No40~71)をとりあえずは、騎西城I期のかわらけとする。年代的には15C中~16C前半としておく。

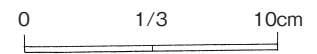
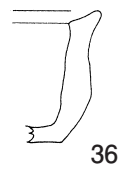
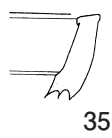
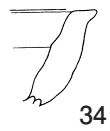
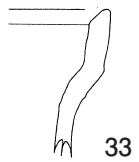
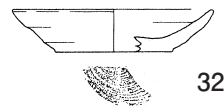
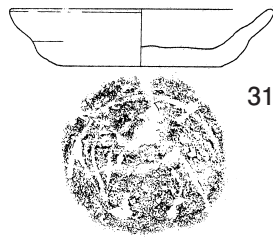
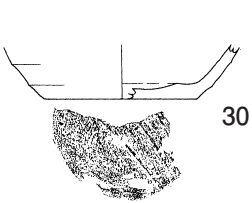
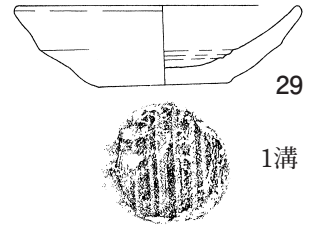
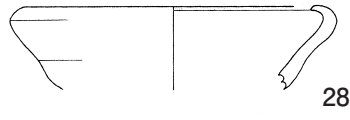
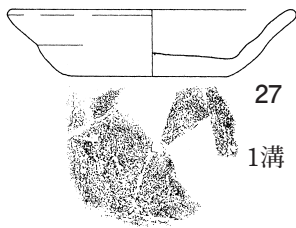
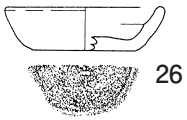
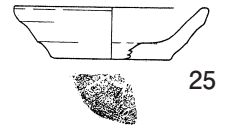
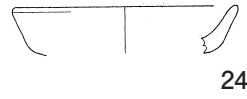
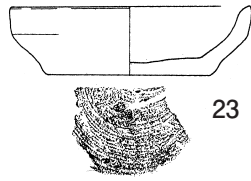
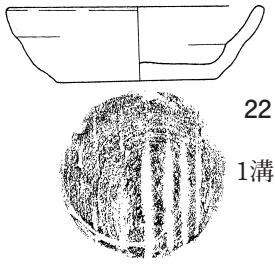
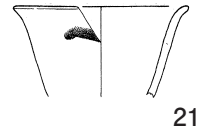
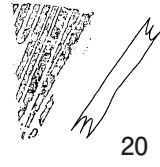
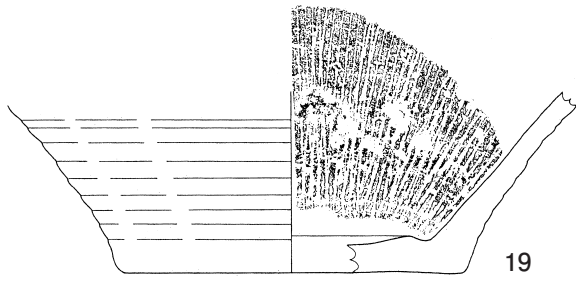
次に、同資料編1p457の騎西城跡第15区の10堀・25堀下層出土かわらけNo64・65・67・70、72~77、79・81~84がある。このうち64・72・82はI期のかわらけである。この10堀・25堀の上層では志野や唐津などの陶器が出土しているが、下層からは出土せず瀬戸美濃大窯3の削りこみ高台の鉄釉皿(同資料編1p452No29・30)と共伴している。また、騎西城跡第19区7堀の中位層から約20個体のかわらけがまとまった形で出土しており(同資料編1p474・475No29~47、写真222)、共伴遺物は口縁部を欠く大窯期の播鉢のみであるが、中位層以下からは志野や唐津は確認されていない。そのため、このかわらけ群をII期とし年代は16C中~末とする。

III期は騎西城跡第19区の炭化物層出土かわらけ(同資料編1p490No47~66)がある。この炭化物層は前述の第19区7堀の上層に厚さ約1mで確認され、ここからは瀬戸美濃の連房1や2の志野丸皿、連房1の総織部皿、肥前系陶器の唐津鉄絵皿などが共伴している。また、騎西城武家屋敷跡第4区の1

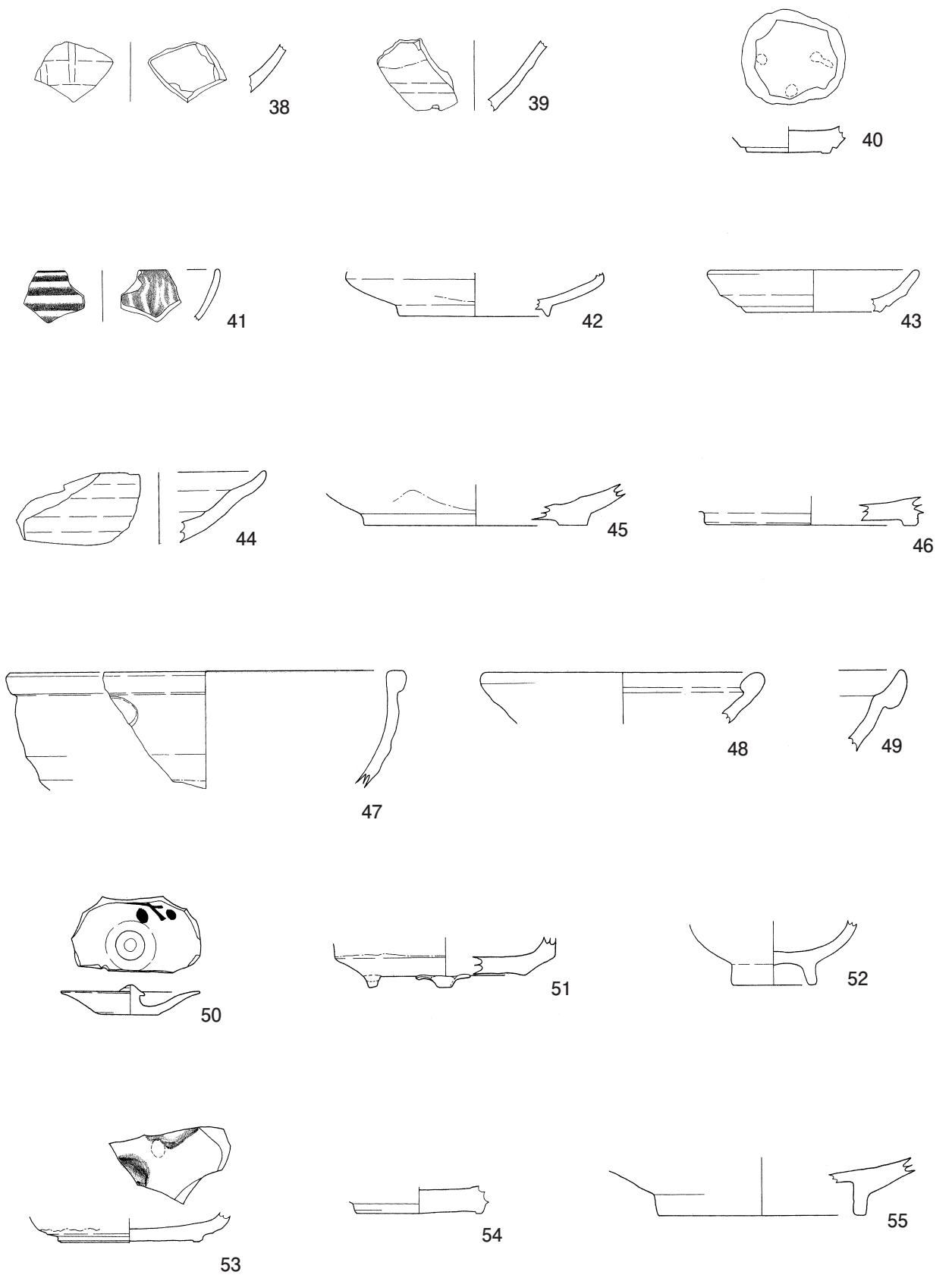
→103ページへ続く



第47図 土器類1 (騎武2次1)

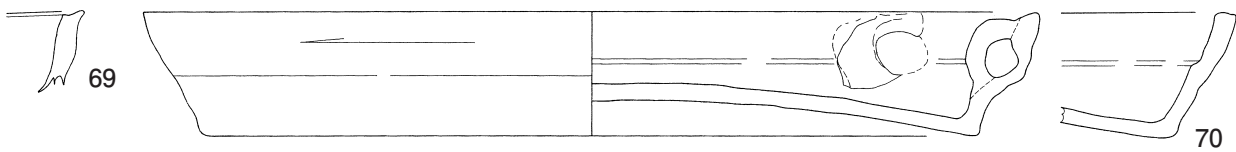
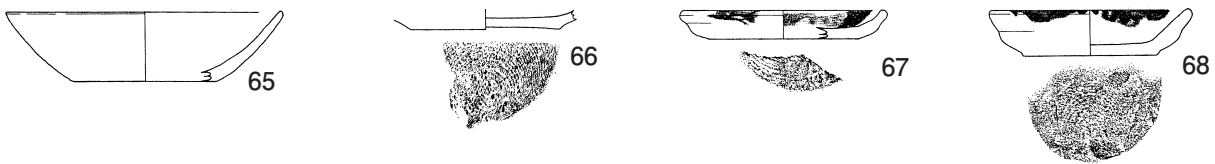
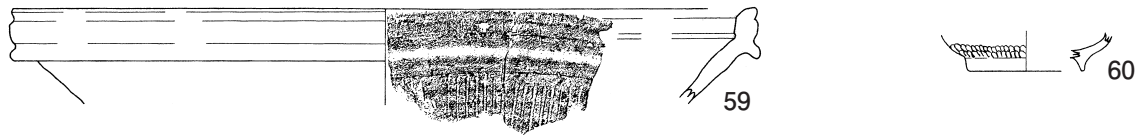
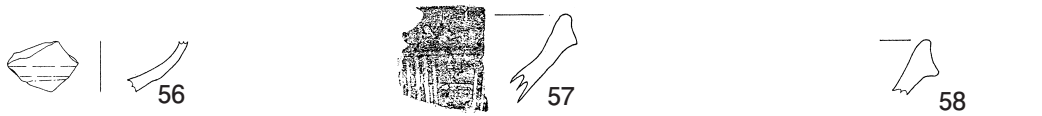


第48図 土器類2 (騎武2次2)

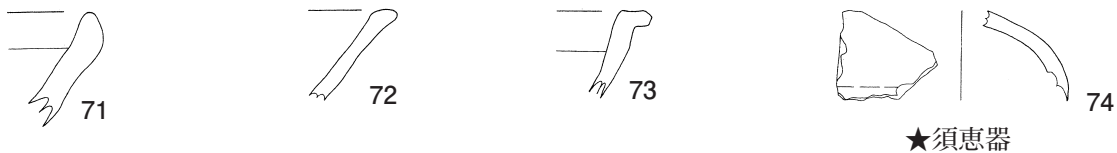


0 1/3 10cm

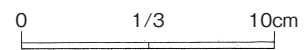
第49図 土器類3 (騎武3次1)



★騎3次

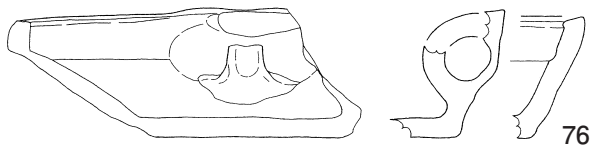
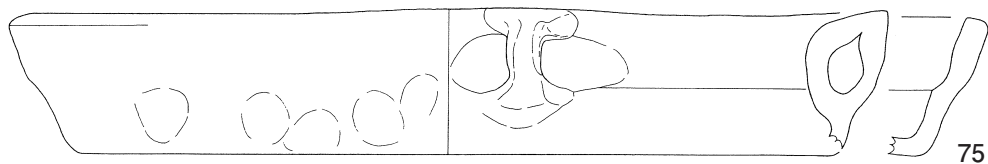


★須恵器

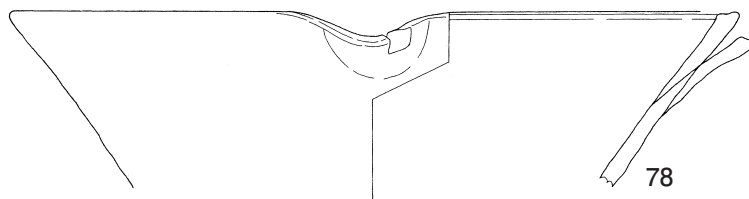


第50図 土器類4 (騎武3次2)

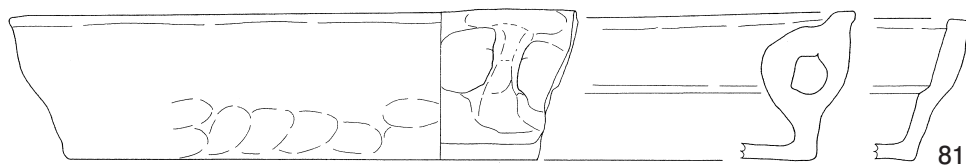
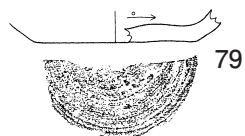
1溝



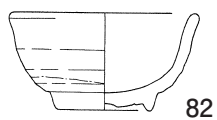
1井



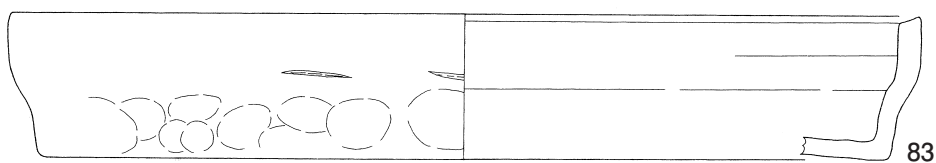
1壙



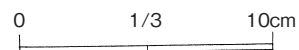
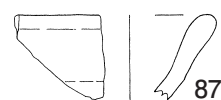
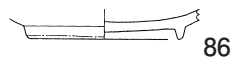
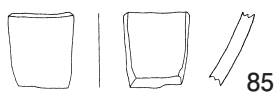
2壙



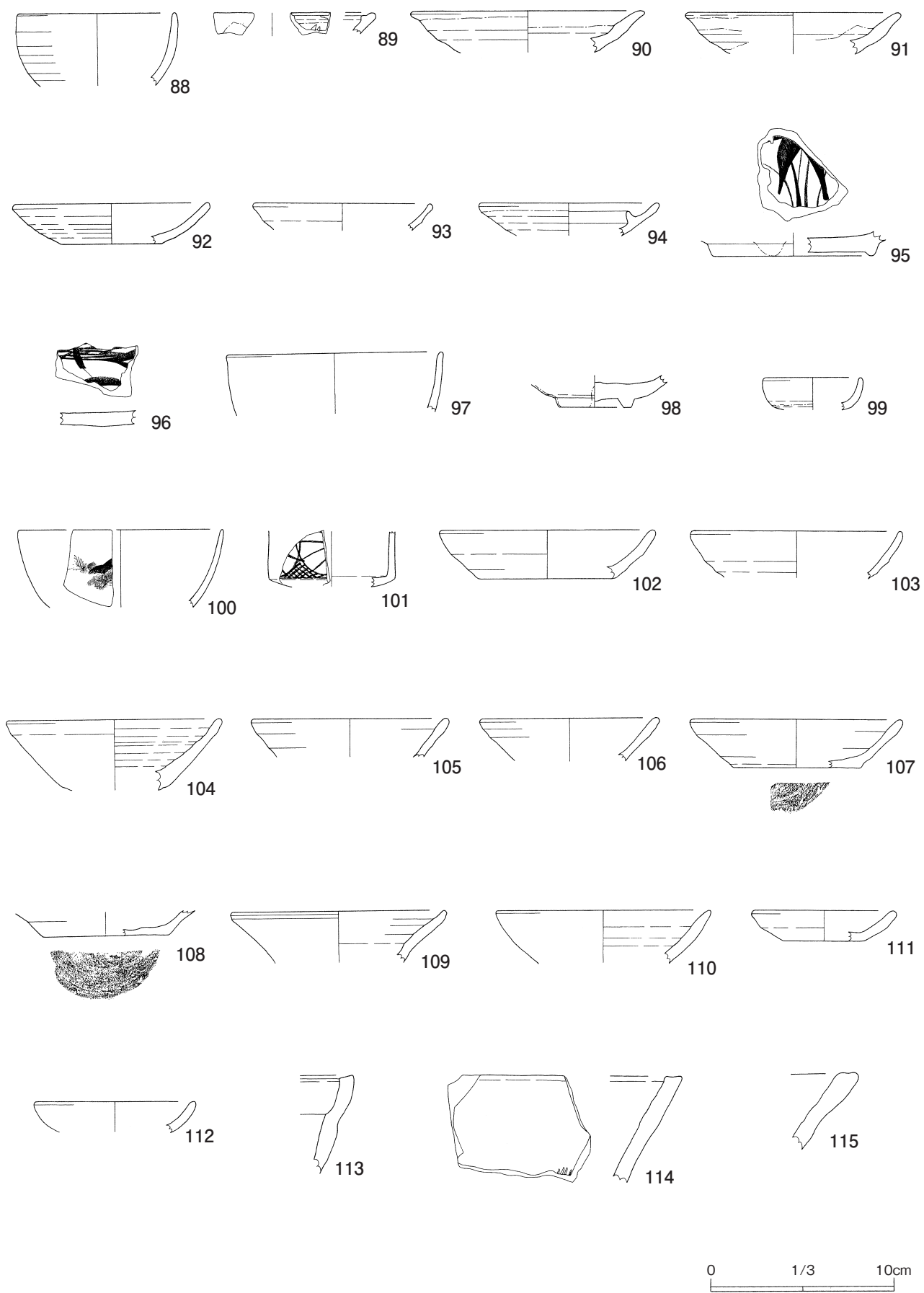
7壙



遺構外

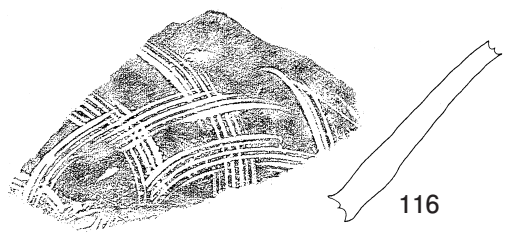


第51図 土器類5 (騎武8次1)

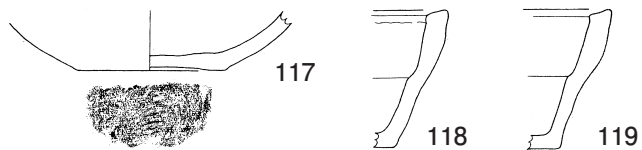


第52図 土器類6 (騎武8次2)

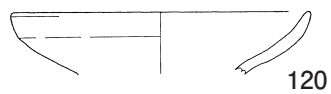
1溝



1井



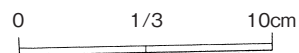
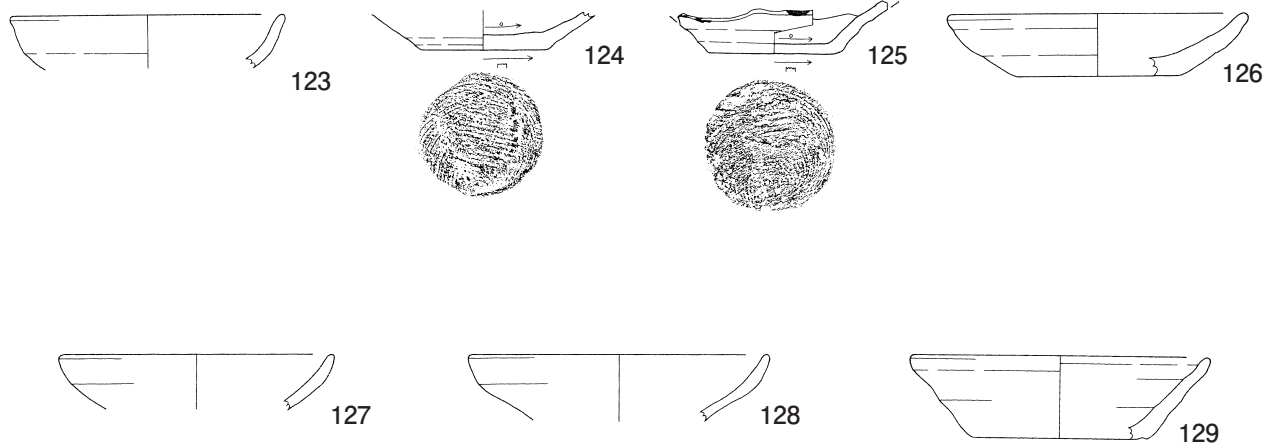
1壙



3壙

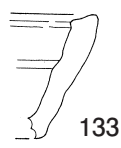
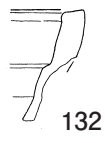
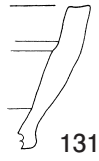
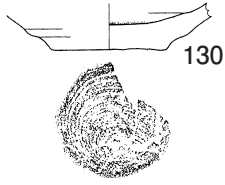


遺構外

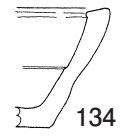


第53図 土器類7 (騎武9次)

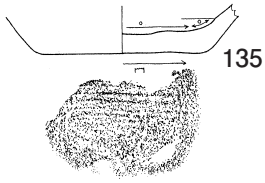
2溝



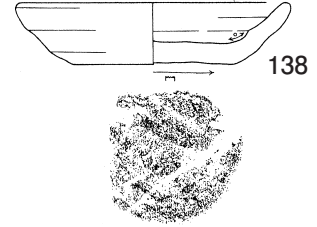
4溝



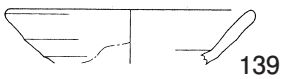
1井



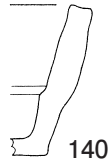
2井



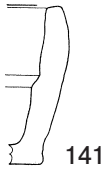
1壙



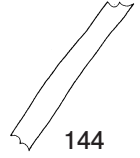
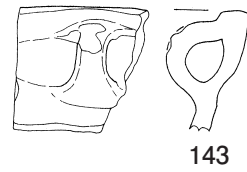
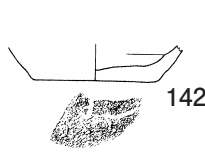
1・2壙



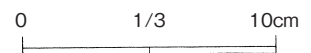
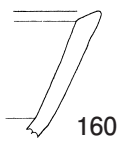
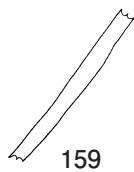
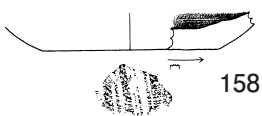
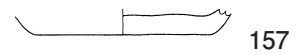
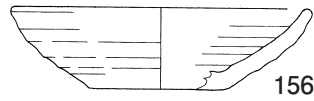
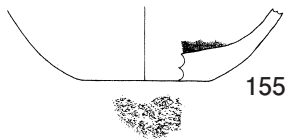
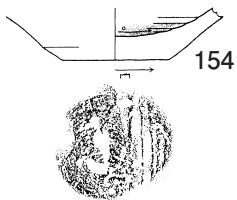
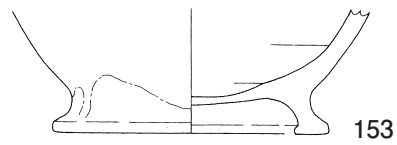
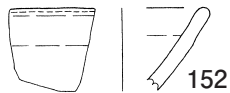
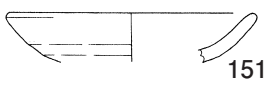
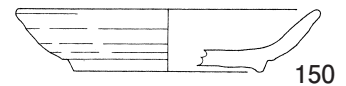
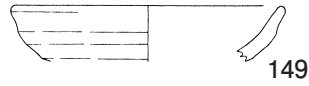
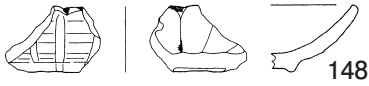
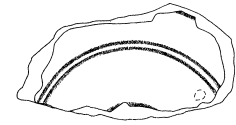
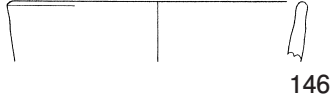
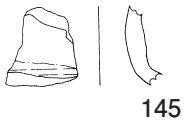
4・6壙



10壙

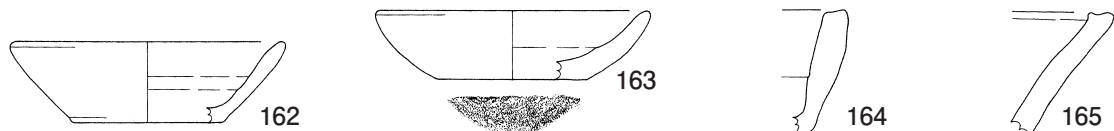


遺構外

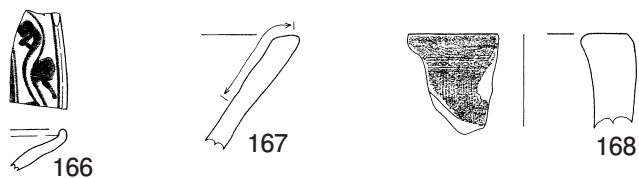


第54図 土器類8 (騎武50次)

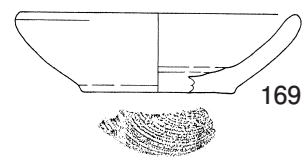
1溝



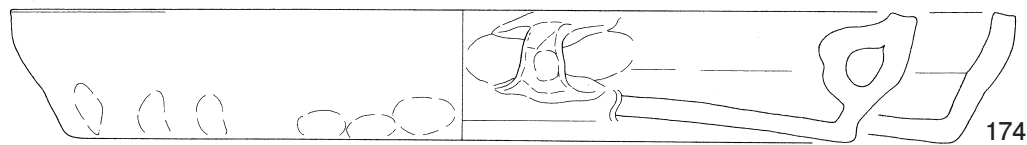
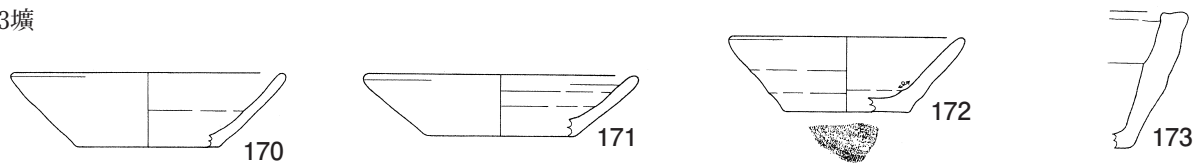
4溝



5溝



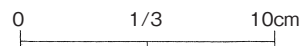
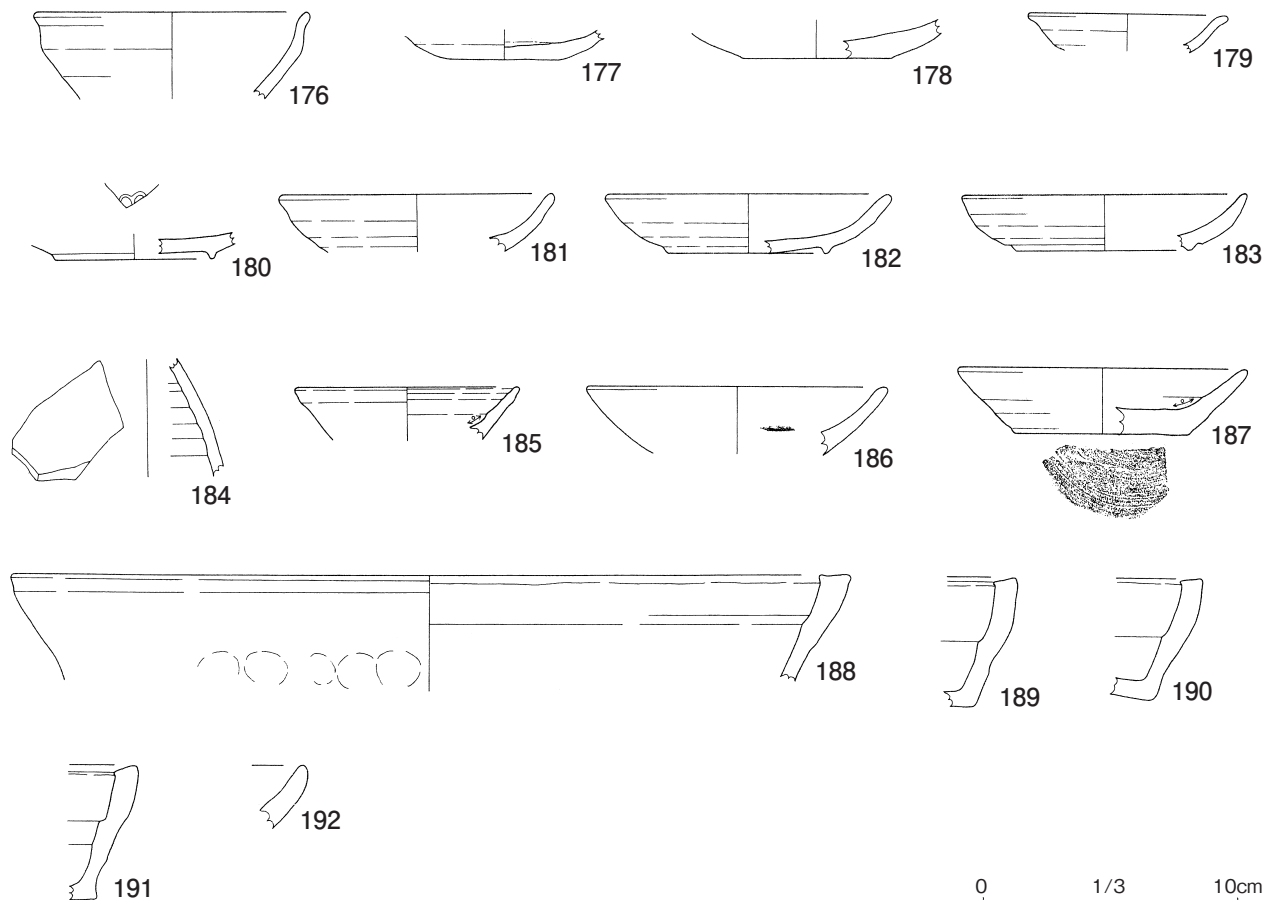
3溝



11溝

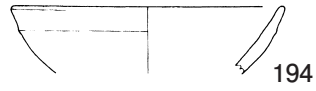
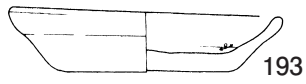


遺構外

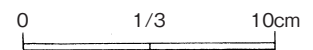
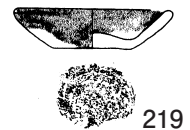
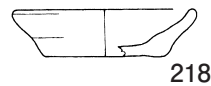
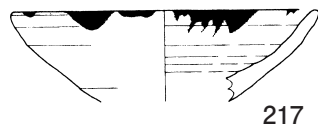
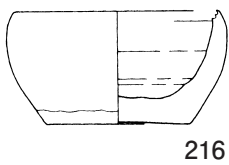
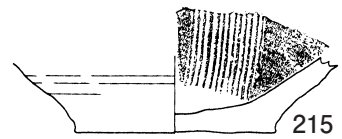
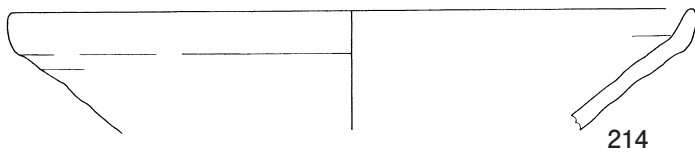
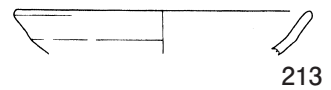
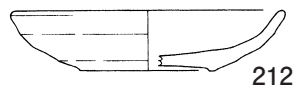
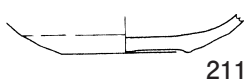
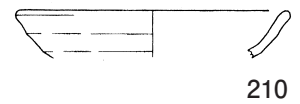
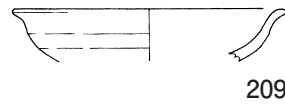
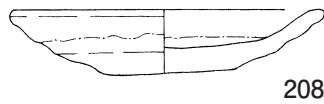
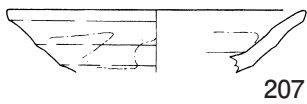
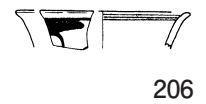
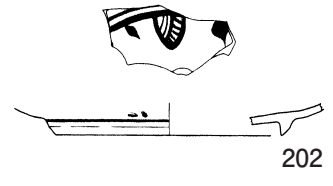
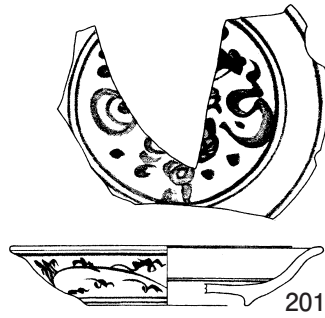
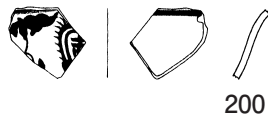
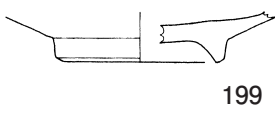
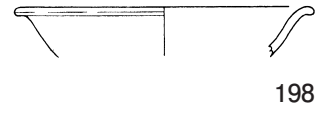
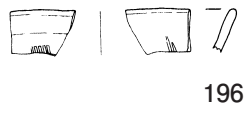


第55図 土器類9 (騎武51次)

1溝

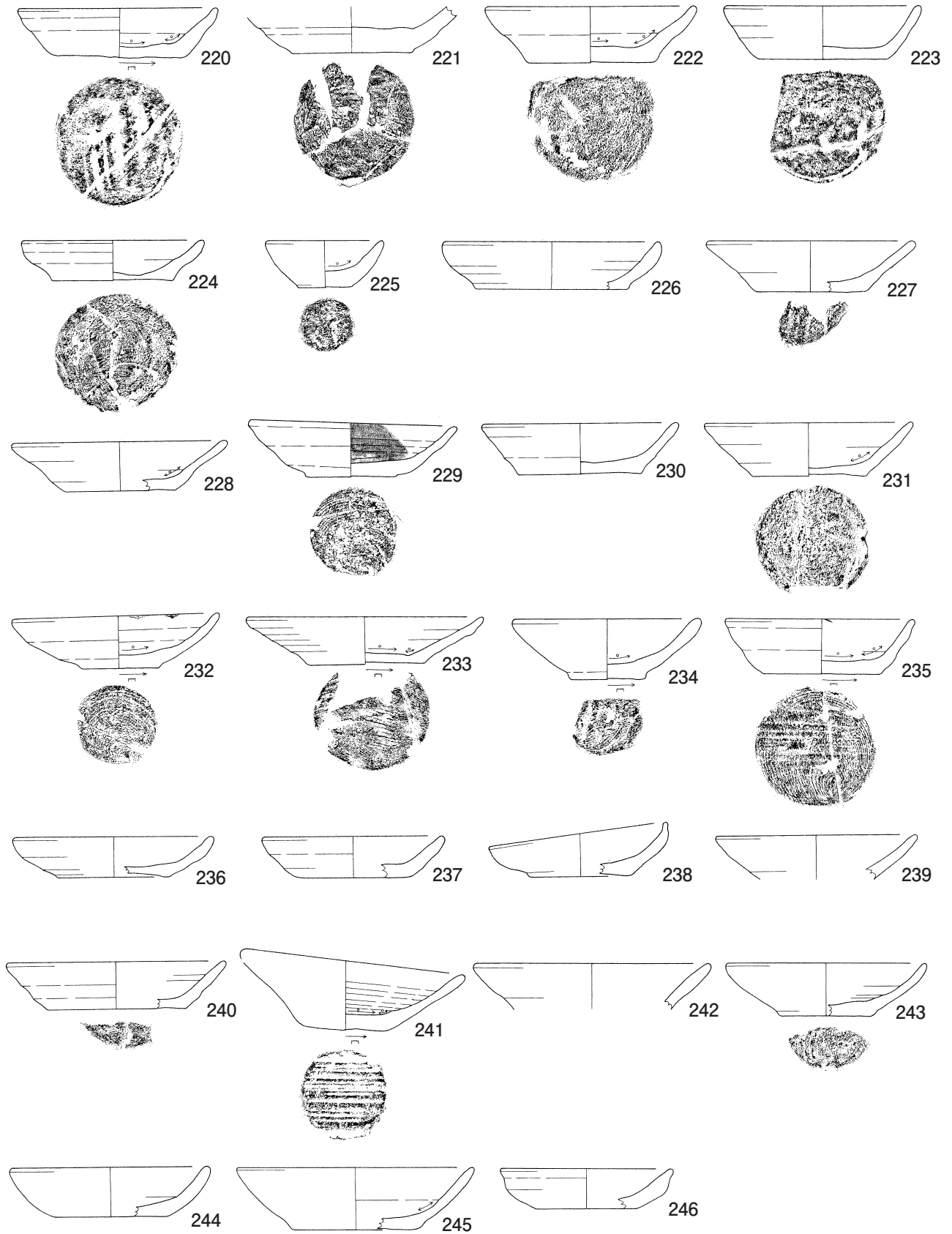


遺構外



第56図 土器類10 (騎3次1)

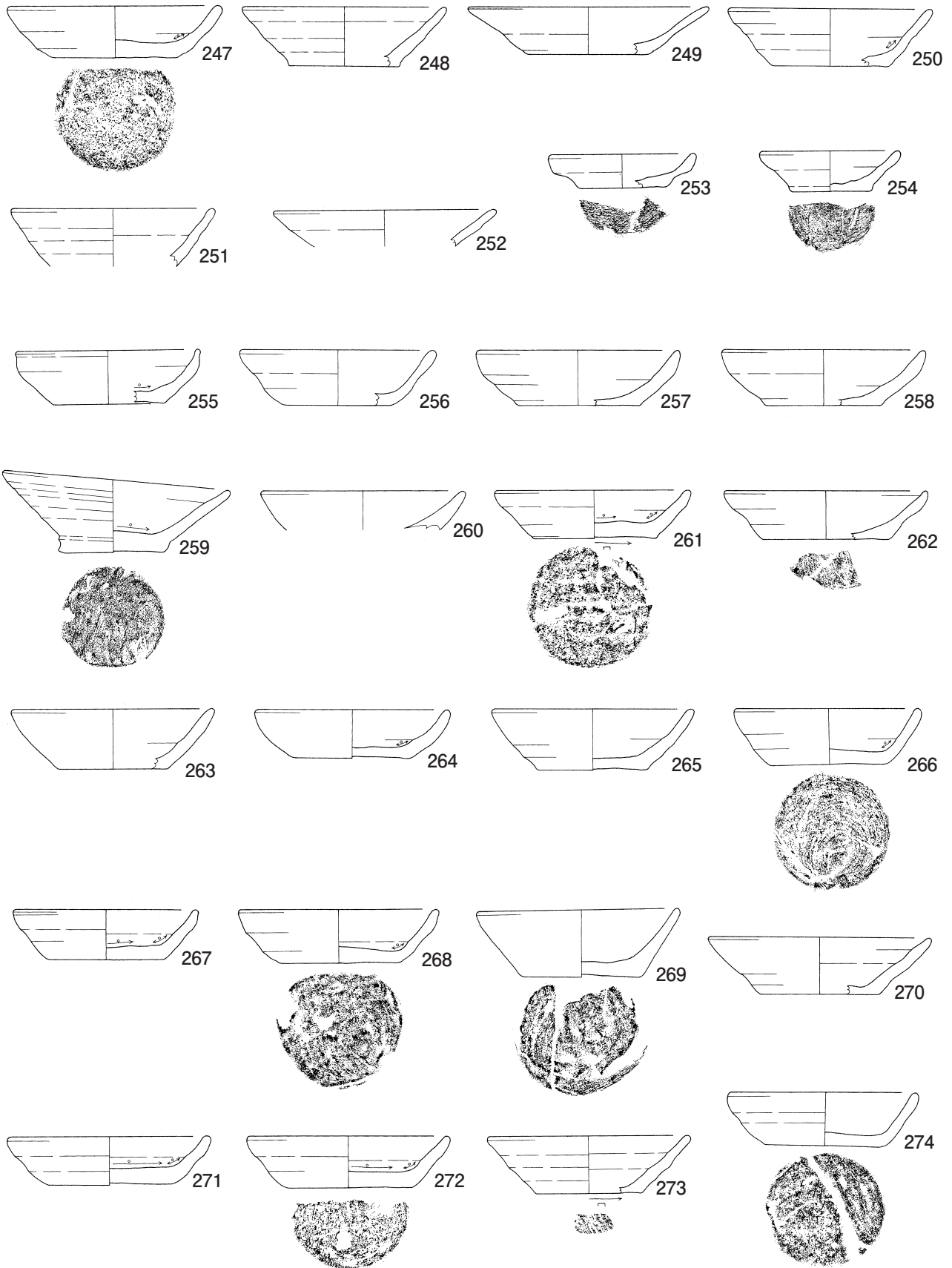
遺構外



0 1/3 10cm

第57図 土器類11 (騎3次2)

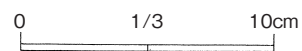
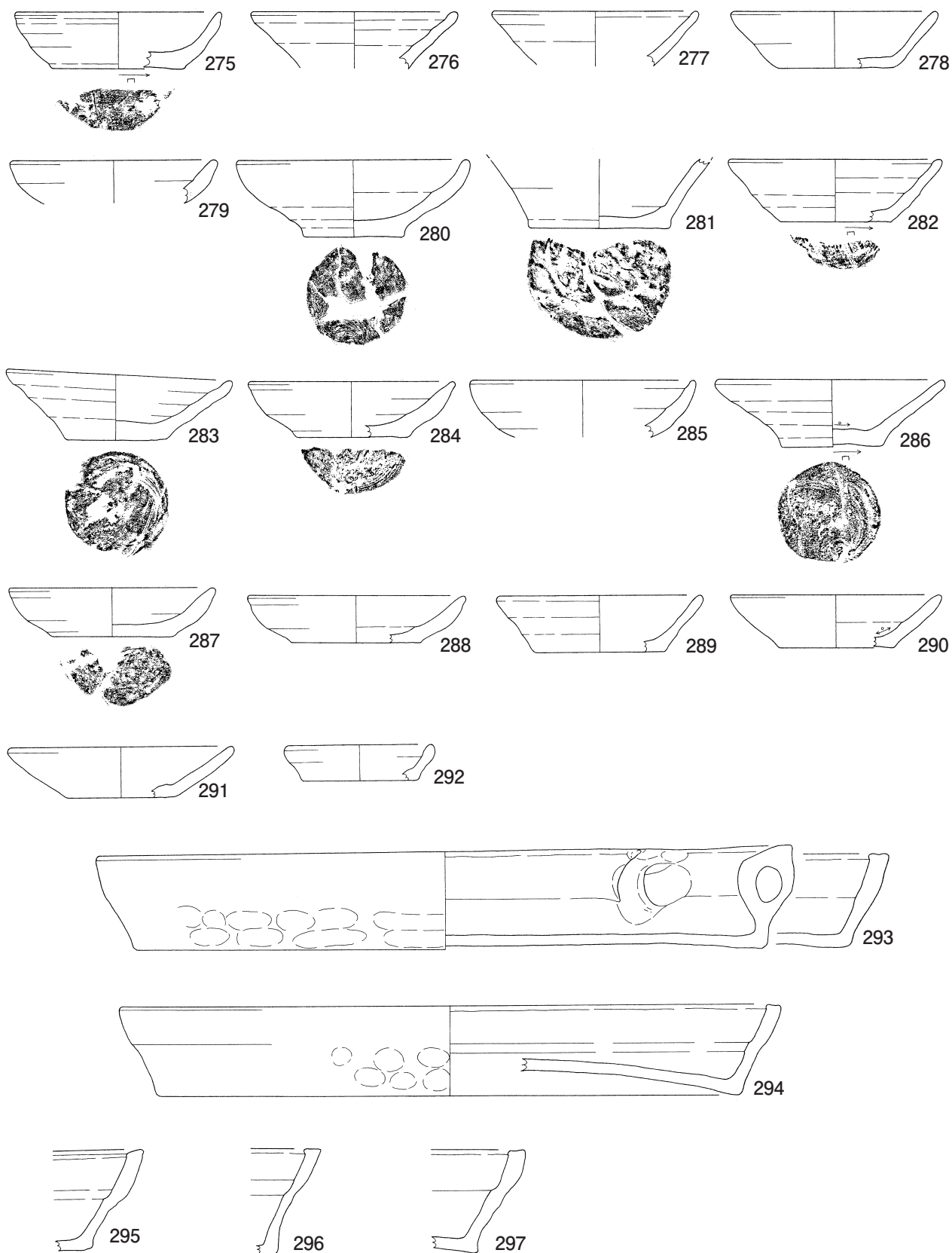
遺構外



0 1/3 10cm

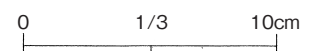
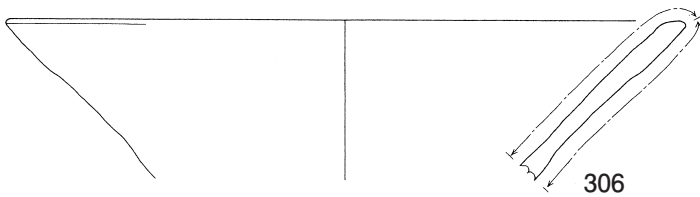
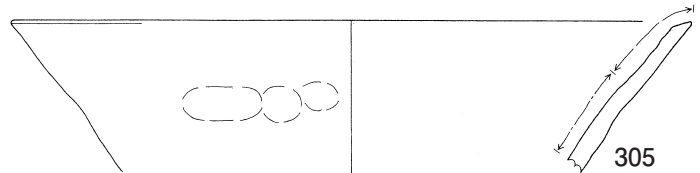
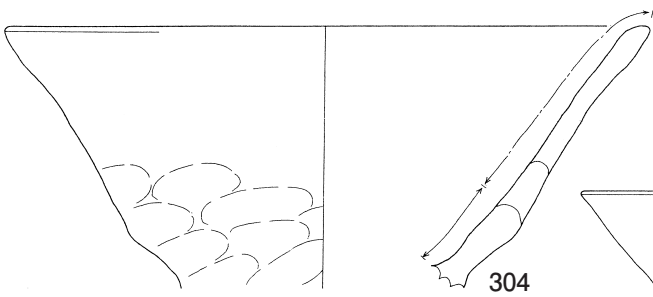
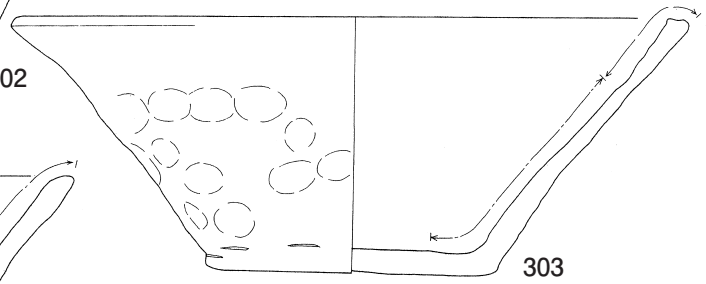
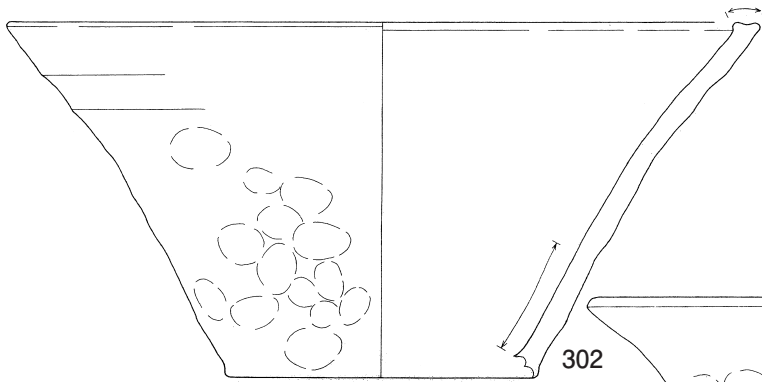
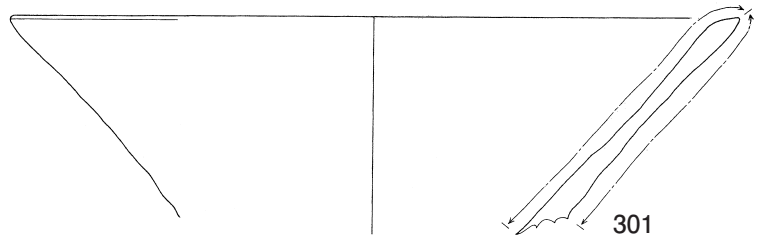
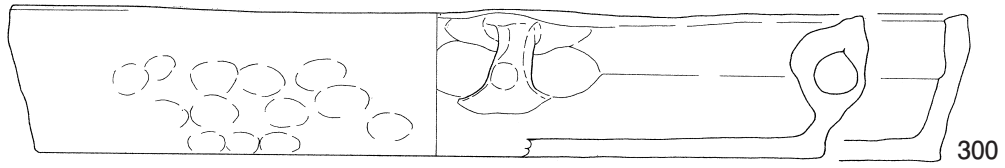
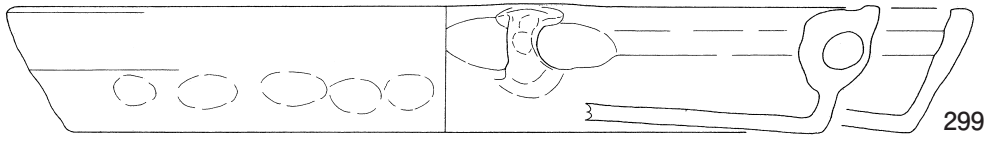
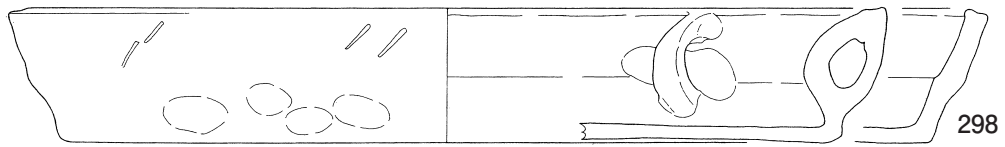
第58図 土器類12 (騎3次3)

遺構外



第59図 土器類13 (騎3次4)

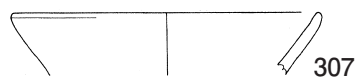
遺構外



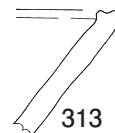
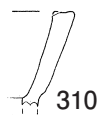
第60図 土器類14 (騎3次5)

騎12次

2井

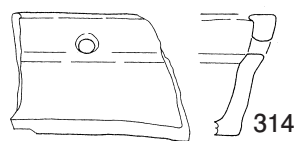


遺構外

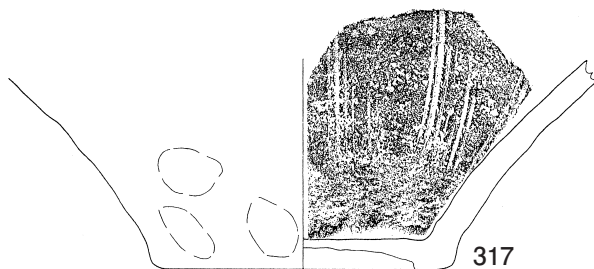
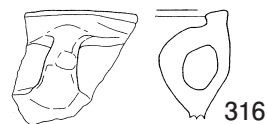
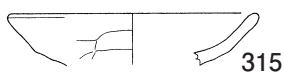


騎14次

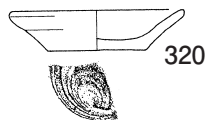
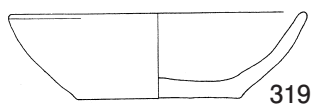
2堀



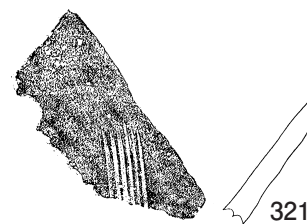
3堀



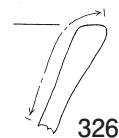
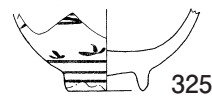
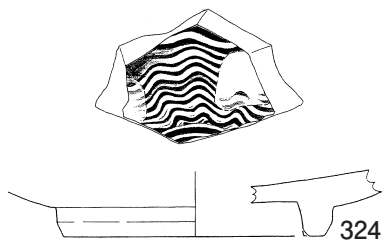
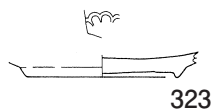
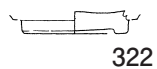
5堀



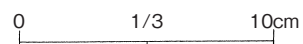
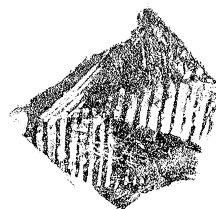
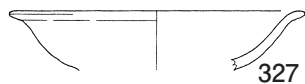
6堀



1溝

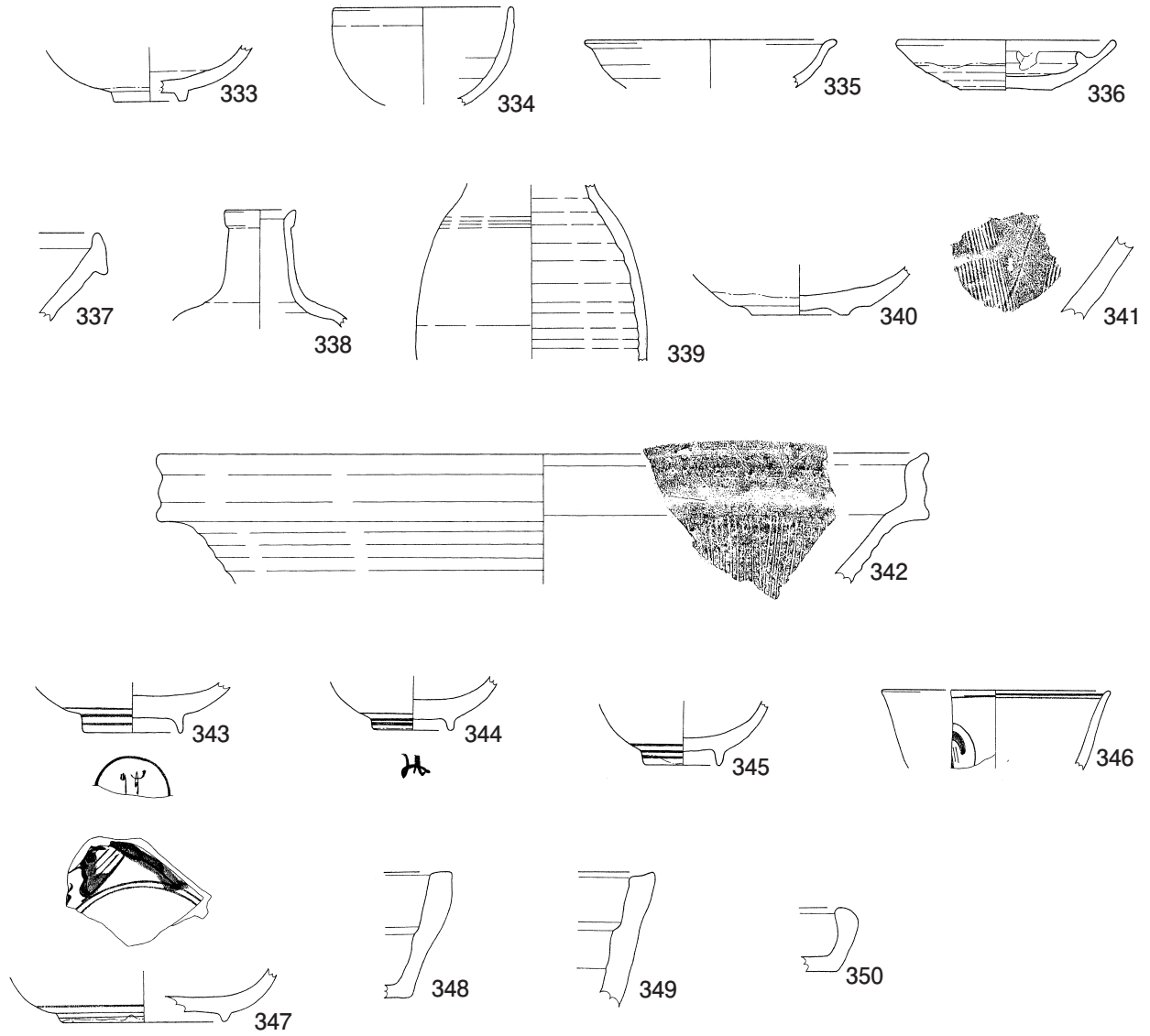


遺構外(1)

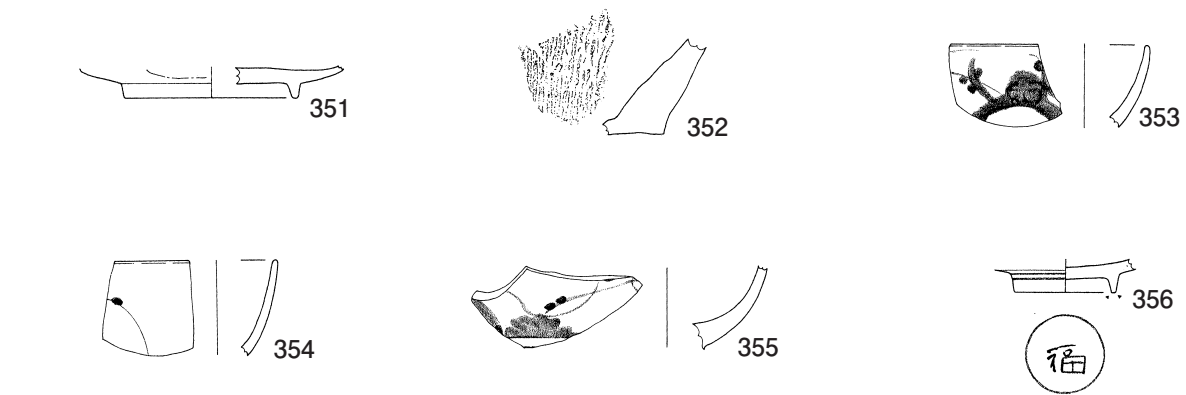


第61図 土器類15 (騎12・14次)

遺構外(2)



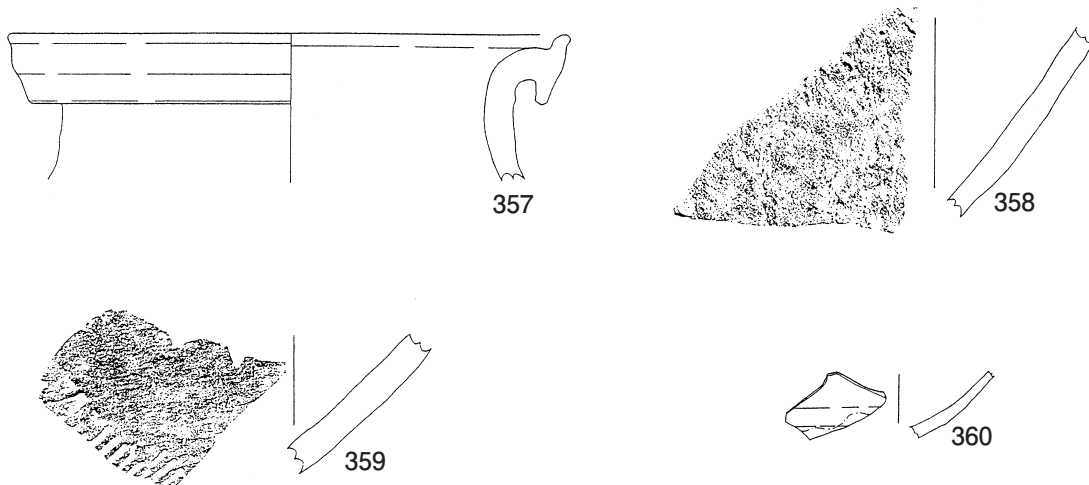
騎15次 遺構外



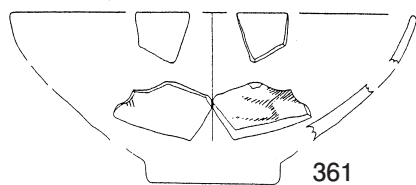
0 1/3 10cm

第62図 土器類16 (騎14・15次)

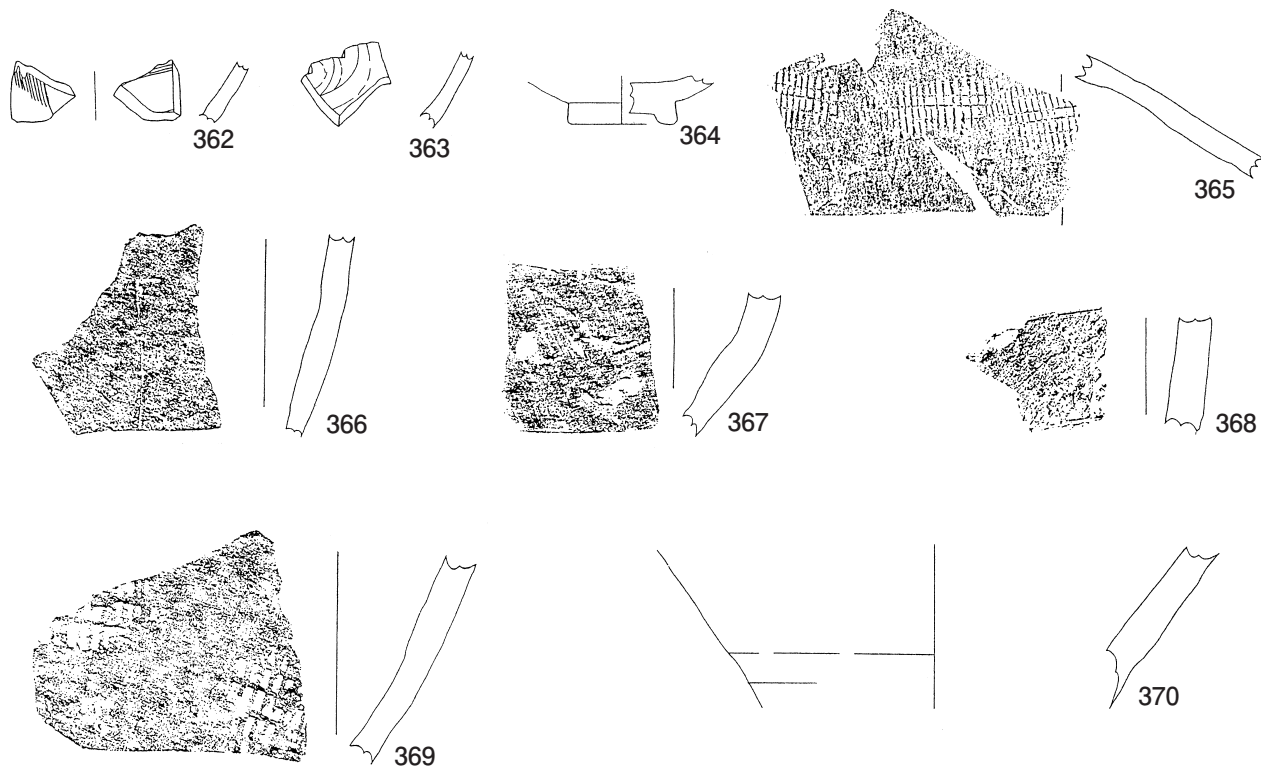
1溝



2溝



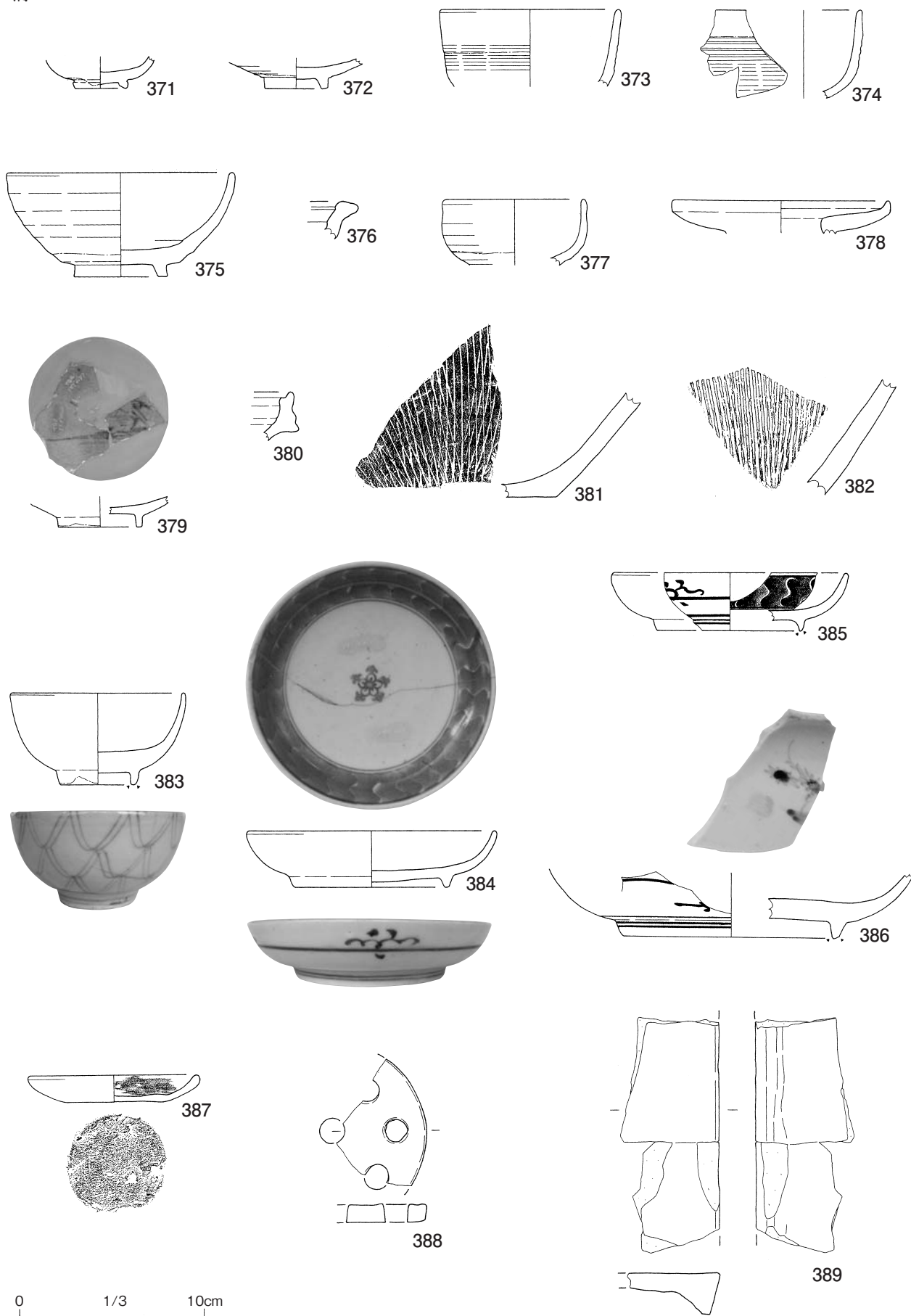
遺構外



0 1/3 10cm

第63図 土器類17 (多1次)

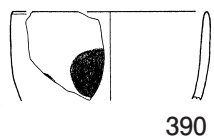
1溝



0 1/3 10cm

第64図 土器類18 (多2次1)

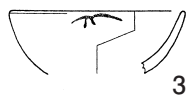
4墳



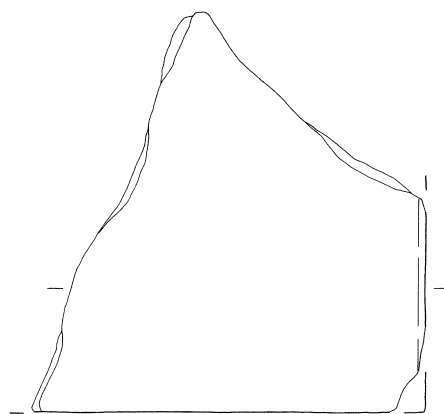
390



391

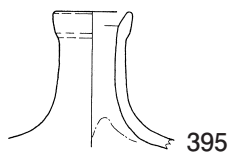


392

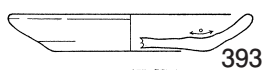


394

11墳



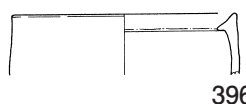
395



393



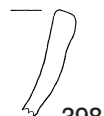
12墳



396

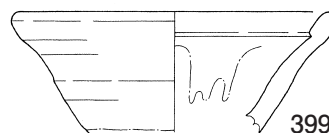


397

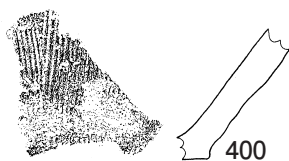


398

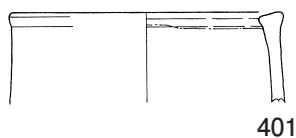
遺構外



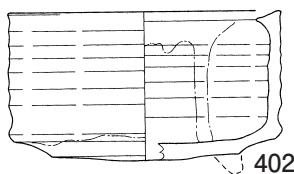
399



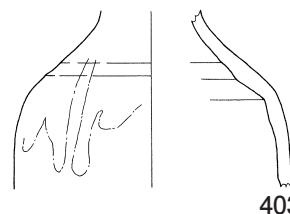
400



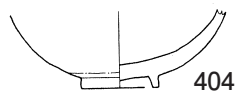
401



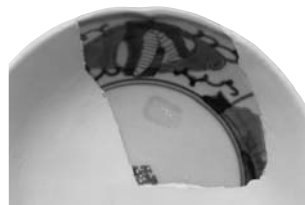
402



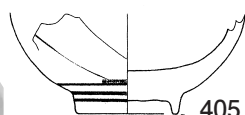
403



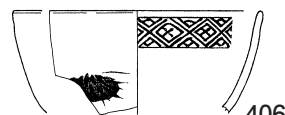
404



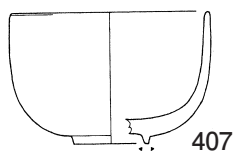
405



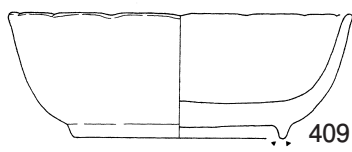
405



406



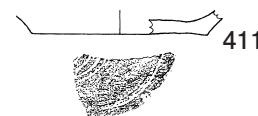
407



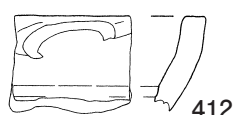
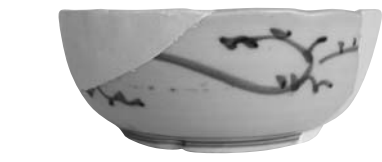
409



410



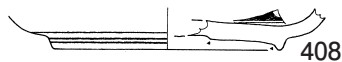
411



412



413



408



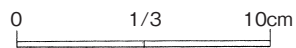
414



415

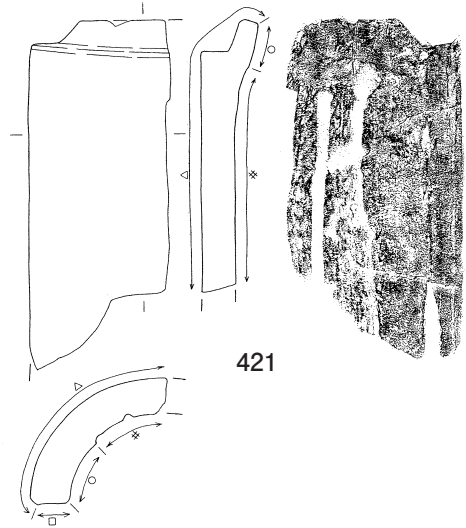
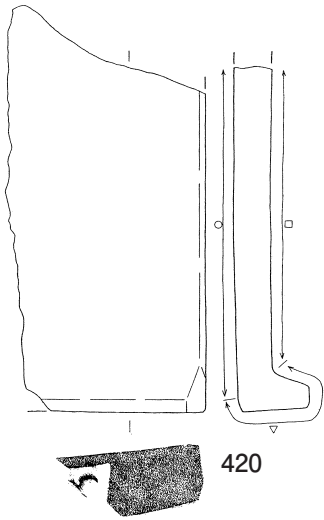
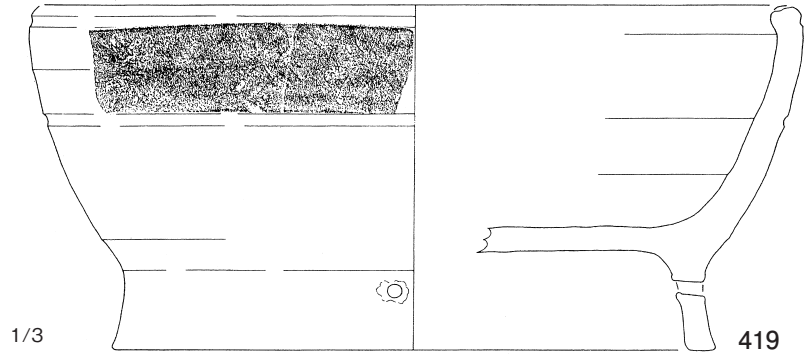
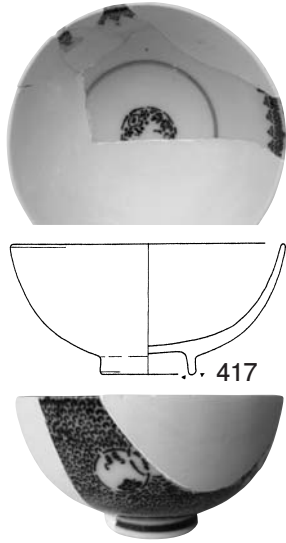


416

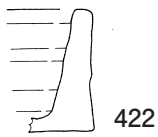


第65図 土器類19 (多2次2)

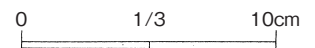
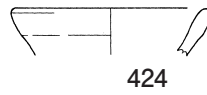
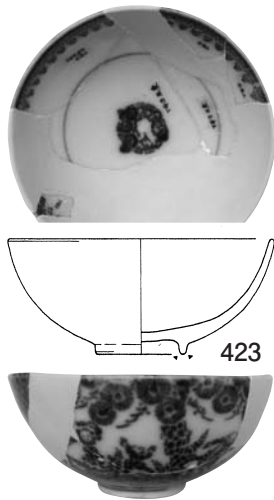
1溝



3溝

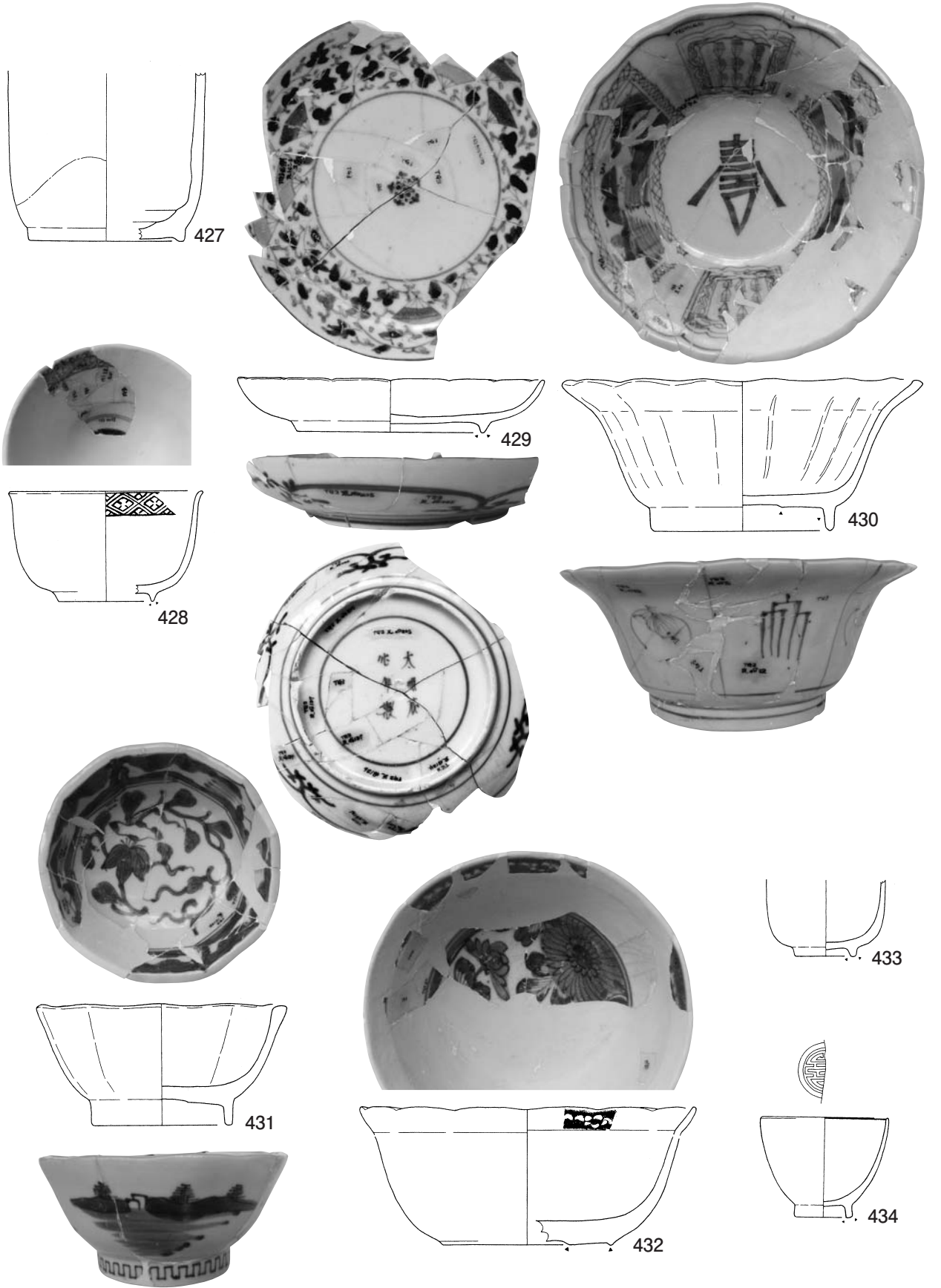


1壙

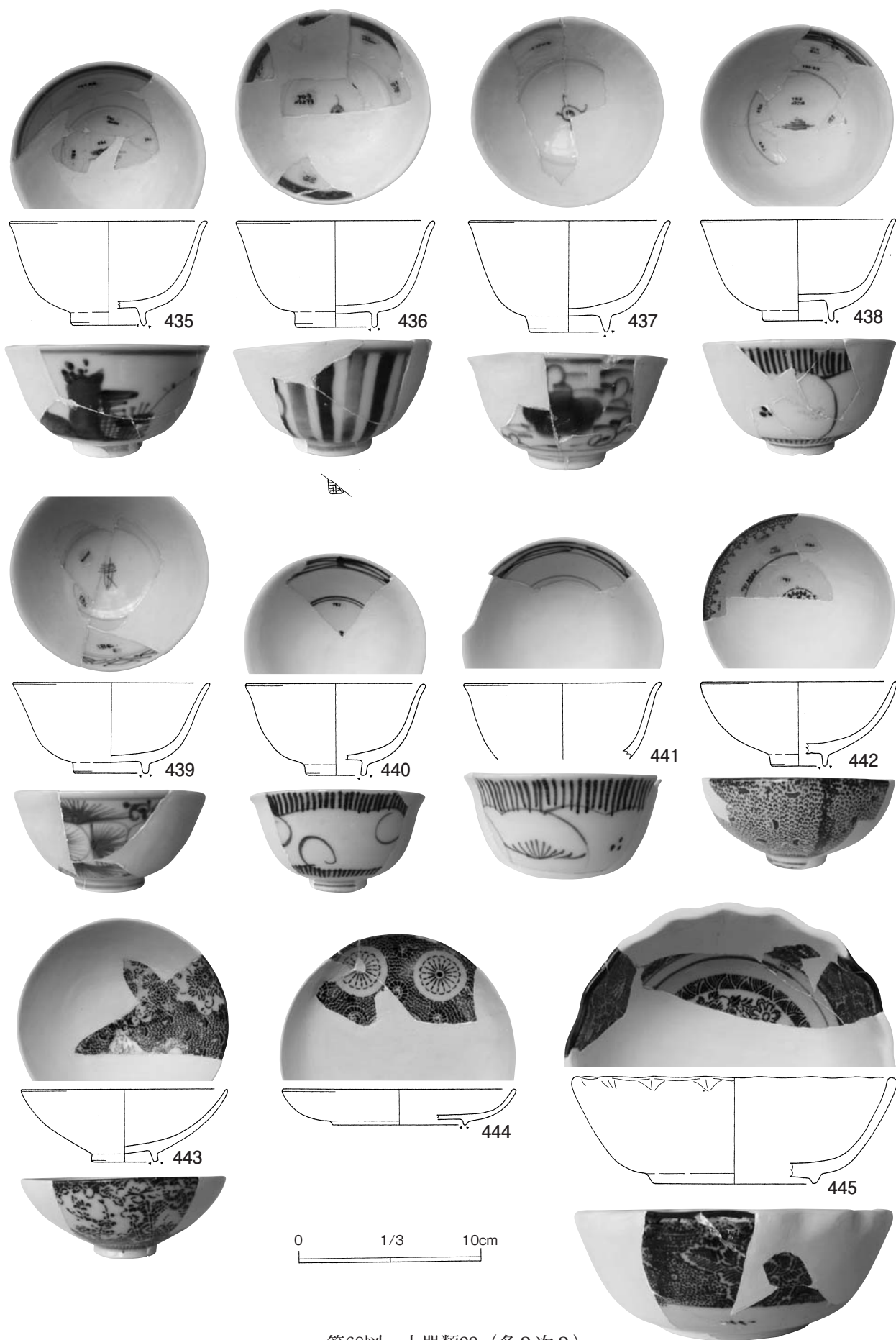


第66図 土器類20 (多3次1)

遺構外

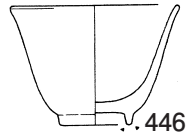


第67図 土器類21 (多3次2)

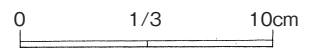
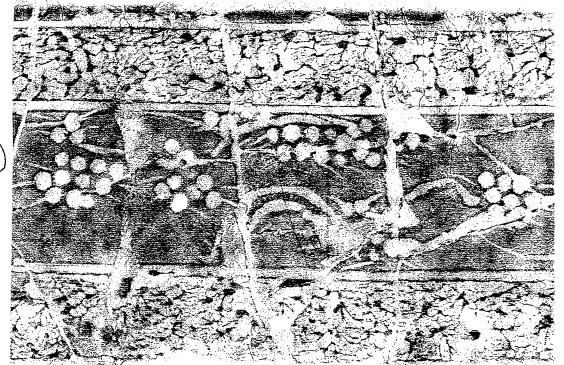
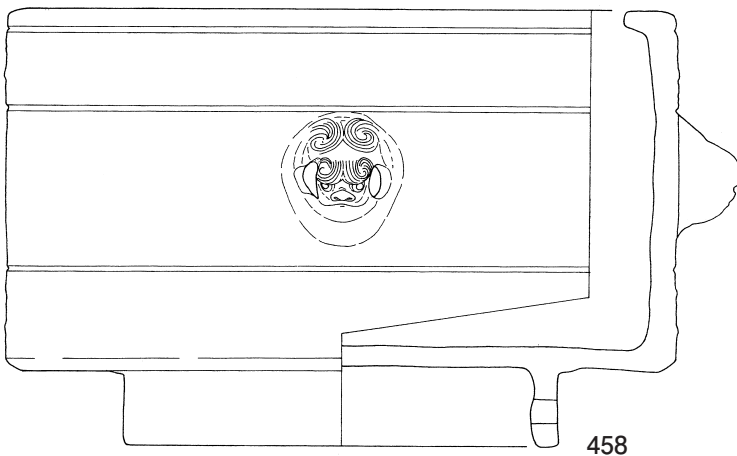
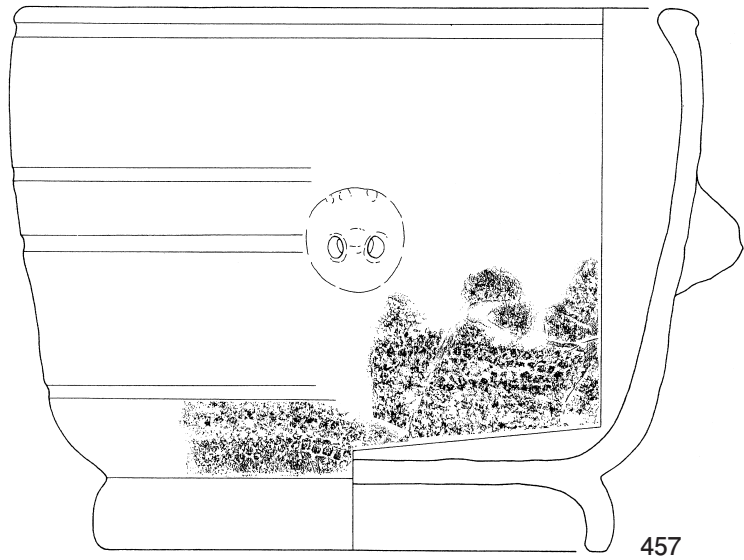
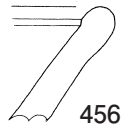
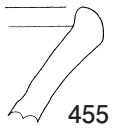
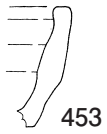
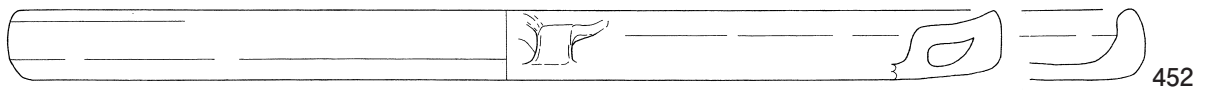
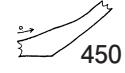
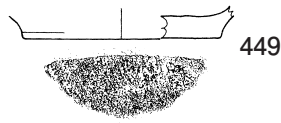
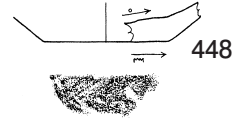
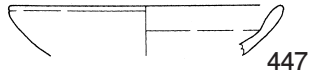


第68図 土器類22 (多3次3)

遺構外

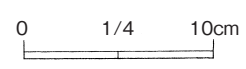
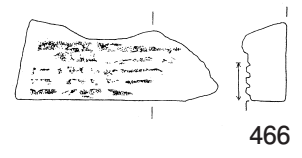
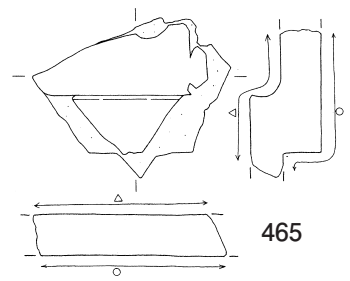
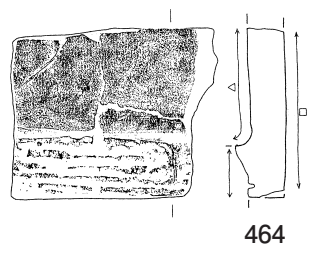
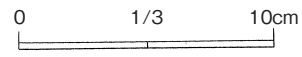
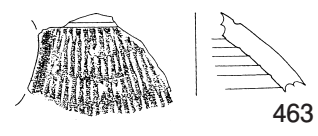
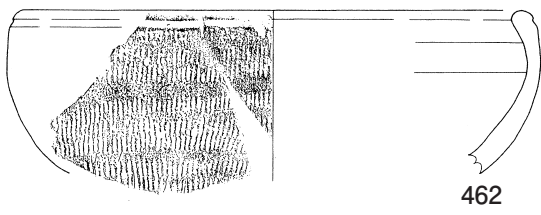
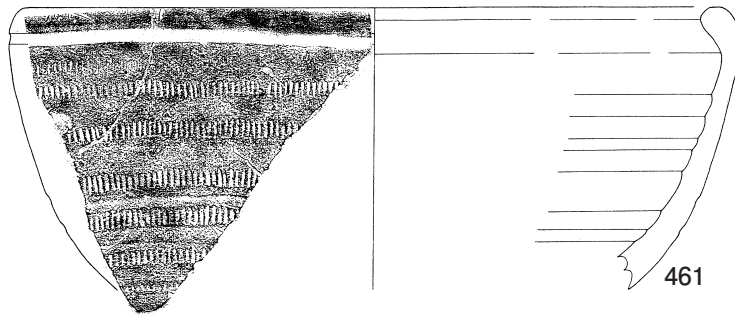
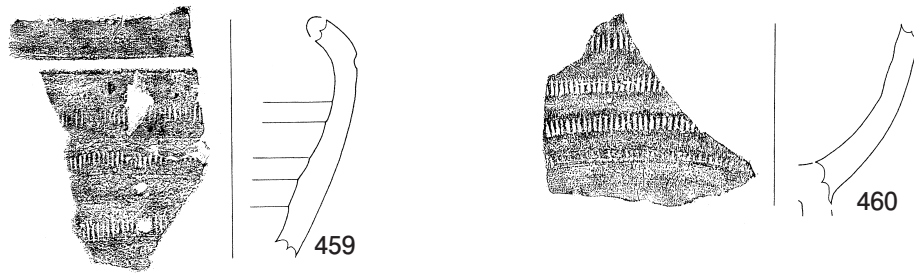


風

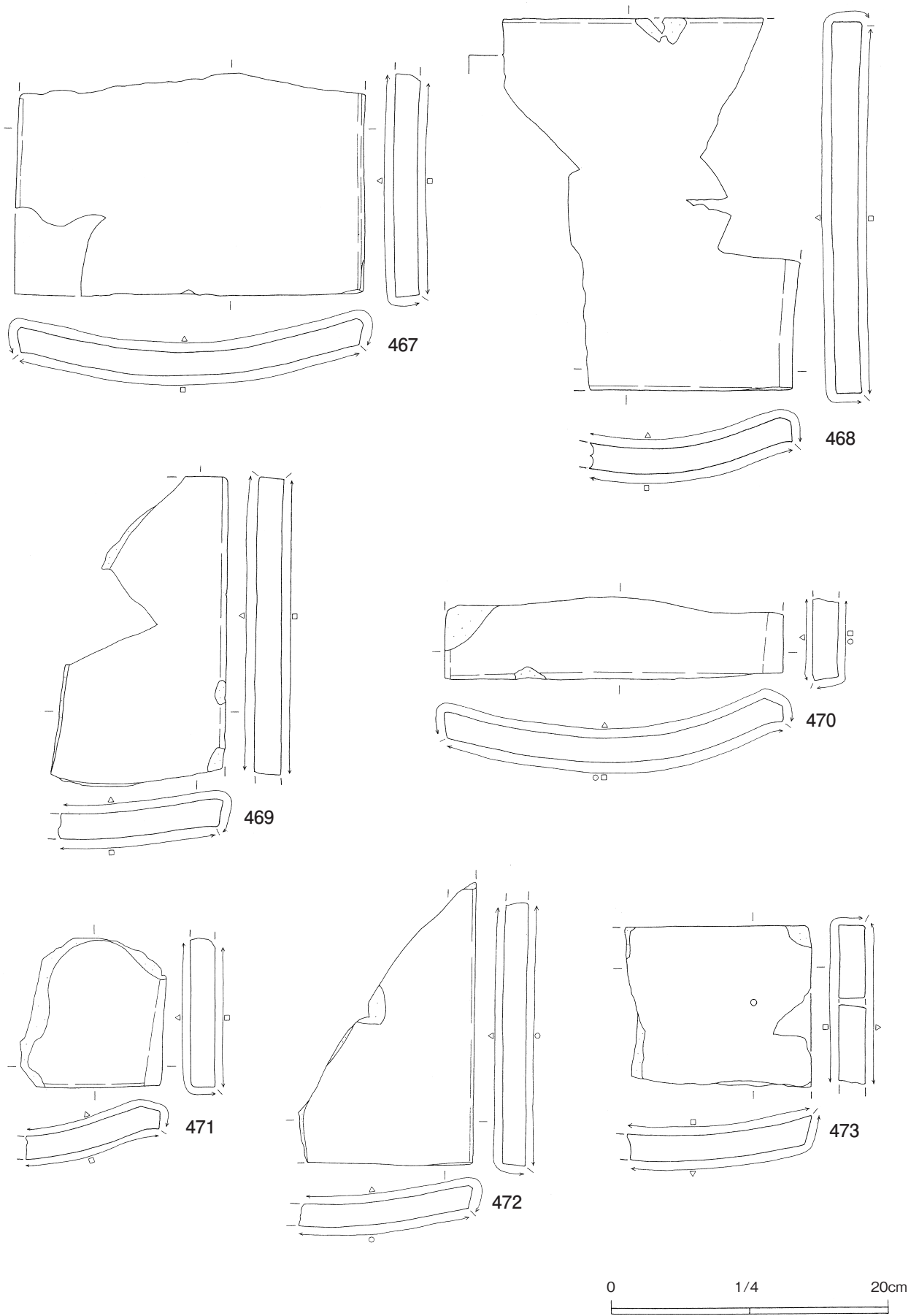


第69図 土器類23 (多3次4)

遺構外

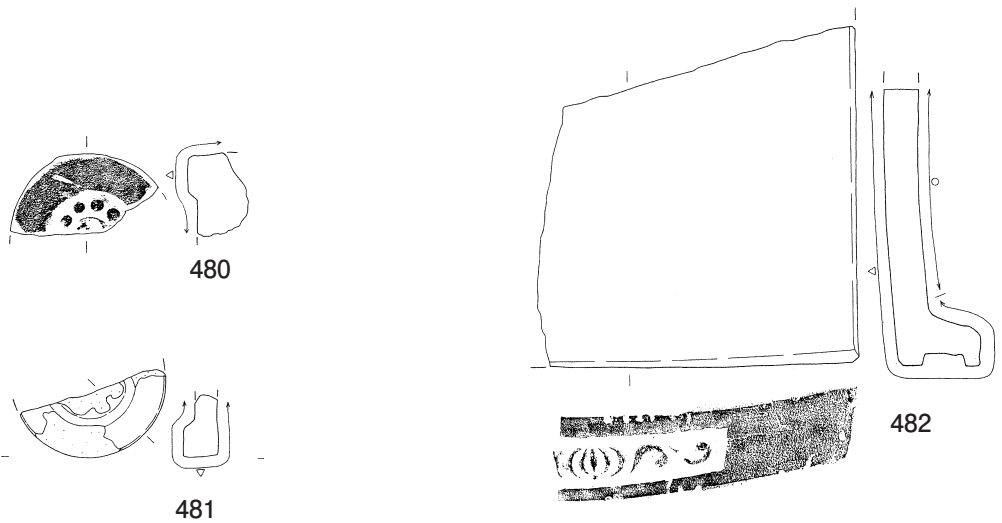
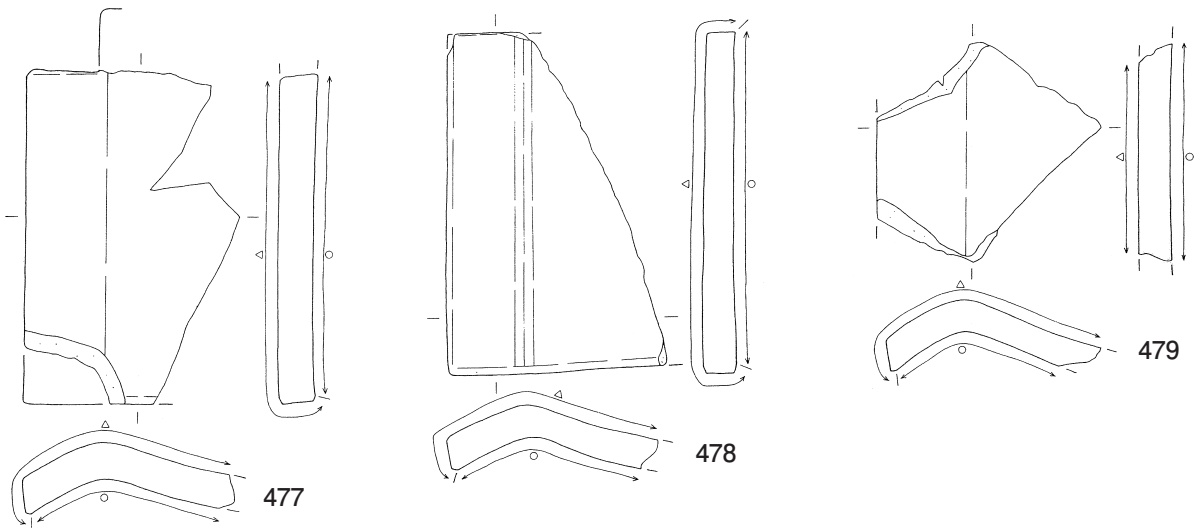
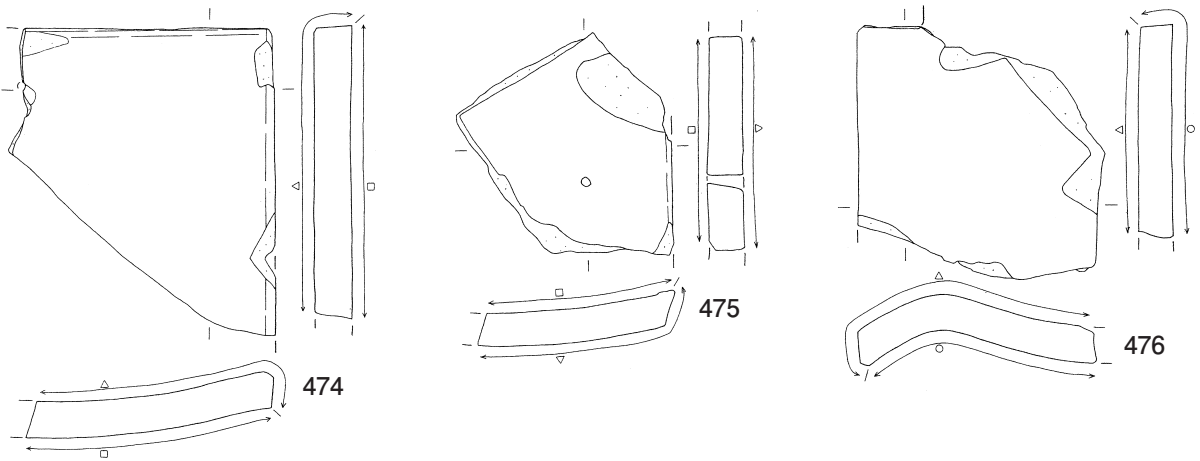


第70図 土器類24 (多3次5)



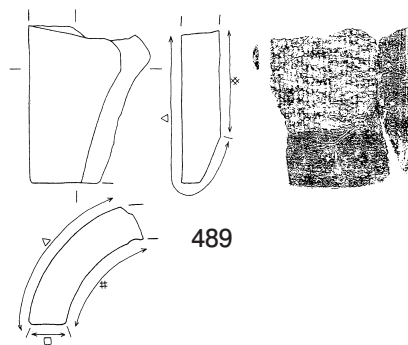
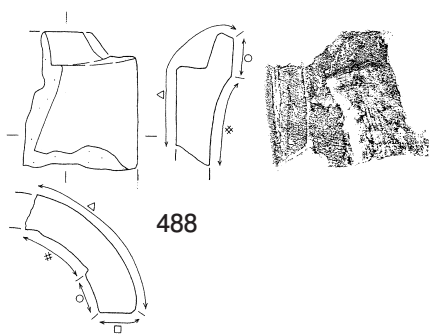
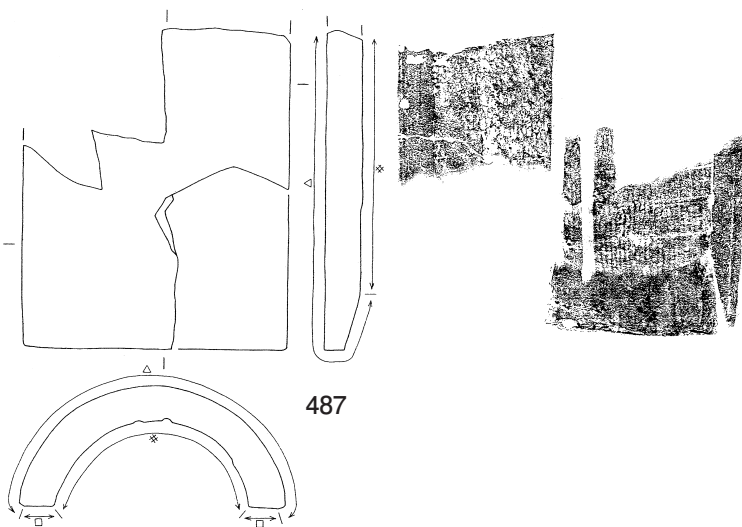
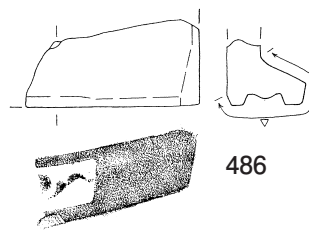
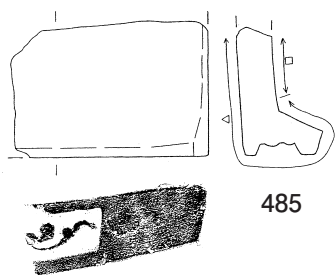
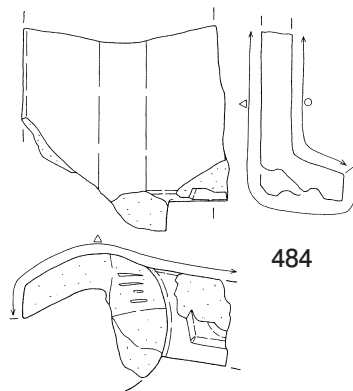
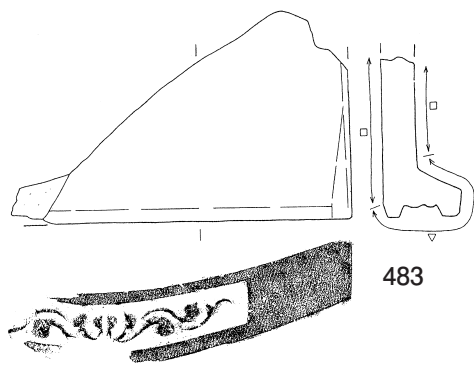
第71図 土器類25 (多3次6)

遺構外



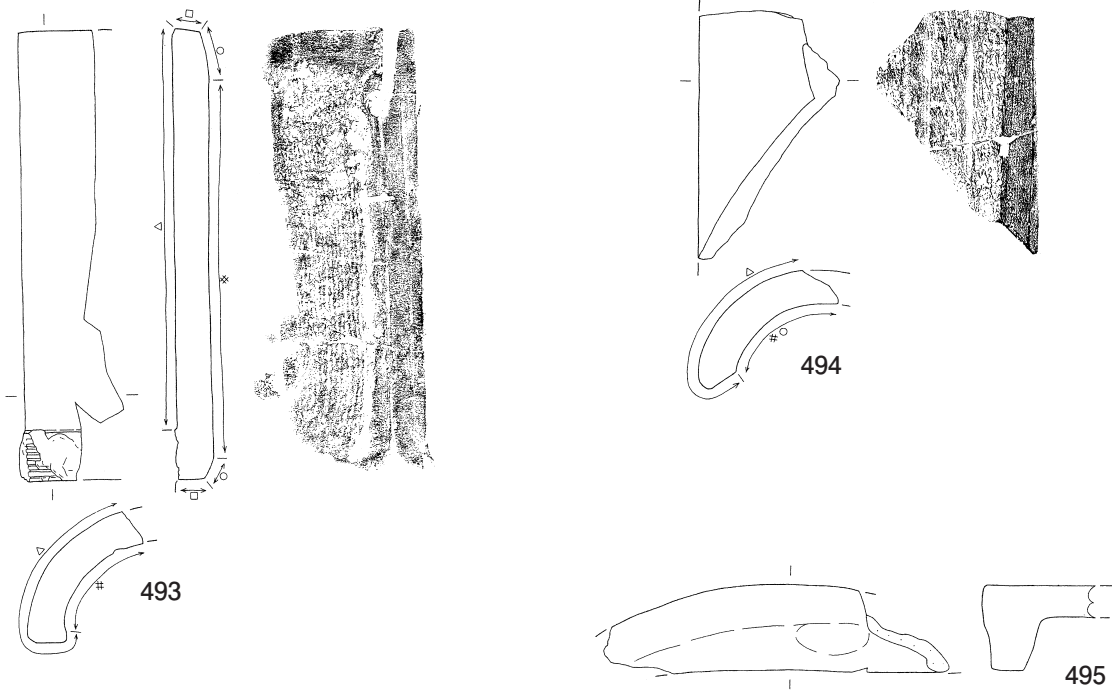
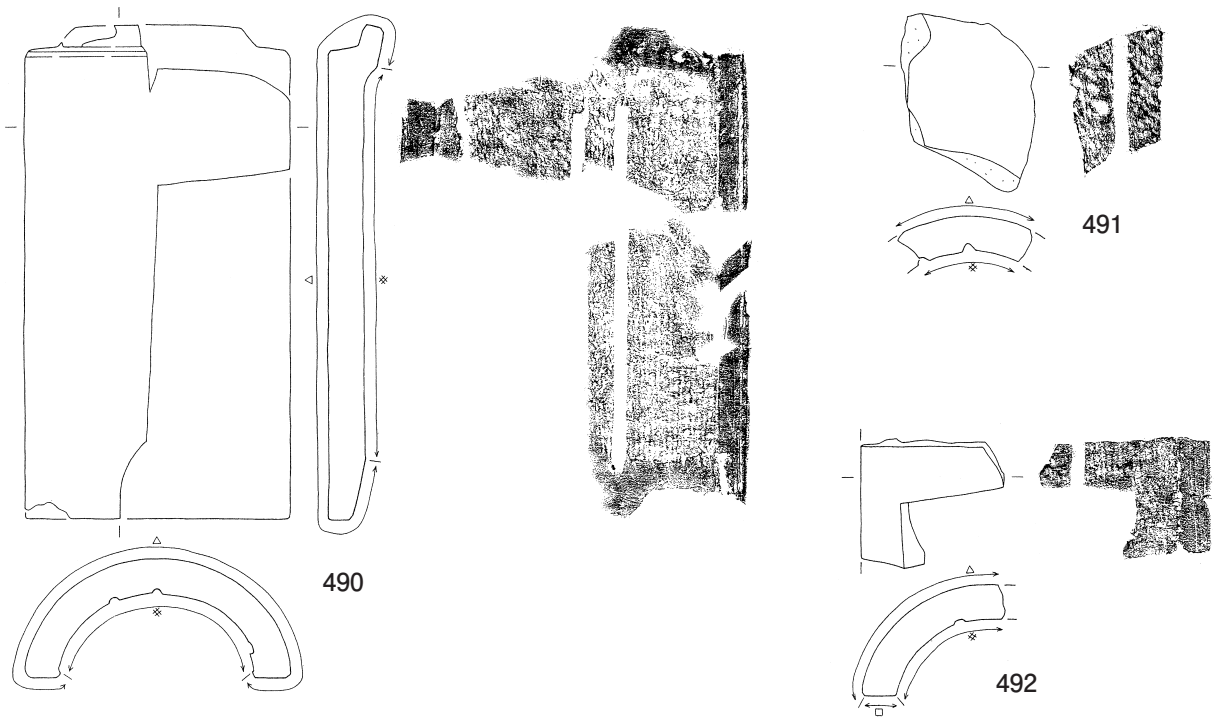
0 1/4 20cm

第72図 土器類26 (多3次7)



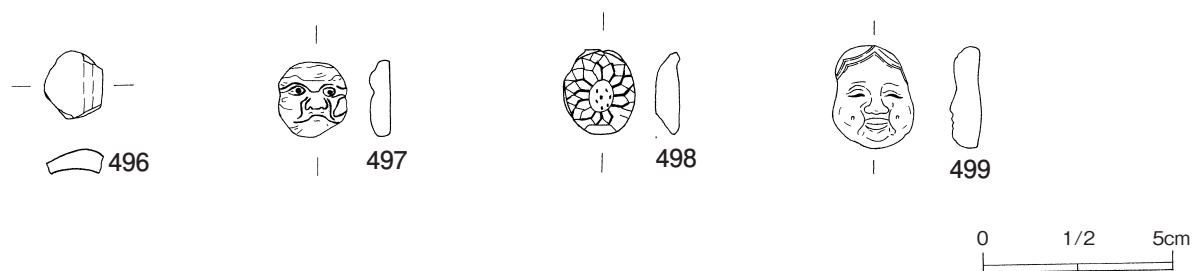
0 1/4 20cm

第73図 土器類27 (多3次8)



0 1/4 20cm

第74図 土器類28 (多3次9)



第75図 土器類29 (土製品)

墳出土かわらけ (同資料編 p556No.28~30、33~36、38~42) がある。この土壇からは瀬戸美濃連房2の志野丸皿・鉄絵皿、17C前半の志戸呂香炉が共伴している。そのため年代は17世紀前半とする。

なお、IV・V期は騎西城廃城後であるが、今回報告のKB大英寺区1溝出土かわらけ (第29図7~25) がIV期で17C後半、V期は騎西城武家屋敷跡妙光寺1・2調査で肥前磁器の染付碗 (くらわんか碗) と共伴する18C代のかわらけである。

(※印については 島村範久2011『騎西城武家屋敷跡 KB大英寺・1・2区調査—中近世編—』加須市埋蔵文化財調査報告書第2集 第IV章出土した遺物 第1節土器類54・94pより転載した)

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
1	磁器・皿/染付皿	中国	騎武2次	No. 34	-	*7.6	-	染皿 E		染01	畳付露胎	1/2以下
2	磁器・皿/染付皿	中国	騎武2次	A 区	*16.0	-	-	B-1	15c~16c中	染02	圏線・唐草文	1/2以下
3	焼締陶器・甕	常滑	騎武2次	No. 54	-	-	-			袋01		1/2以下
4	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	騎武2次	No. 29・57	*12.0	-	-	大2	16C前~中	町天53	内外鉄釉・腰部露胎	1/2以下
5	陶器・碗/天目カ	瀬戸美濃	騎武2次	No. 45	-	4.2	-			碗01	内外鉄釉/スス付着	1/2以下
6	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	騎武2次	No. 22	*10.8	*6.6	2.3			皿01	内外鉄釉/底部内面凹子トチ/底部外面輪トチン	1/2以下
7	陶器・皿/菊皿	瀬戸美濃	騎武2次	No. 65	*14.8	*8.8	3.5			皿03	内外灰釉・高台周辺露胎	1/2以下
8	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	騎武2次	No. 103	*13.0	-	-	登		皿04	内外長石釉・下部外面露胎	1/2以下
9	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	騎武2次	No. 104	*12.8	-	-			皿05	内外長石釉	1/2以下
10	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎武2次	No. 109	-	-	-			皿06	内外灰釉/印花文/底部外面輪トチン	1/2以下
11	陶器・皿	瀬戸美濃	騎武2次	B 区	-	*5.0	-	大4		皿07	内外灰釉(黄瀬戸釉?)・高台内露胎	1/2以下
12	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	騎武2次	No. 111	-	-	-			鉢04	内外鉄釉	1/2以下
13	陶器・鉢	瀬戸美濃	騎武2次	B 区	*20.0	-	-	登8		鉢05	口縁内外灰釉・体部内外鉄釉/外面下方へラ描沈線	1/2以下
14	陶器・徳利	瀬戸美濃	騎武2次	No. 85	-	*14.6	-			袋03	底部外面一部鉄釉	1/2以下
15	陶器・香炉	瀬戸美濃	騎武2次	B 区	*16.0	-	-	登4・5		香01	口縁内面・外面鉄釉/腰部露胎	1/2以下
16	陶器・鉢	肥前	騎武2次	No. 20	-	-	-			鉢06	刷毛目(白化粧土)	1/2以下
17	陶器・皿/灯明皿カ	志戸呂系	騎武2次	No. 25	*8.8	4.8	2.2			皿02	内外鉄釉	1/2以下
18	陶器・壺	備前・信楽系	騎武2次	No. 33・113、B 区	*14.4	-	-			袋02	口縁内面・外面鉄釉	1/2以下
19	焼締陶器・搦鉢	信楽	騎武2次	No. 26	-	*14.0	-			鉢01	欄目8本/内外トチン痕/へラ工具による強めの整形痕	1/2以下
20	焼締陶器・搦鉢	信楽	騎武2次	No. 114	-	-	-			鉢02	外面鉄釉	1/2以下
21	磁器・小坏	肥前	騎武2次	B 区	*7.0	-	-		17c 中	伊01	蘭文	1/2以下
22	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 1(1溝)	10.4	6.5	3.1		16c 末?	K01	底部外面板ナデ	略完形
23	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 7	*9.7	*6.5	2.3			K02		1/2以下
24	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 19	*9.0	-	-			K11		1/2以下
25	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 32	*7.8	*4.8	2.1			K03	ロクロ左回転	1/2以下
26	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 49	*6.4	*4.2	1.7			K04	ロクロ左回転	1/2以下
27	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 49・50(1溝)	*9.6	*6.5	2.7		16c 末?	K05	体部と底部(内面)境にナデ/ロクロ左回転	1/2以下
28	土器・かわらけカ	在地	騎武2次	No. 49、A 区	*14.0	-	-			K10	ロクロ右回転	1/2以下
29	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 51(1溝)	11.5	4.8	3.4		15c 中~ 16c 前	K06	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/ロクロ右回転	略完形
30	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 58	-	*6.2	-			K07	体部と底部(内面)境にナデ/ロクロ右回転	1/2以下
31	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 100、A 区	*10.6	6.4	2.3			K08	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/体部と底部(内面)境にナデ/ロクロ左回転	1/2以上
32	土器・かわらけ	在地	騎武2次	No. 101	*8.0	*4.6	1.7			K09	ロクロ左回転	1/2以下
33	土器・ほうろく	在地	騎武2次	No. 14	-	-	-			H01	内耳接合付近	1/2以下
34	土器・ほうろく	在地	騎武2次	No. 39	-	-	-			H02	丁寧なナデ	1/2以下
35	土器・ほうろく	在地	騎武2次	No. 102	-	-	-			H03		1/2以下
36	土器・ほうろく	在地	騎武2次	No. 110	-	-	-			H04		1/2以下
37	土器・搦鉢	在地	騎武2次	No. 107	-	-	-			鉢03		1/2以下
38	磁器・碗/青磁碗	中国	騎武3次	一括	-	-	-	1-5類		青01	内外暗緑色釉・蓮弁文	1/2以下
39	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	-	-	古後		碗03	内面・上部外面灰釉	1/2以下
40	陶器・碗/平碗カ	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	4.4	-	古瀬戸		碗01	底部内面灰釉・高台露胎/底部内面に目跡/浅い削出し高台	1/2以下
41	陶器・碗	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	-	-		17c~	碗04	刷毛目(白化粧土)	1/2以下
42	陶器・皿カ碗	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	*8.0	-			皿01	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
43	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	騎武3次	一括	*11.2	*7.0	2.2	大4		皿05	内外長石釉	1/2以下
44	陶器・鉢/大皿カ大鉢	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	-	-			鉢01	内面緑釉・外面透明釉	1/2以下
45	陶器・鉢/大皿カ大鉢	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	*12.0	-			鉢02	内外透明釉(灰)/底部内面・高台周辺露胎	1/2以下
46	陶器・鉢カ	不明	騎武3次	一括	-	*11.0	-			鉢03	内外鉄釉・畳付に釉あり	1/2以下
47	陶器・鉢	不明	騎武3次	一括	*21.0	-	-			鉢04	内外鉄釉・下部外面露胎	1/2以下
48	陶器・鉢	瀬戸美濃	騎武3次	一括	*15.0	-	-			鉢05	内外鉄釉	1/2以下

第13表 土器類一覽表 1

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
49	陶器・鉢	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	-	-			鉢06	内外鉄釉	1/2以下
50	陶器・蓋	瀬戸美濃	騎武3次	一括	*7.4	3.1	1.5			他01	上面透明釉/緑色青色で文様	1/2以上
51	陶器・香炉	瀬戸美濃	騎武3次	一括	-	*8.4	-			香01	内外鉛釉・腰部以下露胎	1/2以下
52	陶器・碗/京焼風陶器碗	肥前	騎武3次	一括	-	4.5	-			碗02	透明釉	1/2以下
53	陶器・皿	肥前系	騎武3次	一括	-	*7.3	-			皿02	透明釉・高台露胎/鉄で文様/底部内面に目跡	1/2以下
54	陶器・鉢?	肥前系	騎武3次	一括	-	*6.6	-			鉢07	底部内面白色釉・高台露胎	1/2以下
55	陶器・鉢	肥前	騎武3次	一括	-	*11.0	-			鉢08	内外鉄釉・底部内面の釉まだら	1/2以下
56	陶器・皿	志戸呂系	騎武3次	一括	-	-	-			皿04	内外灰釉・腰部露胎	1/2以下
57	焼締陶器・搦鉢	信楽系	騎武3次	一括	-	-	-			鉢09		1/2以下
58	陶器・搦鉢	信楽系	騎武3次	一括	-	-	-			鉢13		1/2以下
59	焼締陶器・搦鉢	堺系	騎武3次	一括	*30.0	-	-			鉢10		1/2以下
60	磁器・碗	瀬戸美濃系	騎武3次	一括	-	4.5	-			瀬・美1		1/2以下
61	磁器・碗	肥前	騎武3次	一括	*7.6	*3.0	4.1		17c末~18c	伊01	昼付露胎	1/2以下
62	磁器・碗	肥前	騎武3次	一括	-	4.8	-		18c	伊02		1/2以下
63	磁器・碗/筒形碗	肥前	騎武3次	一括	-	3.2	-		1780~1810?	伊03	5弁花	1/2以下
64	磁器・碗	肥前	騎武3次	一括	*11	-	-			伊04		1/2以下
65	磁器・皿	不明	騎武3次	一括	*11.2	*5.7	2.8			皿03	内面透明釉・外面無釉	1/2以下
66	土器・かわらけ	在地	騎武3次	一括	-	*6.0	-			K01	ロクロ左回転	1/2以下
67	土器・かわらけ	在地	騎武3次	一括	*8.3	*6.0	1.1			K02	ロクロ左回転/内面・口縁外面スス付着	1/2以下
68	土器・かわらけ	在地	騎武3次	一括	*8.2	*5.4	1.9			K03	内外一部スス付着	1/2以下
69	土器・ほうろく	在地	騎武3次	一括	-	-	-			H01	ロクロ左回転	1/2以下
70	土器・ほうろく	在地	★騎3次	一括	35.8	31.2	5.0			町 H46		略完形
71	土器・搦鉢	在地	騎武3次	一括	-	-	-			鉢11		1/2以下
72	土器・搦鉢	在地	騎武3次	一括	-	-	-			鉢12		1/2以下
73	土器・火鉢?	在地	騎武3次	一括	-	-	-			火鉢1		1/2以下
74	須恵器・壺	不明	騎武3次	一括	-	-	-		奈良平安	袋01		1/2以下
75	土器・ほうろく	在地	騎武8次	1溝 No. 49、1壙 No. 4・6・7	*35.0	*30.0	5.6			H01	外面スス付着	1/2以下
76	土器・ほうろく	在地	騎武8次	1溝 No. 51、1井	-	-	4.9			H03	外面スス付着	1/2以下
77	土器・かわらけ	在地	騎武8次	1井	*12.0	-	-		騎西城 I 期	K01		1/2以下
78	土器・搦鉢	在地	騎武8次	1井、5P No. 1	*29.0	-	-			鉢02	内外スス付着	1/2以下
79	土器・かわらけ	在地	騎武8次	1壙 No. 9	-	*6.6	-		不明	K02	底部内面指頭ナデ/体部と底部(内面)境にナデ/ロクロ左回転	1/2以下
80	土器・かわらけ	在地	騎武8次	1壙	*11.0	-	-		不明	K03	口唇油煙痕/胎土金雲母含む	1/2以下
81	土器・ほうろく	在地	騎武8次	1壙 No. 1	*34.0	*30.0	5.7			H02		1/2以下
82	陶器・碗/志野小碗	瀬戸美濃	騎武8次	2壙 No. 4・5	*7.6	*3.8	3.9		登1	碗01	内外長石釉・高台周辺露胎	1/2以下
83	土器・ほうろく	在地	騎武8次	7壙 No. 1	*36.4	*34.0	5.8			H04		1/2以下
84	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	騎武8次	一括	-	-	-		14~15c	青01	内外青緑色の釉	1/2以下
85	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	騎武8次	一括	-	-	-		14~15c	青02	内外青緑色の釉	1/2以下
86	磁器・皿/白磁皿	中国	騎武8次	一括	-	*6.0	-		C-1	白01	内外灰白色の釉・高台周辺露胎/高台端部砂溶着	1/2以下
87	焼締陶器・片口鉢	常滑	騎武8次	No. 25	-	-	-		5・6a	鉢01		1/2以下
88	陶器・碗/小碗	瀬戸美濃	騎武8次	一括	*9.0	-	-		17c 後	碗02	内外透明釉	1/2以下
89	陶器・皿/卸皿	瀬戸美濃	騎武8次	一括	-	-	-		古後IV(新)	皿01	口縁内外鉄釉/体部内面卸目	1/2以下
90	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	騎武8次	No. 2	*13.0	-	-		大1	皿02	口縁内外灰釉	1/2以下
91	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	騎武8次	一括	*12.0	-	-		大1	皿03	口縁内面・体部外面灰釉	1/2以下
92	陶器・皿/灯明皿(油皿)	瀬戸美濃	騎武8次	一括	*11.0	*5.6	2.2		18c	皿04	内外鉄釉	1/2以下
93	陶器・皿/灯明皿(油皿)	瀬戸美濃	騎武8次	一括	*10.0	-	-		18c	皿05	内外鉄釉	1/2以下
94	陶器・皿/灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	騎武8次	一括	*10.0	-	-		18c	皿06	内面・口縁外面鉄釉/重ね焼きの棧の痕	1/2以下
95	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	騎武8次	一括	-	*9.0	-		登1	皿07	内外長石釉・高台周辺露胎/鉄で草文	1/2以下
96	陶器・向付/志野向付	瀬戸美濃	騎武8次	一括	-	-	-		大4後	他01	内外長石釉/鉄で文様	1/2以下

第14表 土器類一覧表 2

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
97	陶器・碗/丸碗	肥前	騎武8次	一括	*12.0	-	-		17c 後	碗03	内外ルリ釉	1/2以下
98	陶器・皿	肥前 (唐津)	騎武8次	No. 35	-	4.1	-		16c 末~ 17c 前	皿08	内外透明釉・高台周辺露胎	1/2以下
99	陶器・小杯	肥前(唐津)	騎武8次	一括	*5.6	-	-			他02	内外薄い灰釉・高台周辺露胎	1/2以下
100	磁器・碗/染付碗	肥前	騎武8次	一括	*11.4	-	-		17c 後	伊01	草花文	1/2以下
101	磁器・碗/筒形碗	肥前	騎武8次	No. 29	-	-	-		18c 末~ 19c 初	伊02	圏線・菊花文	1/2以下
102	土器・かわらけ	在地	騎武8次	4P	*12.0	*7.5	2.7	騎西城Ⅱ期		K04		1/2以下
103	土器・かわらけ	在地	騎武8次	No. 39	*11.8	-	-	騎西城Ⅰ期		K05	ロクロ左回転	1/2以下
104	土器・かわらけ	在地	騎武8次	No. 42、一括	*12.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K06		1/2以下
105	土器・かわらけ	在地	騎武8次	No. 43	*11.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K07		1/2以下
106	土器・かわらけ	在地	騎武8次	No. 44	*10.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K08		1/2以下
107	土器・かわらけ	在地	騎武8次	一括	*11.8	*7.0	2.7	騎西城Ⅰ期		K09		1/2以下
108	土器・かわらけ	在地	騎武8次	一括	-	*7.0	-	騎西城Ⅰ期		K10	ロクロ右回転	1/2以下
109	土器・かわらけ	在地	騎武8次	一括	*12.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K11	胎土に金雲母	1/2以下
110	土器・かわらけ	在地	騎武8次	一括	*12.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K12		1/2以下
111	土器・かわらけ	在地	騎武8次	一括	*8.0	*4.5	1.7	騎西城Ⅳ期		K13		1/2以下
112	土器・かわらけ	在地	騎武8次	一括	*9.0	-	-	騎西城Ⅳ期		K14		1/2以下
113	土器・ほうろく	在地	騎武8次	一括	-	-	-			H05	外面スス付着	1/2以下
114	土器・搦鉢	在地	騎武8次	No. 24	-	-	-			鉢03	櫛目4本	1/2以下
115	土器・搦鉢	在地	騎武8次	一括	-	-	-			鉢04		1/2以下
116	土器・搦鉢	在地	騎武9次	1溝 No. 8	-	-	-			鉢01	櫛目5本	1/2以下
117	土器・かわらけ	在地	騎武9次	1井	-	*6.2	-	不明		K02		1/2以下
118	土器・ほうろく	在地	騎武9次	1井 No. 2	-	-	5.5			H01	外面スス付着	1/2以下
119	土器・ほうろく	在地	騎武9次	1井	-	-	5.6			H02		1/2以下
120	土器・かわらけ	在地	騎武9次	1壇	*12.0	-	-	騎西城Ⅰ期カ		K03	ロクロ左回転	1/2以下
121	土器・かわらけ	在地	騎武9次	3壇	*11.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K04		1/2以下
122	土器・搦鉢	在地	騎武9次	3壇 No. 1	-	-	-			鉢02		1/2以下
123	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎武9次	一括	*11.0	-	-	大2		皿01	内外灰釉	1/2以下
124	土器・かわらけ	在地	騎武9次	No. 6	-	*5.0	-	不明		K05	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/ロクロ左回転	1/2以下
125	土器・かわらけ	在地	騎武9次	No. 19	-	5.2	-	不明		K01	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/ロクロ左回転/灯明皿に使用/割れ口油煙痕	1/2以上
126	土器・かわらけ	在地	騎武9次	一括	*12.0	-	-	騎西城Ⅱ期		K06		1/2以下
127	土器・かわらけ	在地	騎武9次	一括	*11.0	-	-	騎西城Ⅰ期カ		K07	ロクロ左回転	1/2以下
128	土器・かわらけ	在地	騎武9次	一括	*12.0	-	-	騎西城Ⅰ期カ		K08	ロクロ左回転	1/2以下
129	土器・かわらけ	在地	騎武9次	一括	*12.0	*7.0	3.3	不明		K09		1/2以下
130	土器・かわらけ	在地	騎武50次	2溝/No. 192、 No. 95 P	-	*4.6	-			K01	底部内面黒色物質付着/ロクロ右回転	1/2以下
131	土器・ほうろく	在地	騎武50次	2溝/No. 130	-	-	5.7			H01		1/2以下
132	土器・ほうろく	在地	騎武50次	2溝/No. 194	-	-	-			H02		1/2以下
133	土器・ほうろく	在地	騎武50次	2溝	-	-	5.0			H03	外面棒状工具による刺突痕	1/2以下
134	土器・ほうろく	在地	騎武50次	4溝	-	-	4.8			H04	外面スス付着	1/2以下
135	土器・かわらけ	在地	騎武50次	1井/No. 85	-	*6.6	-			K02	体部と底部(内面)境にナデ/底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以下
136	土器・かわらけ	在地	騎武50次	1井/No. 86	-	*7.6	-			K03	体部と底部(内面)境にナデ/底部外面へら痕	1/2以下
137	土器・ほうろく	在地	騎武50次	1井	-	-	-			H05	外面スス付着	1/2以下
138	土器・かわらけ	在地	騎武50次	2井	*11.0	*6.5	2.5			K04	体部と底部(内面)境にナデ/底部内面渦巻ナデ/底部外面板ナデ	1/2以下
139	陶器・皿/稜皿カ 反皿	瀬戸美濃	騎武50次	1壇/No. 7	*10.0	-	-	大2~4		皿06	内外鉄釉・下部外面錆釉	1/2以下
140	土器・ほうろく	在地	騎武50次	1・2壇/No. 153	-	-	6.2			H06	外面スス付着/底部外面圧痕	1/2以下
141	土器・ほうろく	在地	騎武50次	4壇/No. 45、 6壇/No. 103	-	-	6.5			H07	外面スス付着	1/2以下
142	土器・かわらけ	在地	騎武50次	10壇/No. 98	-	*5.0	-		16c?	K05	底部内面凹む/底部外面無文	1/2以下
143	土器・ほうろく	在地	騎武50次	10壇/No. 202	-	-	-			H08		1/2以下
144	土器・片口鉢	在地	騎武50次	10壇/No. 39	-	-	-			鉢03		1/2以下
145	焼締陶器・鳶口壺	常滑	騎武50次	No. 67	-	-	-	6a?	13c 後	袋02	肩部自然釉	1/2以下

第15表 土器類一覽表 3

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
146	陶器・碗/志野筒形碗	瀬戸美濃	騎武50次	一括	*12.0	-	-	大4		碗01	内外長石釉厚い	1/2以下
147	陶器・皿/志野丸皿ヶ鉢	瀬戸美濃	騎武50次	No. 5・20	-	-	-	大4~登4		皿01	内外長石釉厚い(白天目の釉に似る)	1/2以下
148	陶器・皿/志野菊皿	瀬戸美濃	騎武50次	No. 6	-	-	2.7	登1~		皿02	内外長石釉/被熱炭化物付着	1/2以下
149	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	騎武50次	No. 10	*11.0	-	-	登1~4		皿03	内外長石釉	1/2以下
150	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	騎武50次	No. 90	*12.2	*7.6	2.5	登		皿04	内外長石釉/鉄で文様/底部内外円錐ビン痕	1/2以下
151	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎武50次	西拡張	*10.0	-	-	登3~6?		皿05	内外灰釉	1/2以下
152	陶器・鉢	瀬戸美濃	騎武50次	No. 9	-	-	-			鉢01	内外鉄釉/口唇部融着/灰色炻器質	1/2以下
153	陶器・甕?	瀬戸美濃	騎武50次	No. 77	-	11	-			袋01	内面鉄釉・外面自然釉/高台周辺露胎	1/2以下
154	土器・かわらけ	在地	騎武50次	No. 27	-	4.2 ~4.8	-			K06	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/底部内面黒色物質付着	1/2以上
155	土器・かわらけ	在地	騎武50次	No. 50	-	*5.0	-			K07	底部内面黒色物質付着(漆?)/被熱?(赤化)	1/2以下
156	土器・かわらけ	在地	騎武50次	No. 75	*12.0	*5.6	3.3			K08	底部外面粘土塊付着/整形不良	1/2以下
157	土器・かわらけ	在地	騎武50次	No. 165	-	*7.0	-			K09		1/2以下
158	土器・かわらけ	在地	騎武50次	一括	-	*7.0	-			K10	底部内面黒色物質付着(漆?)/底部外面板ナデ	1/2以下
159	土器・鉢	在地	騎武50次	No. 30 P	-	-	-			鉢02	下部外面ケズリ痕/砂粒多い	1/2以下
160	土器・鉢	在地	騎武50次	No. 205 P	-	-	-			鉢05	砂粒多い/堅緻/鉢2と同一	1/2以下
161	土器・片口鉢	不明	騎武50次	No. 66 P	-	-	-			鉢04		1/2以下
162	土器・かわらけ	在地	騎武51次	1溝 No. 129	*11.0	*6.0	3.3	騎西城Ⅱ期		K04		1/2以下
163	土器・かわらけ	在地	騎武51次	1溝 No. 131	*11.0	*6.0	2.8	騎西城Ⅰ期		K05		1/2以下
164	土器・ほうろく	在地	騎武51次	1溝 No. 164	-	-	4.9			H05	外面スス付着	1/2以下
165	土器・搦鉢	在地	騎武51次	1溝 No. 71	-	-	-			鉢01		1/2以下
166	磁器・皿/染付皿	中国	騎武51次	4溝	-	-	-	F 群	16c 後~ 17c 前	染01	草花文	1/2以下
167	土器・搦鉢	在地	騎武51次	4溝	-	-	-			鉢03	内面剥落	1/2以下
168	土器・火鉢	在地	騎武51次	4溝	-	-	-			火鉢01	外面細かい櫛目/瓦質	1/2以下
169	土器・かわらけ	在地	騎武51次	5溝2T No. 2	*11.4	*6.0	3.2	騎西城Ⅰ期ヶ		K01		1/2以下
170	土器・かわらけ	在地	騎武51次	3壇1T No. 53	*11.0	*5.6	3.0	騎西城Ⅰ期		K03		1/2以下
171	土器・かわらけ	在地	騎武51次	3壇	*11.0	*6.0	2.5	騎西城Ⅰ期ヶ		K07		1/2以下
172	土器・かわらけ	在地	騎武51次	3壇	*9.4	*5.0	3.0	騎西城Ⅱ期ヶ		K08		1/2以下
173	土器・ほうろく	在地	騎武51次	3壇	-	-	5.5			H06		1/2以下
174	土器・ほうろく	在地	騎武51次	3壇1T No. 50、 1T No. 1・16・18・ 19・25・38・40	36.0	31.0	5.2			H07	スス付着	3/4以上
175	土器・片口鉢	在地	騎武51次	11壇 No. 121	-	-	-			鉢02	内面剥落	1/2以下
176	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	騎武51次	No. 118 P	*11.0	-	-	大3		天01	内外鉄釉	1/2以下
177	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	騎武51次	BP	-	*4.5	-	古後Ⅳ (新)		皿01	内面灰釉/底部内面・外面露胎/底部外面回転糸切痕/底部内面目あと	1/2以下
178	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	騎武51次	2T	-	+6.0	-	大1		皿02	内外露胎/底部外面回転糸切痕/底部内面トチン痕	1/2以下
179	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	騎武51次	1T No. 36	*8.0	-	-	大1		皿03	内外灰釉	1/2以下
180	陶器・皿/端反皿ヶ丸皿	瀬戸美濃	騎武51次	1T	-	*6.4	-	大1・2		皿04	内外白色味の灰釉/印花文/底部内面輪トチン痕	1/2以下
181	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎武51次	1T No. 2	*11.0	-	-	大3		皿05	内外鉄釉	1/2以下
182	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎武51次	No. 120 P	*11.4	*6.4	2.4	登1		皿06	内外薄い灰釉/高台内円錐ビン痕	1/2以下
183	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	騎武51次	1T	*11.4	*7.0	2.3	登2		皿07	内外暗灰色の長石釉	1/2以下
184	陶器・徳利	備前	騎武51次	1T	-	-	-		17c 前	袋01		1/2以下
185	土器・かわらけ	在地	騎武51次	1T No. 9	*9.0	-	-	騎西城Ⅰ期ヶ		K02	体部と底部(内面)境にナデ	1/2以下
186	土器・かわらけ	在地	騎武51次	1T	*12.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K09	底部内面炭化物?付着	1/2以下
187	土器・かわらけ	在地	騎武51次	No. 133	*11.6	*7.0	2.7	騎西城Ⅱ期		K06	体部と底部(内面)境にナデ/外面黒色物質付着/ロクロ左回転	1/2以下
188	土器・ほうろく	在地	騎武51次	1T No. 10・14・23、一括	*34.0	-	-			H01	外面スス付着	1/2以下

第16表 土器類一覧表 4

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
189	土器・ほうろく	在地	騎武51次	1T No. 30	-	-	5.2			H02	外面スス付着	1/2以下
190	土器・ほうろく	在地	騎武51次	1T No. 31	-	-	4.9			H04	口縁部内面工具痕/外面スス付着	1/2以下
191	土器・ほうろく	在地	騎武51次	1T No. 46	-	-	5.4			H03	外面スス付着	1/2以下
192	土器・片口鉢	在地	騎武51次	1T	-	-	-			鉢04	陶器質	1/2以下
193	土器・かわらけ	在地	騎3次	1溝3T、No. 583、 No. 617(3T)	*11.0	*7.0	2.2 ~2.6	騎西城Ⅱ期		K01	体部と底部(内面)境にナデ	3/4以上
194	土器・かわらけ	在地	騎3次	1溝3T	*11.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K02		1/2以下
195	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	騎3次	一括	-	-	-	Ⅲ類	13c~14c	青01	内外青磁釉/外面蓮弁	1/2以下
196	磁器・碗/青磁碗	同安窯系 中国	騎3次	調南	-	-	-		12c中~ 13c	青02	内外青磁釉/内面櫛で文様・外面櫛目	1/2以下
197	磁器・皿/青磁皿	同安窯系 中国	騎3次	No. 597	-	-	-		12c中~ 13c	青03	内外青磁釉	1/2以下
198	磁器・皿/白磁端反皿	中国	騎3次	No. 51	*12.0	-	-	C-1		白01	内外白磁釉	1/2以下
199	磁器・皿/白磁皿	中国	騎3次	No. 286	-	*6.8	-		16c	白02	内外白磁釉・高台露胎	1/2以下
200	磁器・碗/染付碗	中国	騎3次	調南	-	-	-	B	14c~15c	染01	圏線・唐草文	1/2以下
201	磁器・皿/染付端反皿	中国	騎3次	No. 259・260	12.6	5.3	2.4	B-1		町染05		1/2以下
202	磁器・皿/染付皿	中国	騎3次	1T	-	*9.0	-			染02	竹の子文・圏線	1/2以下
203	磁器・皿/染付皿	中国	騎3次	一括	-	-	-	B-1		染03	圏線・唐草文	1/2以下
204	磁器・皿/染付皿	中国	騎3次	調南	-	-	-	B-1		染04	圏線・唐草文	1/2以下
205	磁器・皿/染付皿	中国	騎3次	1T	*13.0	-	-	B-1		染05	圏線・唐草文	1/2以下
206	磁器・小坏/染付小坏	中国	騎3次	調北	*7.0	-	-		16c	染06	三重の圏線・草花文	1/2以下
207	陶器・皿/緑釉小皿	瀬戸美濃	騎3次	No. 11(1T)	*12.0	-	-	大1		Ⅲ01	口縁内外灰釉	1/2以下
208	陶器・皿/緑釉小皿	瀬戸美濃	騎3次	No. 258・297・298	12.7	5.5	2.7	大1	15c末~ 16c初	町Ⅲ38		略完形
209	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	騎3次	No. 274、調南	*11.0	-	-	大1		Ⅲ06	内外灰釉	1/2以下
210	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎3次	No. 30	*11.0	-	-	大3		Ⅲ03	内外鉄釉	1/2以下
211	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎3次	No. 47	-	*5.0	-	大3		Ⅲ02	内外鉄釉/底部内面・高台内トチン痕	1/2以下
212	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎3次	No. 411、調南	*11.0	*5.4	2.4	大3		Ⅲ04	内外鉄釉/底部内面トチン痕	1/2以下
213	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎3次	一括	*12.0	-	-	大2		Ⅲ05	内外鉄釉	1/2以下
214	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	騎3次	No. 170・382・537、 調南、一括	*27.4	-	-	古後Ⅳ(新)		町鉢39		1/2以下
215	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	騎3次	表採	-	*8.0	-	古後Ⅳ(新)		鉢07	内外錆釉/櫛目13本/内外トチン痕	1/2以下
216	土器・碗/小碗	在地	騎3次	No. 106	*8.2	5.8	4.5			町素他12		3/4以上
217	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 6(2T)	*12.4	-	-	騎西城Ⅰ期		K03	ロクロ右回転/口縁内外油煙痕	1/2以下
218	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 8(1T)	*7.4	*5.0	1.9	不明		K04		1/2以下
219	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 21(1T)	*6.4	3.0	1.6	騎西城Ⅰ期カ		K05	ロクロ右回転/口縁内外スス付着	1/2以上
220	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 42	10.8	7.0	2.5 ~2.8	騎西城Ⅱ期		K06	底部内面指頭ナデ/体部と底部(内面)境にナデ/底部外面板ナデ/ロクロ左回転	完形
221	土器・かわらけ?	在地	騎3次	No. 73・74、調南	-	6.7	-	不明		K07	ロクロ右回転/底面黒色	1/2以上
222	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 81	*11.6	7.0	3.1	騎西城Ⅱ期		K08	底部内面指頭ナデ/体部と底部(内面)境にナデ/ロクロ右回転	1/2以上
223	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 85・619(3T)	*10.8	7.0	2.9	騎西城Ⅱ期		K69		1/2以上
224	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 109	10.0	6.7	2.2	不明		K09		完形
225	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 112	6.5	3.0	2.5	騎西城Ⅰ期		K10	底部内面指頭ナデ	略完形
226	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 113	*12.0	*8.4	2.6	騎西城Ⅰ期		K11		1/2以下
227	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 130	*11.5	*6.0	2.8	騎西城Ⅰ期		K12		1/2以下
228	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 133	*11.8	*6.0	2.7	騎西城Ⅰ期		K13	体部と底部(内面)境にナデ	1/2以下
229	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 148	11.4	5.0	2.7 ~3.2	騎西城Ⅰ期		K14	底部内面指頭ナデ/ロクロ右回転/内面墨付着	略完形
230	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 149	11.8	6.8	2.8	不明		K15	底部内面渦巻ナデ/ロクロ左回転	3/4以上
231	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 155	*11.4	6.4	2.9	不明		K16	体部と底部(内面)境にナデ/ロクロ右回転	1/2以上

第17表 土器類一覽表5

*は不確定な推定復元値、量法の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
232	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 156	11.3	4.4	2.7 ~3.0	騎西城 I 期		K17	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/ロクロ右回転/ 口縁内面スス付着	3/4以上
233	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 158~161・325・ 調北	11.8 ~13.0	6.2	2.5 ~3.5	不明		K30	底部内面指頭ナデ/体部と 底部(内面)境にナデ/底部 外面板ナデ/ロクロ左回転	3/4以上
234	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 164、一括	*10.4	*4.2	3.3	騎西城 I 期カ		K18	底部内面指頭ナデ/底部外 外面板ナデ/ロクロ右回転	1/2以下
235	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 164・473・514・ 569	10.4	6.4	3.0	騎西城 II 期		K20	底部内面指頭ナデ/体部と 底部(内面)境にナデ/底部 外面板ナデ/ロクロ左回転 /口唇油煙痕	略完形
236	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 179	*11.0	*6.2	2.2	騎西城 I 期		K19		1/2以下
237	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 197	*10.0	*6.4	2.3	騎西城 II 期		K21		1/2以下
238	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 207・213・545	9.9	5.6	1.7~2.9	不明		K22		1/2以上
239	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 216	*11.0	-	-	騎西城 I 期		K23		1/2以下
240	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 254 (1T)	*12.0	*7.6	2.6	不明		K24	ロクロ右回転	1/2以下
241	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 262	*12.5	4.6	3.1~	騎西城 I 期		K25	底部内面指頭ナデ/体部と 底部(内面)境にナデ/底部 外面板ナデ/ロクロ右回転	略完形
242	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 266	*13.0	-	-	不明		K26		1/2以下
243	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 279	*11.0	*5.0	2.9	騎西城 I 期		K27	ロクロ左回転	1/2以下
244	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 299	*11.0	*6.2	2.7	騎西城 II 期		K28		1/2以下
245	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 306	*13.0	*7.0	3.4	不明		K29	体部と底部(内面)境にナ デ/ロクロ右回転	1/2以下
246	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 308	*9.4	*5.5	2.2	騎西城 I 期カ		K31		1/2以下
247	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 311・489	*11.6	6.6	2.8	騎西城 II 期		K45	体部と底部(内面)境にナデ	1/2以上
248	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 319	*11.0	*6.0	3.2	騎西城 II 期		K32		1/2以下
249	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 322	*13.0	*6.5	2.6	騎西城 I 期		K33		1/2以下
250	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 333	*11.0	*6.2	3.1	騎西城 I 期		K34	体部と底部(内面)境にナデ	1/2以下
251	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 326	*11.0	-	-	騎西城 II 期		K35		1/2以下
252	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 340	*12.0	-	-	騎西城 I 期カ		K36		1/2以下
253	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 350、調南	8.0	5.0	1.8	不明		K37		3/4以上
254	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 351 (1T)	*7.6	*4.6	2.2	不明		K38	ロクロ左回転	1/2以上
255	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 355	*10.0	*6.0	2.9	騎西城 I 期カ		K39	底部内面指頭ナデ/金雲母	1/2以下
256	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 360	*10.6	*5.8	3.0	騎西城 II 期		K40		1/2以下
257	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 367	*11.0	*6.6	3.0	騎西城 I 期		K41	K42同一個体?	1/2以下
258	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 377	*11.0	*6.2	3.0	騎西城 I 期		K42	K41同一個体?	1/2以下
259	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 379・386・388・ 578	12.2	5.5	3.3 ~4.5	不明		K43	底部内面指頭ナデ/ロクロ 左回転	略完形
260	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 394・593	*11.0	-	-	不明		K44		1/2以下
261	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 409・485・515	10.6	6.6	2.6	騎西城 I 期カ		K57	底部内面指頭ナデ/体部と 底部(内面)境にナデ/底部 外面板ナデ	3/4以上
262	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 412	*11.0	*7.0	2.6	騎西城 I 期		K46		1/2以下
263	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 448	*11.0	*6.0	3.2	騎西城 II 期カ		K47		1/2以下
264	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 451・453・461	*10.6	6.0	2.6	騎西城 II 期		K48	体部と底部(内面)境にナデ	3/4以上
265	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 464	*11.0	*6.0	3.3	不明		K49		1/2以下
266	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 468	10.1	6.2	3.0	騎西城 II 期		K50	体部と底部(内面)境にナ デ/ロクロ左回転	完形
267	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 471、調南	*10.0	*6.2	2.7	騎西城 II 期		K51	底部内面指頭ナデ/体部と 底部(内面)境にナデ	1/2以上
268	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 475・582	*10.8	6.6	2.9	騎西城 II 期		K52	体部と底部(内面)境にナ デ/ロクロ左回転	3/4以上
269	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 476・618 (3T)	11.0	6.5	3.1~3.7	不明		K70	ロクロ右回転	3/4以上
270	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 486	*12.0	*6.4	3.1	騎西城 I 期		K53		1/2以下
271	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 487	*11.0	*6.6	2.6	騎西城 II 期		K54	底部内面指頭ナデ/体部と 底部(内面)境にナデ	1/2以下
272	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 495	*11.0	*6.8	2.8	騎西城 II 期		K55	底部内面指頭ナデ/体部と 底部(内面)境にナデ	1/2以下
273	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 497	*11.0	*5.8	3.1	騎西城 II 期		K56	底部外面板ナデ/ロクロ左回転	1/2以下
274	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 500・505・520、調南	10.3	6.4	2.8~3.0	騎西城 II 期		K59		略完形
275	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 501	*11.0	*7.2	3.0	不明		K72	底部外面板ナデ	1/2以下

第18表 土器類一覧表 6

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	時期・分 類	年代	遺物 ID	備考	残存率
276	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 503	*11.0	-	-	騎西城Ⅱ期		K58	ロクロ左回転	1/2以下
277	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 510	*11.0	-	-	騎西城Ⅱ期		K60		1/2以下
278	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 517	*11.0	*6.0	3.0	騎西城Ⅰ期		K61	ロクロ右回転	1/2以下
279	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 521	*11.0	-	-	騎西城Ⅰ期		K62		1/2以下
280	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 526・527・558	12.4	5.4	3.8~4.1	不明		K63	ロクロ右回転	略完形
281	土器・かわらけ?	在地	騎3次	No. 541、一括	-	7.6	-	不明		K64		1/2以下
282	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 577	*11.4	*6.0	3.3	騎西城Ⅱ期		K65	底部外面板ナデ/ロクロ左回転	1/2以下
283	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 579	12.0	5.4	3.1~3.7	不明		K66	ロクロ左回転	完形
284	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 587	*11.0	*6.0	3.0	騎西城Ⅰ期		K67	ロクロ左回転	1/2以下
285	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 595	*12.0	-	-	騎西城Ⅱ期		K68		1/2以下
286	土器・かわらけ	在地	騎3次	No. 614 (3T)	12.2	5.5	3.5~4.0	不明		K71	底部外面板ナデ/ロクロ左回転	1/2以上
287	土器・かわらけ	在地	騎3次	1T	*11.0	*6.5	2.6	騎西城Ⅰ期		K73		1/2以下
288	土器・かわらけ	在地	騎3次	1T	*11.6	*7.0	2.5	騎西城Ⅰ期		K74		1/2以下
289	土器・かわらけ	在地	騎3次	3T	*11.0	*7.0	3.0	不明		K75		1/2以下
290	土器・かわらけ	在地	騎3次	3T	*11.2	*6.0	2.8	不明		K76	体部と底部(内面)境にナデ	1/2以下
291	土器・かわらけ	在地	騎3次	調北	*12.0	*5.6	2.7	不明		K77	ロクロ右回転	1/2以下
292	土器・かわらけ	在地	騎3次	調南	*8.0	*6.2	1.9	不明		K78		1/2以下
293	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 124・234・283・ 423・426・428・429・ 433・434・436・440・ 442~444・447・454 ・458~460、調南	37.0	33.5	5.0 ~5.5			H02		略完形
294	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 157・228・449	*35.0	*31.0	4.8			H05		1/2以下
295	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 231	-	-	5.3			H08		1/2以下
296	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 265	-	-	5.6			H06	外面スス付着	1/2以下
297	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 410	-	-	5.5			H07	外面スス付着	1/2以下
298	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 424・425・427・429 ~433・435・436・439・ 441・445・466・477・ 561~565・584、調南	35.0	31.0	5.4			H01	口縁外面工具痕/外面スス 付着	1/2以上
299	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 481	*34.7	*30.0	5.0			H04	外面スス付着	1/2以下
300	土器・ほうろく	在地	騎3次	No. 554	34.0	32.0	5.6~5.9			H03		1/2以上
301	土器・搦鉢	在地	騎3次	No. 34・99・107・120・ 272・273・290・291・615 3T・616 3T、調南	*28.0	-	-			鉢02		1/2以下
302	土器・搦鉢	在地	騎3次	No. 84・86・88・92・101 ~103・126・289、3T	*30.0	*12.5	14.2			鉢03	櫛目6本	1/2以下
303	土器・搦鉢	在地	騎3次	No. 147・152・187~ 189・201・243・356、 調南、調北、一括	27.0	11.5	10.0 ~10.5			鉢04	櫛目11本/外面スス付着	1/2以下
304	土器・搦鉢	在地	騎3次	No. 151・153・194・198 ・209・339・349、調南	*26.0	-	-			鉢01	櫛目8本	1/2以上
305	土器・搦鉢	在地	騎3次	No. 338・478	*27.0	-	-			鉢06	櫛目波状	1/2以下
306	土器・搦鉢	在地	騎3次	No. 372~374・376	*27.0	-	-			鉢05		1/2以下
307	土器・かわらけ	在地	騎12次	2井	*12.4	-	-	騎西城Ⅰ期		K01		1/2以下
308	土器・土鍋	在地	騎12次	2井	-	-	-			D01		1/2以下
309	土器・かわらけ	在地	騎12次	一括	*12.6	-	-	騎西城Ⅰ期		K02		1/2以下
310	土器・土鍋	在地	騎12次	一括	-	-	-			D02	外面スス付着	1/2以下
311	土器・搦鉢	在地	騎12次	一括	-	-	-			鉢01		1/2以下
312	土器・搦鉢	在地	騎12次	一括	-	-	-			鉢02		1/2以下
313	土器・搦鉢	在地	騎12次	一括	-	-	-			鉢03		1/2以下
314	土器・ほうろく	在地	騎14次	2堀	-	-	4.9			H01	側面穿孔(焼成後)	1/2以下
315	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	騎14次	3堀	*10.0	-	-			皿03	内外鉄釉/外面手持ヘラ削り	1/2以下
316	土器・ほうろく	在地	騎14次	3堀	-	-	-			H02		1/2以下
317	土器・搦鉢	在地	騎14次	3堀	-	*12.0	-			鉢06		1/2以下
318	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	騎14次	5堀	-	-	-			鉢03	内外錆釉	1/2以下
319	土器・かわらけ	在地	騎14次	5堀 No. 7	12.0	6.6	2.6~3.5			K01	ロクロ左回転	略完形
320	土器・かわらけ	在地	騎14次	5堀 No. 8	*7.0	*4.0	1.6			K02	ロクロ右回転	1/2以下
321	土器・搦鉢	在地	騎14次	6堀 No. 9	-	-	-			鉢07	内面スス付着	1/2以下
322	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	騎14次	1溝	-	4.3	-			天01	内面鉄釉・高台錆釉	1/2以下
323	陶器・皿/丸皿 端反皿	瀬戸美濃	騎14次	1溝	-	*6.0	-	大1~2		皿02	内外灰釉/高台内輪ト チン痕/印花	1/2以下

第19表 土器類一覧表 7

*は不確定な推定復元値、分量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
324	陶器・鉢	肥前	騎14次	1溝	-	*11.0	-			鉢01	刷毛目(白化粧土)/底部内面砂目積痕	1/2以下
325	磁器・碗/染付碗	肥前	騎14次	1溝 No. 2	-	3.0	-			伊01	高台端部露胎・砂溶着	1/2以上
326	土器・搦鉢	在地	騎14次	1溝	-	-	-			鉢08	内面剥落	1/2以下
327	磁器・皿/白磁皿	中国	騎14次	一括	*12.0	-	-	小野 C 群	15c 中～ 16c 末	白01	内外斑に灰色	1/2以下
328	焼締陶器/甕	渥美	騎14次	一括	-	-	-			袋03		1/2以下
329	焼締陶器/甕	渥美	騎14次	一括	-	-	-			袋04	内面平滑・磨痕?	1/2以下
330	陶器・碗/御室茶碗	瀬戸美濃	騎14次	一括	-	4.5	-		17c 末	碗01	内外灰釉・高台周辺露胎	1/2以下
331	陶器・碗	瀬戸美濃	騎14次	一括	-	3.8	-	登3～4?		碗02	内面灰釉/外面削りカス付着	1/2以下
332	陶器・碗	瀬戸美濃	騎14次	一括	-	3.0	-	8小期	18c 後	碗03	内外灰釉・高台周辺露胎	1/2以下
333	陶器・碗	瀬戸美濃	騎14次	一括	-	*3.2	-	8小期	18c 後	碗04	内外灰釉・高台周辺露胎	1/2以下
334	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	騎14次	一括	*8.0	-	-	8小期	18c 後	碗05	内外灰釉	1/2以下
335	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	騎14次	一括	*11.0	-	-			皿01	内外灰釉	1/2以下
336	陶器・皿/灯明皿	瀬戸美濃	騎14次	一括	9.6	4.0	2.2		19c 後	皿04	内外鉄釉・底部外面露胎/ 外面重ね焼き痕	略完形
337	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	騎14次	一括	-	-	-	大3後		鉢02	内外錆釉	1/2以下
338	陶器・德利	瀬戸美濃	騎14次	一括	3.1	-	-	7小期		袋01	内外鉄釉	1/2以下
339	陶器・德利	瀬戸美濃	騎14次	一括	-	-	-	6・7小期		袋02	外面オリーブ色釉	1/2以下
340	陶器・皿	肥前 (唐津)	騎14次	一括	-	4.2	-		16c 末～ 17c 初	皿05	内外ワラ灰釉・高台周辺露胎	1/2以上
341	陶器・搦鉢	志戸呂	騎14次	一括	-	-	-			鉢04	内外錆釉・内面一部露胎	1/2以下
342	陶器・搦鉢	丹波	騎14次	一括	*34.0	-	-		17c 末～ 18c 初	鉢05	内外錆釉・口縁部自然釉	1/2以下
343	磁器・碗/染付碗	肥前	騎14次	一括	-	4.2	-			伊02	高台端部露胎	1/2以下
344	磁器・碗/染付碗	肥前	騎14次	一括	-	3.5	-			伊03	高台端部露胎・砂溶着	1/2以下
345	磁器・碗/染付碗	肥前	騎14次	一括	-	3.4	-			伊04	内外灰白色・高台端部露胎	1/2以下
346	磁器・碗/染付端反碗	肥前	騎14次	一括	*10.0	-	-	IV期	1780～ 1860	伊05		1/2以下
347	磁器・皿/染付皿	肥前	騎14次	一括	-	*7.0	-	III期～	1650～	伊06	高台端部露胎	1/2以下
348	土器・ほうろく	在地	騎14次	一括	-	-	5.5			H03	外面スス付着	1/2以下
349	土器・ほうろく	在地	騎14次	一括	-	-	-			H04		1/2以下
350	土器・ほうろく	在地	騎14次	一括	-	-	2.8			H05		1/2以下
351	陶器・皿	不明	騎15次	シ-2011-1	-	7.0	-			皿01	高台周辺を除き透明釉/底部内面・高台内 目痕各1ヶ所	1/2以下
352	焼締陶器・搦鉢	丹波系	騎15次	一括	-	-	-			鉢01	内面自然釉	1/2以下
353	磁器・碗	肥前	騎15次	シ-2011-2 1T	-	-	-			伊01		1/2以下
354	磁器・碗	肥前	騎15次	一括	-	-	-			伊02	梅樹文	1/2以下
355	磁器・碗	肥前	騎15次	シ-2011-2 1T	-	-	-	V a	1710～1720	伊03	梅樹文	1/2以下
356	磁器・碗	肥前	騎15次	一括	-	4.0	-			伊04	福文	1/2以下
357	焼締陶器・広口壺	常滑	多1次	1溝/No. 72	*22.6	-	-	7形式		町袋69		1/2以下
358	焼締陶器・甕	常滑	多1次	1溝/No. 76	-	-	-			町袋72		1/2以下
359	焼締陶器・甕	常滑	多1次	1溝/No. 78	-	-	-			町袋73		1/2以下
360	磁器・碗/白磁碗	中国	多1次	1溝/No. 94	-	-	-		13c	町白25		1/2以下
361	磁器・碗/青磁碗	同安窯系 中国	多1次	2溝/No. 101、 No. 10	*16.5	-	-	I-1-b	12c 中～ 13c 末	町青87		1/2以下
362	磁器・碗/青磁碗	同安窯系 中国	多1次	No. 37	-	-	-	I-1-b		町青85		1/2以下
363	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	多1次	No. 58	-	-	-	I-2	12c 中～ 13c 末	町青88		1/2以下
364	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	多1次	No. 34	-	*4.2	-	I-5		町青84		1/2以下
365	焼締陶器・甕	常滑	多1次	No. 1・6	-	-	-			町袋71		1/2以下
366	焼締陶器・甕	常滑	多1次	No. 59	-	-	-			町袋75		1/2以下
367	焼締陶器・甕	常滑	多1次	No. 5	-	-	-			町袋70		1/2以下
368	焼締陶器・甕	常滑	多1次	No. 15	-	-	-			町袋76		1/2以下
369	焼締陶器・甕	常滑	多1次	No. 2	-	-	-			町袋74		1/2以下
370	土器・捏鉢	在地	多1次	No. 12	-	-	-			町鉢200		1/2以下
371	陶器・碗	瀬戸美濃?	多2次	1溝/No. 21	-	3.0	-			碗06	内外灰釉厚い・高台周辺露胎	1/2以下
372	陶器・碗	瀬戸美濃	多2次	1溝/No. 88	-	3.5	-			碗02	灰釉(透明釉)・高台周辺露胎	1/2以下

第20表 土器類一覧表 8

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
373	陶器・碗/腰錆碗	瀬戸美濃	多2次	1溝/No. 90	*10.0	-	-			碗03	内面・外面口縁透明釉/外面胴部鉄釉	1/2以下
374	陶器・碗/腰錆碗	瀬戸美濃	多2次	1溝/No. 97・106・ 一括	-	-	-			碗04	内面・外面口縁透明釉/外面胴部鉄釉	1/2以下
375	陶器・碗/丸碗	瀬戸美濃	多2次	1溝/No. 139	12.6	5.2	5.8	東大Ⅶ～Ⅷ a	1780～1810	碗01	内外緑釉・高台周辺露胎	3/4以上
376	陶器・搗鉢	瀬戸美濃	多2次	1溝/No. 91	-	-	-		19c 後?	鉢01	内外錆釉	1/2以下
377	陶器・小坏	瀬戸美濃	多2次	1溝/No. 60	8.0	-	-			他01	内外透明釉・腰部露胎	1/2以下
378	陶器・花生	瀬戸美濃	多2次	1溝/No. 56	*12.0	-	-			他02	内外黄釉/盤口形	1/2以下
379	陶器・皿/京焼風陶器皿	肥前	多2次	1溝/No. 66・67・99	-	4.2	-		17c 前	皿01	高台露胎/山水文/高台端部釉葉付着	1/2以下
380	焼締陶器・搗鉢	丹波系	多2次	1溝/No. 142	-	-	-		17c 末～ 18c 初	鉢06		1/2以下
381	焼締陶器・搗鉢	堺系	多2次	1溝/No. 54	-	-	-		1730～1830	鉢04	内面使用による磨耗	1/2以下
382	焼締陶器・搗鉢	堺系	多2次	1溝/No. 109	-	-	-			鉢05		1/2以下
383	磁器・碗/染付碗	肥前	多2次	1溝/No. 17	9.7	4.2	5.1		18c	伊01	二重網目文/高台端部砂着	3/4以上
384	磁器・皿/染付皿	肥前	多2次	1溝/No. 18・20	13.8	8.6	3.1	東大Ⅳカ	1670～ 1710	伊02	コンニャク判の五弁花・墨弾きによる E 字文/高台内ハリ痕/高台端部着痕	完形
385	磁器・皿/染付皿	肥前	多2次	1溝/No. 28	*13.0	*8.0	3.2	Ⅳ b～Ⅵ a	1680～ 1760	伊04	高台端部露胎/墨弾きによる E 字文・唐草の茎が圏線	1/2以下
386	磁器・皿/染付皿	肥前	多2次	1溝/No. 59	-	*12.0	-			伊05	高台端部露胎/花文?	1/2以下
387	土器・かわらけ	在地	多2次	1溝/No. 23・24・25・73	9.5	5.2	1.3～2.0		18c?	K01	内面スス付着/焼成前変形	3/4以上
388	土器・焔炉の目皿	在地	多2次	1溝/No. 53	*10.0	-	1.0			素他01		1/2以下
389	土器・瓦器	在地	多2次	1溝/No. 72・151	-	-	-			素他02		1/2以下
390	磁器・碗/染付碗	肥前	多2次	4壇/No. 13	*8.0	-	-			伊07	葉文	1/2以下
391	磁器・合子蓋	肥前	多2次	4壇/No. 14	-	-	-			伊09	花文?を浮彫・文様周縁に呉須	1/2以下
392	磁器・小坏?	肥前	多2次	4壇/No. 6	*7.0	-	-			伊06	文様	1/2以下
393	土器・かわらけ	在地	多2次	4壇/No. 9	*9.8	*6.0	1.5			K02	体部と底部(内面)境にナデ	1/2以下
394	土器・瓦	在地	多2次	4壇	-	-	1.85			瓦01	表面白色物質付着	1/2以下
395	陶器・德利	瀬戸美濃	多2次	11壇/No. 32	3.2	-	-	Ⅵ a～ Ⅷ d	1750～ 1830	袋01	外面柿釉が斑に掛る/献上備前写し	1/2以下
396	陶器・香炉	不明	多2次	12壇/No. 50	*9.0	-	-			香03	口縁内面・外面鉄釉	1/2以下
397	磁器・碗/青磁碗	肥前	多2次	12壇/No. 51	-	-	-		1750～	伊08	外面青磁釉/圏線	1/2以下
398	土器・ほうろく	在地	多2次	12壇/No. 47	-	-	-			H01		1/2以下
399	陶器・鉢/煙硝搗	瀬戸美濃	多2次	1T	*13.0	-	-	登4・5	17c 末～ 18c 初	鉢03	口縁内面・外面鉄釉	1/2以下
400	陶器・搗鉢	瀬戸美濃	多2次	3T	-	-	-			鉢02	内外錆釉	1/2以下
401	陶器・香炉	瀬戸美濃	多2次	1T	*11.0	-	-			香02	口縁内面・外面黄釉	1/2以下
402	陶器・香炉	瀬戸美濃	多2次	一括	*11.0	-	-		18c 後	香01	口縁から腰部鉄釉	1/2以下
403	陶器・德利	肥前系	多2次	表採	-	-	-			袋02	外面鉄釉に白色釉流し掛け	1/2以下
404	陶器・碗/京焼風陶器碗	瀬戸美濃 *京都・ 信楽系	多2次	表採	-	3.1	-			碗05	内外透明釉・腰部露胎/胎土非常に堅緻	1/2以下
405	磁器・碗/染付碗	肥前	多2次	No. 136	-	4.0	-	V 期	1710～ 1740	伊10	高台端部露胎/梅樹文/高台内銘	1/2以下
406	磁器・碗/染付碗	肥前	多2次	表土中	*10.0	-	-		18c～	伊12	四方襷/口縁外面凹む	1/2以下
407	磁器・碗/染付碗	肥前	多2次	表土中	*8.0	*3.0	5.3			伊13		1/2以下
408	磁器・皿カ鉢	肥前	多2次	表採	-	*9.0	-	V b～Ⅷ b		伊14	蛇の目凹高台低い	1/2以下
409	磁器・皿/染付皿	肥前	多2次	一括	*13.8	*8.6	5.0		17c 末～ 18c	伊03	高台端部露胎/コンニャク判の五弁花/高台内銘あり	1/2以下
410	磁器・小坏/染付小坏	肥前	多2次	3T	-	3.0	-			伊11	高台端部露胎/植物文	1/2以下
411	土器・かわらけ	在地	多2次	一括	-	*7.0	-			K03		1/2以下
412	土器・ほうろく	在地	多2次	3T	-	-	-			H02	内耳剥落	1/2以下
413	土器・ほうろく	在地	多2次	表採	-	-	-			H03	外面スス付着	1/2以下
414	土器・ほうろく	在地	多2次	表採	-	-	2.6			H04	外面スス付着/底部修理穴あり	1/2以下
415	土器・ほうろく	在地	多2次	表土中	-	-	2.6			H05	外面3条の横線巡る	1/2以下
416	土器・火鉢?	在地	多2次	表採	-	-	4.9			火鉢01	外面スス付着	1/2以下
417	磁器・碗/丸碗	瀬戸美濃	多3次	1溝/No. 15・一括	*11.0	3.8	5.3		19c～	瀬美08	内外型紙刷	1/2以下
418	土器・かわらけ	在地	多3次	1溝/No. 54	-	-	-			K02	底部外面糸切痕/内面回転ナデ	1/2以下
419	土器・火鉢	在地	多3次	1溝/No. 9、 No. 131・138	*30.0	*24.0	-			火鉢03	内面スス付着/脚部5mmの孔(焼成前)1ヶ所/口唇部剥落	1/2以下

第21表 土器類一覧表 9

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名/)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
420	土器・瓦/軒瓦	在地	多3次	1溝/No. 7、No. 195	-	-	3.7			瓦23		1/2以下
421	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	1溝/No. 14、No. 154・324、瓦東	-	-	2.7			瓦26		1/2以下
422	土器・ほうろく	在地	多3次	3溝/No. 447	-	-	4.9			H05	外面スス付着	1/2以下
423	磁器・碗/丸碗	瀬戸美濃	多3次	1壙/No. 232、瓦東、一括	*10.6	3.6	4.7		19c～	瀬美09	内外型紙刷	1/2以上
424	土器・かわらけ	在地	多3次	1壙/No. 62	*8.0	-	-			K03		1/2以下
425	土器・かわらけ	在地	多3次	1壙	-	-	-			K01		1/2以下
426	土器・ほうろく	在地	多3次	1壙	-	-	-			H03		1/2以下
427	陶器・徳利	瀬戸美濃	多3次	No. 3・216・255・276・403・416、I層、III層、一括	-	8.4	-		18c?	袋01	外面灰釉	1/2以下
428	磁器・碗/青磁染付碗	肥前	多3次	瓦 No. 104、No. 113、IV層、一括	*10.4	*5.0	6.0	IV期	18c～	伊01	外面青磁釉/四方襷	1/2以下
429	磁器・皿/染付皿	肥前	多3次	瓦 No. 134・136・137・170・205、西側瓦トレンチ皿層、一括	16.6	10.0	2.9		17c 後～	伊04	口鏽/五弁花・扇子	3/4以上
430	磁器・鉢/染付鉢	肥前	多3次	瓦 No. 5・14・18・32・83・89・91・128・130・131・134、皿層、一括	19.6	10.0	8.2	V期	1820～1860	伊07	型打成形/蛇の目凹形高台	3/4以上
431	磁器・鉢/染付10角鉢	肥前	多3次	No. 132・134・135、瓦 No. 43・131・134・196・213・225、一括	13.4	7.5	6.5	V期	18c～	伊05	蛇の目凹形高台	略完形
432	磁器・鉢/青磁染付鉢	肥前	多3次	No. 220・221、皿層、耕作土、一括	*18.0	9.0	*7.5	V期	1820～1860	伊06	内面染付/外面青磁釉/蛇の目凹形高台/高台内輪トチ痕	1/2以下
433	磁器・小坏	肥前	多3次	瓦 No. 129・182、一括	-	3.4	-	V期	1780～1860	伊02	外面ルリ釉	1/2以下
434	磁器・小坏	肥前系	多3次	No. 134・138、瓦 No. 134、一括	6.0	3.2	5.4			伊03	口鏽/壽	1/2以上
435	磁器・碗/染付端反碗	瀬戸美濃	多3次	No. 260、瓦東、一括	*11.0	4.2	5.9		19c 前～中	瀬美01		1/2以下
436	磁器・碗/染付端反碗	瀬戸美濃	多3次	No. 293・360、II層、一括	*11.0	4.6	6.0		19c 前～中	瀬美02		1/2以下
437	磁器・碗/染付端反碗	瀬戸美濃	多3次	No. 295・418・419	*11.4	4.5	6.2		19c 中～	瀬美06	透明釉厚い	1/2以下
438	磁器・碗/染付端反碗	瀬戸美濃	多3次	No. 318、皿層、一括	*10.8	*4.0	5.7		19c 前～中	瀬美03		1/2以下
439	磁器・碗/染付端反碗	瀬戸美濃	多3次	No. 369・372・381、一括	*11.0	4.2	5.1		19c 前～中	瀬美04		1/2以下
440	磁器・碗/染付端反碗	瀬戸美濃	多3次	一括	*10.0	*3.4	5.2		19c 前～中	瀬美10		1/2以下
441	磁器・碗/染付端反碗	瀬戸美濃	多3次	一括	*11.0	-	-		19c 前～中	瀬美11		1/2以下
442	磁器・碗/丸碗	瀬戸美濃	多3次	No. 358、瓦東、一括	*11.0	*3.2	4.7		19c～	瀬美05	内外型紙刷	1/2以下
443	磁器・碗/丸碗	瀬戸美濃	多3次	No. 371・422	*11.4	3.7	4.1		19c～	瀬美07	内外型紙刷	1/2以下
444	磁器・皿/染付皿	瀬戸美濃	多3次	No. 309・311、皿層	*13.0	*7.4	2.0		19c～	瀬美13	内外型紙刷	1/2以下
445	磁器・鉢	瀬戸美濃	多3次	No. 145・165・196、一括	*18.0	*9.0	6.0		19c～	瀬美14	内外型紙刷	1/2以下
446	磁器・小坏/染付小坏	不明	多3次	瓦 No. 137・138・140、一括	*6.8	3.0	4.8			瀬美12		1/2以下
447	土器・かわらけ	在地	多3次	No. 95	*11.0	-	-			K04		1/2以下
448	土器・かわらけ	在地	多3次	No. 252	-	*5.0	-			K05	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以下
449	土器・かわらけ	在地	多3次	一括	-	*8.0	-			K06	底部外面糸切痕	1/2以下
450	土器・かわらけ	在地	多3次	一括	-	-	-			K07	底部内面指頭ナデ	1/2以下
451	土器・ほうろく	在地	多3次	瓦 No. 5・24・26・69～74・105～111・116・125・127・133・145・174・220、皿層、一括	33.0	34.0	3.0			H02	底面外周やや浮く	1/2以上
452	土器・ほうろく	在地	多3次	瓦 No. 79・90・161・191、瓦南、一括	*40.0	*40.0	2.8			H01	外面スス付着	1/2以下
453	土器・ほうろく	在地	多3次	No. 244	-	-	-			H04	内面下部スス付着	1/2以下
454	土器・ほうろく	在地	多3次	皿層	-	-	-			H06		1/2以下
455	土器・片口鉢	在地	多3次	No. 404	-	-	-			鉢01	胎土に小石含む	1/2以下
456	土器・片口鉢	在地	多3次	No. 486	-	-	-			鉢02	胎土に小石含む	1/2以下

第22表 土器類一覧表10

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No.	器種	産地	調査名	出土地点 (遺構名)	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	時期・ 分類	年代	遺物 ID	備考	残存率
457	土器・火鉢	在地	多3次	No. 298、瓦 No. 17・19・25・49・51・56・60・62・64～66・85・87・92・96・98・141・153・178・181・187・194・198・202・206・214・224、Ⅲ層、南、一括	*27.8	20.4	21.7			火鉢01	鈕2ヶ所/内外剥落	1/2以上
458	土器・火鉢	在地	多3次	一括	27.0	17.5	17.5			火鉢02	鈕2ヶ所/みぞれ状文・植物文/凹部赤色付着物/脚部10mmの孔(焼成前)2ヶ所	3/4以上
459	土器・火鉢	在地	多3次	No. 162、一括	-	-	-			火鉢05	連続刻目3段/口縁部みがき顕著/内面ロクロナデ痕/口唇部剥落	1/2以下
460	土器・火鉢	在地	多3次	No. 168	-	-	-			火鉢06	連続刻目4段/内面ロクロナデ痕/火鉢4と同一個体カ	1/2以下
461	土器・火鉢	在地	多3次	No. 359、一括	*28.0	-	-			火鉢04	連続刻目7段/口縁部みがき顕著/内面ロクロナデ痕/火鉢6と同一個体カ	1/2以下
462	土器・手焙り?	在地	多3次	No. 40・251、瓦 No. 46	*20.0	-	-			素他02	連続刻目8段 重複あり	1/2以下
463	土器・手焙り?	在地	多3次	No. 375	-	-	-			素他03	連続刻目4段/内面整形ケズリ痕/窓を有する	1/2以下
464	土器・瓦/伏間瓦	在地	多3次	瓦 No. 10・17・175	-	-	-			瓦02		1/2以下
465	土器・瓦/伏間瓦	在地	多3次	瓦 No. 27	-	-	3.8			瓦01		1/2以下
466	土器・瓦/伏間瓦	在地	多3次	Ⅲ層	-	-	-			瓦03		1/2以下
467	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	瓦 No. 3・15・28	-	25.0	1.8			瓦07		1/2以上
468	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	瓦 No. 42・61・80・82・86・186・195	26.8	-	2.1			瓦04		1/2以上
469	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	No. 153・355・424	-	-	2.0			瓦12		1/2以下
470	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	No. 227	-	25.2	1.8			瓦06		1/2以下
471	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	No. 234	-	-	1.8			瓦05		1/2以下
472	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	No. 236	-	-	1.8			瓦08		1/2以下
473	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	瓦	-	-	1.9			瓦09		1/2以下
474	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	Ⅲ層	-	-	2.0			瓦10		1/2以下
475	土器・瓦/平瓦	在地	多3次	一括	-	-	1.8			瓦11		1/2以下
476	土器・瓦/棧瓦	在地	多3次	瓦 No. 16・188、南	-	-	1.8			瓦16		1/2以下
477	土器・瓦/棧瓦	在地	多3次	瓦 No. 41・42	-	-	2.0			瓦15		1/2以下
478	土器・瓦/棧瓦	在地	多3次	瓦 No. 142	-	-	1.7			瓦13		1/2以下
479	土器・瓦/棧瓦	在地	多3次	瓦 No. 169・180	-	-	1.8			瓦14		1/2以下
480	土器・瓦/軒巴	在地	多3次	No. 218	-	-	-			瓦17	連珠文・三ッ巴	1/2以下
481	土器・瓦/軒巴	在地	多3次	一括	-	-	1.8			瓦18	連珠文	1/2以下
482	土器・瓦/軒瓦	在地	多3次	瓦 No. 2・6・7・9・33・36・37、No. 422、一括	-	-	4.3			瓦21		1/2以下
483	土器・瓦/軒瓦	在地	多3次	No. 127	-	-	4.1			瓦22		1/2以下
484	土器・瓦/軒瓦	在地	多3次	No. 172・346	-	-	4.3			瓦19		1/2以下
485	土器・瓦/軒瓦	在地	多3次	No. 473	-	-	4.2			瓦24		1/2以下
486	土器・瓦/軒瓦	在地	多3次	西側・南側トレンチⅢ層	-	-	4.1			瓦20		1/2以下
487	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	No. 128・356・478、Ⅲ層	-	14.0	1.9			瓦28		1/2以下
488	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	No. 199	-	-	2.9			瓦27		1/2以下
489	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	No. 151	-	-	2.0			瓦29		1/2以下
490	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	No. 225・230・240、Ⅲ層	26.0	14.0	2.7			瓦25		1/2以上
491	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	No. 366	-	-	1.8			瓦31		1/2以下
492	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	No. 420・472	-	-	1.8			瓦30		1/2以下
493	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	瓦 No. 81・121・139	23.7	-	2.0			瓦33		1/2以下
494	土器・瓦/丸瓦	在地	多3次	瓦 No. 157	-	-	1.8			瓦32		1/2以下
495	土器・不明	在地	多3次	一括	-	-	-			素他04	瓦質/天地不明/上面粘土クズ付着	1/2以下
496	陶器・碗/土製円盤	瀬戸美濃	騎武8次	一括	1.8	1.5	0.5			他03	内外灰釉	1/2以下
497	土製・泥面子	在地	騎武8次	一括	2.0	1.8	0.5			0008-0001		完形
498	土製・泥面子	在地	騎武8次	一括	2.3	1.9	0.6			0008-0002		完形
499	土製・泥面子	在地	多3次	No. 116	2.7	2.2	0.8			素他01		完形

第23表 土器類一覽表11

第2節 木製品類

今回報告した調査の内、騎西城跡第14次調査の出土遺物を扱う。これらは製品と考えられるものは無く、木片など図化できないものである。

1号堀からは丸木、木片、竹が出土した。丸木は片側端部が炭化し、一部樹皮が残っている。木片については縮みが見られ一度乾燥したようである。竹は片側先端を斜めに切断している。

2号堀から節の周りを整形した木片が出土した。

1号井戸からは破片化した竹が出土した。先端を斜めに切断しているものもありタガの可能性はある。比較的状态の良い1点のみ計測した。

以上の木片類について、法量や特徴等のデータを第24表に掲載した。

() は残存値

法量の単位は cm

調査名	図 No.	遺物名	出土地点	法量	特徴	備考	遺物 ID
騎14次	—	材/木片	騎14次 2号堀	長さ(6.6)/幅(4.0)/厚さ2.1	節周辺を加工	小破片の為詳細不明	661-0104-0014-0004
騎14次	—	木片	騎14次 1号堀	長さ(25.0)/径2.5/厚さ0.2	先端は丸みを帯びる。	一度乾燥か。	661-0104-0014-0001
騎14次	—	丸木	騎14次 1号堀	長さ(18.4)/径≒6.5		片側端部炭化。一部樹皮が残る。	661-0104-0014-0002
騎14次	—	竹	騎14次 1号堀	長さ(19.6)/径1.8	片側端部を斜めに切断。		661-0104-0014-0003
騎14次	—	竹	騎14次 1号井戸	長さ(36.0)/高さ0.9/径≒25.0		複数破片がある中で良好な物を計測。タガか。	661-0104-0014-0005

第24表 木製品一覧表

第3節 金属製品

金属製品は鉄製品と銅製品がある。用途別に記述するが、銭貨は別に扱う。

【用途分類】

生活—衣・調理・貯蔵・食膳・暖房灯り

・住・喫茶・遊び・文具

生業—耕作・加工・鍛冶・ほか

信仰—まじない・串い

経済流通—貨幣・流通

いくさ—甲冑・刀・槍・弓矢・火縄銃・馬具・ほか

ほか

(1) 鉄製品

○生活に関するもの

衣の毛抜き(1・2)は1は小型で完形、刃部はあまり広がらない。2は下部が欠損しており、刃部はずれて錆着している。刃部は広がる。

灯りの火打金(3~8)は山形に分類され、3はつまみ部が丸い。4はやや小型で頂部を欠損している。6は体部が長方形に近く、端部は四角か。8は端部が鋭角である。

住の釘(9)は断面角形のものを選んだ。10は犬釘様だが断面扁平で先端が四角い。11はL字形で断面四角形である。12は把手状で先端が尖り断面四角である。

○生業に関するもの

耕作の鎌(13)は切っ先部分のみ、加工の紡錘車(14)は軸部が破損し、円盤部が残る。刀子状製品(15・18)では15は刀身・茎部が残る、18は断面が三角で刀身部と思われる。小刀(16)・刀子(17)がある。17はマチが良く残る。鋏(19)は握り挟みで、左右先端を欠損している。

○いくさに関するもの

甲冑の小札(20)は札頭を斜めに成形し、やや細身で下端を欠損する。緘穴は2列で8穴以上。

刀装品の小柄(21・22)は先端あるいは茎部が欠損しているが、いずれも遺存状態は良い。22は茎部が短いが完品か。切っ先が鋭い。

槍先(23)は長さ10cmで小型で、身は扁平。希少で遺跡内2点の内の1点である。

弓矢の鉄鏃(24~28)はほとんどが欠損・発錆しており形態は不明瞭であるが、26は鏃身上半部の遺存が良く先端一文字で鏃身は矩形、27も同様の形態である。25~27の茎は矩形である。28は発錆顕著だが先端部が扁平気味で下端が方形で鏃の可能性はある。

○ほか

環状製品(29~31)は用途不明。29・31は断面長方形である。柄状製品は薄く長方形である。残りが良く鍛造製品か。

(2) 銅製品

○生活に関するもの

鏡(33)は推定直径5cmと小型で半分欠損している。裏面に圏線が巡り上部に鳥様の文様がある。ピン(34)は先端扁平である。把手状の部品(35)は取り付け部が横位に可動する。

○いくさに関するもの

縁(36)は環状の貼合せと板との接合部が明瞭である。

筭金物(37)は両端が欠損している。甲冑の部品で、文様は打ち出しによる成形、精細な菊の花・葉の文様が透かし彫り状に表現されている。南都の技術者によるものか。一部黒化しており金箔は確認できない。38も飾り金具で打ち出し成形している。菊の花文で、全周欠損している。

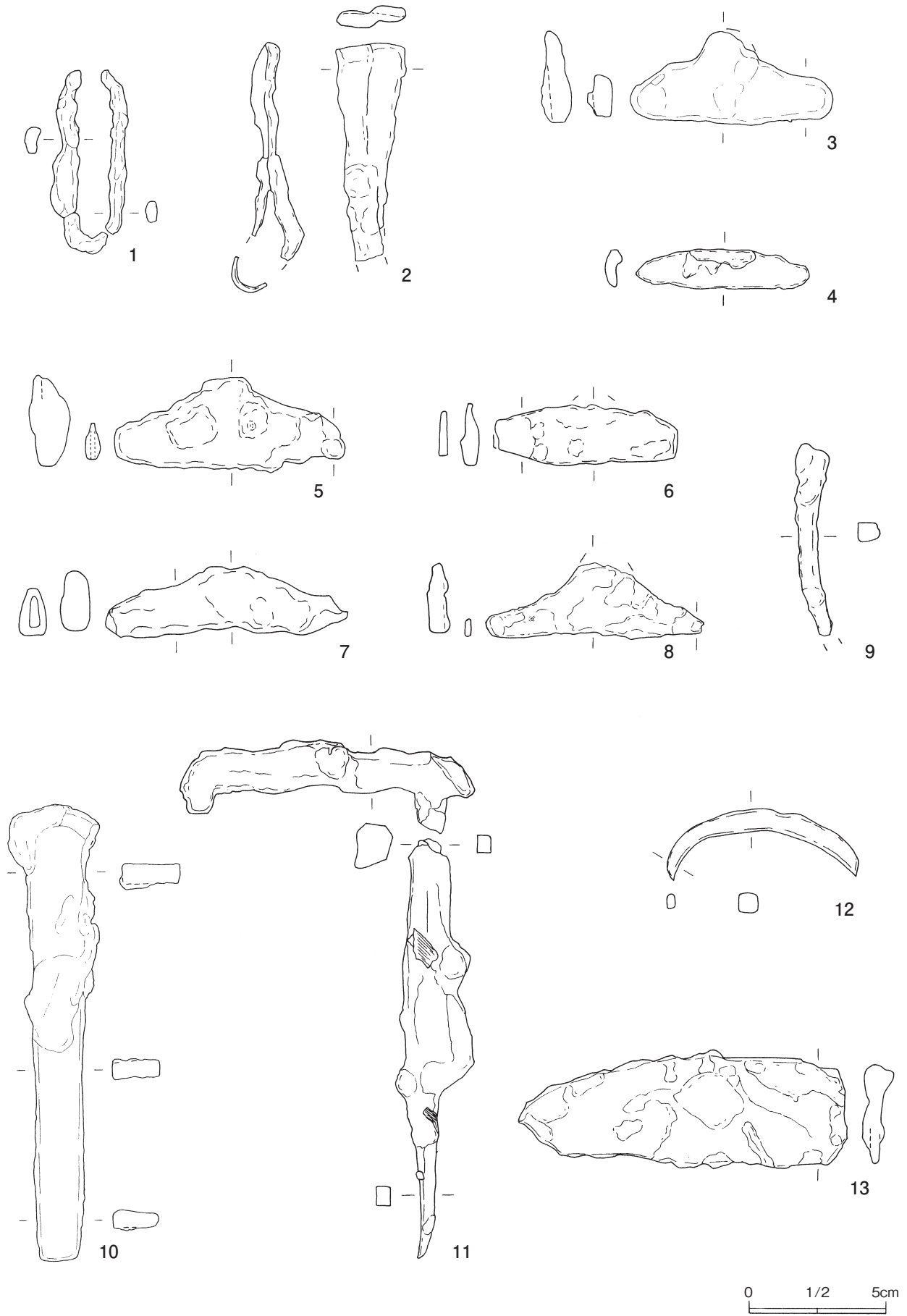
○ほか

金具(39・40)のうち、留金具(39)は非常に遺存がよい。上部に2か所穴があり、下部には3か所鉾が打ち込まれている。筭状の金物(41)は魚々文が施される。小柄の柄(42)は正面に五条の沈線を施す。右端に穿孔は劣化によるものか。

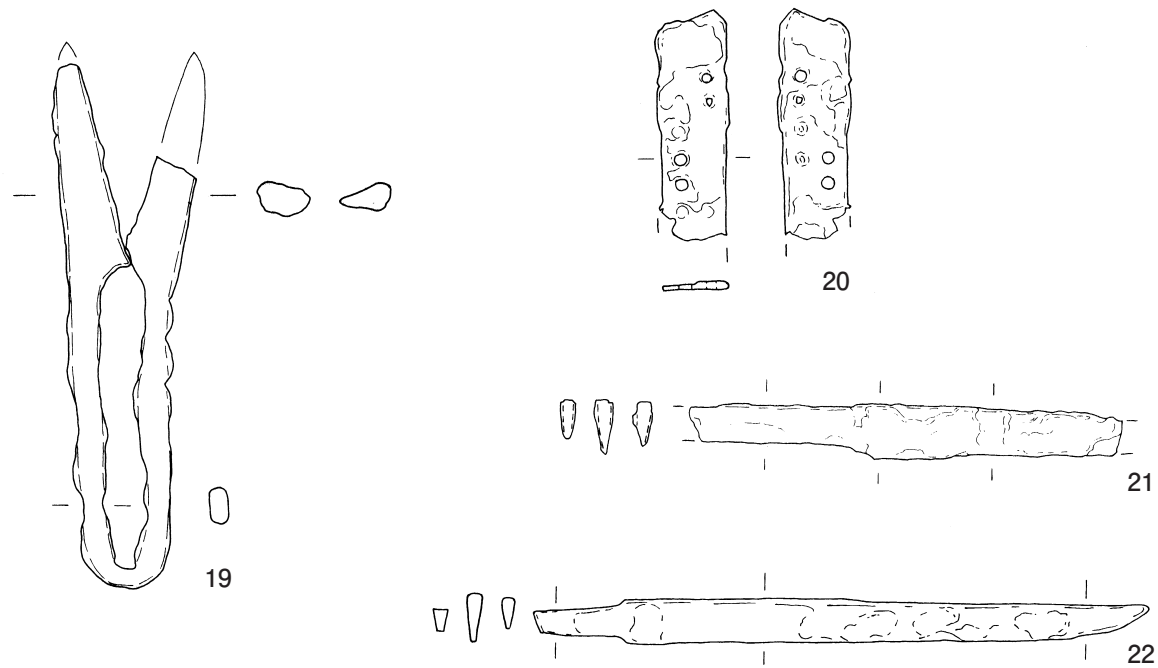
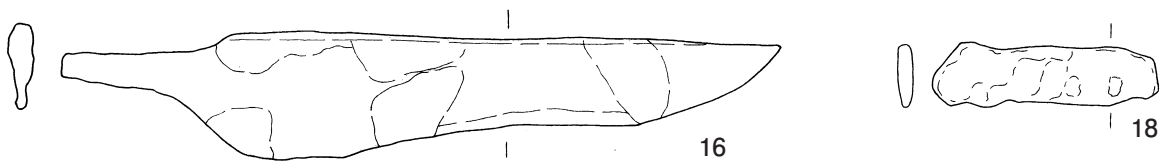
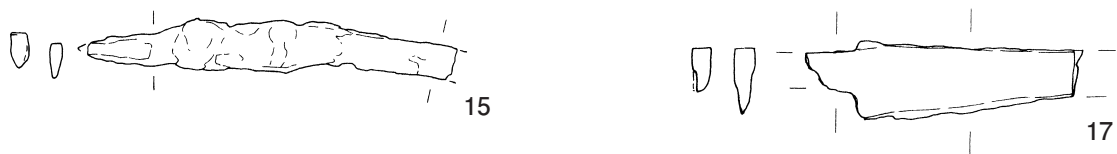
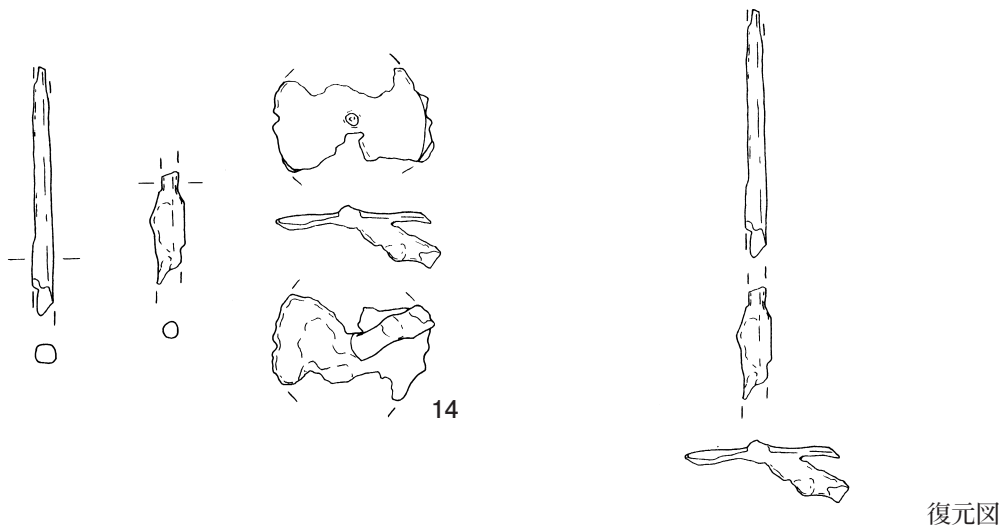
(3) 銭貨

総数87枚が確認されている。中世以前の渡来銭が多い。うち近世の寛永通宝、文久永宝がある。

102~107は墓壙出土の六道銭である。寛永通宝は多賀谷3次で出土しており、古寛永は(108・112・113・119)である。文久永宝(45・114)のうち45には背面に波文がある。

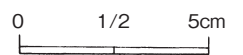
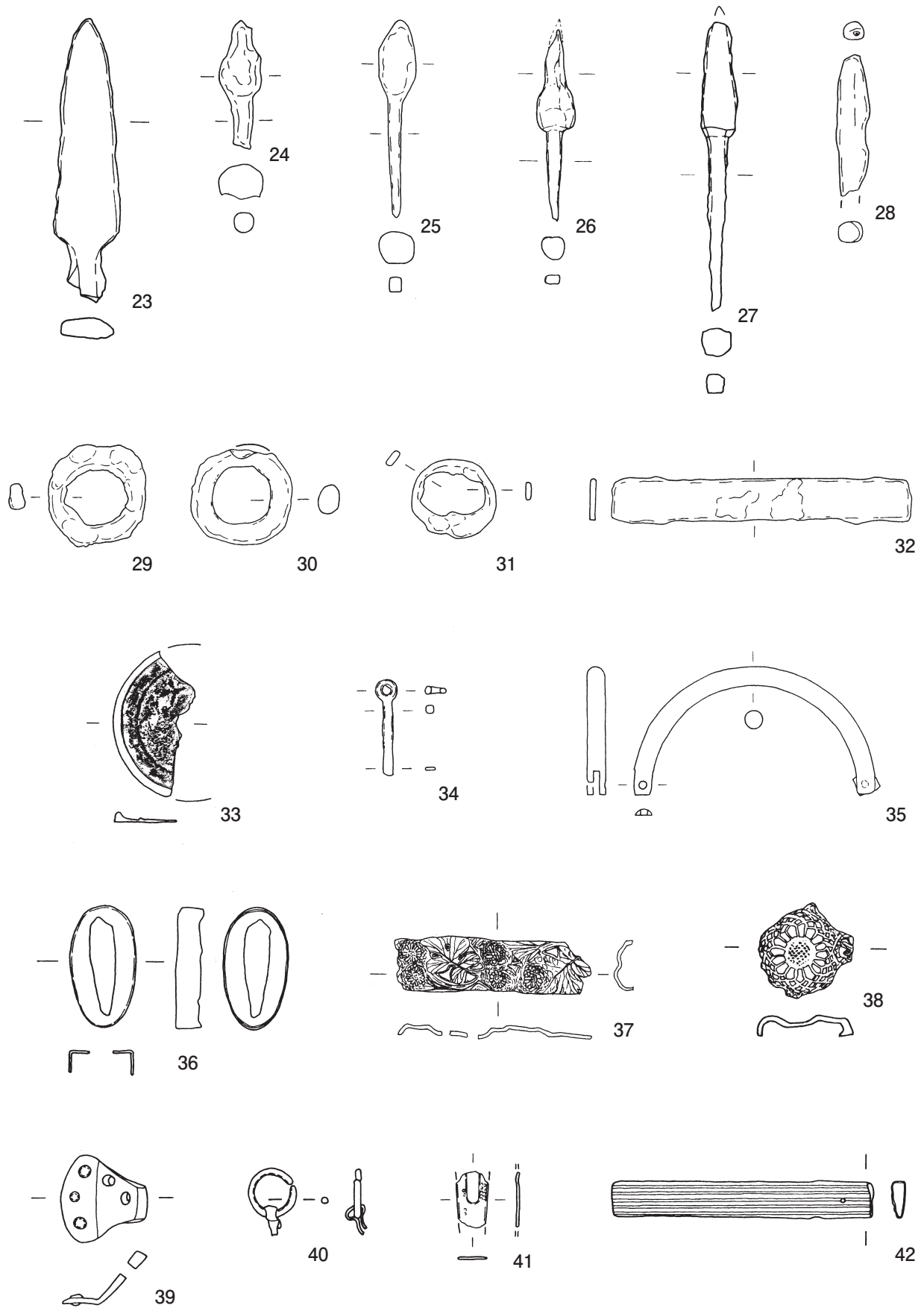


第76図 金属製品1 (鉄1)

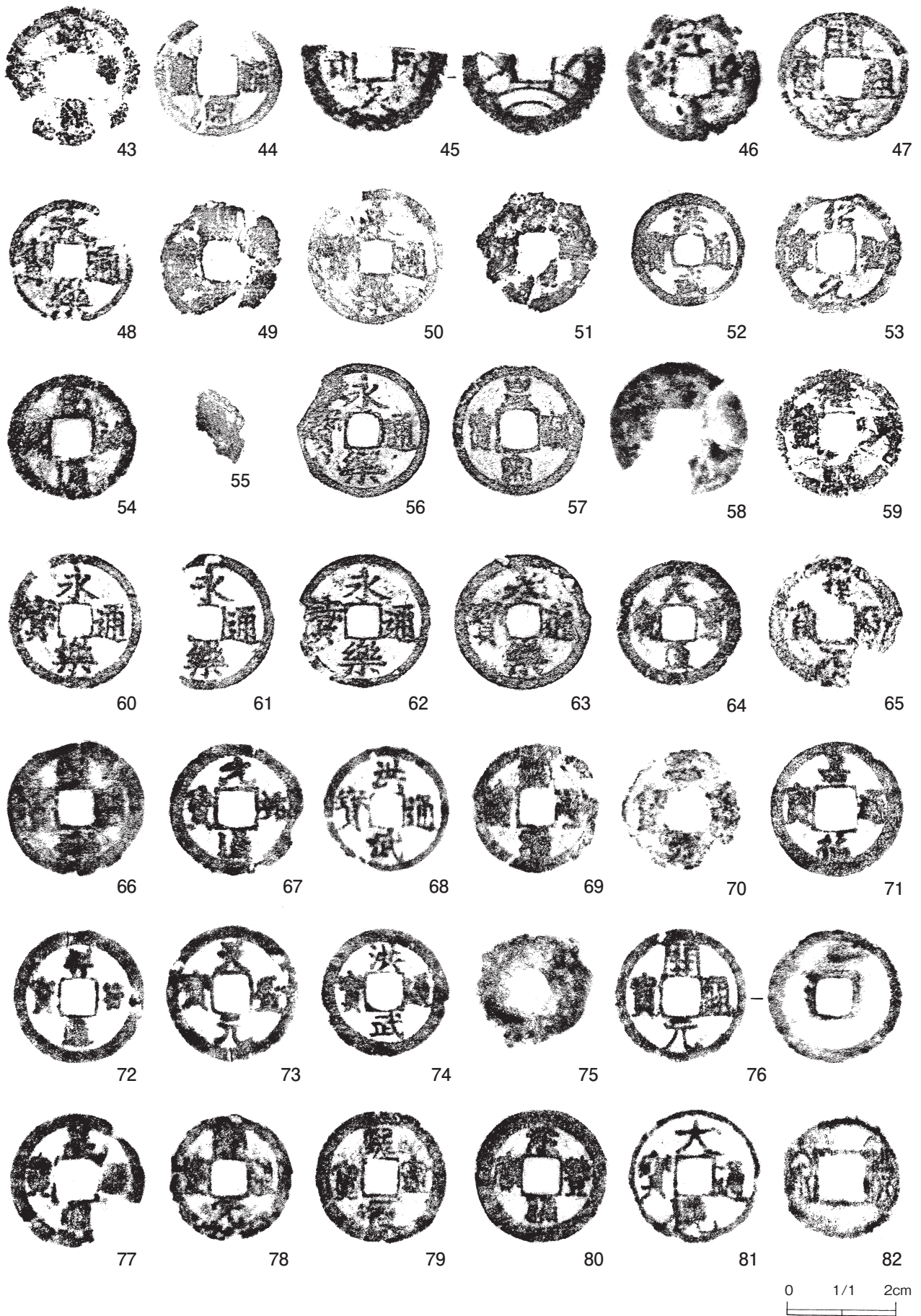


0 1/2 5cm

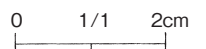
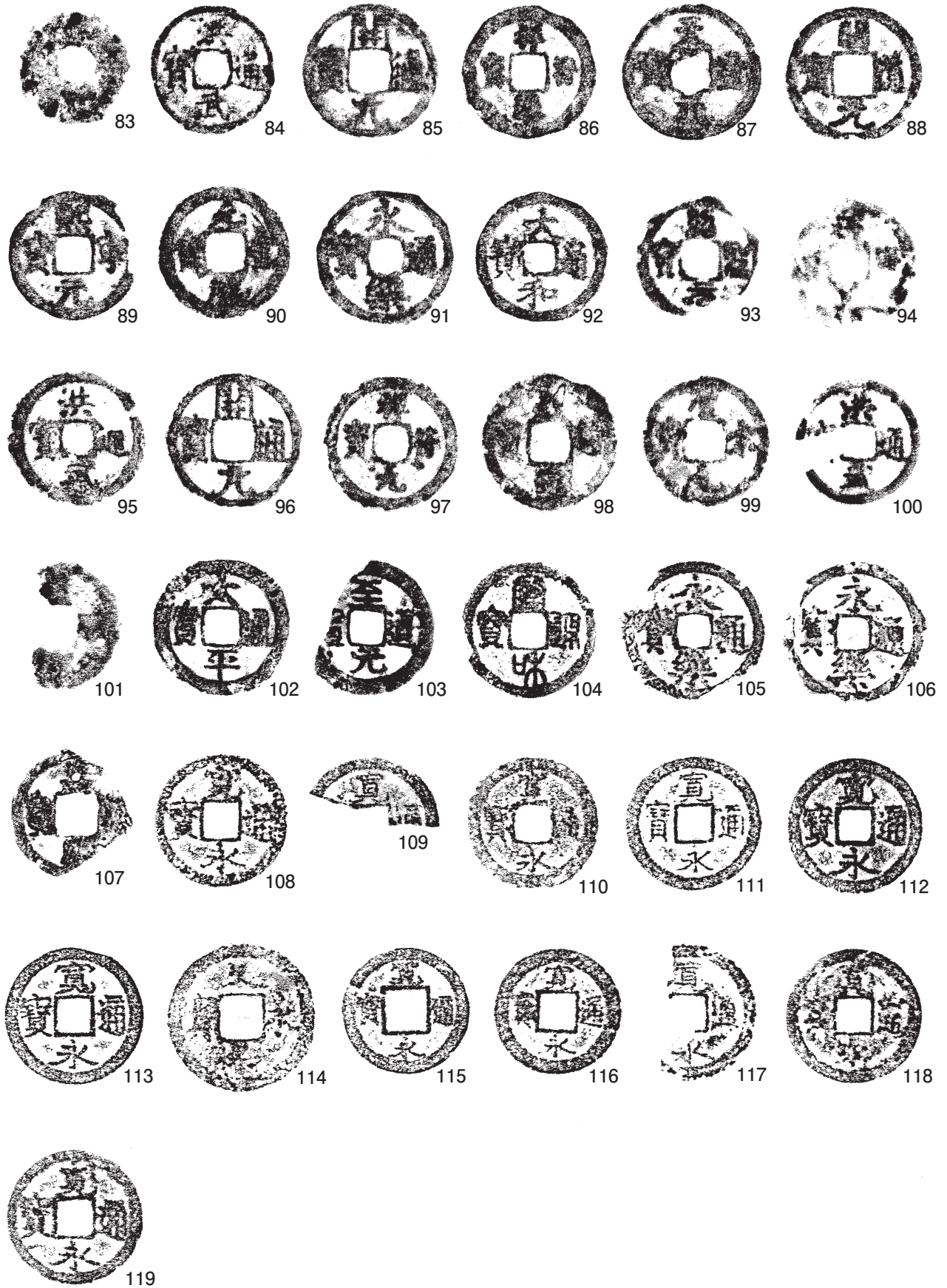
第77図 金属製品2 (鉄2)



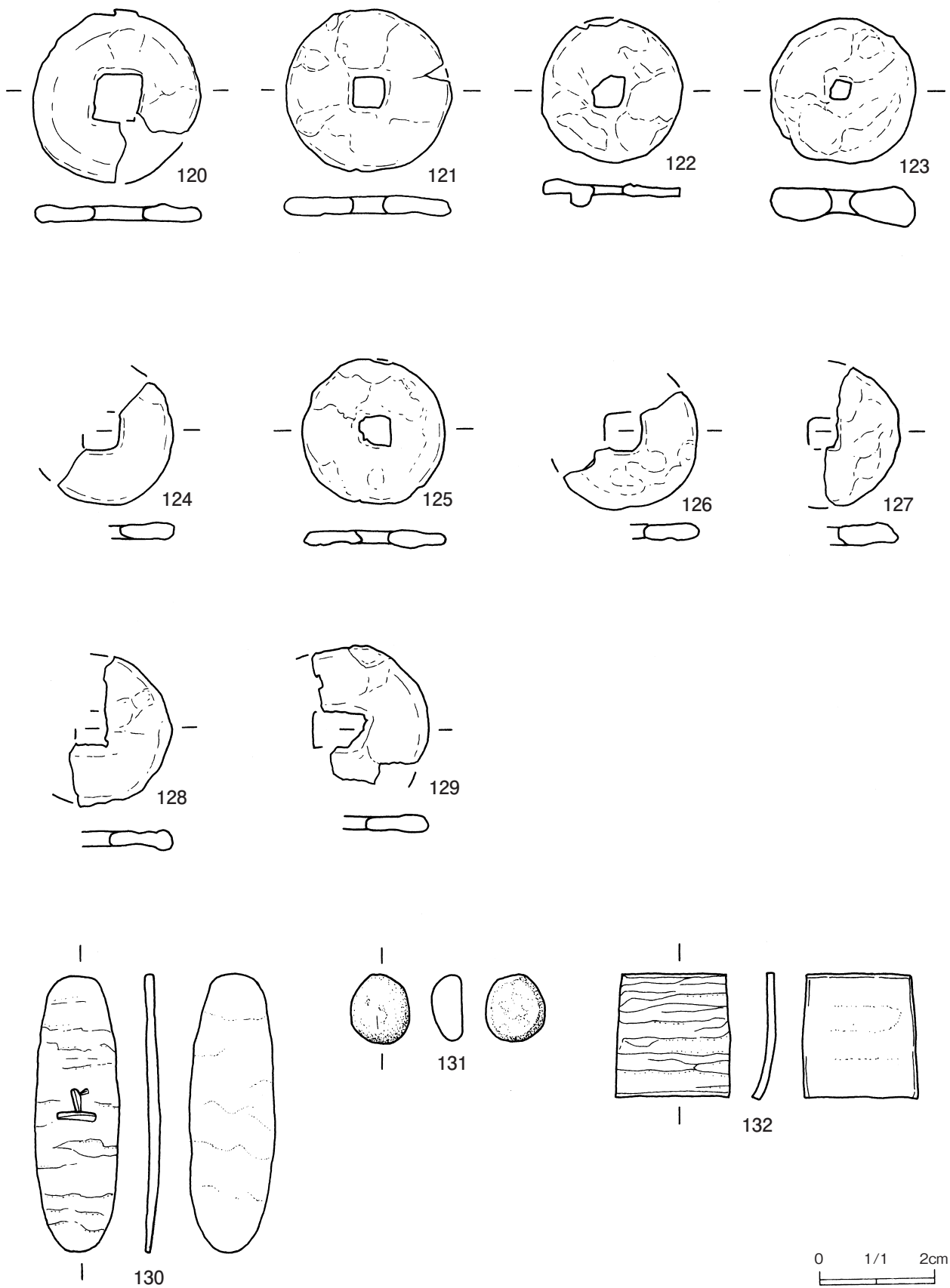
第78図 金属製品3 (鉄3・銅)



第79図 金属製品4 (錢貨1)



第80図 金属製品5 (銭貨2)



第81図 金属製品6 (錢貨3)

() は残存値、法量の単位は cm

図 No.	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	遺物 ID2	備考
1	毛抜き	鉄	騎武50次	No. 59	6.7	3.8	0.5	0050-0003		
2	毛抜き	鉄	騎3次	No. 182	(8.0)	2.6	0.8	0003-0018		錆着
3	火打金	鉄	騎武50次	No. 15	7.4	3.4	1.1	0050-0001		
4	火打金?	鉄	騎3次	No. 75	6.4	1.4	0.6	0003-0002		
5	火打金	鉄	騎3次	No. 139	8.4	3.6	1.4	0003-0012		
6	火打金	鉄	騎3次	No. 212	6.6	(2.2)	0.7	0003-0019		
7	火打金(山形)	鉄	騎3次	No. 557	8.8	2.5	1.0	0003-0025		
8	火打金(山形)	鉄	騎3次	1T	8.0	(2.8)	0.9	0003-0029		
9	釘(角)	鉄	騎3次	No. 341	(7.0)	1.3	0.8	0003-0023		
10	犬釘様製品	鉄	騎12次	1井	16.8	3.4	1.0	0012-0001		
11	鋸状製品	鉄	騎3次	No. 482	18.8	11.0	1.4	0003-0024		
12	把手状製品	鉄	騎3次	No. 140	7.1	2.4	0.7	0003-0013		
13	鎌?(切先)	鉄	騎3次	1T No. 17	12.2	4.6	1.2	0003-0001		
14	紡錘車	鉄	騎3次	No. 110	4.4	(2.8)	0.4	0003-0009		法量は円盤部分
15	刀子状製品	鉄	騎武50次	一括	(9.7)	1.8	0.5	0050-0004		
16	小刀	鉄	騎3次	No. 141	9.5	2.1	0.4	0003-0014	町金15	
17	刀子	鉄	騎3次	一括	(7.3)	2.1	0.5	0003-0031	町金71	
18	刀子状製品	鉄	騎3次	一括	6.0	1.6	0.4	0003-0032		
19	鋏	鉄	騎3次	No. 146・242	(14)	4.0	1.0	0003-0030	町金31	
20	小札	鉄	騎3次	No. 309	(6.1)	1.9	0.2	0003-0022		
21	小柄(刀身)	鉄	騎武51次	1T No. 42	(11.8)	1.6	0.6	0051-0002		
22	小柄(刀身)	鉄	騎3次	No. 116	16.3	1.7	0.4	0003-0007		
23	槍	鉄	騎3次	No. 115	10.0	2.6	0.8	0003-0008	町金161	
24	鉄鏃	鉄	騎3次	No. 108	4.1	1.5	1.2	0003-0005		
25	鉄鏃	鉄	騎3次	No. 123	7.0	1.4	1.1	0003-0010		
26	鉄鏃	鉄	騎3次	No. 162	(6.9)	1.4	0.9	0003-0015	町金70	
27	鉄鏃	鉄	騎3次	No. 278	(10.2)	0.9	1.0	0003-0021	町金19	
28	鉄鏃状製品	鉄	騎3次	No. 270	(5.0)	1.2	0.8	0003-0020		
29	環状製品	鉄	騎武50次	No. 32	3.5	3.6	0.9	0050-0002		
30	環状製品	鉄	騎3次	No. 125	3.6	3.4	1.0	0003-0011		
31	環状製品	鉄	騎3次	No. 178	3.0	2.8	0.2	0003-0016		
32	柄状製品	鉄	騎3次	No. 108	10.7	1.7	0.2	0003-0006		
33	鏡	銅	騎武50次	P No. 196	(5.2)	-	0.5	0050-0001	町金94	
34	ピン	銅	騎武51次	一括	3.4	0.8	0.3	0051-0002		
35	把手	銅	騎3次	3T	8.8	4.6	0.7	0003-0008		
36	縁	銅	騎3次	No. 261	4.3	2.4	0.1	0003-0003	町金65	
37	筭金物	銅	騎3次	No. 530	2.0	7.0	0.2	0003-0005	町金176	
38	筭金物?	銅	騎武51次	2T	1.7		0.2	0051-0001	町金161	
39	留金具	銅	騎武2次	No. 26	3.1	3.0	0.4	0002-0002	町金156	3ヶ所釘打ち
40	環付金具	銅	騎武2次	一括	2.4	1.7	0.2	0002-0004	町金155	
41	筭状製品	銅	騎武50次	西壁拡張	(2.0)	1.2	0.1	0050-0002		
42	小柄(柄)	銅	騎3次	No. 114	9.3	1.5	0.5	0003-0002	町金153	

第25表 金属製品一覧表 1

120～129は鉄銭で全て多3次出土。発錆顕著で銭種不明。

金貨

騎武50次の10壙からは金貨が3点(蛭藻金・露金・切金)出土している。蛭藻金(130)の正面には槌の叩き目が残り、中央に「上」の1字が刻印される。長さ4.8cm、重さ15.4gである。露金(131)は粒状で上面は光沢があり、底面が平坦で砂状の圧痕がある。直径1cm×1.2cmで重さ6.9gである。

切金(132)は板状で表面に槌の叩き目が残る。全体にゆがんでおりまた、縁辺は切断によるめくれが観察できる。大きさは2.2×2cmで重さ8.1gである。

重さにより蛭藻金は一両金貨相当で、露金と切金を合わせて15g(一両)で、「3点で二両」という換算ができる。

No.	調査名	出土地点	錢種(錢貨名は番号順)
43	騎武2次	No. 3	祥符通宝
44	騎武2次	No. 4	皇宋通宝
45	騎武8次	一括	文久永宝
46	騎武9次	No. 7	元豊通宝
47	騎武50次	1井	開元通宝
48・49	騎武50次	2井	永楽通宝、開元通宝
50	騎武50次	10壙 No. 28	永楽通宝
51	騎武50次	10壙 No. 36	不明
52	騎武50次	No. 110	洪武通宝
53	騎武50次	No. 12	紹聖元宝
54	騎武50次	No. 167	元祐通宝
55	騎武50次	P No. 25	不明
56・57	騎武50次	P No. 74	永楽通宝、皇宋通宝
58	騎武50次	11P	不明
59	騎武51次	7壙 No. 135	不明
60・61	騎武51次	1T No. 20	永楽通宝2
62・63	騎武51次	1T No. 21	永楽通宝2
64	騎武51次	1T No. 27	元豊通宝
65	騎武51次	1T No. 37	祥符元宝
66	騎3次	No. 44	皇宋通宝
67	騎3次	No. 57	元祐通宝
68	騎3次	No. 87	洪武通宝
69	騎3次	No. 100	治平元宝
70	騎3次	No. 111	不明
71	騎3次	No. 122	嘉祐通宝
72・73	騎3次	No. 136	祥符通宝、天聖元宝
74	騎3次	No. 144	洪武通宝
75	騎3次	No. 165	不明
76	騎3次	No. 166	開元通宝
77	騎3次	No. 167	嘉祐通宝
78	騎3次	No. 181	開元通宝
79	騎3次	No. 183	熙寧元宝
80	騎3次	No. 184	元豊通宝
81	騎3次	No. 206	大觀通宝
82	騎3次	No. 226	貨泉
83	騎3次	No. 264	不明
84	騎3次	No. 276	洪武通宝
85～92	騎3次	No. 300	開元通宝、祥符通宝、天聖元宝、明道元宝、熙寧元宝、元豊通宝、永楽通宝、大和通宝
93	騎3次	No. 313	紹聖元宝
94	騎3次	No. 363	祥符■宝
95～98	騎3次	No. 469	洪武通宝、開元通宝、祥符元宝、皇宋通宝
99・100	騎3次	一括	聖宋元宝、洪武通宝
101	騎3次	北	皇宋通宝
102～107	騎12次	2壙 No. 2	太平通宝、至道元宝、宣和通宝、永楽通宝2、嘉祐通宝
108	多3次	No. 16(1溝)	寛永通宝(古)
109	多3次	No. 19(1溝)	寛永通宝(新)
110	多3次	No. 28	寛永通宝(新)
111	多3次	No. 101	寛永通宝(新)
112	多3次	No. 170	寛永通宝(古)
113	多3次	No. 175	寛永通宝(古)
114	多3次	No. 176	文久永宝
115	多3次	No. 178	寛永通宝(新)
116	多3次	No. 204	寛永通宝(新)
117	多3次	No. 343	寛永通宝(新)
118	多3次	No. 361	寛永通宝(新)
119	多3次	No. 362	寛永通宝(古)
120	多3次	No. 122	不明-鉄銭
121	多3次	No. 344	不明-鉄銭
122～124	多3次	Ⅲ層	不明3-鉄銭
125	多3次	南Ⅲ～Ⅳ層	不明-鉄銭
126・127	多3次	一括	不明2-鉄銭
128	多3次	No. 112	不明-鉄銭
129	多3次	No. 377	不明-鉄銭
130	騎武50次	10壙 No. 100	蛭藻金(15.4g)
131	騎武50次	10壙 No. 101	露金(6.9g)
132	騎武50次	10壙 No. 199	切金(8.1g)

第26表 金属製品一覽表 2

第4節 石製品類

ここでは、成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑・五輪等を石造物として扱う。

いずれの遺物も遺構出土があるが流れ込みであろう。

(1) 石製品

石臼は1～18で、搗臼(14)と粉挽臼、茶臼(2・5・11)に大別される。いずれも破片で全形は窺えない。2・11・16・17は表面が非常に磨って整形されている。5は茶臼の下臼で受け皿部である。下面に成形時のノミ痕が残る。5・7には芯棒受けの穴が残る。15にはススが付着している。2・3・7・14・16には黒化部分がある。6の磨目には酸化鉄が付着している。7は被熱により破損したものか。15片の細片が接合したものである。12には供給口の穴がある。13の側面の穴は挽木取付穴か。

19～22は扁平で丸く径1.7cm前後である。20は黒色、19・21は灰味、22は茶色味を帯びる。碁石としておく。

硯は23・24で、いずれも陸から海にかけての部分である。被熱によるものか剥落・割れを生じる。

砥石は直方体を基本形とするもの(25～37・39～42・44～46)が主で、損耗により変形するものがある。泥岩質のものがほとんどである。

磨石(47～93)は礫の原形が残るものが多く、使用により形成された面が不規則に存在する。デイサイトが多数を占める。44は緑泥片岩。名称が縄文時代のものを連想させるが砥石と区別するために分割しておく。

砥石・磨石共に金属を砥いだことによる線条痕が残るものが見られ、鎌や武器類などの刃物を対象としたものであろう。57・61・90には敲打痕が残る。66は大型で、各面を使用している。

94～99は石英で擦痕・潰れが認められるもので火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出土例から当然存在するものとして想定しておくべきものである。

(2) 石造物

【板碑】板碑は18点を数えるが、破片のみである。

○年号 年号がわかるものは無く、109の□永が応永、11年間か。114では10日がわかる。

○種子・銘文 種子はわかるものは全てキリークで111・113である。101は月輪に囲まれる。銘文は101は光明真言か。107に妙法蓮、109には□世界／衆生／不捨とある。

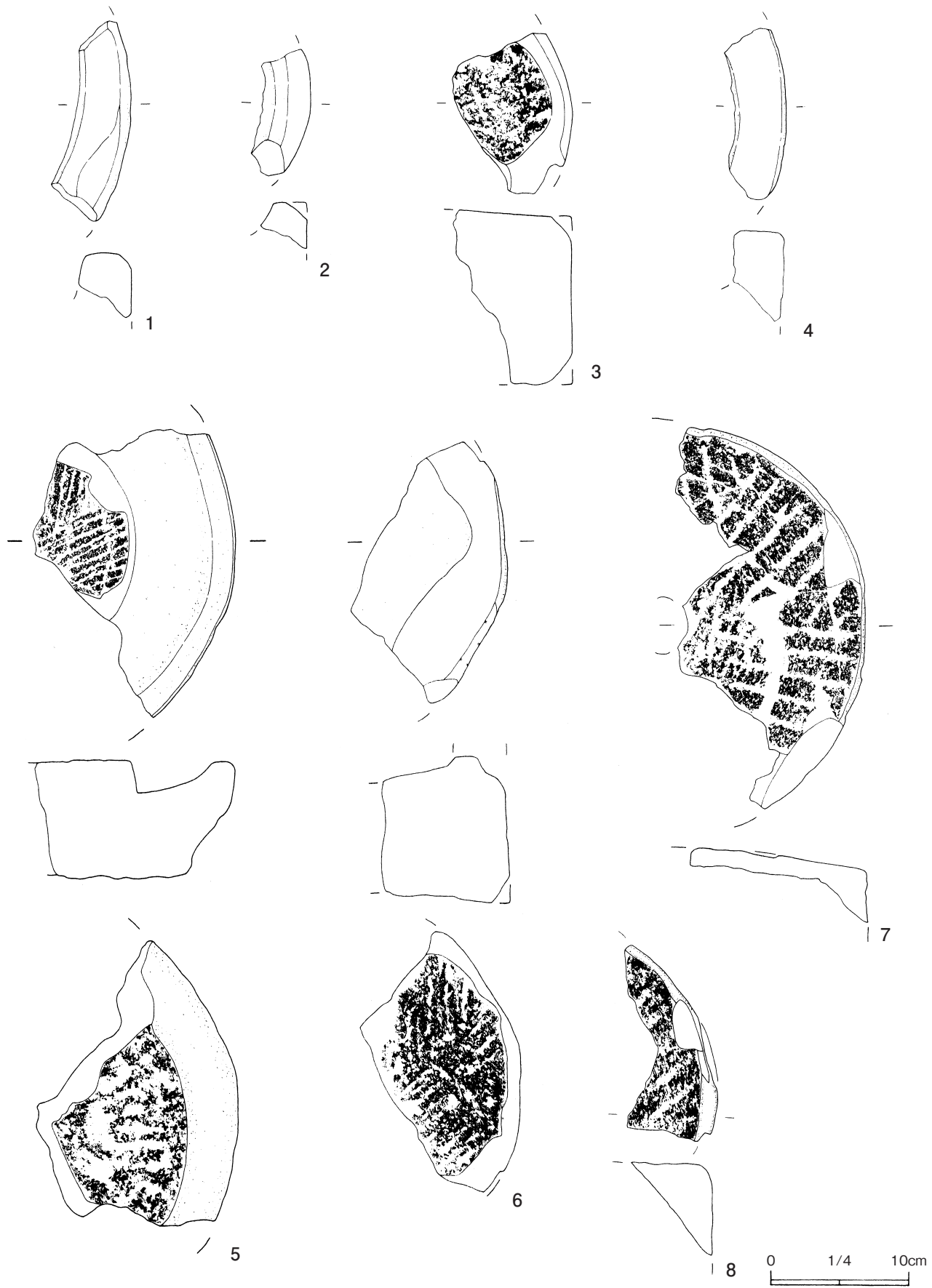
○使用痕 2次使用としては摩耗痕が認められるものがあり(101・108・109・117・115)、砥石として使用されたものであろう。

○付着物 廃棄以降であろうか、煤が付着・黒化するものがあり(104・108・109・114・115)、なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。

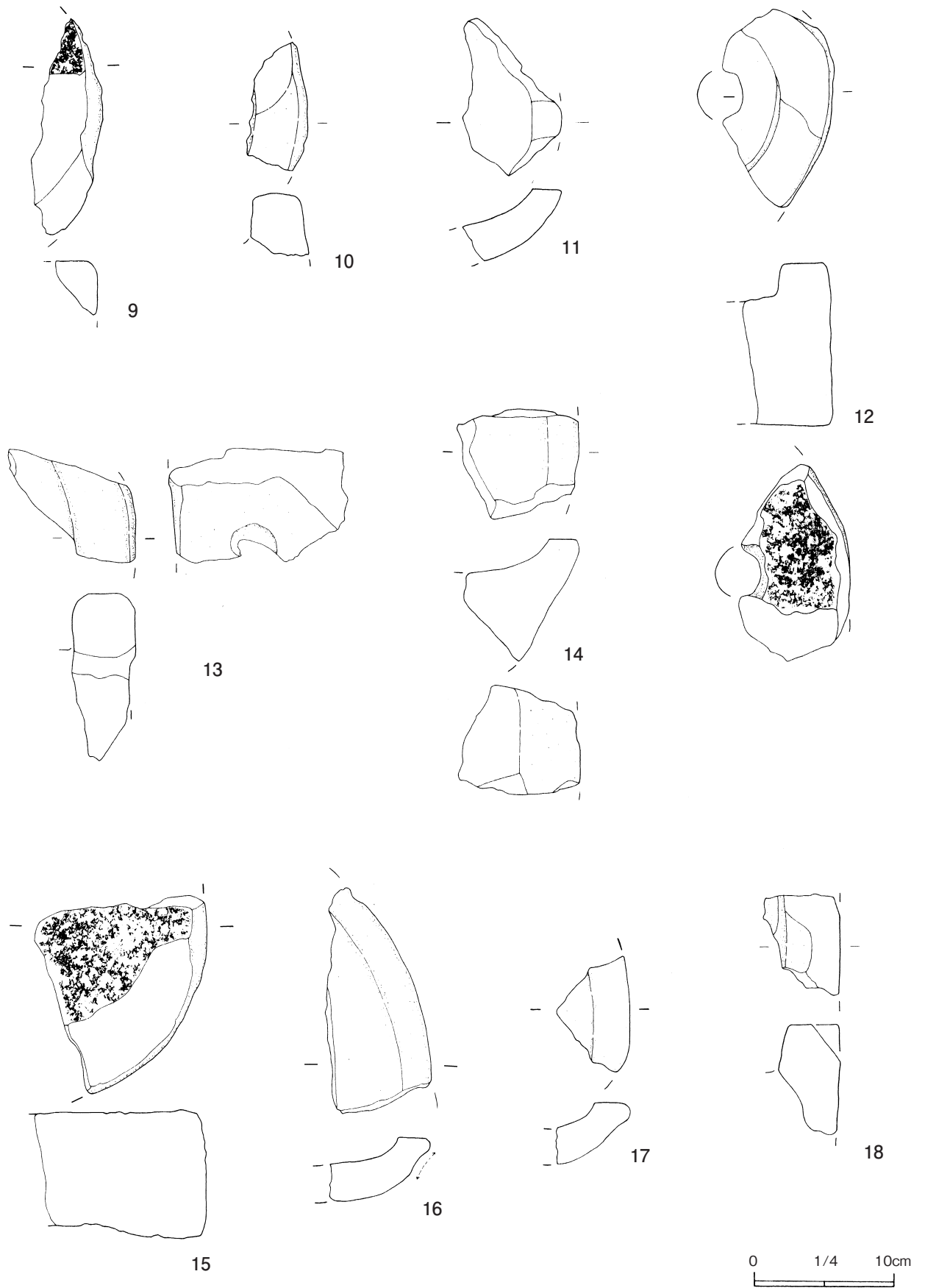
【五輪塔】

五輪塔は118のみである。地輪の破片で上面には摩耗痕がある。砥石として使用されたものであろう。

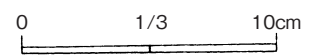
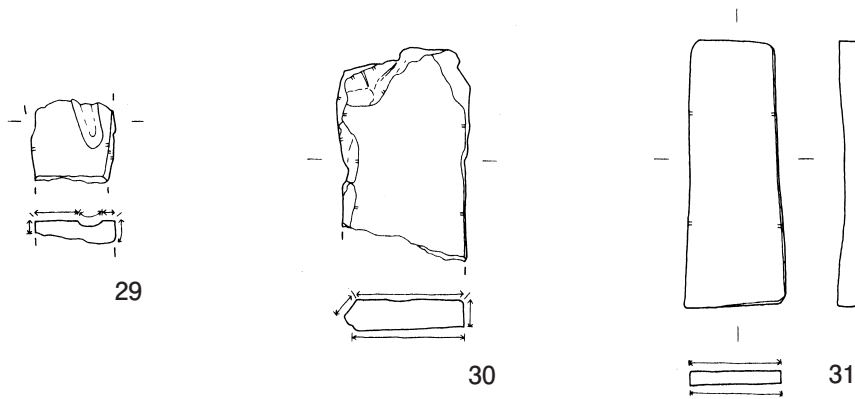
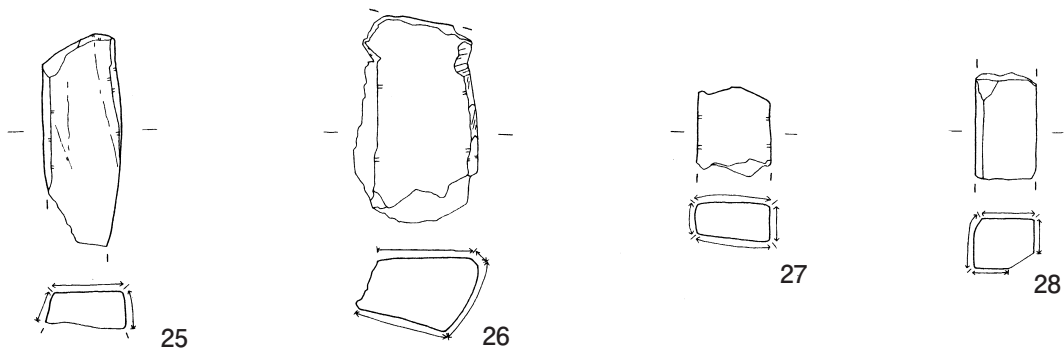
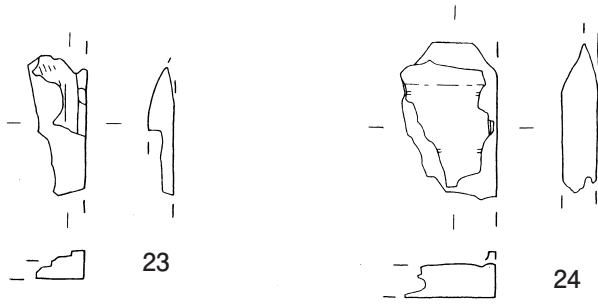
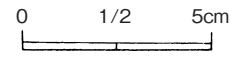
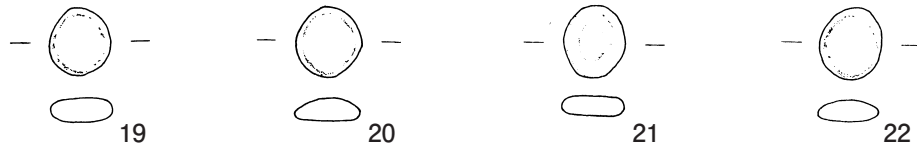
【ほか】 119は長方形を呈する環状になると思われる石で、用途は不明である。



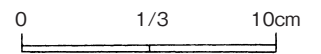
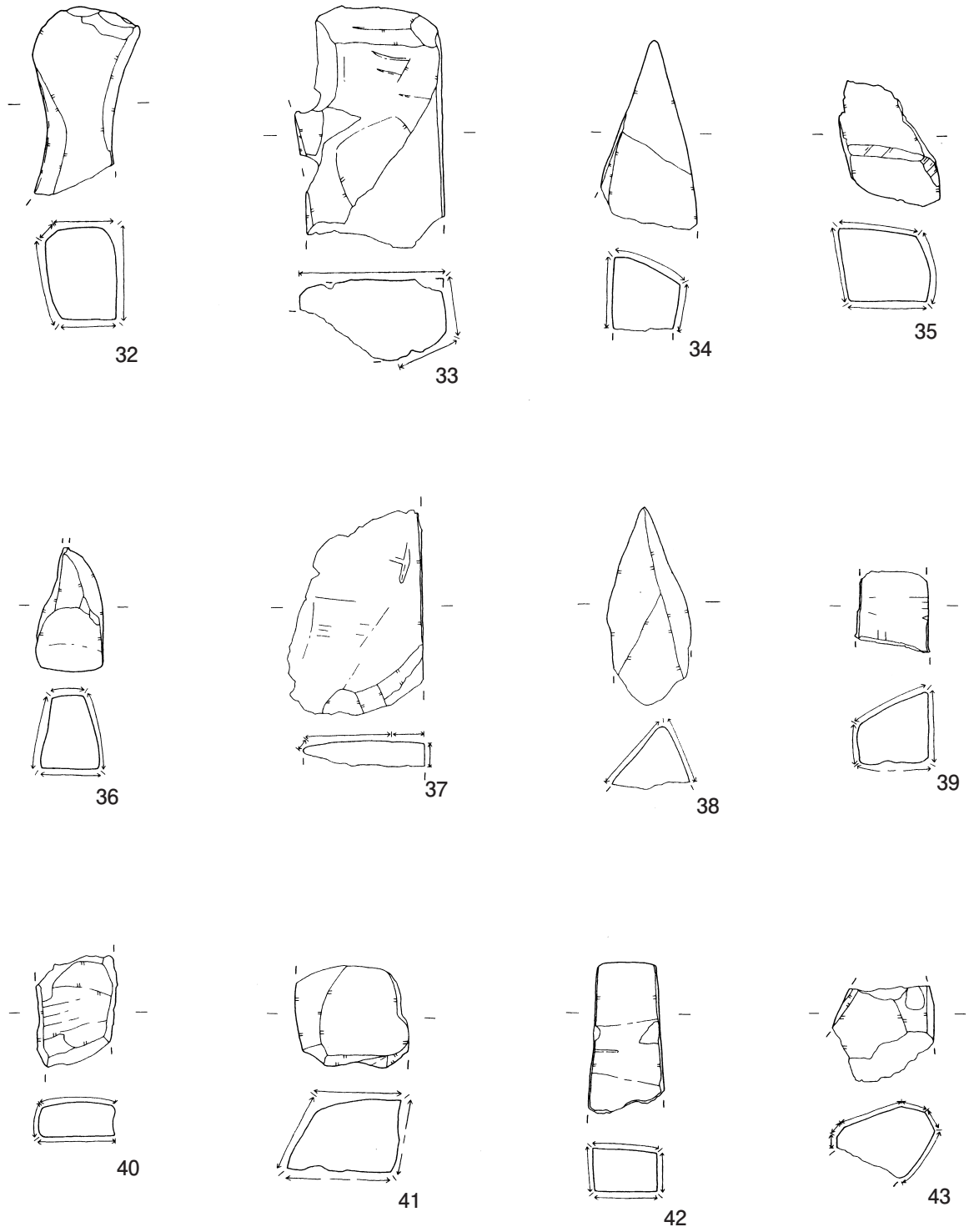
第82図 石製品類1 (石臼1)



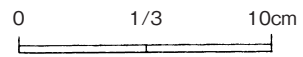
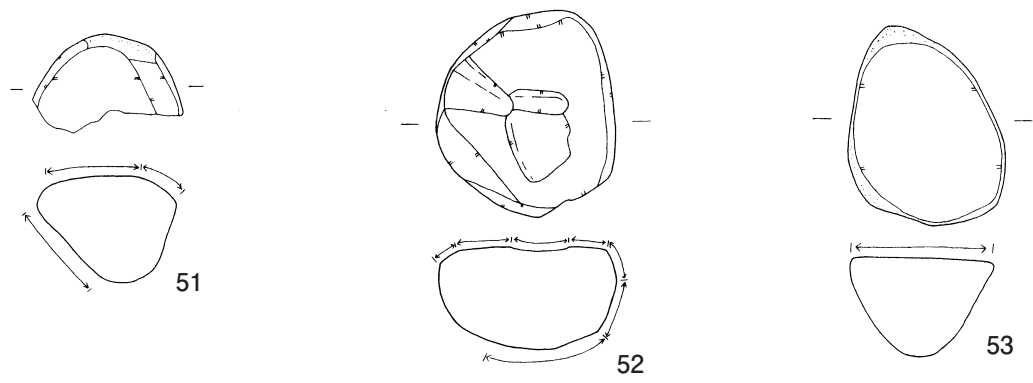
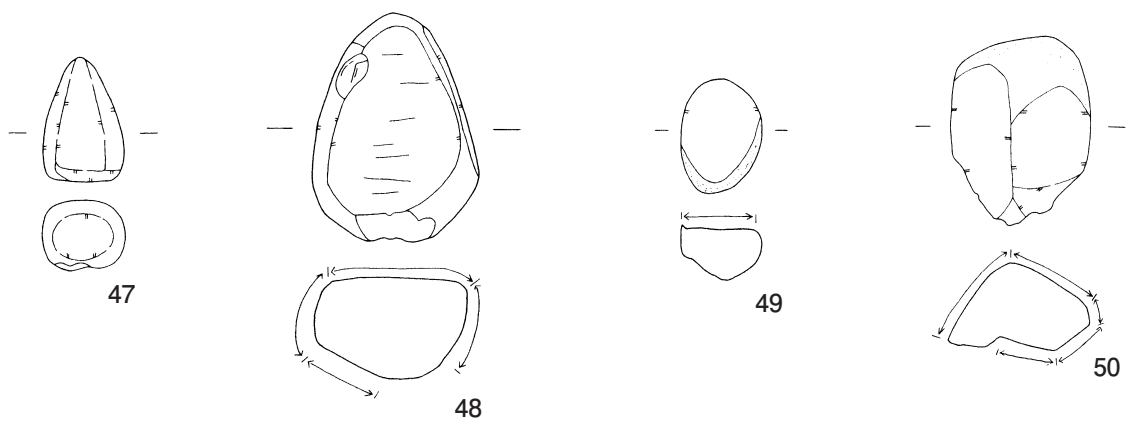
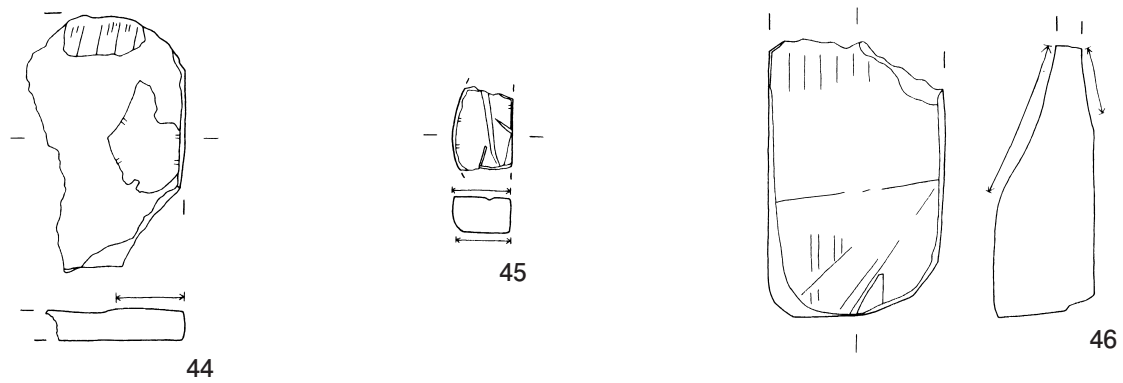
第83図 石製品類2 (石臼2)



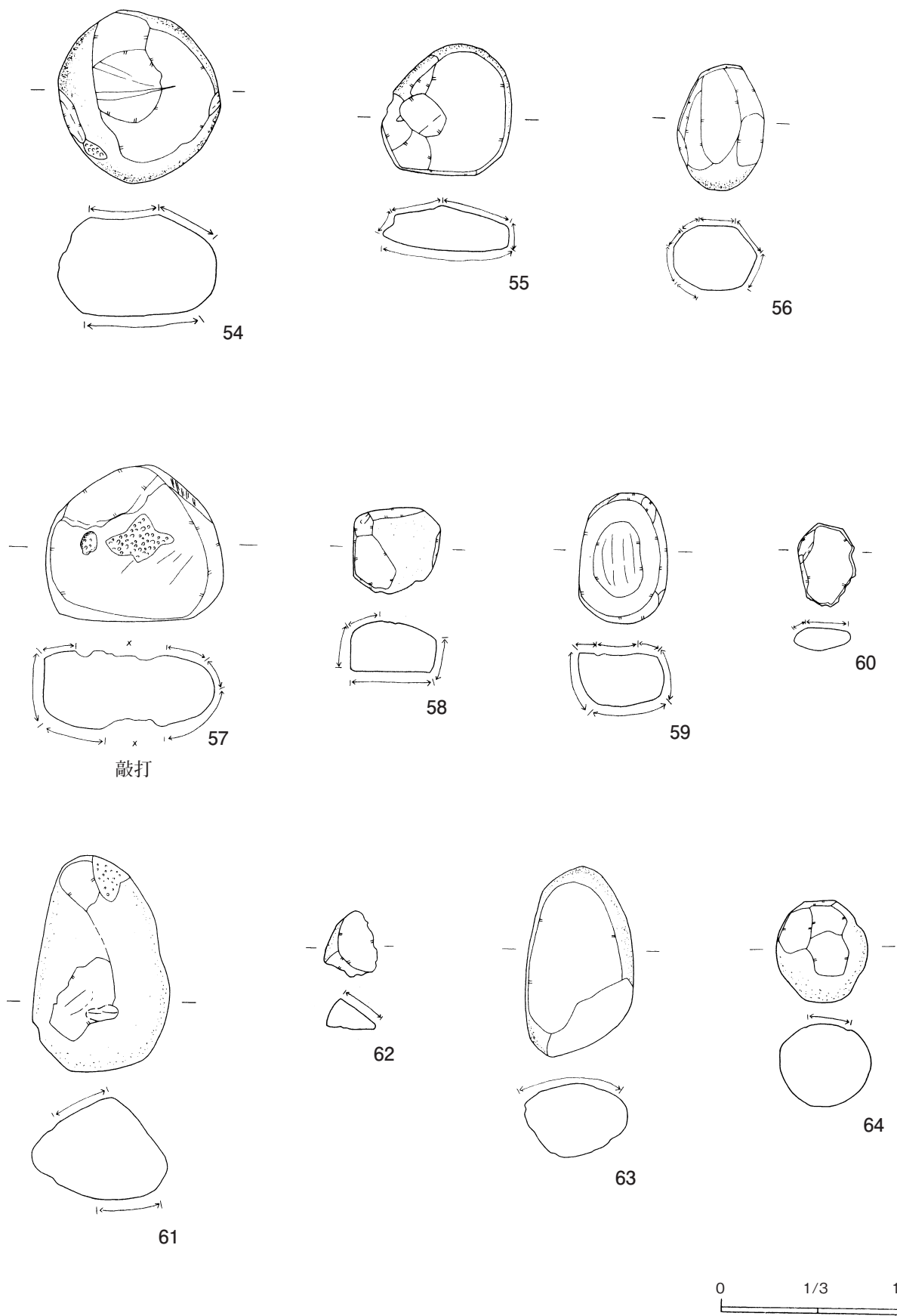
第84図 石製品類3 (碁石・硯・砥石1)



第85図 石製品類4 (砥石2)

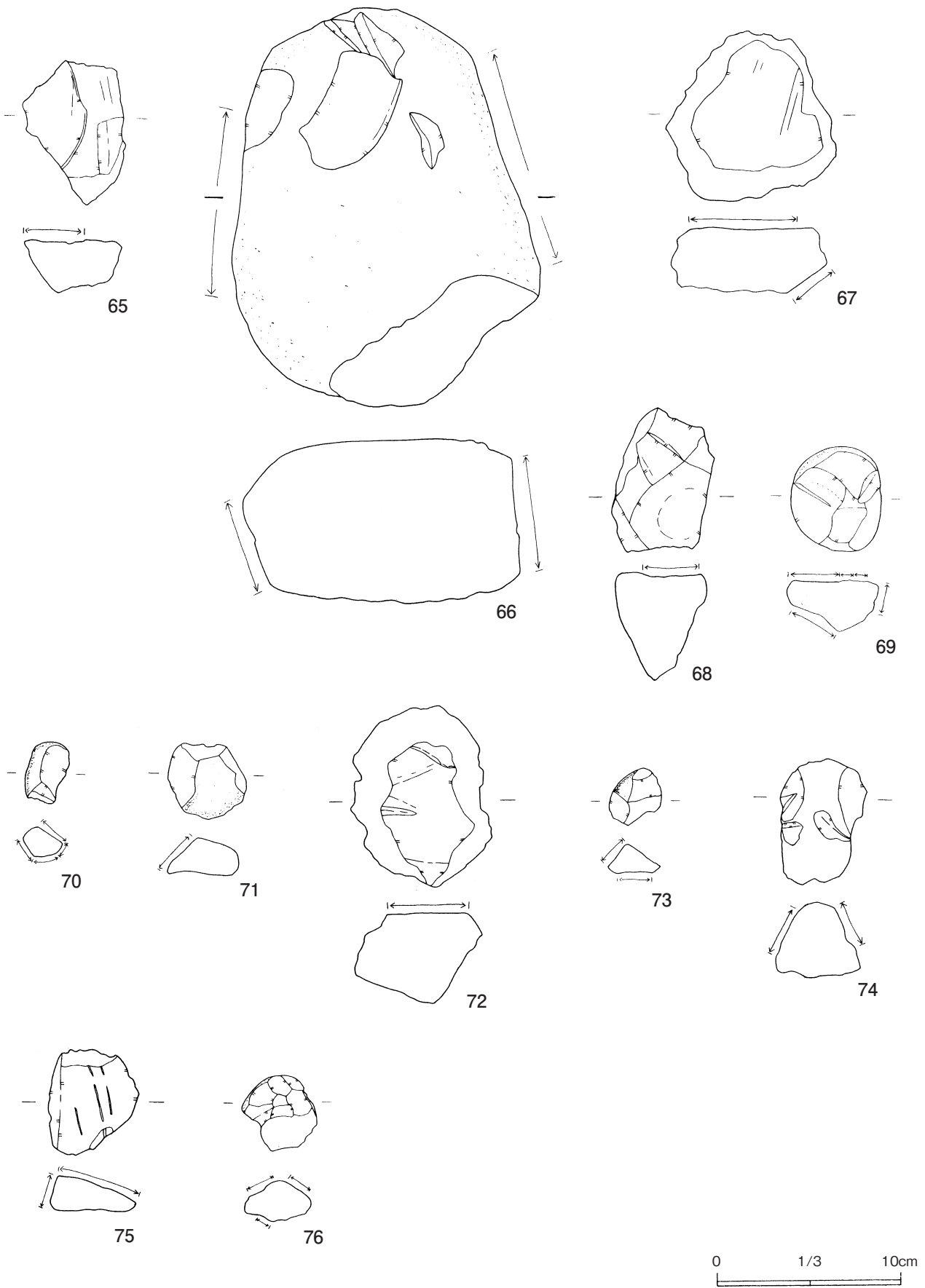


第86図 石製品類5 (砥石3・磨石1)

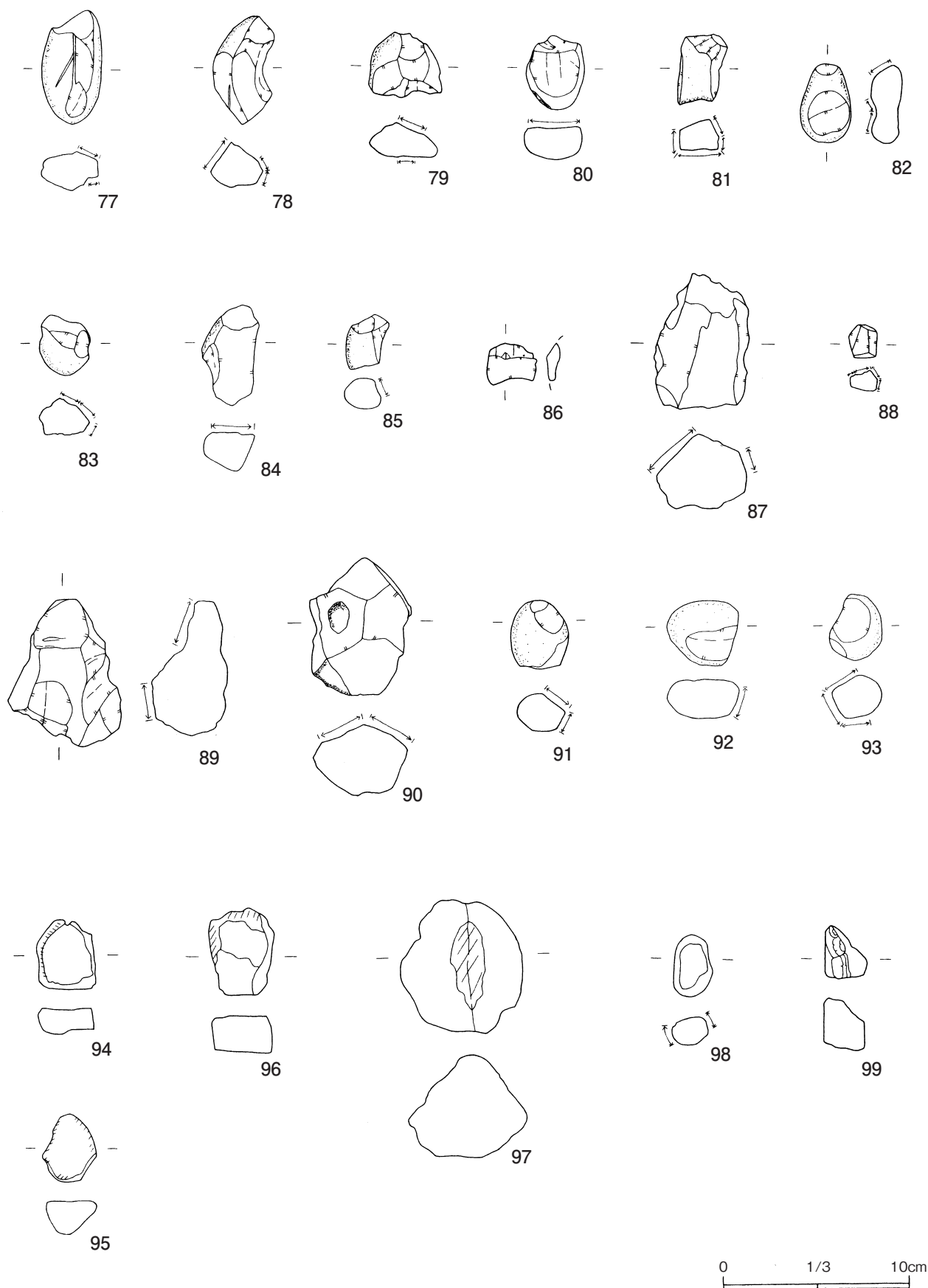


敲打

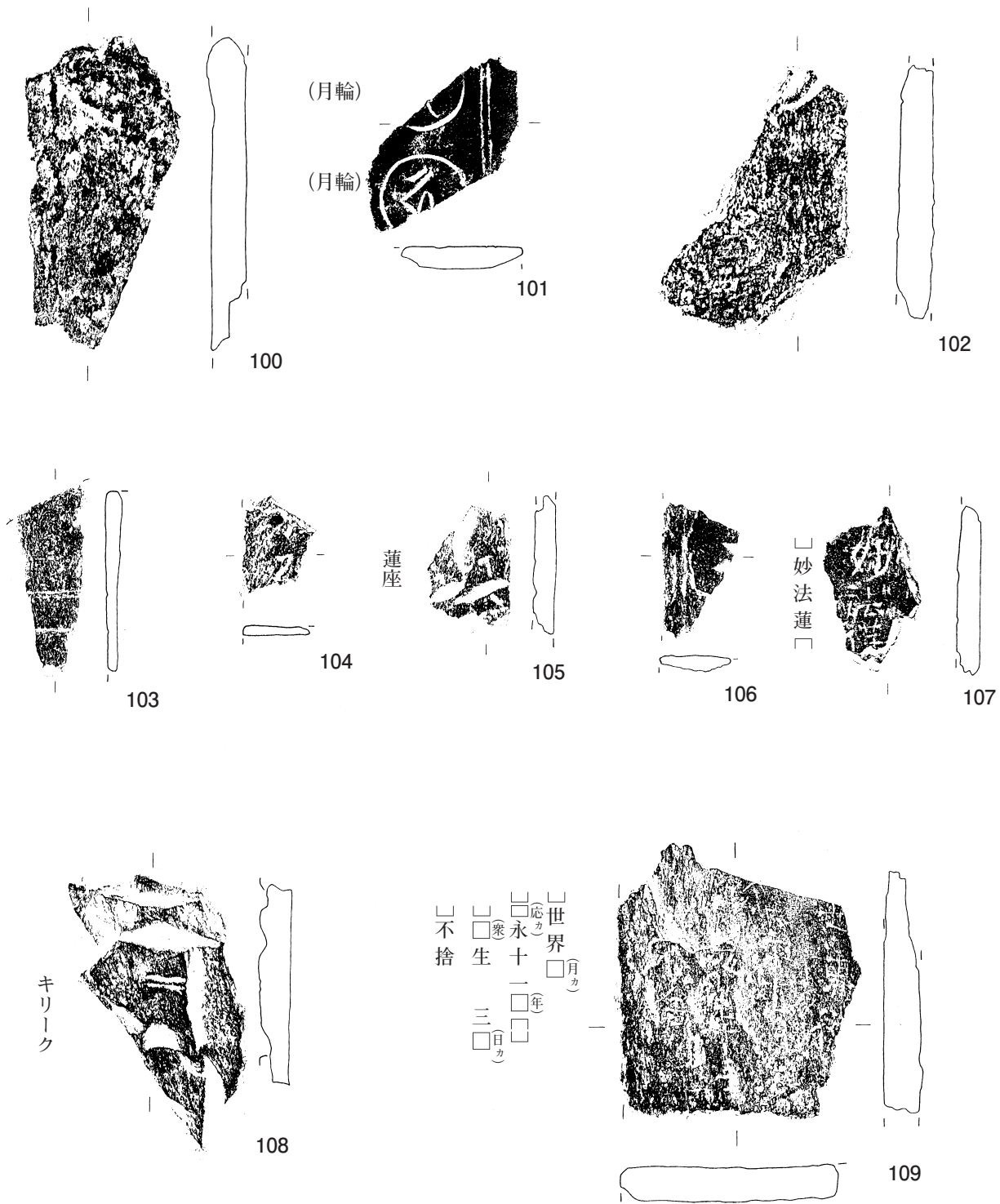
第87図 石製品類6 (磨石2)



第88図 石製品類7 (磨石3)

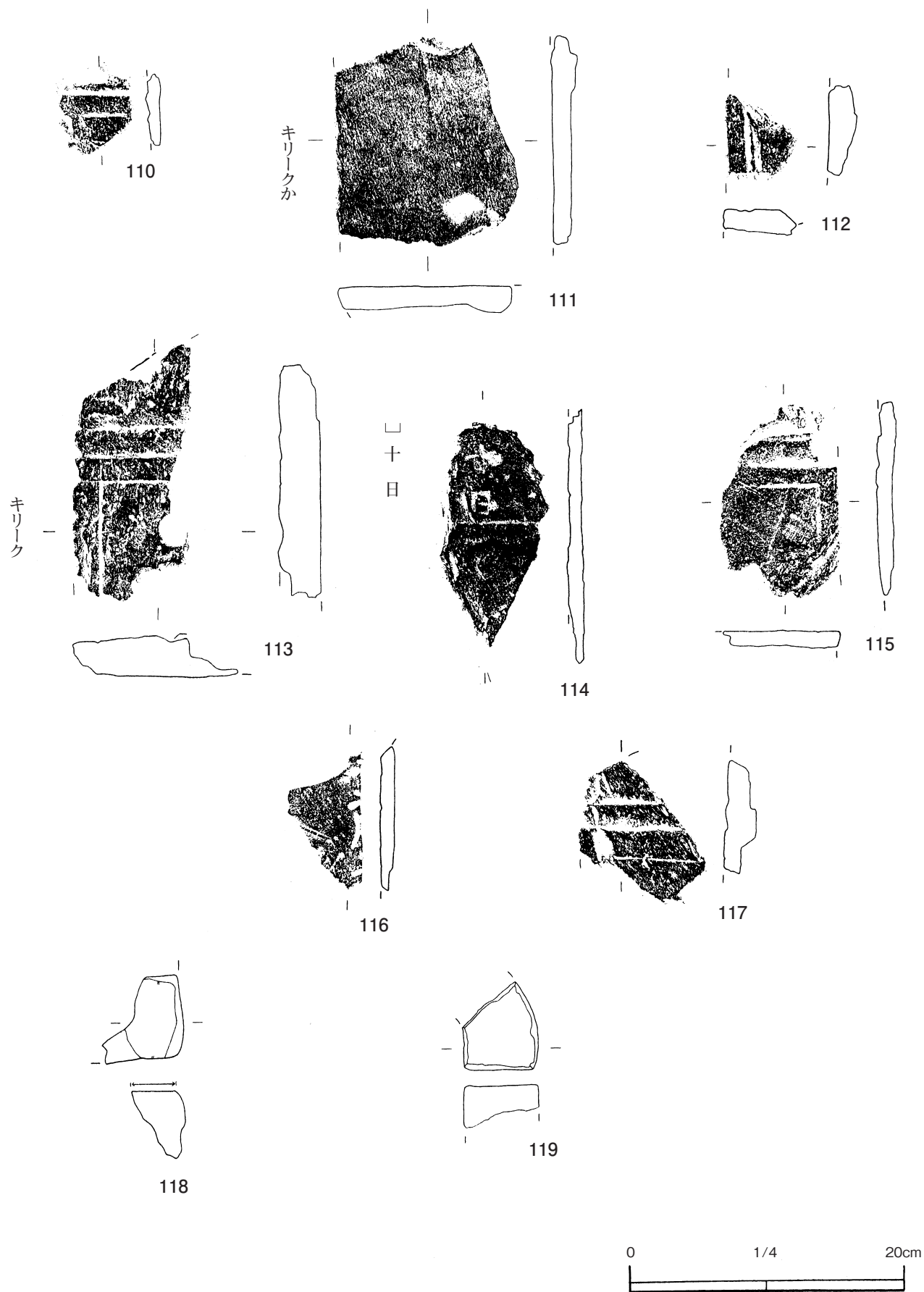


第89図 石製品類8 (磨石4・火打石)



0 1/4 20cm

第90図 石製品類9 (板碑1)



第91図 石製品類10 (板碑2・五輪塔等)

() は残存値、法量の単位は cm

図 No.	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	備考
1	粉挽白(上白)	角閃石安山岩	騎武2次	No. 16		(14.5)	(4.7)	0002-0002	
2	茶白(上白)	角閃石安山岩	騎武2次	B区 No. 105		(9.3)	(3.3)	0002-0001	
3	粉挽白(下白)	角閃石安山岩	騎武50次	4溝 No. 105		(8.6)	(12.6)	0050-0001	
4	粉挽白(上白)	普通輝石安山岩	騎武51次	1溝 No. 89		(4.6)	(6.5)	0051-0001	
5	茶白(下白)	普通輝石安山岩	騎武51次	1溝 No. 92		(20.8)	(8.6)	0051-0002	
6	粉挽白(上白)	普通輝石安山岩	騎武51次	P No. 74		(11.4)	(10.5)	0051-0003	
7	粉挽白(下白)	角閃石安山岩	騎3次	No. 52・53・54・68・69・239・316・392・400 ・549・599・南・一括		27.6	(5.4)	0003-0001	
8	粉挽白(下白)	角閃石安山岩	騎3次	No. 211・215		(14.0)	(5.0)	0003-0002	
9	粉挽白(下白)	普通輝石安山岩	騎3次	No. 392		(15.4)	(3.9)	0003-0003	
10	粉挽白(上白)	角閃石安山岩	騎3次	No. 528		(9.1)	(4.5)	0003-0004	
11	茶白(受皿)	角閃石安山岩	騎3次	No. 550		(11.3)	(5.1)	0003-0005	
12	粉挽白(上白)	角閃石安山岩	騎3次	No. 600		(8.0)	(11.6)	0003-0006	
13	粉挽白(上白)	角閃石安山岩	騎14次	2堀		(12.8)	(12.1)	0014-0001	
14	搗白	角閃石安山岩	騎14次	3堀		(8.8)	(8.7)	0014-0002	
15	粉挽白(下白)	安山岩	騎14次	5堀 No. 6		(12.4)	(9.2)	0014-0003	
16	粉挽白(下白)	角閃石安山岩	騎14次	6堀		(16.1)	(2.8)	0014-0004	
17	粉挽白(下白)	角閃石安山岩	騎14次	一括		(5.3)	4.5	0014-0005	
18	粉挽白(上白)	角閃石安山岩	騎14次	一括		(5.5)	(8.0)	0014-0006	
19	碁石	不明	騎3次	No. 523	1.8	1.6	0.6	0003-0009	
20	碁石	不明	騎3次	南調	1.8	1.7	0.6	0003-0007	
21	碁石	不明	騎3次	南	1.9	1.6	0.5	0003-0008	
22	碁石	不明	騎3次	一括	1.9	1.7	0.6	0003-0010	
23	硯	粘板岩	騎武2次	B区 No. 115	(5.7)	(2.6)	1.1	0002-0003	
24	硯	粘板岩	騎3次	No. 163 ?	(6.8)	(3.9)	1.4	0003-0011	
25	砥石	泥岩	騎武2次	No. 5	(8.5)	3.3	1.5	0002-0001	
26	砥石	泥岩	騎武2次	No. 35	8.2	(5.0)	2.0	0002-0002	
27	砥石	泥岩	騎武8次	2曠 No. 7	(3.5)	3.0	1.5	0008-0001	
28	砥石	泥岩	騎武8次	No. 31	(4.2)	2.4	2.1	0008-0002	
29	砥石	泥岩	騎武50次	一括	(3.3)	3.3	0.9	0050-0002	
30	砥石	泥岩	騎武51次	11曠 No. 59	(8.6)	5.4	1.3	0051-0001	
31	砥石	泥岩	騎武51次	1T No. 22	10.8	4.1	0.8	0051-0002	
32	砥石	泥岩	騎3次	No. 80	(9.1)	5.2	4.3	0003-0002	
33	砥石	泥岩	騎3次	No. 191・175	(11.7)	7.1	3.9	0003-0003	
34	砥石	泥岩	騎3次	No. 150	(9.1)	4.7	3.4	0003-0004	
35	砥石	泥岩	騎3次	No. 169	6.1	4.9	3.5	0003-0005	
36	砥石	泥岩	騎3次	No. 185	(6.0)	3.2	3.6	0003-0006	
37	砥石	泥岩	騎3次	No. 190・344	9.8	(6.5)	0.8	0003-0007	
38	砥石	泥岩	騎3次	No. 229	(9.5)	4.2	3.0	0003-0008	
39	砥石	泥岩	騎3次	No. 329	(4.0)	3.7	3.5	0003-0009	
40	砥石	泥岩	騎3次	No. 389	(5.3)	4.0	1.7	0003-0010	
41	砥石	泥岩	騎3次	No. 391	(5.0)	5.5	3.5	0003-0011	
42	砥石	泥岩	騎3次	南	(7.3)	3.6	1.6	0003-0012	
43	砥石	泥岩	騎3次	一括	(4.7)	4.9	3.4	0003-0013	
44	砥石	緑泥片岩	騎12次	一括	(10.3)	(6.3)	1.3	0012-0001	
45	砥石	泥岩	騎14次	一括	(3.4)	2.4	1.4	0014-0001	
46	砥石	不明	多3次	No. 162	(11.1)	7.0	4.0	0003-0003	
47	磨石	デイサイト	騎武50次	No. 13	5.0	3.2	2.8	0050-0003	
48	磨石	デイサイト	騎武50次	No. 200	9.2	4.1	6.7	0050-0004	
49	磨石	デイサイト	騎武50次	No. 47	4.5	3.3	2.0	0050-0007	
50	磨石	デイサイト	騎武50次	一括	7.5	5.7	3.5	0050-0005	
51	磨石	デイサイト	騎武50次	一括	3.9	6.0	4.2	0050-0006	
52	磨石	デイサイト	騎武51次	1溝	8.3	7.1	4.1	0051-0003	
53	磨石	デイサイト	騎武51次	P No. 58	8.0	6.3	4.0	0051-0004	
54	磨石	デイサイト	騎3次	No. 56	9.2	8.6	5.4	0003-0014	
55	磨石	デイサイト	騎3次	No. 172	7.0	6.9	2.4	0003-0015	
56	磨石	デイサイト	騎3次	No. 200	6.6	4.5	3.4	0003-0016	
57	磨石	デイサイト	騎3次	No. 210	8.4	9.4	4.2	0003-0017	
58	磨石	デイサイト	騎3次	No. 241	4.6	4.6	2.7	0003-0018	
59	磨石	デイサイト	騎3次	No. 368	6.9	4.8	2.8	0003-0019	
60	磨石	デイサイト	騎3次	一括	4.4	3.1	1.2	0003-0021	
61	磨石	デイサイト	騎3次	一括	11.5	7.3	5.4	0003-0020	
62	磨石	デイサイト	騎14次	3堀	3.5	2.9	1.7	0014-0002	
63	磨石	デイサイト	騎14次	一括	10.1	5.7	3.9	0014-0004	
64	磨石	デイサイト	騎14次	一括	5.5	4.8	4.4	0014-0003	
65	磨石	デイサイト	多1次	No. 50	7.8	5.7	2.9	0001-0001	
66	磨石	デイサイト	多1次	No. 56	22.0	16.9	9.0	0001-0002	
67	磨石	デイサイト	多1次	No. 71	9.4	9.3	3.7	0001-0003	
68	磨石	デイサイト	多1次	No. 86	8.0	5.6	6.0	0001-0004	

第27表 石製品一覧表 1

()は残存値 法量の単位は cm

図 No.	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	備考
69	磨石	デイサイト	多1次	No. 89	5.7	5.0	2.8	0001-0005	
70	磨石	デイサイト	多2次	1溝/No. 70	3.4	2.4	1.6	0002-0001	
71	磨石	デイサイト	多2次	3T	4.2	4.3	2.0	0002-0002	
72	磨石	デイサイト	多3次	No. 452	10.0	7.8	5.0	0003-0002	
73	磨石	デイサイト	多3次	No. 456	3.2	2.9	1.6	0003-0003	
74	磨石	デイサイト	多3次	No. 458	7.0	4.7	4.2	0003-0004	
75	磨石	角閃石安山岩	多3次	I層	5.8	5.0	2.0	0003-0005	
76	磨石	デイサイト	多3次	II層	4.1	3.1	2.2	0003-0006	
77	磨石	デイサイト	多3次	III層	6.2	3.2	2.1	0003-0011	
78	磨石	デイサイト	多3次	III層	5.9	3.2	2.4	0003-0014	
79	磨石	デイサイト	多3次	III層	3.5	4.0	1.9	0003-0008	
80	磨石	デイサイト	多3次	III層	4.0	3.2	1.8	0003-0015	
81	磨石	デイサイト	多3次	III層	3.8	2.7	1.7	0003-0010	
82	磨石	デイサイト	多3次	III層	4.3	2.7	1.7	0003-0007	
83	磨石	デイサイト	多3次	III層	3.2	2.7	2.0	0003-0016	
84	磨石	デイサイト	多3次	III層	5.5	3.1	2.1	0003-0009	
85	磨石	デイサイト	多3次	III層	3.0	2.3	1.7	0003-0013	
86	磨石	石材不明	多3次	III層	2.3	2.7	0.7	0003-0012	
87	磨石	デイサイト	多3次	IV層	7.4	5.1	4.0	0003-0017	
88	磨石	デイサイト	多3次	一括	1.8	1.6	1.1	0003-0023	
89	磨石	デイサイト	多3次	一括	8.0	6.2	4.1	0003-0020	
90	磨石	デイサイト	多3次	一括	7.5	5.6	3.9	0003-0019	
91	磨石	デイサイト	多3次	一括	3.7	3.1	2.1	0003-0021	
92	磨石	デイサイト	多3次	一括	3.5	3.9	2.1	0003-0022	
93	磨石	デイサイト	多3次	一括	3.6	2.9	2.3	0003-0018	
94	火打石	石英	騎武3次	一括	3.9	3.2	1.4	0003-0001	
95	火打石	石英	騎武3次	一括	3.8	2.9	1.8	0003-0002	
96	火打石	石英	騎武9次	一括	4.7	3.6	2.0	0009-0001	
97	火打石	石英?	騎武50次	1溝 No. 79	7.3	6.6	5.6	0050-0001	
98	火打石	石英	騎3次	南	3.4	2.1	2.0	0003-0001	
99	火打石	石英	多3次	一括	2.9	2.2	2.9	0003-0001	

第28表 石製品一覧表 2

法量の単位は cm

図 No.	遺物名	調査名	出土地点	縦×横×厚	遺物 ID	備考
100	板碑	騎武2次	No. 52	21×11×3	0002-0001	枠線
101	板碑	騎武50次	2溝 No. 148	11×10×2	0050-0001	表面、平滑(磨痕)
102	板碑	騎武50次	4壇 No. 44	18×15×2	0050-0002	
103	板碑	騎武50次	10壇 No. 99	12×4×1	0050-0003	
104	板碑	騎武50次	No. 11	7×5×1	0050-0004	表面黒化
105	板碑	騎武51次	1溝 最下層 No. 82	10×6×1	0051-0001	
106	板碑	騎武51次	1溝 No. 105	9×5×1	0051-0002	
107	板碑	騎武51次	1溝 最下層 No. 114	11×8×2	0051-0003	
108	板碑	騎武51次	No. 49	18×12×2	0051-0004	スス付着
109	板碑	騎3次	1溝 3T No. 612	18×16×3	0003-0001	一部スス付着 側縁裏面一部磨痕
110	板碑	騎3次	2T No. 4	6×6×1	0003-0002	
111	板碑	騎3次	No. 60	16×13×2	0003-0003	
112	板碑	騎3次	No. 171	7×6×2	0003-0004	
113	板碑	騎3次	No. 224	20×12×3	0003-0005	
114	板碑	騎3次	No. 314	19×9×1	0003-0006	表面磨痕顕著
115	板碑	騎14次	3堀 No. 3	15×9×1	0014-0001	表面磨痕顕著 側面平坦 表面スス付着
116	板碑	多3次	No. 275	11×6×1	0003-0001	表面平滑
117	板碑	多3次	No. 394	11×9×2	0003-0002	表面磨痕顕著
118	五輪塔	騎武51次	No. 112	6×6×5	0051-0001	
119	加工石	多2次	5壇	21×11×4	0002-0001	

第29表 石製品一覧表 3

第5節 他時期の遺物

○縄文時代

『土器』

騎武2次 1～3は縄文が横位に施文される。1は関山、2・3は同様の時期、4は半截竹管による平行沈線文で諸磯B式、5は底部で型式不明。

騎武8次 6は半截竹管による連続爪形文で諸磯B式、7は波状口縁で幅狭な半截竹管による押し引きの連続爪形文・集合条線で諸磯C、8～10は加曾利E式。

騎武50次 11は微隆起線を施す加曾利E式末、12は帯縄文に豚鼻状貼付を貼付する安行2式の深鉢。

騎武51次 13・14は加曾利E式後半、15は後期安行式の平口縁深鉢で口縁部に縄文帯を巡らせる。16～18は安行式粗製深鉢である。

騎12次 19は堅緻な焼成で胎土に小石を含む。撚糸文系か。20～35は加曾利E式後半の深鉢で、懸垂文や縄文・条線を全面に施すものなどがある。

騎14次 36は条線が残る安行2式粗製深鉢。

『石器』

剥片 37はUFで、右側縁部に細かい剥離が見られる。

石鏃 38・39はいずれも小型で凹基である。38は左脚を、39は先端を欠損する。40は頁岩で裏面に自然面あるいは主要剥離面を遺す。裏面の剥離は浅い。石鏃の未製品か。

礫器 41は礫斧で裏面に自然面を遺す肉厚の製品で、裏面からの剥離により成形されている。刃部左欠損。表裏両面の稜は一部摩耗している。

磨石・敲石・凹石 (42～47) 42は棒状の礫が欠損したもので下方が屈曲する。表裏に磨痕が顕著である。43は中型の棒状の礫で敲打により下端部が崩落し、中程が切断している。(接合復元実測)。44は右側面が敲打による平坦面・潰れがある。下端部も敲打により欠損している。45は非常に使い込まれた磨石で、表裏に磨り面、側面は敲打により剥落し凹みがある。46は、丸い扁平な礫で上面が摩耗により平滑である。47は下端を欠損しているが表面に使用によ

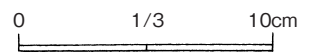
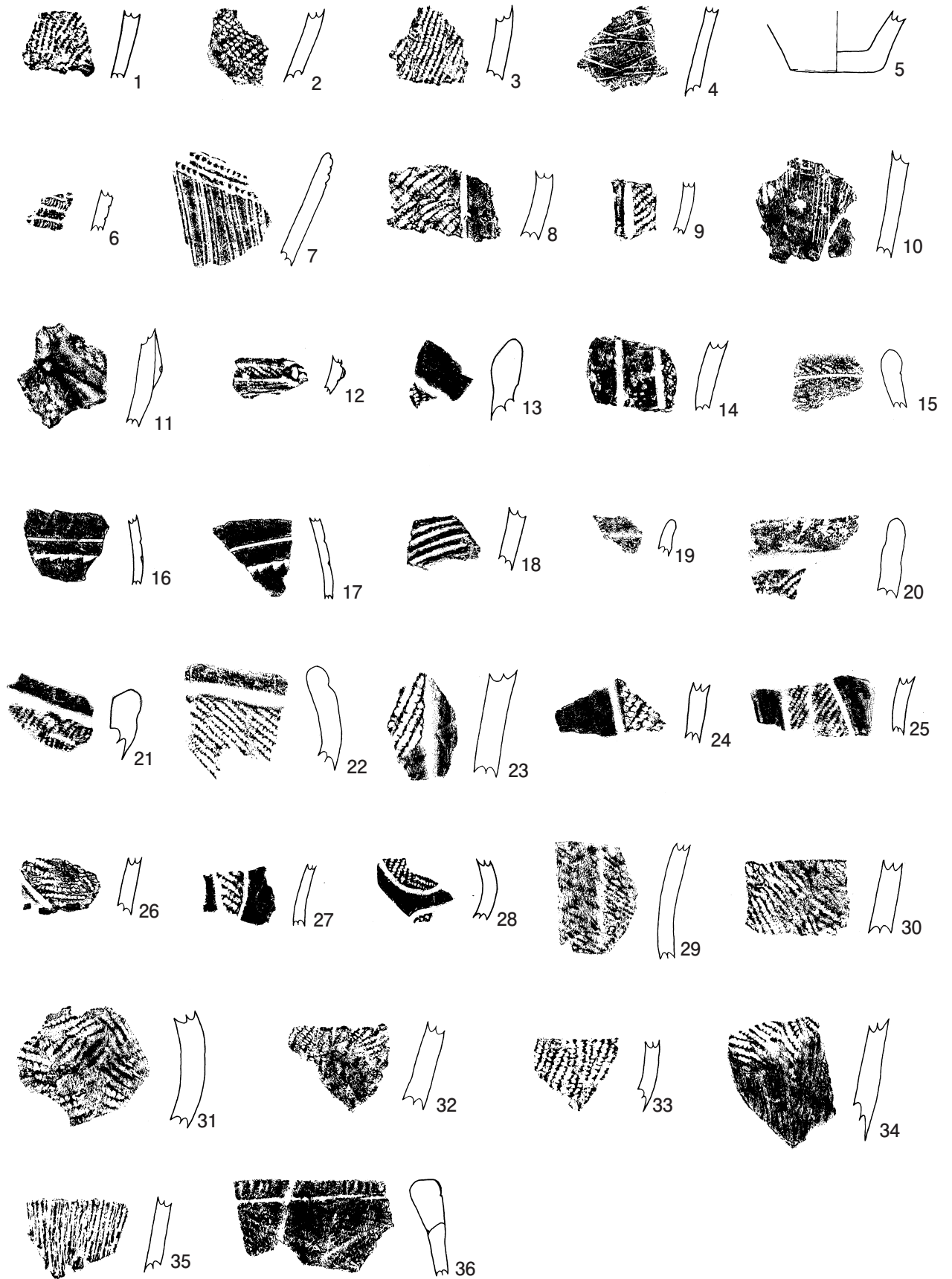
る窪みがある。上端にも敲打痕が見られる。

43は住居跡からの出土で奈良期の所産の可能性を残す。

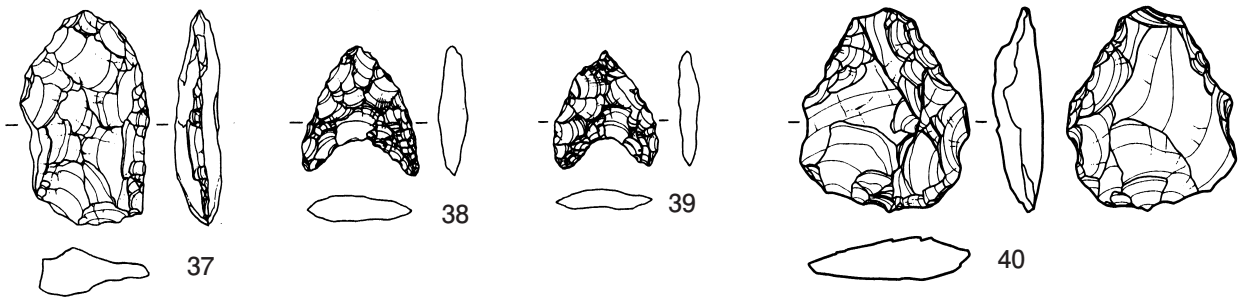
○奈良平安時代

須恵器 48は小型の壺又は甕の胴部の焼破片である。焼成は良好である。産地は不明。他に騎武3次で壺の破片(土-74)が出土している。

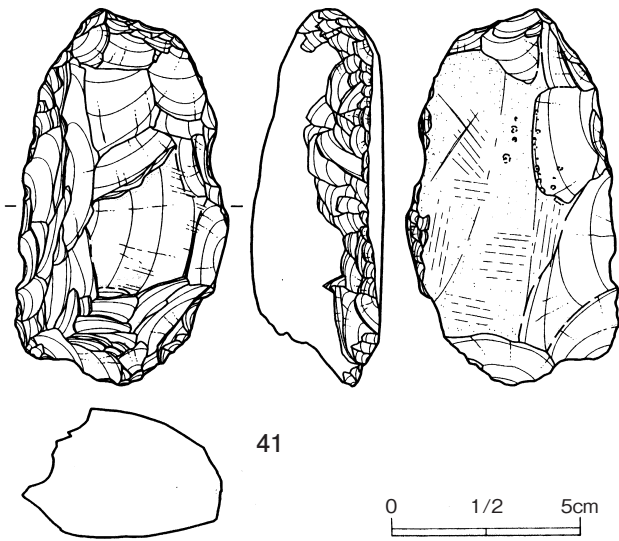
土師器 49は大型鉢の破片で、外面にヘラ削りを施している。50～52は甕で、50は上半部のみで、胴部は球状を呈するものであろう。外面にハケ目を施し、その上からヘラでナデ消している。51・52は50と異なり外面に縦方向のヘラ削りを施す長胴甕であり、いずれも7世紀末から8世紀にかけての所産である。



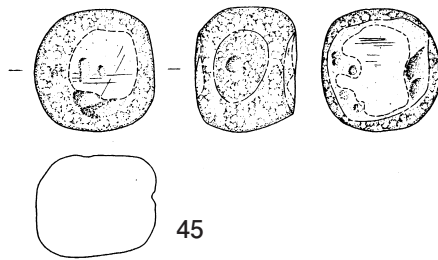
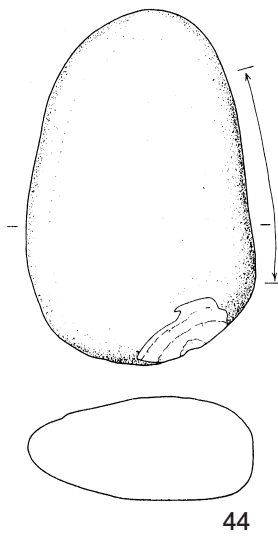
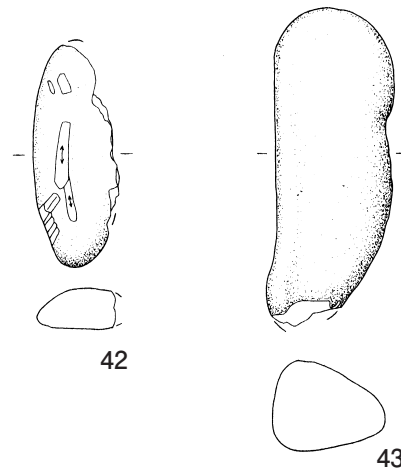
第92図 他時期1



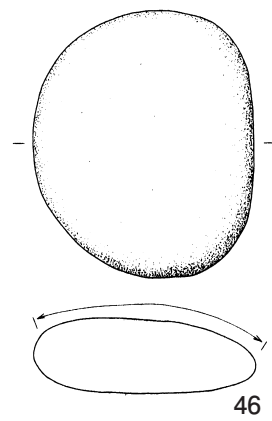
0 1/1 2cm



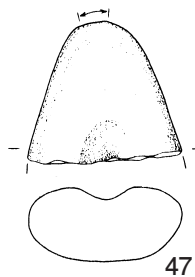
0 1/2 5cm



45



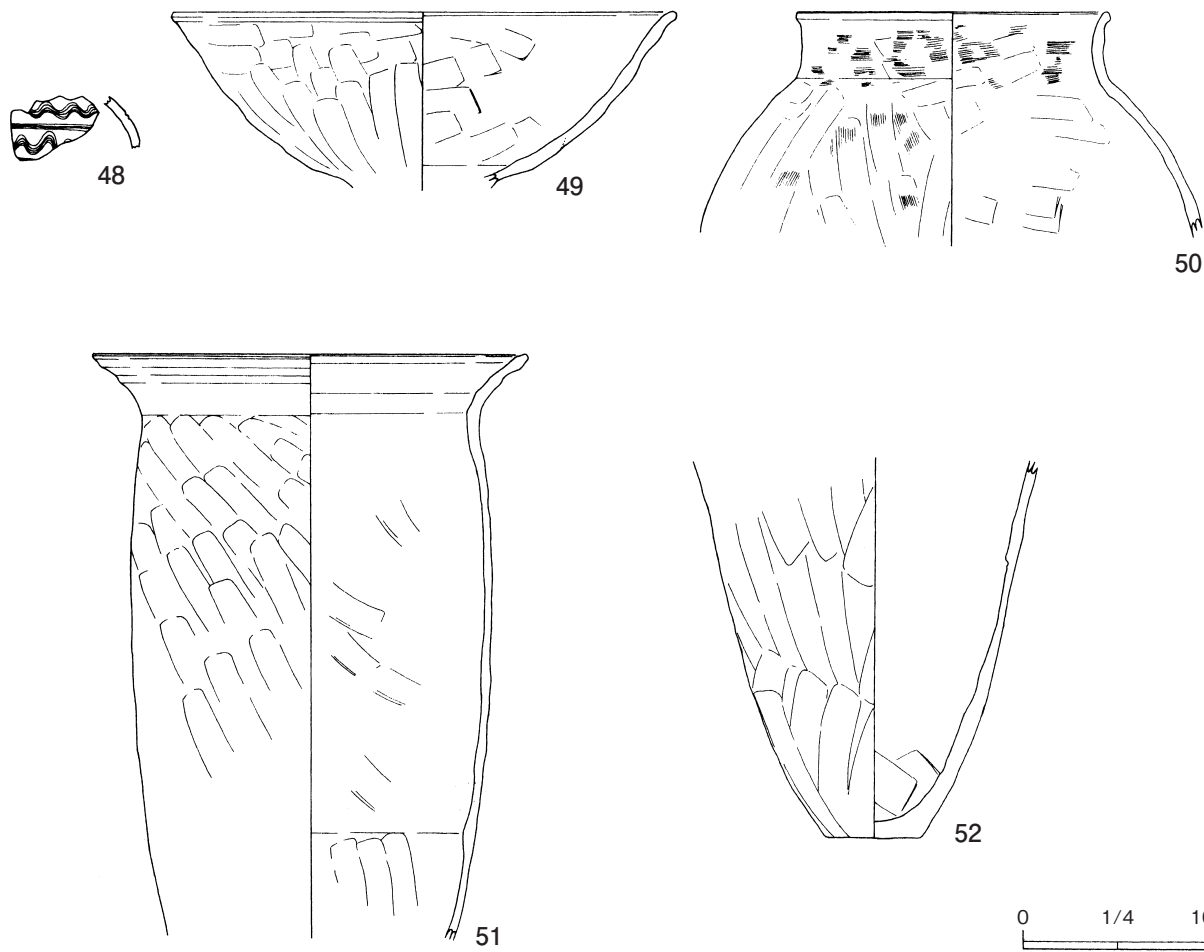
46



47

0 1/3 10cm

第93図 他時期 2



第94図 他時期3

() は残存値、法量の単位は cm

図 No.	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ	型式等	遺物 ID	備考
1	縄文土器	土器	騎武2次	-	-	-	-	関山		
2	縄文土器	土器	騎武2次	-	-	-	-	関山?		
3	縄文土器	土器	騎武2次	-	-	-	-	関山?		
4	縄文土器	土器	騎武2次	-	-	-	-	諸磯 B		
5	縄文土器	土器	騎武2次	-	-	-	-			
6	縄文土器	土器	騎武8次	-	-	-	-	諸磯 B		
7	縄文土器	土器	騎武8次	-	-	-	-	諸磯 C		
8	縄文土器	土器	騎武8次	-	-	-	-	加曾利 E		
9	縄文土器	土器	騎武8次	-	-	-	-	加曾利 E		
10	縄文土器	土器	騎武8次	-	-	-	-	加曾利 E		
11	縄文土器	土器	騎武50次	-	-	-	-	加曾利 E		
12	縄文土器	土器	騎武50次	-	-	-	-	安行2		
13	縄文土器	土器	騎武51次	-	-	-	-	加曾利 E		
14	縄文土器	土器	騎武51次	-	-	-	-	加曾利 E		
15	縄文土器	土器	騎武51次	-	-	-	-	安行		
16	縄文土器	土器	騎武51次	-	-	-	-	安行		
17	縄文土器	土器	騎武51次	-	-	-	-	安行		
18	縄文土器	土器	騎武51次	-	-	-	-	安行		
19	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	燃糸文系?		
20	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
21	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
22	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
23	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
24	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
25	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
26	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
27	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
28	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
29	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
30	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
31	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
32	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
33	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
34	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
35	縄文土器	土器	騎12次	-	-	-	-	加曾利 E		
36	縄文土器	土器	騎14次	-	-	-	0.5	安行2		
37	剥片/UF	石	騎武2次	一括	2.8	1.7	0.6		0002-0001	3.0g
38	石鎌	石	騎3次	調査区	1.7	1.6	0.4		0003-0001	0.6g
39	石鎌	石	騎3次	調査区	1.5	1.4	0.2		0003-0002	0.4g
40	石鎌	石	騎武8次	一括	2.6	2.1	0.6		0008-0001	3.6g/未製品
41	礫斧	石	騎武51次	2T No. 1	9.5	5.2	3.4		0051-0001	231.3g
42	磨石	石	騎武3次	一括	8.9	3.2	1.6		0003-0001	70g
43	叩石	石	騎武51次	1住 No. 102	(12.5)	4.6	3.6		0051-0002	300g
44	磨石	石	騎3次	No. 398	14.2	9.0	4.1		0003-0004	795g
45	磨石	石	騎3次	3T	4.9	4.8	2.0		0003-0003	
46	磨石	石	騎14次	3堀 No. 4	10.7	8.8	3.0		0014-0001	380g/磨石? ⇔自然石
47	磨石	石	多3次	瓦 No. 135	(5.6)	6.1	3.0		0003-0001	135g
48	須恵器/壺	土器	騎武50次	No. 19	-	-	-		0050-0001	
49	土師器/大型鉢	土器	騎武51次	1住 No. 176・177	口径 26.4	底径 不明	器高 9.2		0051-0001	
50	土師器/甕	土器	騎武51次	1住カマド付近 No. 175	16.4	不明	12.0		0051-0002	
51	土師器/甕	土器	騎武51次	1住カマド付近	23.0	不明	31.2		0051-0003	
52	土師器/甕	土器	騎武51次	1住	不明	4.8	19.6		0051-0004	

第30表 他時期一覧表

第IV章 科学調査

第1節

騎西城武家屋敷跡第50次10号土壙覆土土壌について

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

騎西城の発掘調査は、これまでに二の丸・武家屋敷跡・城郭・堀などが対象に行われ、今回実施された武家屋敷跡（第50次調査）では、溝・土壙・井戸などが確認されている。その中で土壙は10基検出されているが、10号土壙から金貨が出土している。発掘調査時の所見によれば、10壙は工房址ではないかと推測されているが、それを確証するには至っていない。そこで今回の分析調査は、10壙の性格について検討することを目的とする。ただし、本報告では工房址以外にも墓壙の可能性について検討するため、土壙の覆土を対象として土壌理化学分析を行い、遺構の性格に関する情報を得ることとする。

そのための分析項目として、今回は骨の主成分として多量に含有されるリン酸カルシウムと腐植（有機物）の指標成分である有機炭素、マンガン（微生物活動により濃縮）および亜鉛（生活活動により濃縮）を選択した。この中で、リン酸は骨に多量に含まれるだけでなく、土壌中に固定されやすい特徴がある（火山灰土壌でそれが顕著である）。そのため、遺体が埋葬されると土壌中にはリン酸の局所的な濃集が顕著に認められ、その濃集状態から遺体の痕跡を定性的に推定することができる。このことから、特にリン酸の含量に着目して分析を進める。

1. 試料

分析試料は10壙覆土7点と1号溝北壁セクション2層から採取された土壌試料1点の合計8点である。10壙の平面は楕円形を呈するがやや不定形である。10壙覆土ではA層（上層－9層）・B層（中層－10層）・C層（下層－11層）から採取され、金貨はB層から出土している。また、C層はA層・B層と別の遺構覆土の可能性もあるとされるが、現時点で詳細は不明とされる。

1 溝北壁セクション2層は遺構確認面の最上層から採取された試料であり、10壙覆土の土壌理化学成分の対比試料とする。分析試料に関する詳細は、結果とともに第31表に示す。

2. 分析方法

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウム、マンガン、亜鉛は過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行った（土壌養分測定法委員会, 1981）。以下に各項目の操作工程を示す。

①リン酸・カルシウム・マンガン・亜鉛 試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO₃）約5mlを加えて加熱分析する。放冷後、過塩素酸（HClO₄）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P₂O₅）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）、マンガン（MnO）、亜鉛（Zn）の濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン含量（P₂O₅mg/g）、カルシウム含量（CaOmg/g）、マンガン含量（MnOmg/g）および亜鉛含量（Znmg/kg）を求める。

②有機炭素量

風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉碎し、0.5mmφのふるいを全通させる（微粉碎試料）。

微粉碎試料0.100～0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

3. 結果

分析結果を第31表に示す。

第31表 10壙覆土の土壌分析結果

	試料名	土性	土色	腐植含量(%)	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO(mg/g)	MnO(mg/g)	Zn(mg/kg)
10壙	サンプル 1 A層	CL	10YR3/3 暗褐	3.65	4.77	4.98	0.72	90.9
	2 B層	CL	10YR3/3 暗褐	3.36	3.21	4.47	0.62	90.9
	3 C層	CL	10YR3/3 暗褐	3.61	3.50	4.22	0.55	83.1
	4 B層	CL	10YR3/3 暗褐	3.30	2.91	5.49	0.59	85.1
	5 C層	CL	10YR3/1 黒褐	3.93	3.72	5.79	0.51	87.6
10壙	B層	CL	10YR3/3 暗褐	3.27	3.03	4.37	0.52	85.6
10壙	C層	CL	10YR3/3 暗褐	3.61	3.32	4.67	0.55	85.4
1溝北壁	セ② 2層	CL	10YR3/2 黒褐	3.63	5.50	5.34	1.13	113.1

注. (1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修, 1967）による。

(2) 土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編, 1984）の野外土性による。

CL…埴壤土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%）

腐植含量は3.27～3.93%と全体的に低い値である。リン酸含量は2.91～5.50P₂O₅mg/gと試料間における変動が大きいものとなっている。また、カルシウム含量は4.22～5.79mg/gと多少のばらつきがあるものの各試料における明瞭な差異は認められない。マンガン含量、亜鉛含量も0.51～0.72mg/g、83.1～90.9mg/kgと低い値となっている。

4. 考察

土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen, 1983；Bolt・Bruggenwert, 1980；川崎ほか, 1991；天野ほか, 1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P₂O₅mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P₂O₅mg/g（川崎ほか, 1991）という報告例がある。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1～50CaOmg/g（藤貫, 1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい。10壙覆土はリン酸、カルシウムともに天然賦存量の範囲内にある。また、その対照試料では遺構確認面の上層であること、遺構覆土の中でも上位の方がリン酸含量が高い点から、下位になるほどリン酸含量が低くなる傾向にあるといえる。一方、L壙のマンガン含量、亜鉛含量も0.51～0.72mg/g、83.1～90.9mg/kgと低い値となっているが、対照試料ではマンガン含量が1.13mg/g、亜鉛含量が113.1mg/kgとやや高い値

となっている。このように、今回の分析試料における各成分間の相関係数はリン酸とマンガンが0.8675、リン酸と亜鉛が0.8391、マンガンと亜鉛が0.9692と高い相関を示す。先にものべたように、リン酸は土壌中では移動しにくいと考えられているが、粘土などと共に下方へ移動し集積する可能性も指摘されている。（バーンズほか, 1986）。このことから、リン酸の富化は、後代の施肥などの影響による可能性が高い。おそらく、施肥により表土でリン酸や亜鉛、マンガンなどが富化し、その後の水や耕作などにより下層へ成分が移動したと考えられる。このため、上層ほどこれらの含量が高くなっていることが考えられる。

以上の結果から、10壙の性格に関する詳細な資料は得ることはできなかったが、覆土の理化学成分から遺体埋葬施設である可能性は低いと考えられる。

<引用文献>

天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信(1991)中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省農林水産技術会議事務局編『土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発』, p. 28-36.

Bowen,H.J.M. (1983)『環境無機化学－元素の循環と生化学－』. 浅見輝男・茅野充男訳, 297p., 博友社[Bowen, H.J.M. (1979) *Environmental Chemistry of Elements*].

Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M. (1980)『土壤の化学』. 岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽 捷行訳, 309p., 学会出版センター [Bolt, G.H. and Bruggenwert, M.G.M. (1976) *SOIL CHEMISTRY*], p. 235-236.

ジナ バーンズ・ルール プラント・サイモン ケーナ・デイビット ロリガー・西田史朗(1986)日本の土壤中での燐酸塩の挙動. 考古学と自然科学, 19, p. 57-68. 土壤養分測定法委員会編(1981)『土壤養分分析法』. 440p., 養賢堂.

川崎 弘・吉田 滂・井上恒久(1991)九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省 農林水産技術会議事務局編『土壤蓄積リン酸の再生循環利用技術の開発』, 149p. : p. 23-27.

日本粘土学会編(1987)「粘土ハンドブック 第二版」. 1289p., 技報堂出版.

農林省農林水産技術会議事務局監修(1967)新版標準土色帖.

ペドロジスト懇談会編(1984)『土壤調査ハンドブック』. 156p., 博友社

第2節

騎西城武家屋敷跡第50次10号土壌出土金貨について

山梨県立博物館 沓名 貴彦

はじめに

近年、騎西城武家屋敷跡から金生産に係わる生産遺物が確認され、その科学調査について筆者が報告を行った¹⁾。その中で、金合金の生産が行われることを報告し、金工品などに用いられた可能性を示唆した。

さらに、騎西城武家屋敷跡第50次発掘調査において、中世末から近世初頭にかけての土壌から3種類の金貨が出土し、多くの人の目に留まることとなった。これら金貨は、江戸時代の貨幣制度の前身となる重さによる取引で用いられた秤量貨幣であり、形態から蛭藻金、露金、切金（蛭藻金を必要な重さに切り取ったもの）と呼ばれるものである。この異なる3種類が、古くには出土した事例が知られているが、近年の発掘調査では唯一の事例である²⁾。その質量や密度を用いた金品位の測定は、これまでに報告が行われているが、その他の科学調査は行われていない³⁾。

今回、これら金貨について科学調査を行った結果について報告する。

調査資料

騎西城武家屋敷跡出土金貨

- ・蛭藻金
- ・切金
- ・露金

○調査機器

今回の詳細調査には、下記の山梨県立博物館設置の機器類を使用した。

- ・蛍光エックス線分析装置 (XRF) : SEA 5230 HTW (エスアイアイ・ナノテクノロジー製)
- ・走査型電子顕微鏡 (SEM) : Quanta 600 (日本FEI製)

・エックス線マイクロアナライザー (EDX) : EDAX Genesis 2000 (アメテック製)

調査内容

1. 金貨の品位調査

前述した通り本資料については密度による金品位の計測は実施されているが、その他の手法による金品位の測定は行われていない。そこで、蛍光エックス線分析による定量分析を行った。

分析条件は、管電圧：50kV、管電流：自動、測定時間：300秒、測定範囲：1.8mmφであり、表裏面合計5ヶ所に実施した。金品位の定量は、金・銀・銅の三元合金を標準試料として、ファンダメンタルパラメータ法を使用した。

2. 金貨付着不純物の分析

3種類の中でも露金は、その形状から必要な重さに秤量した金を熔かし固めた状態や、不純物を含んだ金の粉末を製錬で分離して得られた灰吹金の状態とみられた。露金の底面（下面）には、凹凸と共に黒色不純物が付着しており、この部分の分析から金の生産技術の推定が可能と考えられた。

そこで、蛍光エックス線分析とエックス線マイクロアナライザー付走査型電子顕微鏡 (SEM-EDX) を用いて、不純物の付着状態について分析を行った。分析条件は、加速電：30kV、測定環境：高真空、である。

3. 金貨製作技法の解明

江戸時代の小判や大判の製造技術の一つに、色付と呼ばれる技法がある。これは、金銀合金である金貨において表面付近の銀を薬剤により除去することで、表面付近の金濃度を高めて金貨の色味を高める表面処理技術である⁴⁾。

今回の調査資料にこの技法が用いられているか、走査型電子顕微鏡を用いて調査した。観察は、加速電：15 kV、測定環境：高真空、の条件で行った。

結果及び考察

1. 金貨の品位調査

蛍光エックス線分析による金貨の定量分析結果を、第32表に示す。併せて、西脇らにより行われた密度による品位測定の結果についても、その際の重量と密度、品位を転載して示した³⁾。

今回の蛍光エックス線分析を用いた金貨の定量分析では、蛭藻金と切金が金90wt%弱、露金は約93wt%であった。露金は、他の2点に比べて品位がより高い値を示している。

また、密度を用いた金品位の測定結果と比較すると、いずれにおいても密度より蛍光エックス線分析の値が高く示された。

2. 金貨付着不純物の分析

露金底面に付着する黒色不純物の顕微鏡写真を、口絵16図1 (a) に示す。また、SEM-EDXの同部位について (b) 二次電子像・ (c) 反射電子像、及び (d) マッピング分析による分析結果を示した。

顕微鏡写真にみられるように、底面には黒色不純物が各所に付着している。この部位のEDX分析では、不純物部分に鉄やケイ素などが主な元素として確認されたが、他に特徴的な元素は確認されなかった。この不純物は、露金を製作する際に原料である粒状もしくは粉末の金に、元々含まれた不純物と考えられる。

古来金は川から得る砂金が中心であったが、戦国時代には金山開発を行い、山金と呼ばれる金鉱石から金を得るように変化したと考えられている。砂金に含まれる不純物は砂鉄や石英が中心であるが、山金には金鉱石由来の様々な鉱物が不純物として含まれ、その除去には製錬技術が必要となった。中でも「灰吹法」と呼ぶ鉛を用いる製錬技術が有名であるが、今回鉛は確認されていない。

そのため、この不純物の分析から露金が川金・山金のいずれかの金と考えた場合、不純物として鉄やケイ素以外に鉱石由来となるような元素がみられないため、川金由来の金と考えられた。

3. 金貨製作技法の解明

各金貨の表裏面の顕微鏡写真を、口絵16図2に示す。また、切金は蛭藻金の上下両端を切り取っているため、その断面と端面の顕微鏡写真を、口絵16図3に示した。

蛭藻金や切金には、錠目と石目 (口絵16図2 (a), (b)) がある。錠目は、金錠で叩き延ばした際に生じた跡であり、蛭藻金には錠目側に鑿で「上」が刻まれている。石目は、加工の際の叩き延ばす台に石を使用したため、石の凹凸が金に転写したことに由来している。蛭藻金の石目には凹凸が残るが、切金は非常に滑らかであり、その加工方法に差がみられる。

切金は、上下が切り取られており、その断面を顕微鏡でみると片方は、石目側から錠目側に向けて規則正しく斜めの筋が残り連続した跡が見られる (口絵16図3 (a))。これは、鋏などを用いて錠目側から切られた跡と考えられた。他方は、錠目側から石目側に向けて垂直方向に筋が残り、大きく2段の跡が残ることから、鑿などで切り取ったと考えられる (口絵16図3 (b))。比較のため、切られていない端面を口絵16図3 (c) に示すが、端面は錠を用いて丁寧に加工されており、その違いをみることができ。

露金の上面と底面の顕微鏡写真を、口絵16図2 (c) に示す。上面は、金の表面張力から球面となるが、一部冷却時に生じた皺が確認できる。底面は、金を熔解した際に坩堝などとの接触により凹凸が生じたとみられ、その凹凸の間には除去できなかった不純物の付着が確認できる。

金貨の表面処理技術である色付は、銀の除去により生じる表面の微細な凹凸や穴を、電子顕微鏡による観察で確認することが可能である。第95・96図に、走査型電子顕微鏡を用いた金貨3種類の表面観察結果を示す。すべて5000倍の元で観察し、比較した。

露金 (第96図 (P150) (c)) は、上面・底面とも滑らかであり、色付は行われておらず熔かし固めた状態であることが確認された。一方蛭藻金と切金は、錠目と石目の両面において微細な凹凸や穴が確認された (第95図 (P149) (a), (b))。これは色付特有

の表面状態であり、どちらも色付が行われていると考えられた。

色付は、東京大学経済学図書館所蔵の上代判金に用いられていることが、筆者の調査により確認されている⁵⁾。上代判金は、後藤家の花押が残る天正大判の前身とみられる金貨であるが、より時代が遡る本資料で確認されたことは、特筆すべきことである。

また本資料の製作地は不明であるが、有力戦国大名の居城ではない騎西城で本資料が出土したことは、このような貨幣がある程度通用していたことが窺われ、色付についても特殊技術ではあるものの、ある程度普及していた可能性が考えられる。

今後も同様の金貨に対して調査を行い、本技術に関する検討材料を増やす必要がある。

おわりに

今回、騎西城武家屋敷跡出土の3種類の金貨について、非破壊による科学調査を行った。

その結果、各金貨は90wt%弱以上の非常に高い品位であることが確認され、以前の密度法と同様の結果が得られた。露金底面に付着する不純物の分析では、その不純物元素の種類から露金が砂金を元に製造されたと考えられた。

また、蛭藻金と切金の表面には色付が行われてい

ることを確認した。これまでの事例よりさらに時代を遡る内容である。

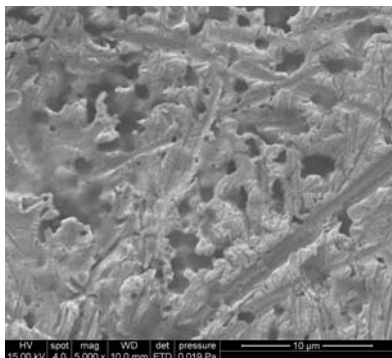
このような金貨の出土事例は非常に限られるため、戦国時代の金貨における重要な事例となるであろう。今後も調査事例を増やしつつ併せて詳細な調査を実施することで、戦国時代における金生産技術が明らかになると考えられる。

参考文献

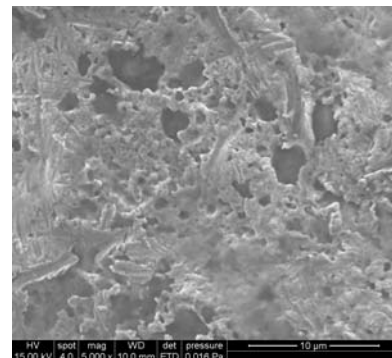
- 1) 杳名貴彦 (2013) 「騎西城武家屋敷跡出土の金粒子付着かわらけについて」『加須市埋蔵文化財調査報告書第5集 騎西城武家屋敷跡 第4～6・10～12・46・47・53～56次調査』加須市教育委員会
- 2) 永井久美男 (2004) 「甲州金から慶長小判へ」『金山史研究』4
- 3) 西脇康、小松美鈴、今村徹 (2005) 「密度測定法による甲州金の品位分析 —奥山コレクションを中心に—」『金山史研究』5
- 4) 伊藤博之 (2003) 「小判の製法と復元」『鉦山金属文化』2
- 5) 杳名貴彦 (2013) 「東京大学経済学図書館所蔵の古金銀貨幣の科学調査について」『東京大学経済学部資料室年報』3

第32表 金貨の定量分析結果

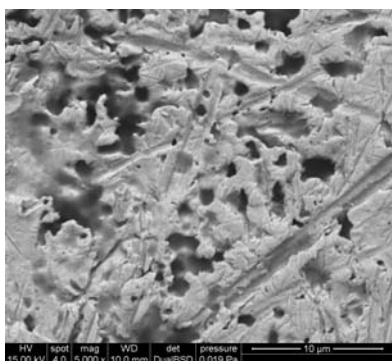
資料名	蛍光エックス線分析による定量分析			密度による品位測定		
	Au (wt%)	Ag (wt%)	Cu (wt%)	質量	密度	質量品位 (wt%)
蛭藻金	87.4	10.9	1.7	15.37	17.1	84.05以上
切金	88.5	11.2	0.3	8.09	17.4	86.8以上
露金	92.8	6.9	0.3	6.83	17.9	90.5以上



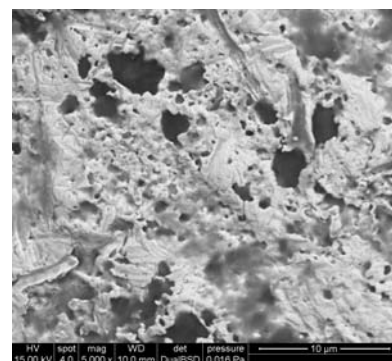
1. 鋤目 二次電子像



2. 石目 二次電子像

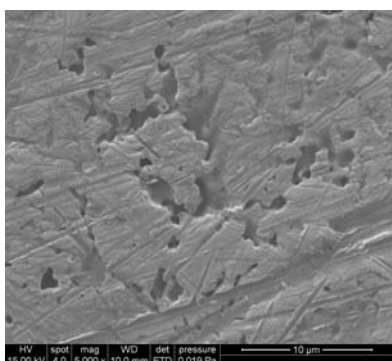


1. 鋤目 反射電子像

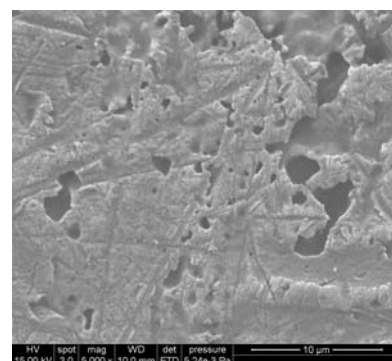


2. 石目 反射電子像

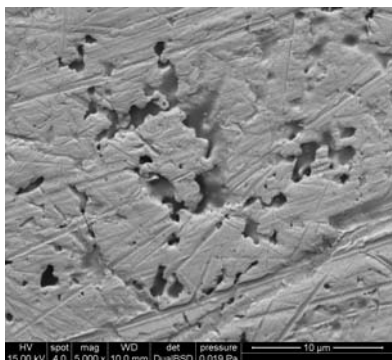
(a) 蛭藻金



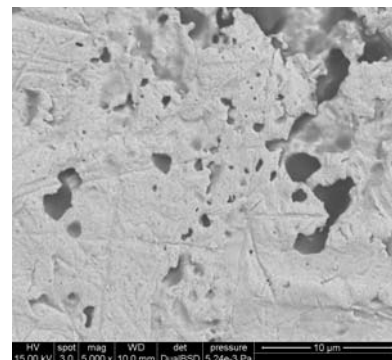
1. 鋤目 二次電子像



2. 石目 二次電子像



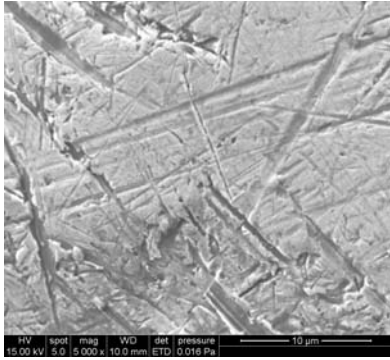
1. 鋤目 反射電子像



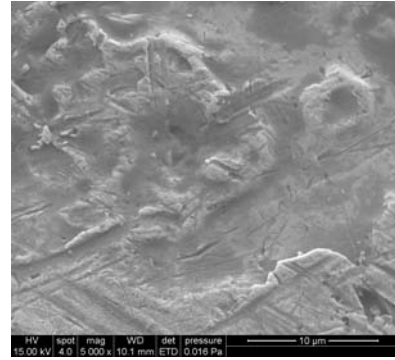
2. 石目 反射電子像

(b) 切金

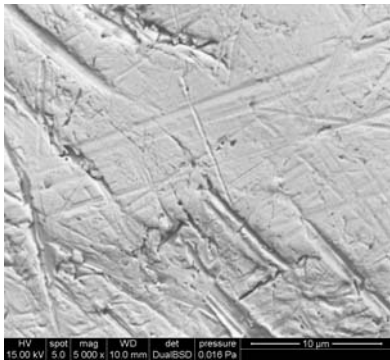
第95図 各金貨の走査型電子顕微鏡による表面観察1



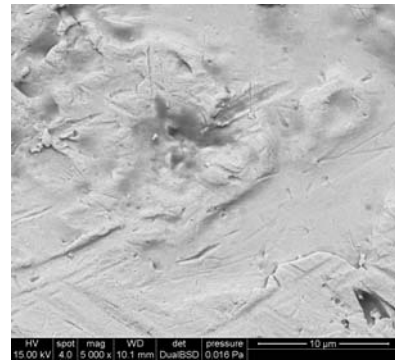
1. 上面 二次電子像



2. 底面 二次電子像



1. 上面 反射電子像



2. 底面 反射電子像

(c) 露金

第96図 各金貨の走査型電子顕微鏡による表面観察 2

第V章 まとめ

第1節 騎西城武家屋敷跡 第2次調査

城郭部の東端で『武州騎西之絵図』（17世紀初頭の製作か。以下絵図）では大手門の外側、元の久伊豆社地の西周辺に相当する。

1号堀は浅いが、大手門前への侵入を困難にするべく、絵図にある屈曲し幅狭な道を形成するために掘削された堀であると思われる。1号溝は、15世紀中～16世紀頃のもので戦国期に当地点が戦略的に機能していたことを想定できる。

第2節 騎西城武家屋敷跡 第3次調査

武家屋敷の東側に位置する。『絵図』では『御蔵屋舗』地内妙光寺の構え堀東側無記名地に相当する。

明確な遺構は確認されなかったが、出土遺物から15・16世紀の城が在った時期及び17・18世紀の廃城後の生活痕跡を残している。

第3節 騎西城武家屋敷跡 第8・9次調査

武家屋敷の北西に位置する。『絵図』では御蔵屋舗南側堀の南にある□藤三右衛門屋敷地南周辺に相当する。

9次1号溝は17次3号溝とつながり、北接する障子堀と走行軸を異にする方向に走る。KB16区の北側にある溝につながる可能性を残す。相対的に古い段階のものか。8次1号井戸は足掛けを2カ所設ける。KB4区のものと同様である。8次6号土壌及び9次1号土壌は覆土に大量の焼土・炭化物を含む。特に1号土壌ではラミナ状に堆積し桃白色土の由来・針状の含有物があるが未分析である。

第4節 騎西城武家屋敷跡 第50・51次調査

武家屋敷の北西に位置する。『絵図』では大手門に近く御蔵屋舗の外、重臣山中忠兵衛屋敷地南周辺に相当する。

50次1号溝は9次1号溝と走行軸を同じくするものである。50次2号溝・51次1号溝は約10mの間隔で並行し、150m西方の5次調査地点から続く特殊なものである。以前道に伴うものと考えたことがある。これは城郭と御蔵屋舗を画する堀と並行するものである。

50次10号土壌では金貨が3点出土した。出土状態及び覆土の分析から副葬品の可能性はなく、混乱に伴う流れ込みと思われる。土壌の年代は伴出遺物などから16世紀から17世紀初めのものとしておく。城跡における発掘調査により二両相当の金貨が出土したことは騎西城のみならず当時の貨幣流通のあり方を物語るものである。また、周辺調査区（49次・KB10区ほか）で金粒付着土器片が出土しており、金の加工が行われていたことも忘れてはならない。

50次1号住居跡は騎西地域唯一の遺存の良い奈良時代の住居跡で、周辺では33次調査（西南西へ40mで）カマドを有する住居跡が1軒確認されたのみで同一時期のものか、また、集落が存在したのか評価が難しい。

第5節 騎西城跡第3次調査

城郭部東部で『絵図』では丸（仮称六の丸）北西部周辺である。

調査区全面に広がる1号堀はかわらけなどから16世紀代のもので、武器武具・生活用具類が流れ込む状況から生活空間での戦後処理に関連することが窺われる。遺物の3次元的な分析から覆土の三角堆積が進んだ状態での流れ込みと思われる。

かわらけは残存率の高いものが多く、底径が小さく器高の高い種と底径が大きく浅い種の2種類が多く見られる。武具の内、筭金物は当遺跡唯一の出土で、細工が精巧に施されており、上位の武士が所持



第97図 各地区の武家屋敷内の推定位置

したものであろうか。

第6節 騎西城跡第12次調査

城郭部東寄りで『絵図』では西側の「丸」（仮称五の丸）東部中央周辺である。

1号土壇の深さは83cmと深く当地の土地利用についての一資料を追加したものである。

第7節 騎西城跡第14次調査

城郭部中央南端で『絵図』では東側の「丸」（仮称六の丸）南西隅周辺である。

ほぼ全面障子堀で、六の丸南端を含む。東側のKB17区・騎11次検出の堀と同様、平面長方形・断面楕円形のものがある。ただし底面が狭い3～6号堀と広い1・2号堀がある。また、3号堀と4号堀を連結する溝は城内では他に確認例が無く機能・用途は不明である。

第8節 騎西城跡第15次調査

城郭部の西部で『絵図』では馬屋曲輪と天神曲輪を繋ぐ通路東の堀周辺である。

削平が顕著で障子堀の底面が残るのみである。北側周辺においてボーリング棒による探査で障子堀が確認できず、同様に平坦であった。水田耕作に伴う削平によるものか。

第9節 多賀谷氏館跡1～3次調査

1・2次調査は遺跡範囲外で東方である。3次調査は遺跡内南寄りに位置する。

館関連の遺構は不明で、1次の1号溝及び3次の4号溝がその可能性を残すのみである。当該期の遺物は、1次での青磁片・常滑甕が関連するものか。

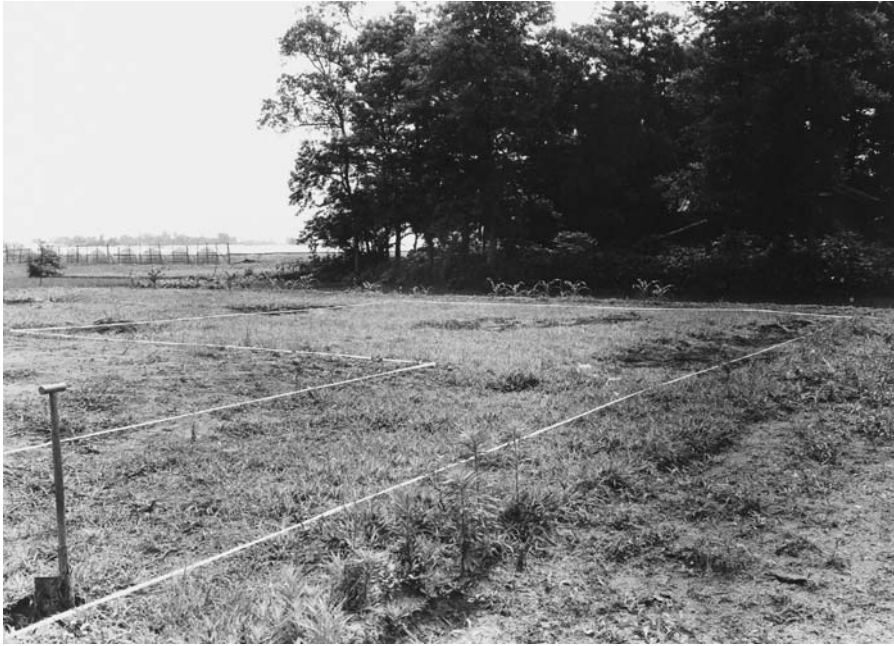
しかしながら江戸時代中～後期の陶磁器類は騎西地域では遺存も良く、良好な出土例である。出土した肥前・瀬戸美濃磁器、火鉢などは当地域での消費のあり方を提示するものである。

参考文献

- 安芸毬子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹 1999 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 別冊
- 秋本太郎 2008 「戦国期北関東のかわらけ—戦国大名支配との関連—」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』
- 大成可乃 2011 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2）東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要7『東京大学構内遺跡調査研究年報』7
- 浅野晴樹 1988 「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第4号
1991 「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心に—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集
- 大橋康二 1984 「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
『騎西町史』考古資料編1 2001 騎西町教育委員会
『騎西町史』考古資料編2 1999 騎西町教育委員会
『騎西町史』通史編 2005 騎西町教育委員会
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」九州陶磁学会
2001 「国内出土の肥前陶磁」東日本の流通をさぐる 九州陶磁学会
- 島村範久ほか 1997 「騎西武家屋敷跡城 妙光寺第1・2次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第2集
- 島村範久 2005 「騎西（私市）城跡」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
2005 「騎西（私市）城跡」『戦国の城』
2009 「騎西城武家屋敷跡 第40次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第6集
- 嶋村英之 2011 「騎西城武家屋敷跡 第17・28・35・36・39・41・43次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第1集 加須市教育委員会
2012 「騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・34・38・49次調査 騎西城跡第9・10次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第3集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・嶋村薫 2013 「騎西城武家屋敷跡第4～6・10～12・46・47・53～56次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第5集 加須市教育委員会
2013 「騎西城武家屋敷跡 KB4・5区 第15・26次調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第6集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・島村範久・嶋村薫 2011 「騎西城武家屋敷跡 KB大英寺・1・2区調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第2集 加須市教育委員会
2012 「騎西城武家屋敷跡 KB3・6・9区 第19・20・21・29次調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第4集 加須市教育委員会
- 田中 信 1996 「川越市内出土の中世土師器について—特に河越館跡および周辺出土を中心に—」『川越市埋蔵文化財調査報告書（X I）』川越市教育委員会
2005 「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』高志書院
2005 「出土遺物からみた山内上杉（越後上杉氏）の城・陣所」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
2010 「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣
- 塚田良道 1989 「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol1 行田市郷土博物館
- 中野晴久 1994 「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集
2005 「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集

- 成瀬晃司 1997 「江戸遺跡出土資料による磁器碗・皿の変遷—文様、銘款を中心に—」 東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1 『東京大学構内遺跡調査研究年報』 1
- 服部実喜 2008 「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』
- 藤澤良祐 1987 「本業焼の研究（1）」 研究紀要VI 瀬戸市歴史民俗資料館
- 1988 「本業焼の研究（2）」 研究紀要VI 瀬戸市歴史民俗資料館
- 1989 「本業焼の研究（3）」 研究紀要VI 瀬戸市歴史民俗資料館
- 2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
- 2008 「中世瀬戸窯の編年」
- 堀内秀樹 1997 「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」 東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1『東京大学構内遺跡調査研究年報』 1
- 横田賢次郎・森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』 4

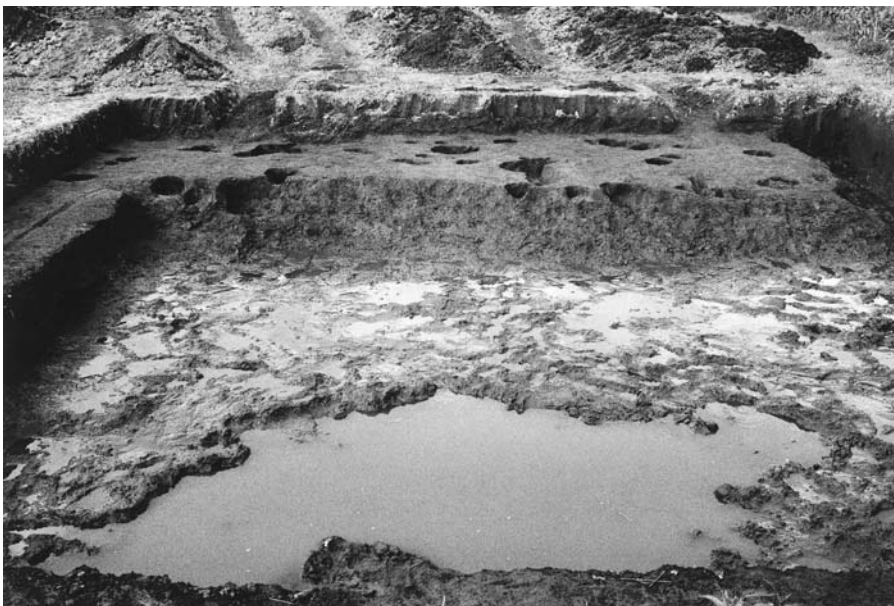
圖 版



調査前風景



B区
1号堀 完掘（西から）



1号堀 完掘（西から）



1号堀東 完掘 (北から)



1号溝 完掘



1号溝 土層堆積状況



かわらけ (土-29) 出土



調査風景



調査風景



完掘



完掘 (南から)



完掘 (北から)



1号溝 完掘



1号井戸 完掘



1号土壙 完掘



同 ほうろく (土-75・81) 出土



2号土壙 完掘



調査風景



3号土壙 完掘



6号土壙 完掘



7号土壙 ほうろく (土-83) 出土



唐津皿 (土-98) 出土



完掘



1号溝 完掘



2号溝 完掘



1号溝 在地播鉢(土-116)出土



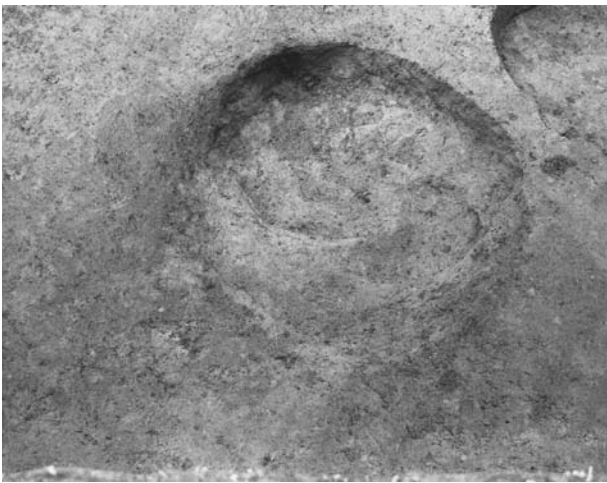
3号溝 焼土出土



1号井戸 ほうろく (土-118) 出土



1号井戸 完掘



1号土壇 完掘



3号土壇 完掘



5号土壇 完掘



かわらけ (土-124) 出土



調査前風景



完掘



1号溝 完掘



2号溝 完掘



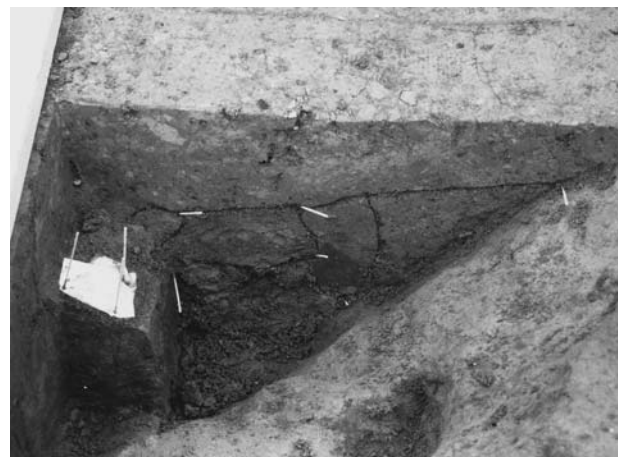
4号溝 齒出土



1号井戸 完掘



2号井戸 完掘



10号土壇 土層堆積



調査前風景



完掘



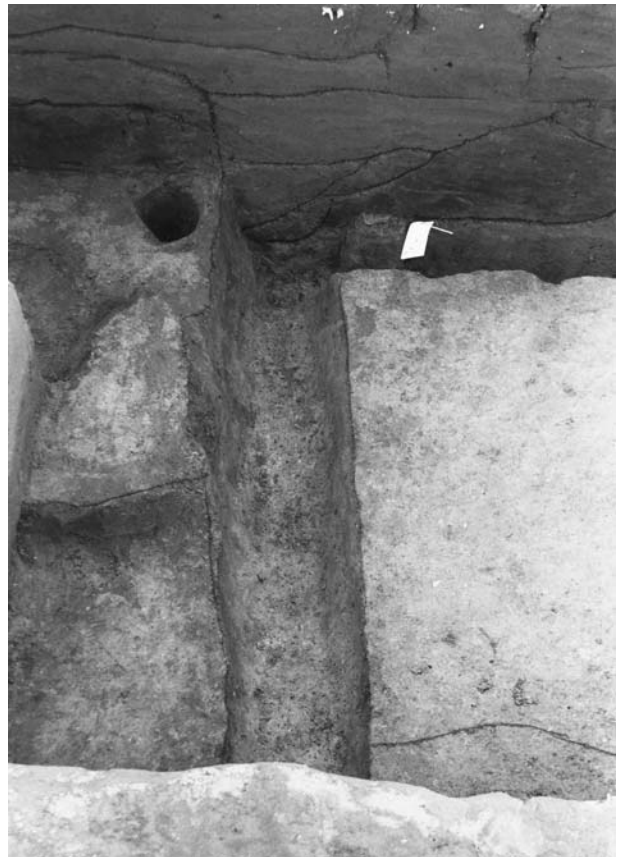
第1トレンチ 完掘



第2トレンチ 完掘



1号溝 完掘



4号溝 完掘



第1トレンチ 骨出土



1号溝 石臼(石-4・5)出土



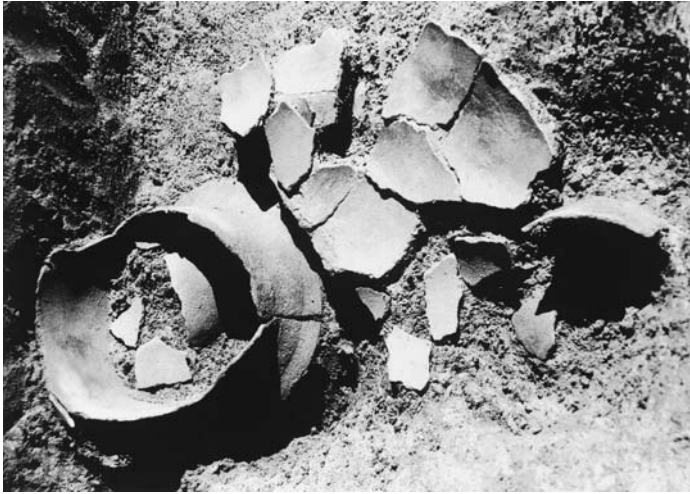
1号住居跡 完掘(西から)



1号住居跡 完掘（東から）



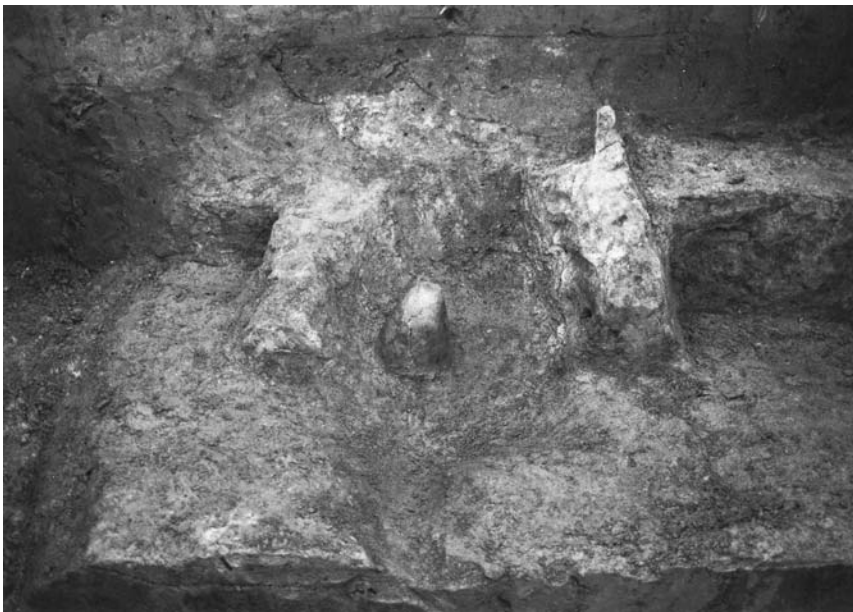
カマド 遺物出土



カマド 土師器甕 (他-51) 出土



同 横から



カマド 完掘



カマド 支柱 (他-52) 出土



調査前風景



第1トレンチ 確認面



第2トレンチ 確認面



調査区 北側上層 遺物出土状況



調査区 南側上層 遺物出土状況



北側上層 瀬戸美濃皿 (土-211) 出土



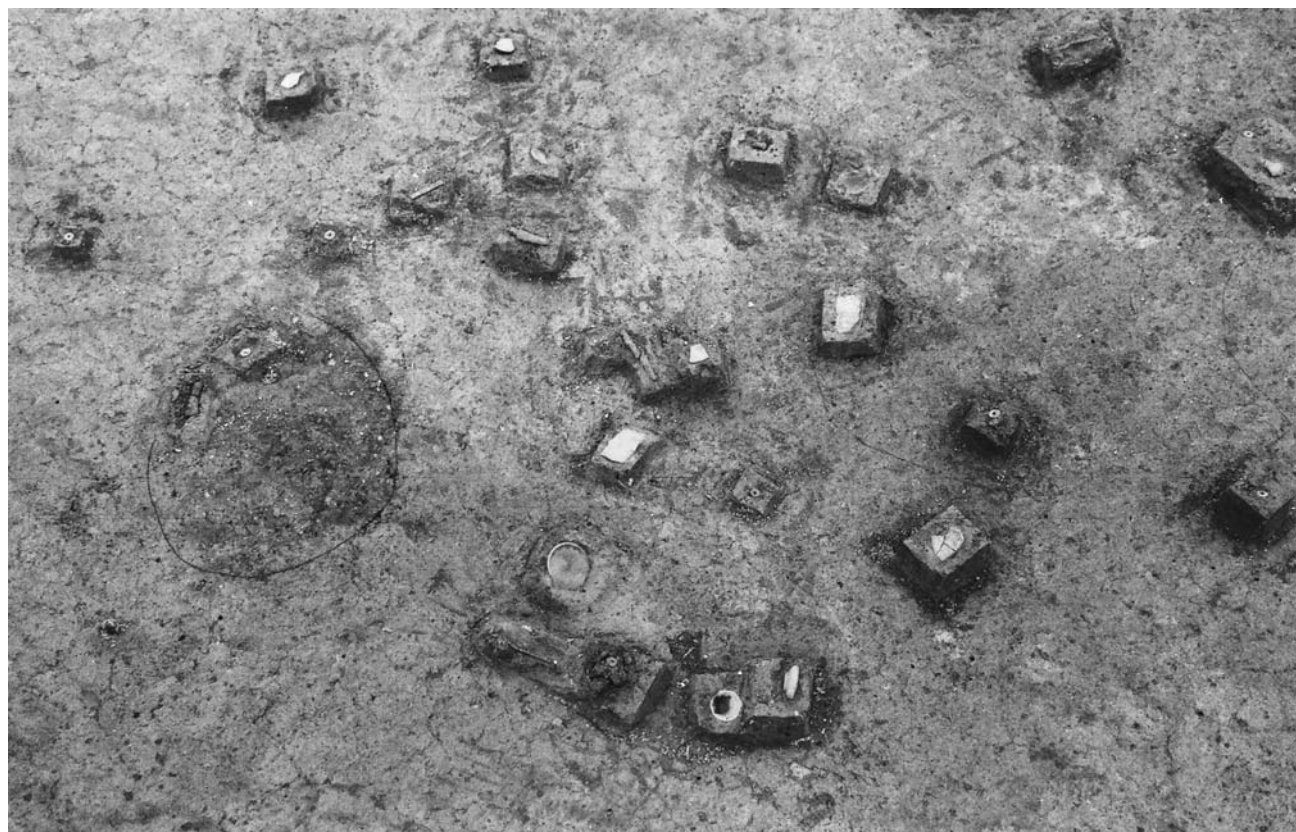
同 かわらけ (土-220) 出土



南側上層 土器碗 (土-216) 出土



同 柄状鉄製品 (金-32) 出土



調査区 南側中央 遺物出土



同 かわらけ (土-224) 出土



同 紡錘車 (金-14) 出土



同 遺物出土



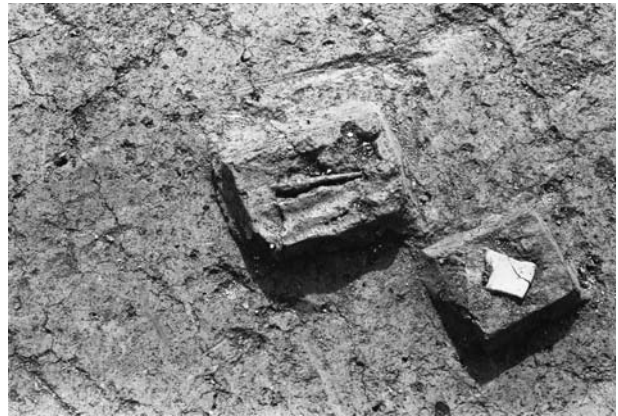
同 槍先 (金-23) 出土



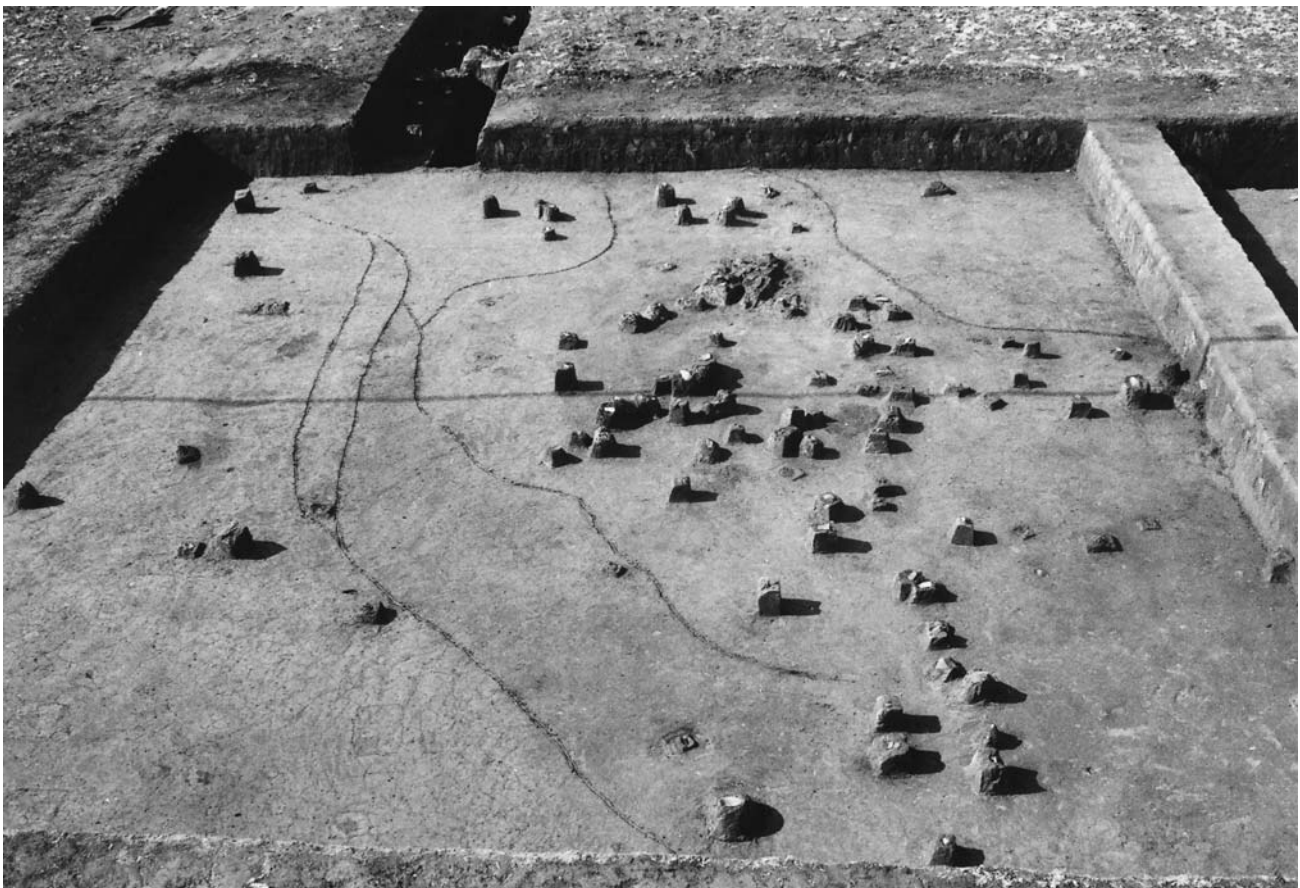
同 小柄 (金-42) 出土



南側南 かわらけ (土-232) 出土



南側南 鉄鍬 (金-26) 出土



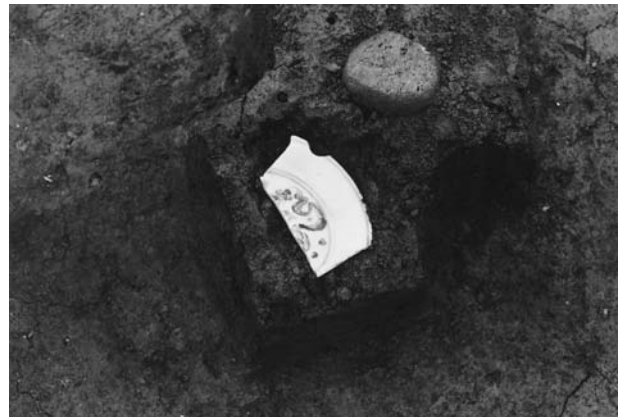
調査区 南側中層 遺物出土状況



同 ほうろく (土-293・294・298) 出土



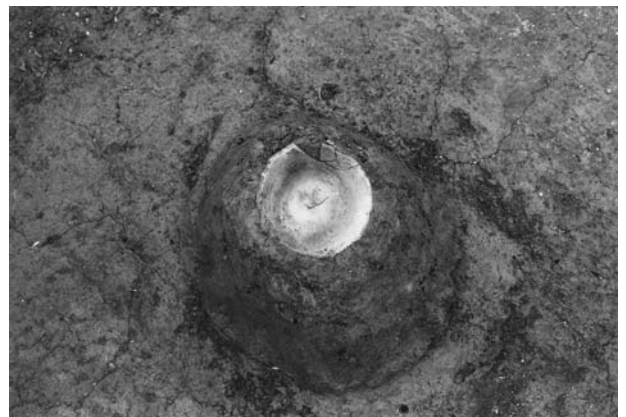
同 瀬戸美濃 緑釉皿 (土-208) 出土



同中国 染付皿 (土-201) 出土



同 刀の縁 (金-36) 出土



同 からわけ (土-241) 出土



調査区北側 中層 遺物出土状況



同 石臼 (未図化) 出土



同 ほうろく (土-299) 出土



同 鋌状製品(金-11)、かわらけ(土-266)出土



調査風景



調査前風景



完掘



1号溝 検出状況



1号井戸 完掘



2号井戸 完掘



3号井戸 完掘



1号土壙 完掘



2号土壙 遺物出土



調査前風景



完掘（西から）



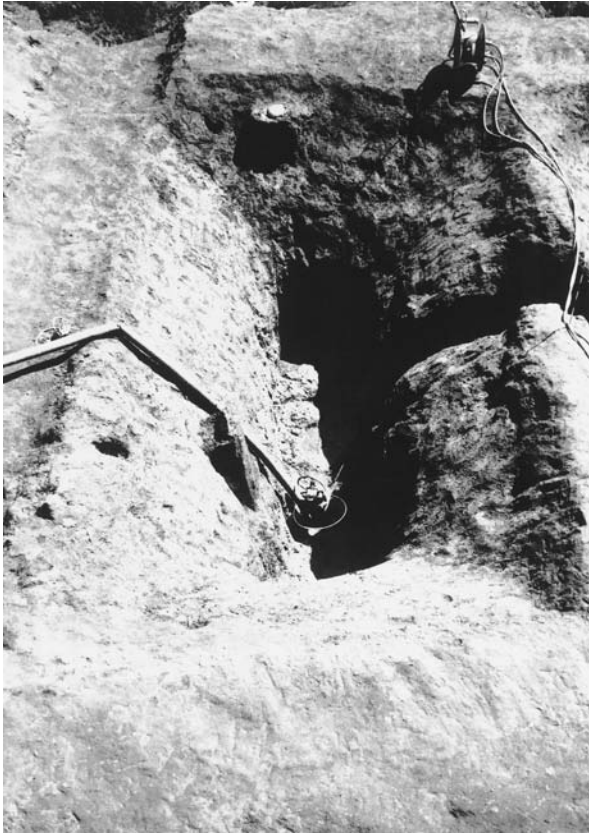
調査風景



1号堀 完掘



2号堀 完掘



3号堀 完掘



3号堀 土層堆積



同 在地挿鉢 (土-317) 出土



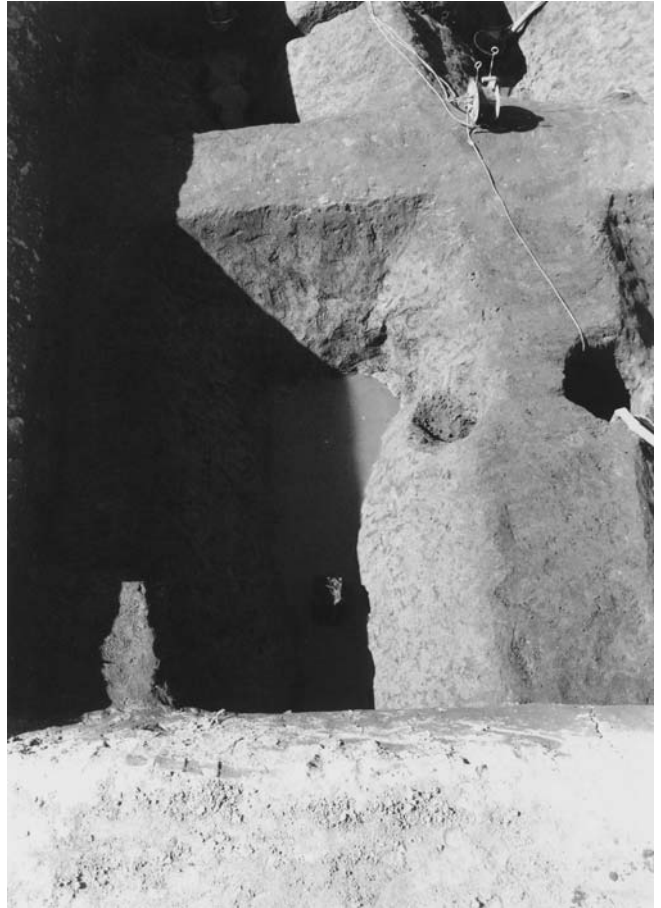
4号堀 完掘



5号堀 完掘



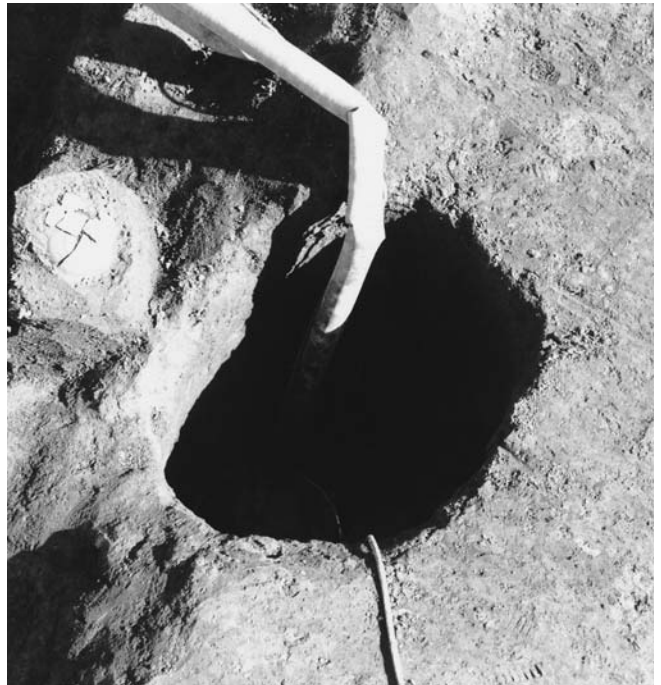
5号堀 かわらけ (土-319) 出土



6号堀 完掘



1号溝 完掘



1号井戸 完掘



調査前風景



完掘



調査風景



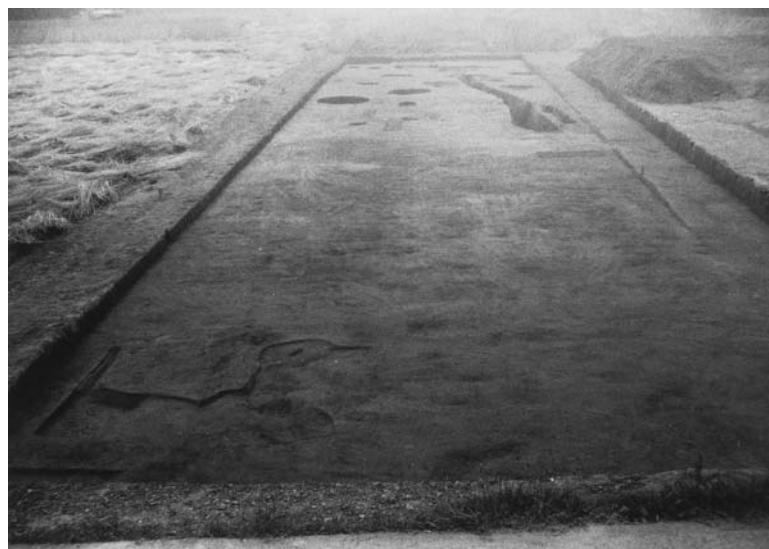
調査風景



完掘



1号溝 完掘



完掘



完掘 北東部



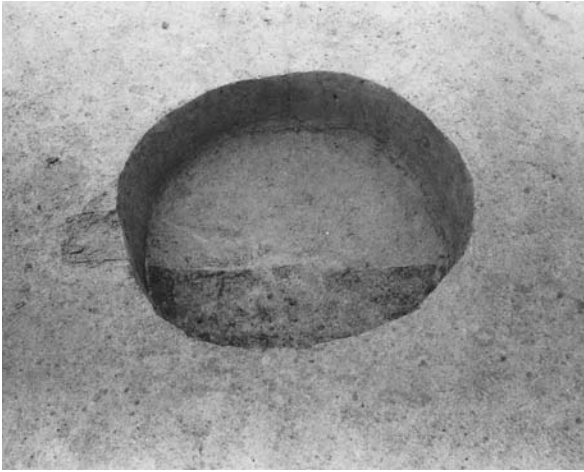
1号溝 遺物出土状況



同 丸碗 (土-375) 出土



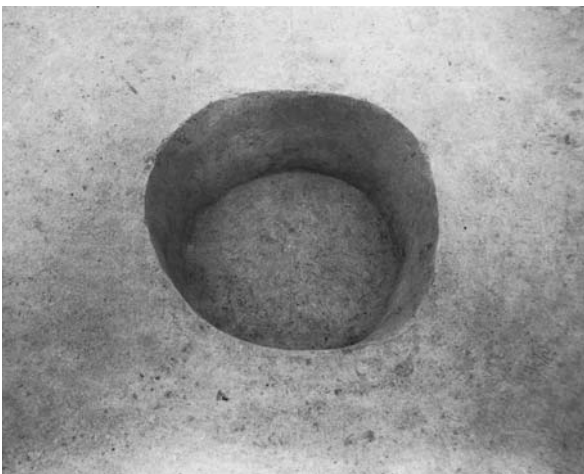
同 碗・皿 (土-371・383・384) 出土



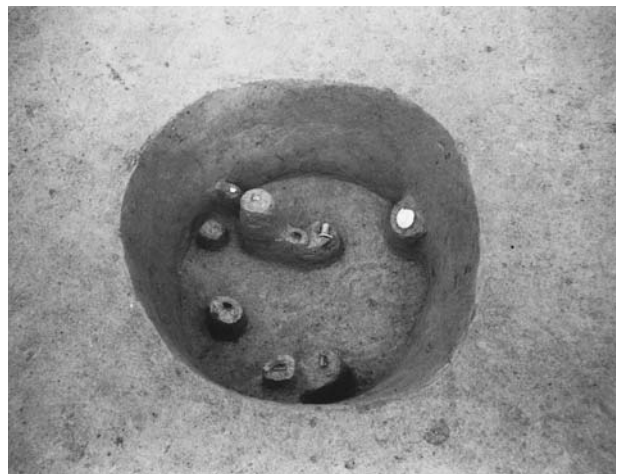
9号土壙 完掘



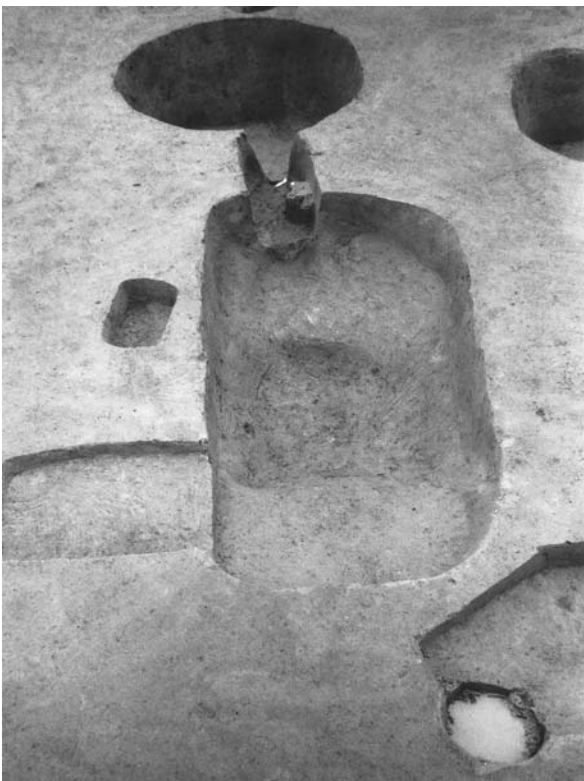
10号土壙 完掘



11号土壙 完掘



12号土壙 遺物出土



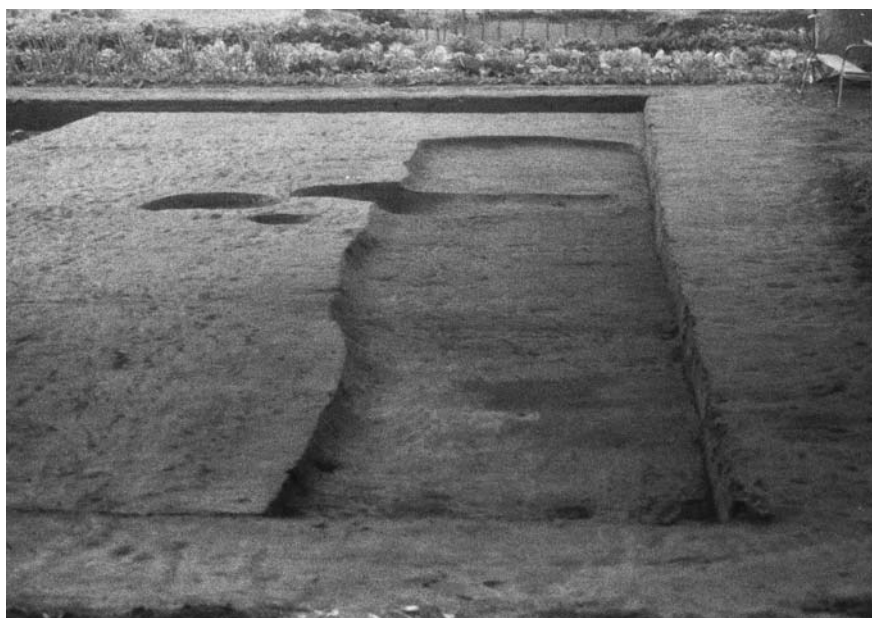
16号土壙 完掘



18号土壙 完掘



調査前風景



調査区北側 完掘



1号溝 東 遺物集中出土
(上層)



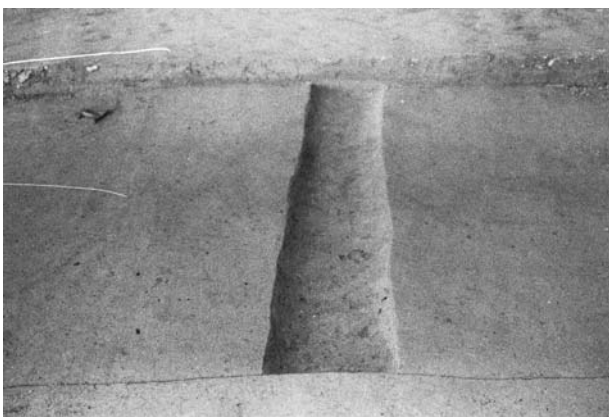
1号溝 遺物集中出土 (中層)



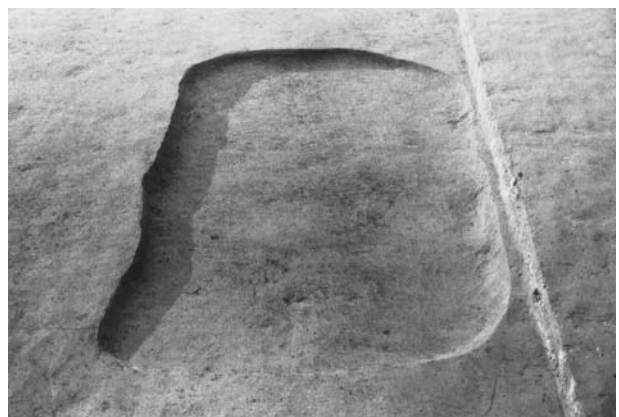
1号溝 遺物集中出土 (下層)



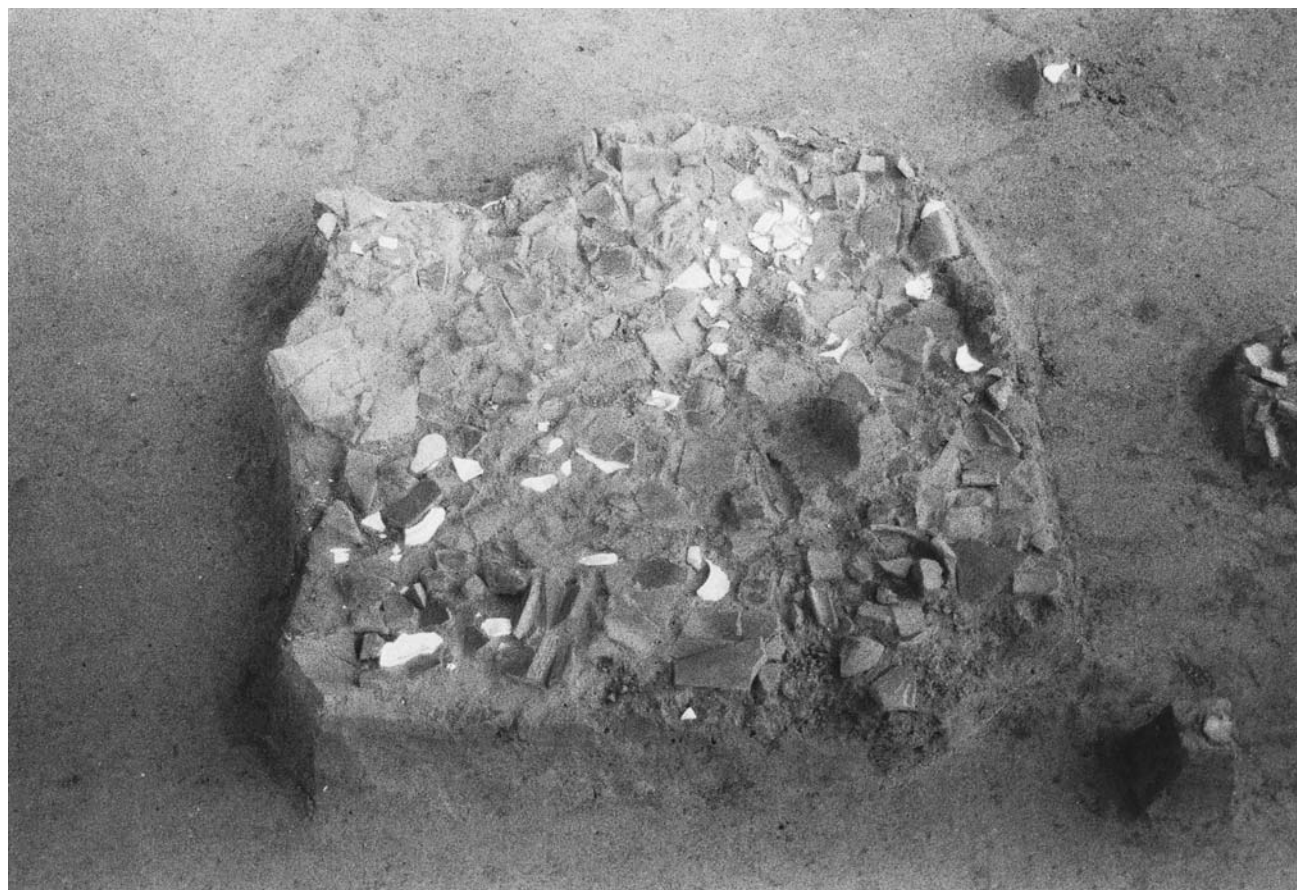
4号溝 完掘



2号溝 完掘



1号土塹 完掘



調査区 南側 瓦集中範囲



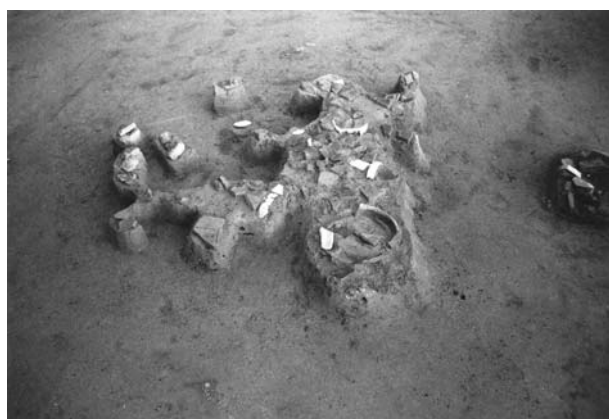
同 調査風景



同 拡大 磁器



同 拡大 火鉢



同 下層面



22



29

2次



68

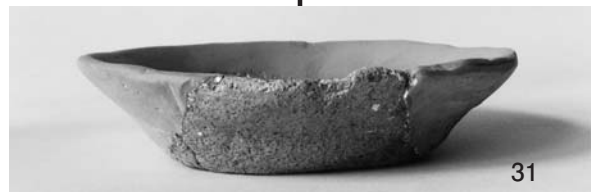
3次



27



28



31

かわらけ



70

ほうろく (★騎3次出土)



9次

かわらけ

50次

125

154



51次 ほうろく

174



かわらけ

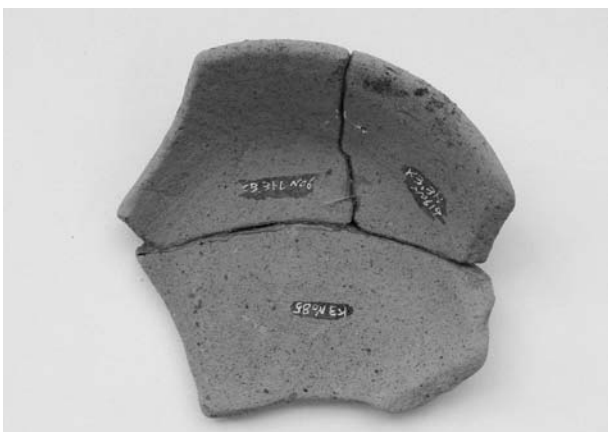
3次

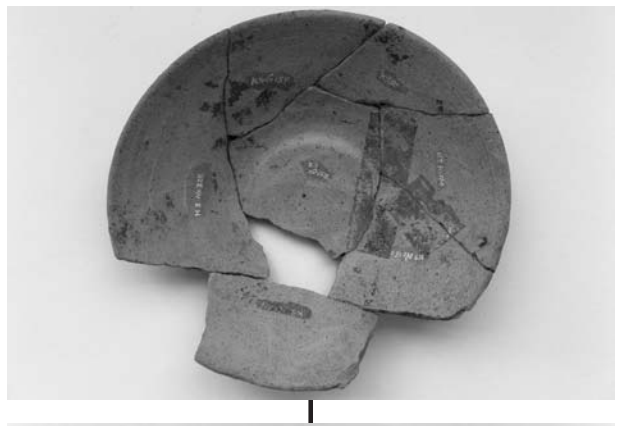
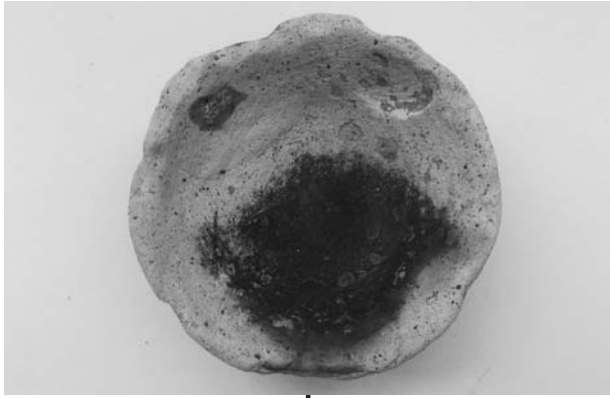
193



碗

216





かわらけ

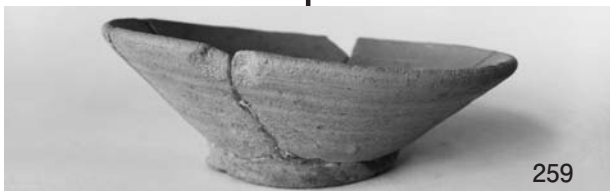




253



254



259



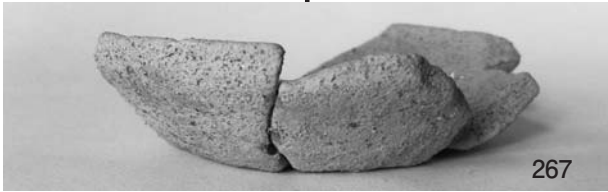
261



264



266





かわらけ



ほうろく



在地播鉢



319

14次



387

2次

かわらけ



451

3次 ほうろく



419

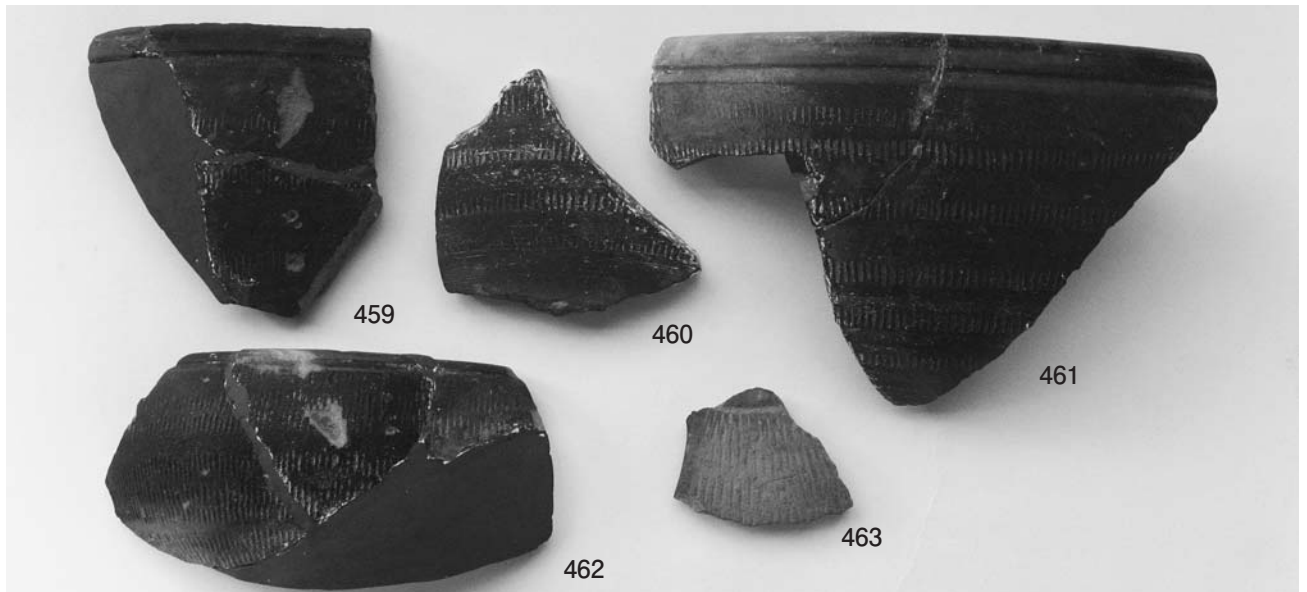


457

火鉢



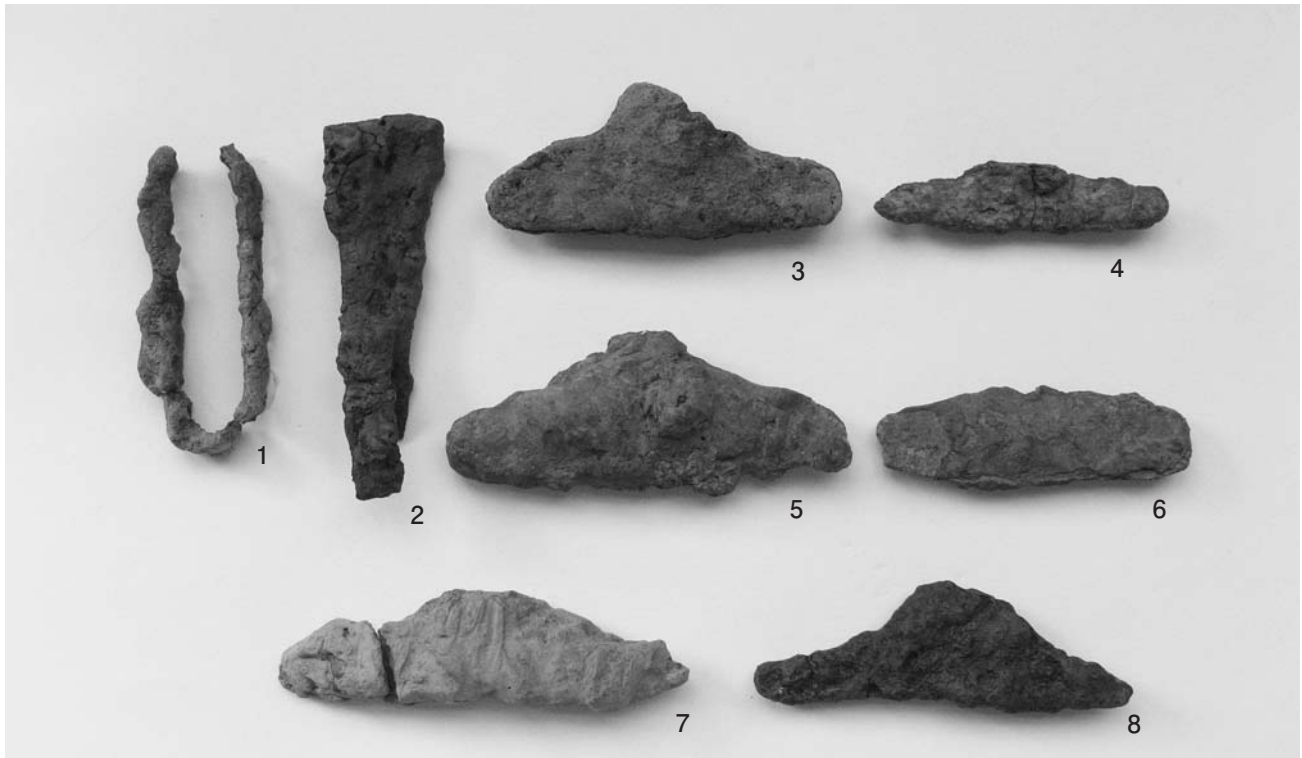
火鉢



火鉢・手焙り？



瓦



毛抜き・火打金



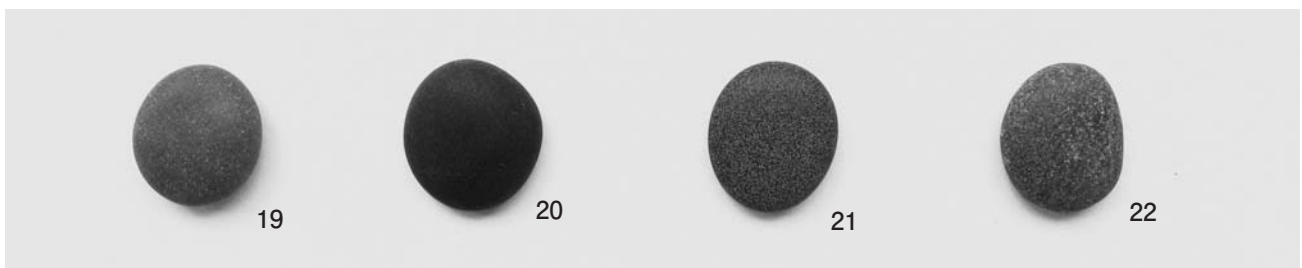
紡錘車



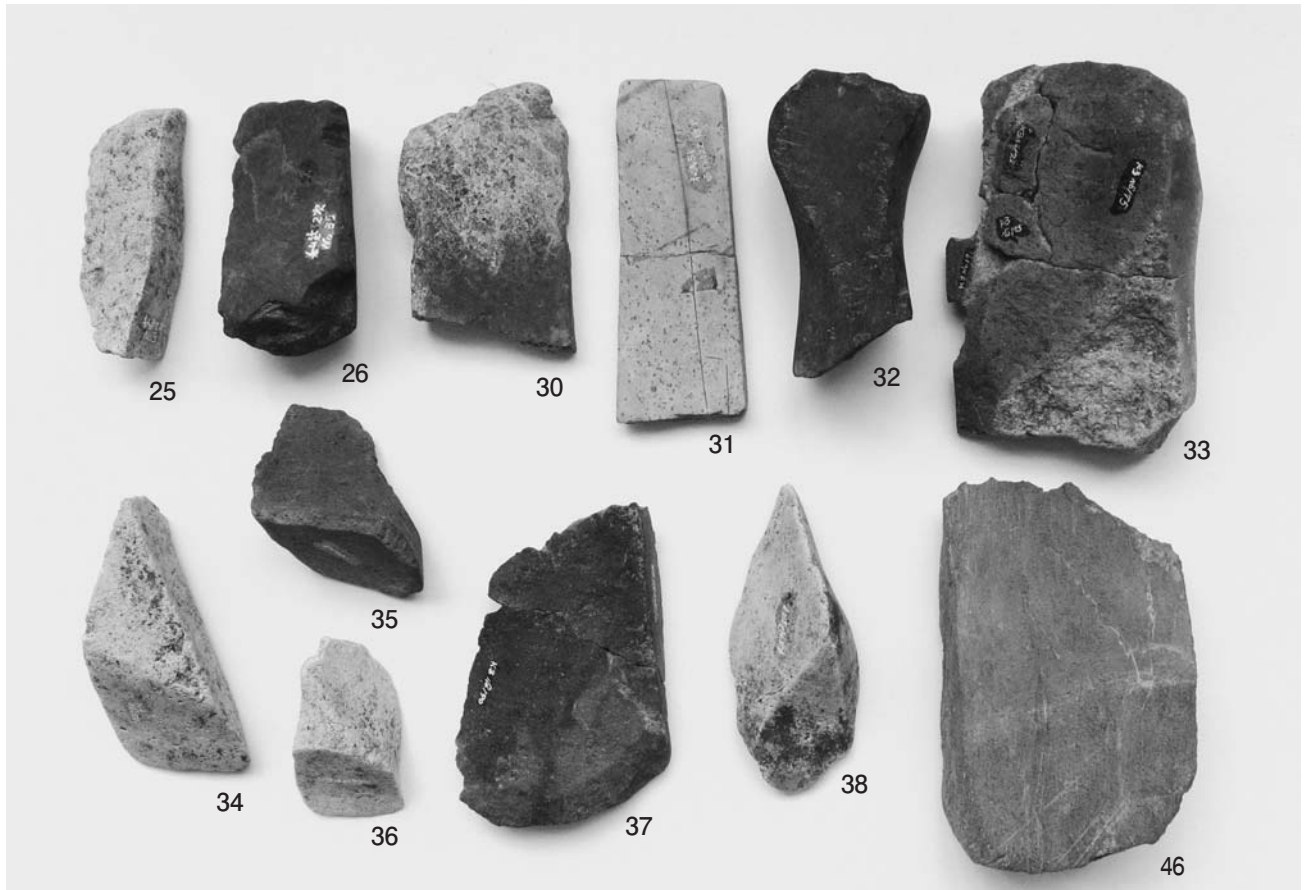
小刀



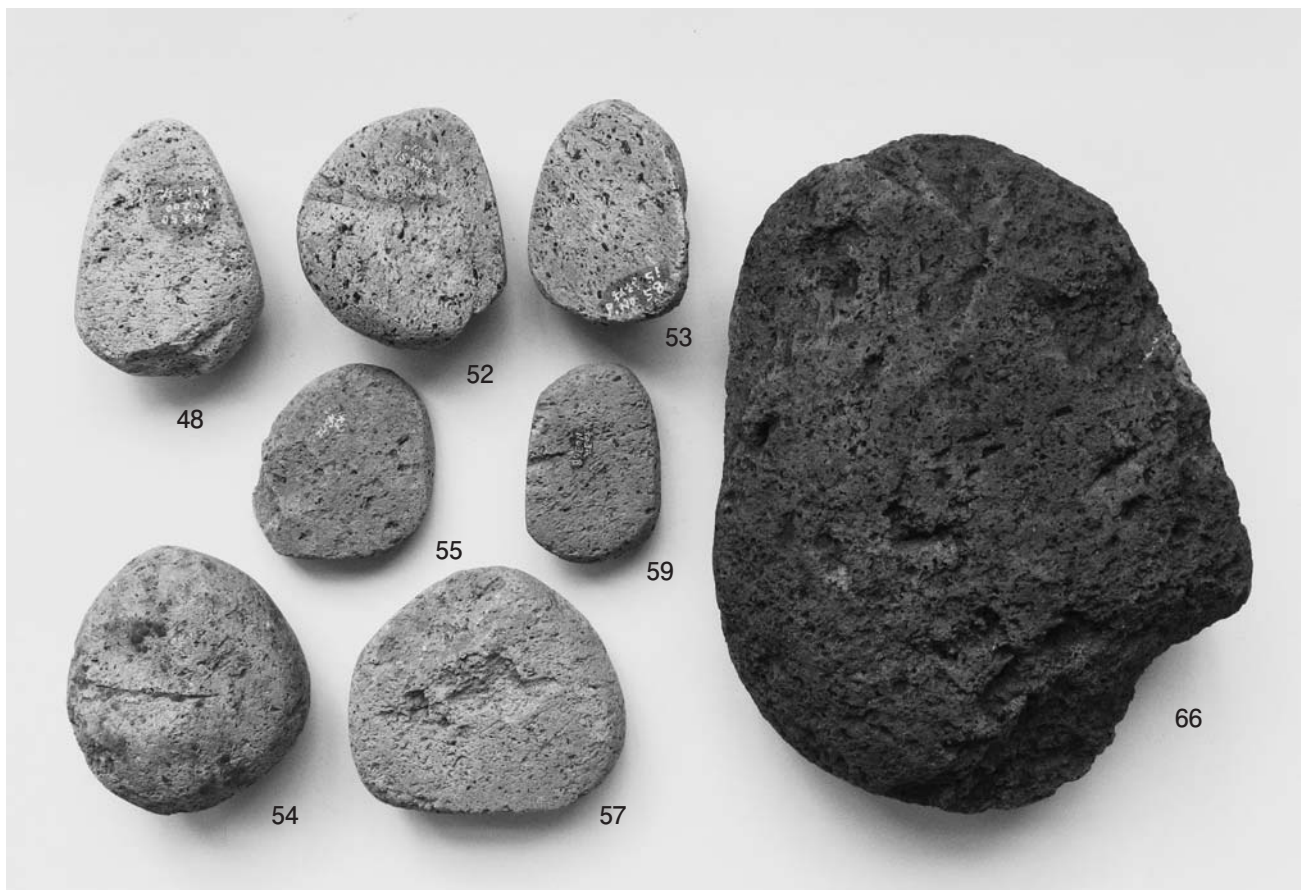
石臼



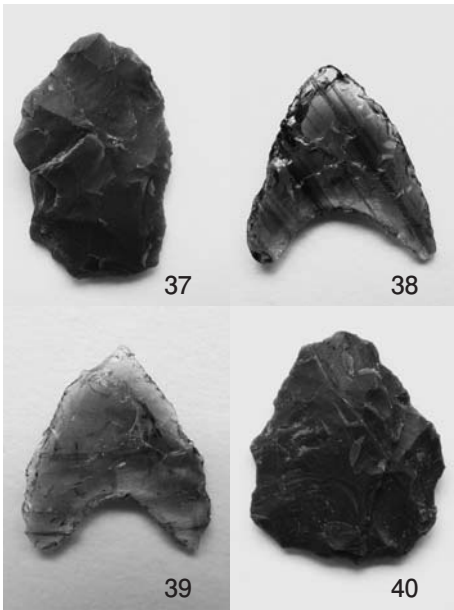
碁石



砥石



磨石



UF・石鏃・未製品



礫斧



磨石



土師器

報告書抄録

フリガナ	キサイジョウブケンシキアト		キサイジョウウト		タガヤシヤカタアト							
書名	騎西城武家屋敷跡第2・3・8・9・50・51次 騎西城跡第3・12・14・15次 多賀谷氏館跡第1～3次調査											
副書名												
巻次												
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書											
シリーズ番号	第7集											
編著者名	嶋村英之											
編集機関	加須市教育委員会											
所在地	〒367-8501 埼玉県加須市下三俣290番地											
発行年月日	西暦2014年3月31日											
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因				
		市町村	遺跡番号									
<small>きさいじょう</small> 私市城 <small>ぶけやしきあと</small> 武家屋敷跡 <small>きさいじょうあと</small> 私市城跡 <small>たがやしやかたあと</small> 多賀谷氏館跡	埼玉県加須市 根古屋 2次 356 3次 1151-1 8次 316-1 9次 316-1 50次 656-10 51次 656-9 3次 332 12次 635-15 14次 654-2 15次 634-14 1次 内田ヶ谷 1120-3 2次 道地 1355-3 3次 内田ヶ谷 746-1	11421	070	36°6'12.5"	139°35'13.4"	19820705～0716	130	個人住宅 建設				
				36°6'2.3"	139°35'31.2"	19821104～1112	120					
				36°6'9"	139°35'7.5"	19880819～0919	78					
				36°6'9"	139°35'7.5"	19880819～0920	60					
				36°6'11.4"	139°35'8.8"	19960509～0719	132.2					
				36°6'11.4"	139°35'8.8"	19960801～1025	214.5					
				36°6'17.8"	139°35'12.3"	19880209～0324	210					
				36°6'15.3"	139°35'8.1"	19990308～0326	36					
				36°6'13.4"	139°35'9.7"	20020218～0325	92					
				36°6'16.7"	139°35'7.3"	20110808～0831	41					
				36°6'39.8"	139°33'37.8"	19821202～1213	90					
				36°6'43.4"	139°33'38.8"	19850527～0628	160					
				36°6'40.6"	139°33'29.9"	19851105～1128	190					
				所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			
				私市城 武家屋敷跡		2次 中近世	堀1／溝1		陶磁器・かわらけ			
3次 中近世	なし		陶磁器・須恵器									
8次 中近世	溝2／井戸1／土壇8		陶磁器・石鏃未製品									
9次 中近世	溝2／井戸1／土壇6		陶磁器・骨粉？									
50次 中近世	溝5／井戸2／土壇10		陶磁器・金貨3・毛抜・鏡									
私市城跡	城館跡	51次 中近世	溝4／土壇11／住居跡1		陶磁器・小柄刀身							
		古代			土師器							
		3次 中近世	堀1／溝1／土壇1		陶磁器・かわらけ・武器							
		12次 中近世	溝2／井戸3／土壇2		陶磁器・銭貨・縄文土器							
多賀谷氏館跡		14次 中近世	堀6／溝1／井戸1／土壇1		陶磁器							
		15次 中近世	堀1		陶磁器							
		1次 中近世	溝2		陶磁器 (中国青磁)							
		2次 近世	溝1／土壇13		陶磁器							
		3次 中近世	溝5／土壇4／瓦集中1		陶磁器・瓦・火鉢・銭貨							

要約	<p>武家屋敷跡では、50・51次で道路に伴うものとも思われる平行する溝の延長が確認された。出土遺物では50次の金貨が特筆すべきものである。</p> <p>城郭部の騎西城跡については第3次で堀周辺から、かわらけ・ほうろく、武器武具類・生活・生業など大量の遺物が出土している。また、第14次で障子堀が確認された。</p> <p>多賀谷氏館跡では館時期の遺物が僅かに見られるだけであるが、江戸時代中後期の陶磁器類が良好な状態で出土した。</p>
----	--

加須市埋蔵文化財調査報告書 第7集

騎西城武家屋敷跡

第2・3・8・9・50・51次調査

騎西城跡

第3・12・14・15次調査

多賀谷氏館跡

第1～3次調査

平成26年3月31日発行

発行 加須市教育委員会

〒347-8501 埼玉県加須市下三保290番地

印刷 関東図書株式会社